



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

RAV4



イラスト目次	イラストから検索	
安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
プラグインハイブリッドシステム	プラグインハイブリッドシステムの特徴や、充電に関する情報など (主な項目：運転のアドバイス、充電のしかた)	2
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	3
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)	4
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた)	5
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目：エアコン・収納装備の使い方)	6
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)	7
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	8
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)	9
さくいん	症状から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	24
安全なドライブのために	25
シートベルト	27
SRS エアバッグ	30
排気ガスに対する注意	36

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	38
チャイルドシート	39

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	53
オートアラーム	54

2 プラグインハイブリッドシステム

2-1. プラグインハイブリッドシステムについて

プラグインハイブリッドシステムの特徴	58
プラグインハイブリッドシステムの注意	68
プラグインハイブリッド車運転のアドバイス	73
EV 走行可能距離について	76

2-2. 充電について

充電に関する装備について	79
普通充電ケーブルについて	82
充電リッド・普通充電コネクターのロック・アンロック	88
接続可能な外部電源について	92
充電方法について	97
充電に関するアドバイス	99
充電の前に知っておいていただきたいこと	101

普通充電のしかた	104
タイマー充電機能を使う	111
マイルームモードを使う	124
正常に充電できないときは	127

2-3. 外部給電システムについて

AC 外部給電システムについて	136
AC 外部給電の前に知っておいていただきたいこと	138
AC 外部給電のしかた	139
正常に AC 外部給電できないときは	150

3 走行に関する情報表示

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	154
計器類	159
マルチインフォメーションディスプレイ	165
ヘッドアップディスプレイ	175
エネルギーモニター／燃費画面	179

4 運転する前に

4-1. キー

キー	184
----	-----

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア）	188
バックドア	193
スマートエントリー&スタートシステム	204

4-3. シートの調整

フロントシート	209
リヤシート	210
ポジションメモリー／メモリーコール機能	212
ヘッドレスト	214

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	216
デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）	217

ドアミラー.....	241
4-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉	
パワーウィンドウ.....	243
パノラマムーンルーフ.....	246

5 運転

5-1. 運転にあたって	
運転にあたって.....	252
荷物を積むときの注意.....	259
5-2. 運転のしかた	
パワー（イグニッション）スイッチ.....	261
トランスミッション.....	265
方向指示レバー.....	268
電動パーキングブレーキ.....	269
ブレーキホールド.....	273
5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方	
ランプスイッチ.....	275
AHB（オートマチックハイビーム）.....	278
リヤフォグランプスイッチ.....	281
ワイパー&ウォッシャー（フロント）.....	282
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）.....	284
5-4. 給油のしかた	
給油口の開け方.....	286
5-5. 運転支援装置について	
Toyota Safety Sense.....	288
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....	293
LTA（レーントレーシングアシスト）.....	303
RSA（ロードサインアシスト）.....	312
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....	314
先行車発進告知機能.....	324
ドライバー異常時対応システム.....	326

BSM（ブラインドスポットモニター）.....	331
クリアランスソナー.....	339
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....	345
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....	349
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....	351
ドライブモードセレクトスイッチ.....	353
トレイルモード.....	354
運転を補助する装置.....	356

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....	362
-------------	-----

6 室内装備・機能

6-1. エアコンの使い方

オートエアコン.....	366
リモートエアコンシステム.....	374
ステアリングヒーター／フロントシートヒーター & シートベンチレーション／リヤシートヒーター.....	376

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	378
------------	-----

6-3. 収納装備

収納装備一覧.....	380
ラゲージルーム内装備.....	384

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....	386
アクセサリコンセント（AC100V 1500W）.....	395
正常にアクセサリコンセント（AC100V 1500W）が使用できないときは.....	402

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	404
内装の手入れ.....	407

1

2

3

4

5

6

7

8

9

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	410
ガレージジャッキ.....	412
ウォッシュ液の補充.....	413
タイヤについて.....	414
タイヤ空気圧について.....	416
エアコンフィルターの交換.....	417
DC / DC コンバータ冷却用吸入口/ フィルターの清掃.....	420
ワイパーゴムの交換.....	423
電子キーの電池交換.....	426
ヒューズの点検・交換.....	428
電球（バルブ）の交換.....	431

8 万 one の場合には

8-1. まず初めに

故障したときは.....	440
非常点滅灯（ハザードランプ）... ..	441
発炎筒.....	441
車両を緊急停止するには.....	442
水没・冠水したときは.....	443
車中泊が必要なときは.....	444

8-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	445
警告灯がついたときは.....	449
警告メッセージが表示されたときは	455
パンクしたときは（タイヤパンク応急 修理キット装着車）.....	459
パンクしたときは（応急用タイヤ装着 車）.....	471
ハイブリッドシステムが始動できない ときは.....	477
キーをなくしたときは.....	479
給油扉が開かないときは.....	479
電子キーが正常に働かないときは	480
補機バッテリーがあがったときは	482
オーバーヒートしたときは.....	487
スタックしたときは.....	490

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイ ル量など）.....	494
---------------------------------	-----

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能.....	499
-------------------	-----

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....	511
-----------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	514
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）.....	516
アルファベット順さくいん.....	518
五十音順さくいん.....	519

1
2
3
4
5
6
7
8
9

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

本文中では、この車両独自の機能説明（外部電源からの充電等）や車両固有の注意などの記載部分では「プラグインハイブリッドシステム」、その他の記載は「ハイブリッドシステム」と表記していません。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール
取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあります。

RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー

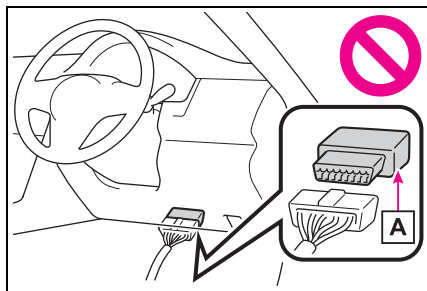
攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター^Aなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報
車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用につ

いて、T-Connect 利用規約をご覧ください。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR

データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
 - EFI コンピュータ
 - Toyota Safety Sense
 - ABS（アンチロックブレーキシステム）
 - SRS エアバッグ
 - シートベルトプリテンショナー
- 悪影響を防ぐための措置や取り付

け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について




保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

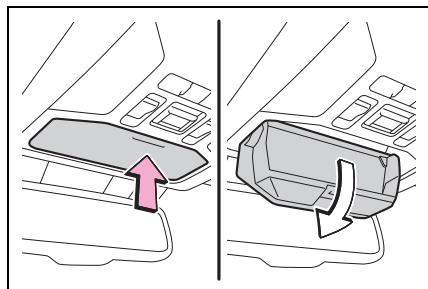
本書の見方



本書で使用している、記号について説明します。

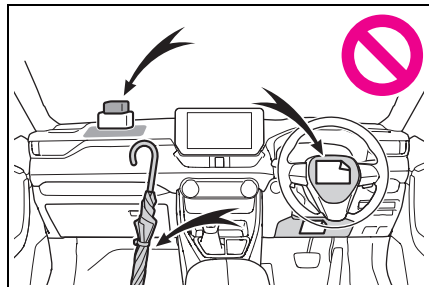
本文の記号について



記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

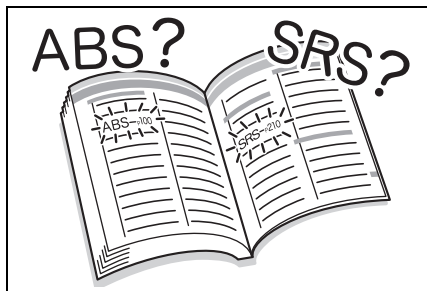


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

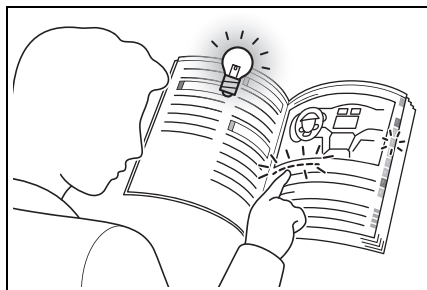
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.519
- アルファベット順さくいん：→P.518



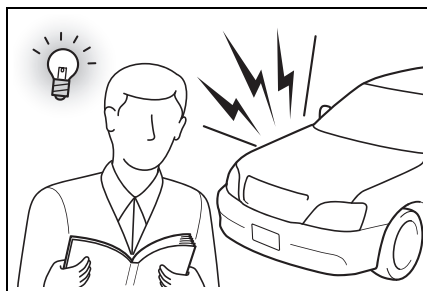
■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.12



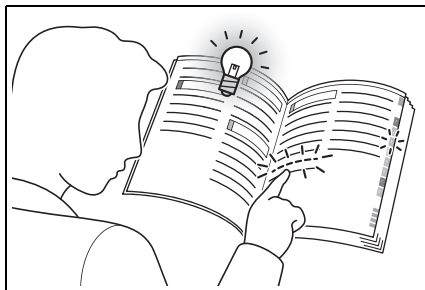
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：→P.514
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.516



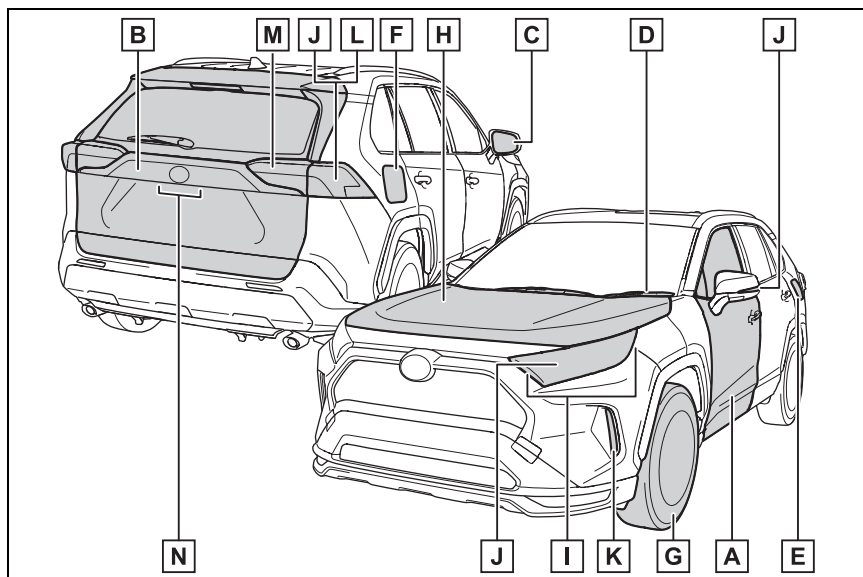
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



- A** ドア P.188
 施錠／解錠 P.188, 191
 ドアガラスの開閉 P.243
 メカニカルキーでの施錠／解錠 P.480
 警告メッセージ P.455
- B** バックドア P.193
 施錠／解錠 P.194
 車内から開ける P.195
 車外から開ける P.194
 警告メッセージ P.455
- C** ドアミラー P.241
 鏡面の角度調整 P.241
 ミラーの格納 P.242
 曇りを取る (ミラーヒーター) P.367
- D** ワイパー P.282

冬季の注意.....	P.362
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★.....	P.372
洗車時の注意.....	P.405
ワイパーゴムの交換.....	P.423
E 給油口.....	P.286
給油方法.....	P.286
燃料の種類・燃料タンク容量.....	P.494
F 充電ポート.....	P.79
充電方法.....	P.97
AC 外部給電システム.....	P.136
G タイヤ.....	P.414
サイズ・空気圧.....	P.497
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....	P.362
点検・ローテーション.....	P.414
パンク時の対処.....	P.459, 471
H ボンネット.....	P.410
開け方.....	P.410
エンジンオイル.....	P.494
オーバーヒート時の対処.....	P.487
警告メッセージ.....	P.455

走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P.431, ワット数：P.497)

I ヘッドランプ・車幅灯／デイトムランニングランプ.....	P.275
J 方向指示灯.....	P.268
K LED デイライト／薄暮灯.....	P.275
L 尾灯・制動灯.....	P.275
M 尾灯.....	P.275
リヤフォグランプ★.....	P.281

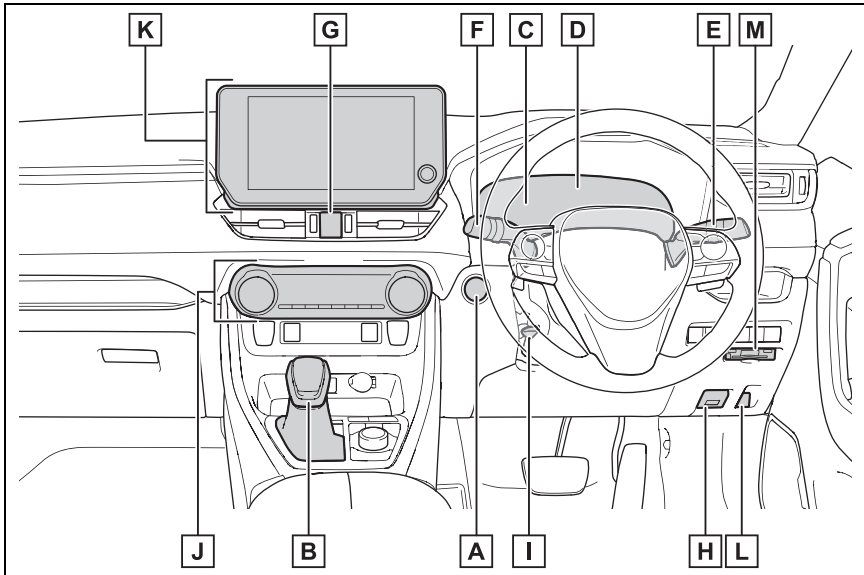
後退灯

シフトポジションを R にする..... P.265

N 番号灯 P.275

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インstrumentパネル



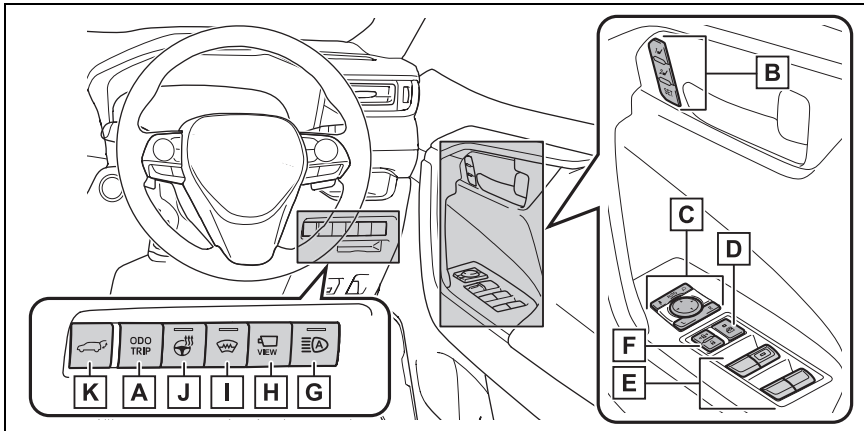
- A** パワースイッチ P.261
 ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.261, 263
 ハイブリッドシステムの緊急停止 P.442
 ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.477
 警告メッセージ P.455
- B** シフトレバー P.265
 シフトポジションの切りかえ P.265
 けん引時の注意 P.445
 シフトレバーが動かないときの対処 P.266
- C** メーター P.159
 見方・明るさの調整 P.164
 警告灯／表示灯 P.154
 警告灯点灯時の対処 P.449
- D** マルチインフォメーションディスプレイ P.165
 表示内容 P.165

	エネルギーモニター	P.179
	警告メッセージ表示時の対処	P.455
E	方向指示レバー	P.268
	ランプスイッチ	P.275
	ヘッドランプ・デイトタイムランニングランプ／車幅灯・ LED デイライト／薄暮灯・尾灯・番号灯	P.275
	リヤフォグランプ★	P.281
F	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.282, 284
	使い方	P.282, 284
	ウォッシャー液の補充	P.413
G	非常点滅灯スイッチ	P.441
H	ボンネット解除レバー	P.410
I	ハンドル位置調整レバー	P.216
	調整方法	P.216
J	オートエアコン	P.366
	操作方法	P.366
	リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） ..	P.367
K	オーディオ ※	
	音楽を聴く	
	電話をかける・受ける（ハンズフリー）	
L	給油扉オープナースイッチ	P.287
M	ETC2.0 システム ※	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

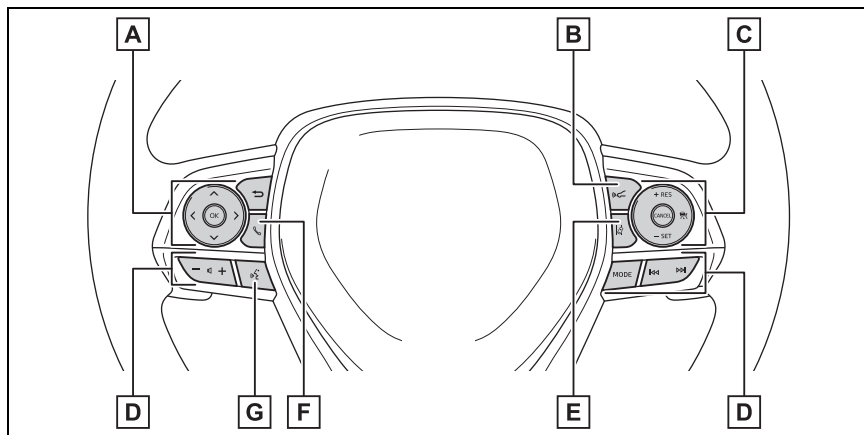
■ スイッチ類



- A** ODO TRIP スイッチ P.164
- B** ドライビングポジションメモリースイッチ P.212
- C** ドアミラースイッチ P.241
- D** ウインドロックスイッチ P.245
- E** パワーウィンドウスイッチ P.243
- F** ドアロックスイッチ P.191
- G** オートマチックハイビームスイッチ P.278
- H** カメラスイッチ ※
- I** フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.372
- J** ステアリングヒータースイッチ P.376
- K** パワーバックドアスイッチ P.194

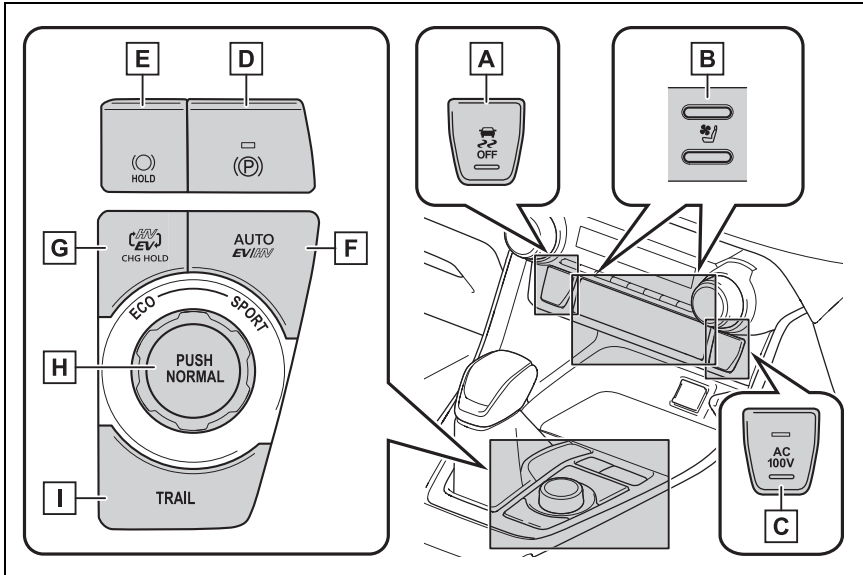
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。



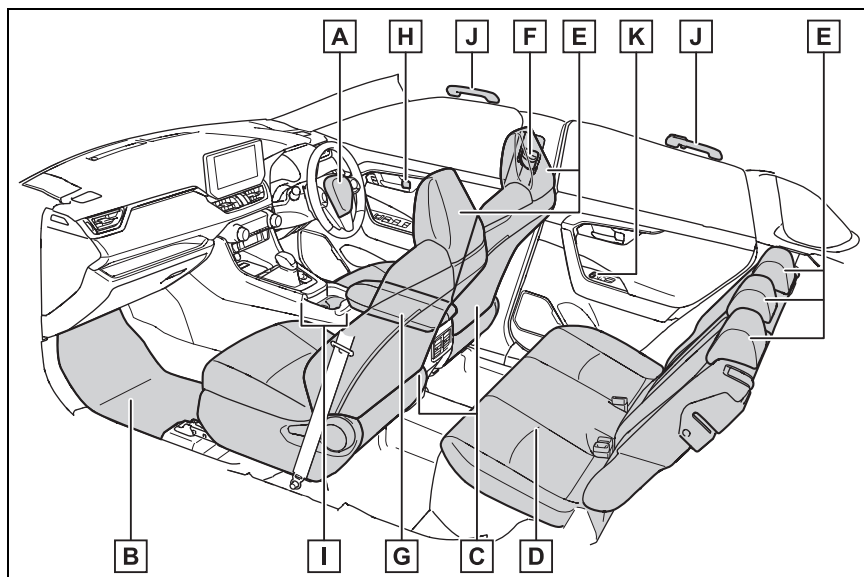
- A** メーター操作スイッチ P.166
- B** 車間距離切りかえスイッチ P.314
- C** クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） P.314
- D** オーディオスイッチ ※
- E** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.303
- F** 電話スイッチ ※
- G** トークスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。



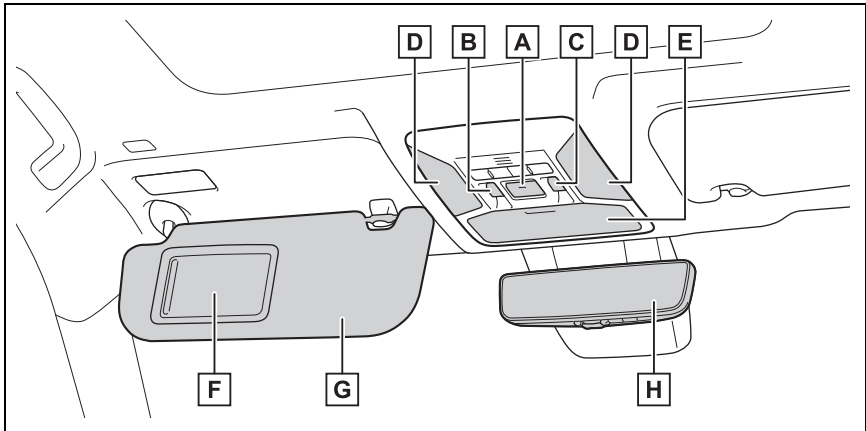
- A** VSC OFF スイッチ P.357
- B** フロントシートヒーター & シートベンチレーションスイッチ P.376
- C** AC100V スイッチ P.400
- D** パーキングブレーキスイッチ P.269
 かける・解除する P.269
 冬季の注意 P.363
 警告ブザー・警告メッセージ P.271, 272, 449
- E** ブレーキホールドスイッチ P.273
- F** AUTO EV / HV スイッチ P.60
- G** EV / HV モード切りかえスイッチ P.60
- H** ドライブモードセレクトスイッチ P.353
- I** トレイルモードスイッチ P.354

■ 室内



A	SRS エアバッグ.....	P.30
B	フロアマット.....	P.24
C	フロントシート.....	P.209
D	リヤシート.....	P.210
E	ヘッドレスト.....	P.214
F	シートベルト.....	P.27
G	コンソールボックス.....	P.381
H	ロックレバー.....	P.191
I	カップホルダー.....	P.382
J	アシストグリップ.....	P.394
K	リヤシートヒータースイッチ.....	P.377

■天井



- A** ヘルプネットボタン※¹
- B** パノラマムーンルーフスイッチ★ P.246
- C** 電動サンシェードスイッチ★ P.246
- D** インテリアランプ※² P.379
 パーソナルランプ P.379
- E** 小物入れ P.382
- F** バニティミラー P.386
- G** サンバイザー※³ P.386
- H** デジタルインナーミラー（前後方録画機能付） P.217

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

※²図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※³やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.41）



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全にお使いいただくために**
 - 運転する前に 24
 - 安全なドライブのために 25
 - シートベルト 27
 - SRS エアバッグ 30
 - 排気ガスに対する注意 36
- 1-2. お子さまの安全**
 - お子さまを乗せるときは 38
 - チャイルドシート 39
- 1-3. 盗難防止装置**
 - イモビライザーシステム 53
 - オートアラーム 54

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

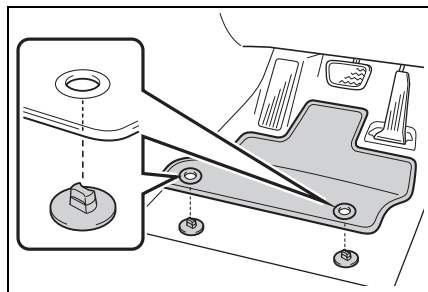
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

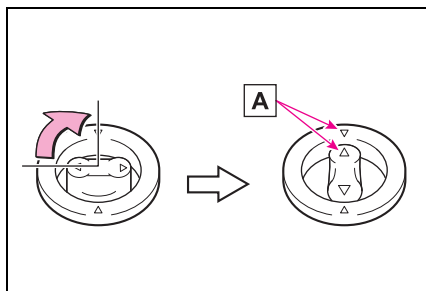
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク**A**を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

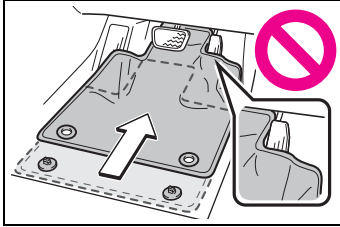
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

▲ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

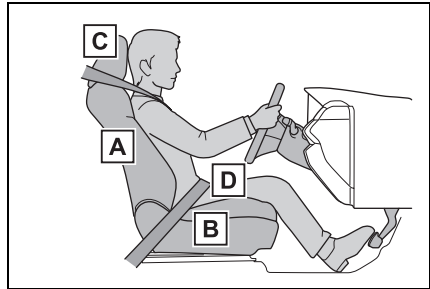


- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.209）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.209）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.214）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.28）

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.28)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.39)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.217, 241)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

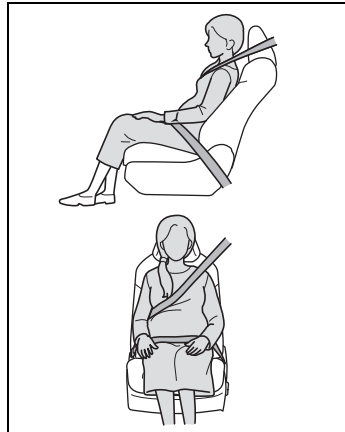
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.49

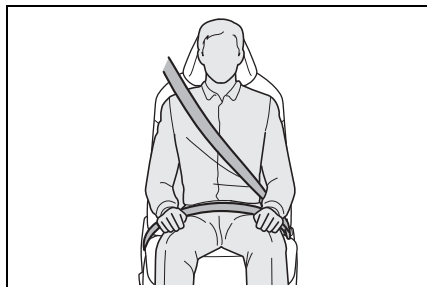
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

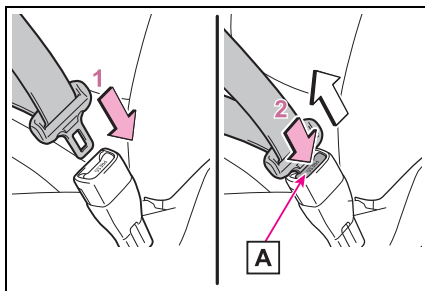
知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.39)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.27)

着け方・はずし方



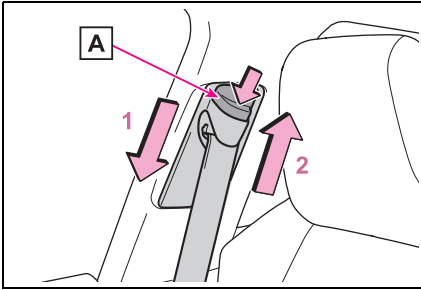
- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン **A** を押す

知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）

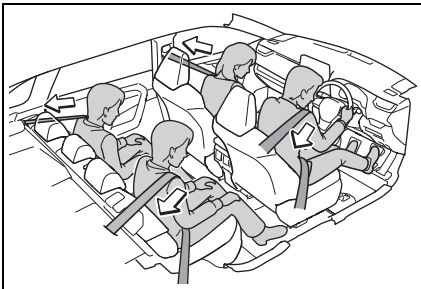


- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
- 2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

⚠ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

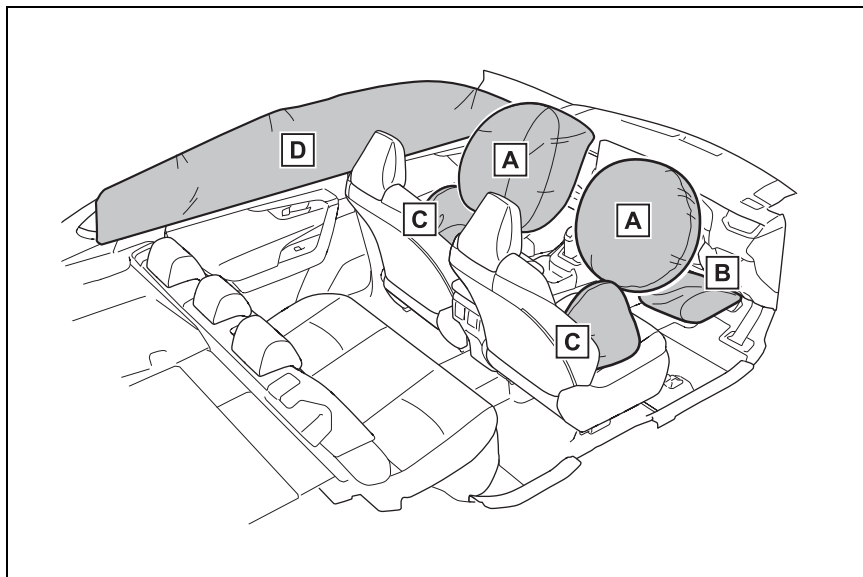
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

B SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

D SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

 知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.72）
- すべてのドアが解錠されます。（→P.189）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.357）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.378）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.441）
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ~ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

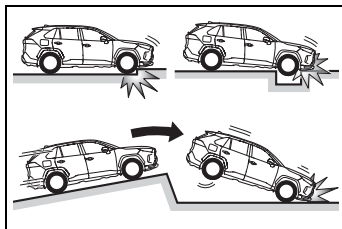
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ~ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道

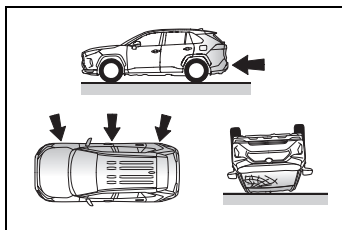
路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

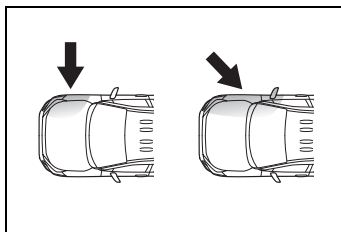
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

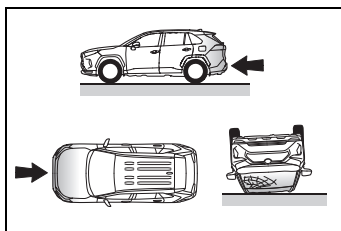
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



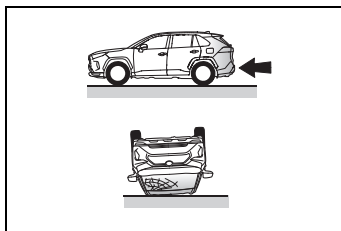
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝撃
- 後方からの衝撃
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 横転

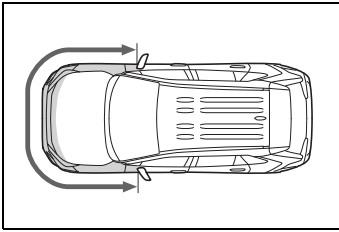


■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

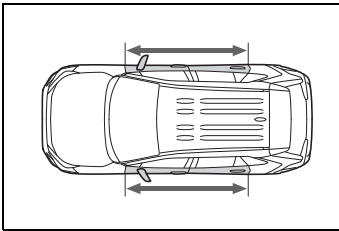
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

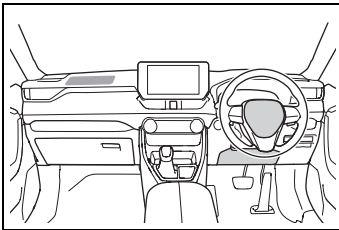
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



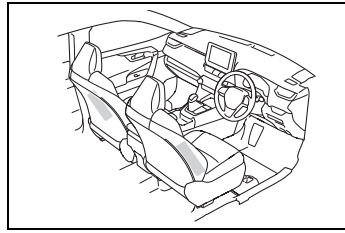
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



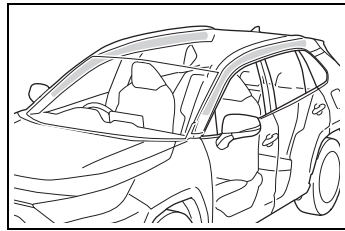
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リアピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

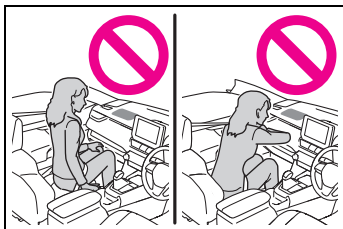
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

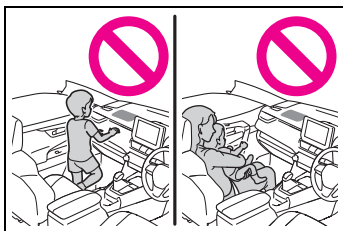
警告

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.39)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

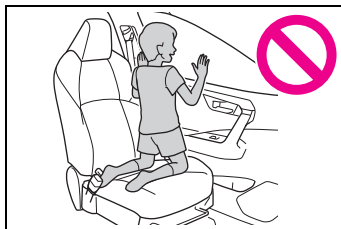


- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

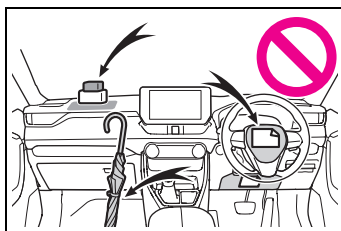
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

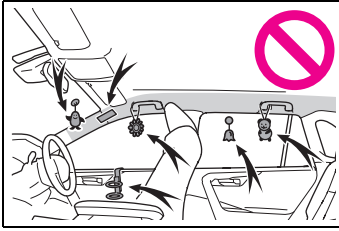


- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く →P.463)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

警告

- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

**■ 排気管について**

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.39)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.192)・ウィンドウロックスイッチ(→P.245)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.39)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.39

チャイルドシートを使用するとき：P.40

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.43

チャイルドシートの取り付け方法：P.47

・ シートベルトで固定する：P.48

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.50
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.51

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.43)

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
 - お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- チャイルドシートについて**
- 次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
 - チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.43)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
 - チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

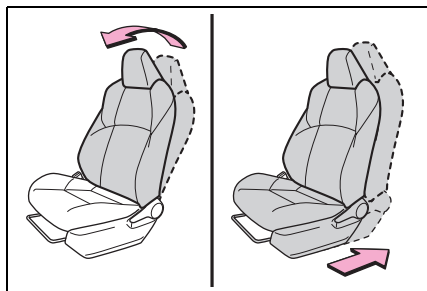
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは**■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき**

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

**警告****■チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

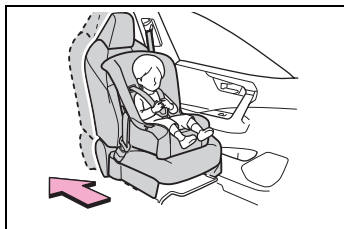
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告



警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



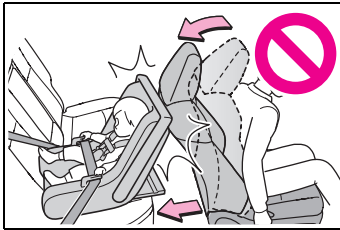
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.44）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。

（→P.46）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性確認する前に」も併せて確認してください。

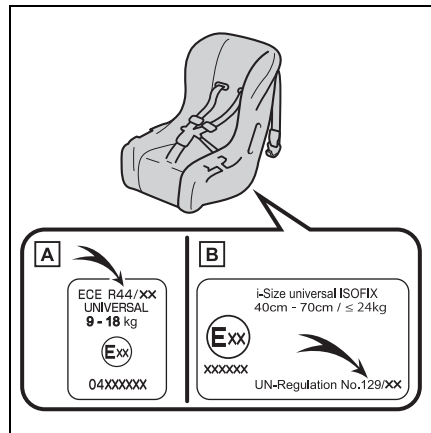
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN (ECE) R44 認可マーク

※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN (ECE) R129 認可マーク

※2

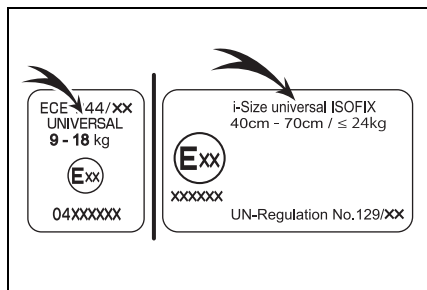
対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

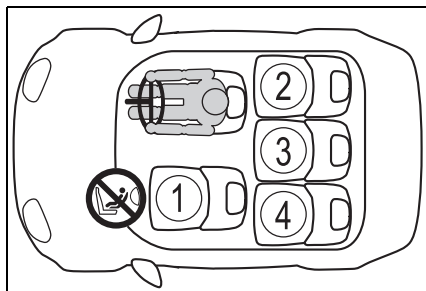
- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※¹UN (ECE) R44、UN (ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※²表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF ^{※4}
② ※2, 3	UL
③ ※2, 3	U
④ ※2, 3	UL

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.46）に記載されたチャイルドシートに適していません。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



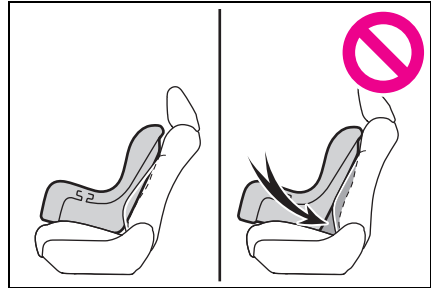
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※²背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してくだ

さい。



※³ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※⁴チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	×	有	×	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 / L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記

の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、 身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100～150cm (体重：15～36kg)	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着すること

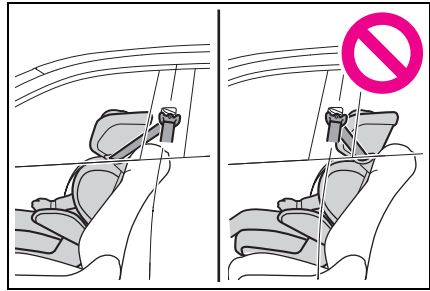
を確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルト

がチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

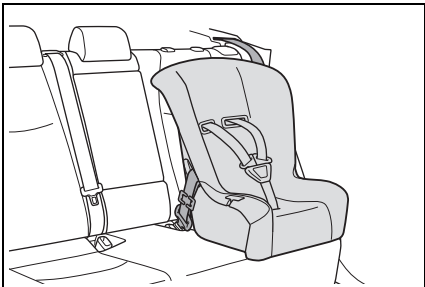
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

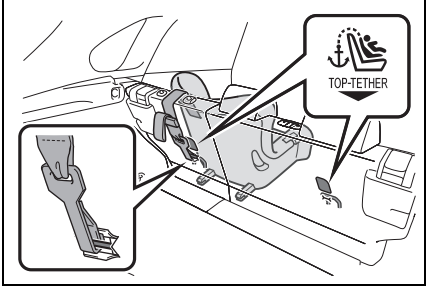


- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P.48

	固定方法	ページ
ISOFIX ロアアンカレッジ で固定する		P.50
テザーベルトを固定する		P.51

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.43, 44）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.40）

2 背もたれを可能な限り起こす

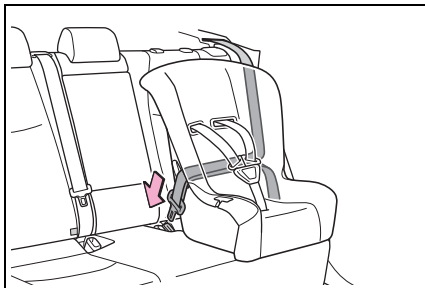
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.214）

4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをクリックに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

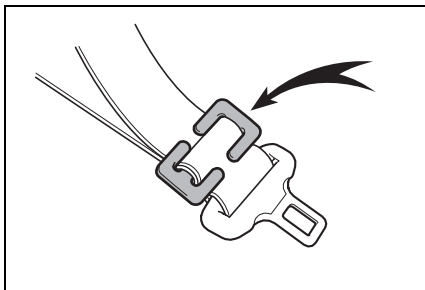
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルド

シートにしっかりと固定させてください。



- 5** チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、**ロックングクリップ** (別売) を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロックングクリップ品番：73119-22010)



- 6** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.49)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がる場合があります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

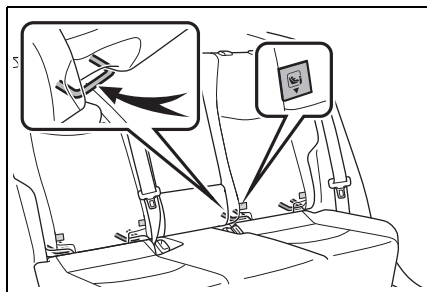
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.43, 44)

1 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

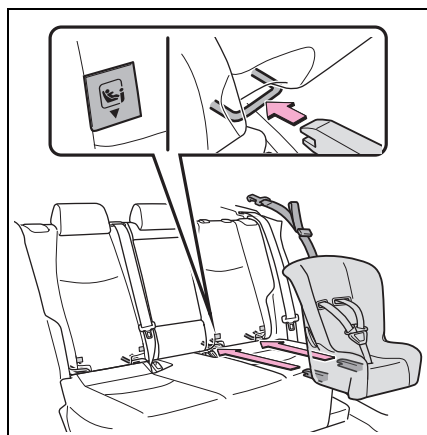
2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシート

が正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.214)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。



4 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.49)

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

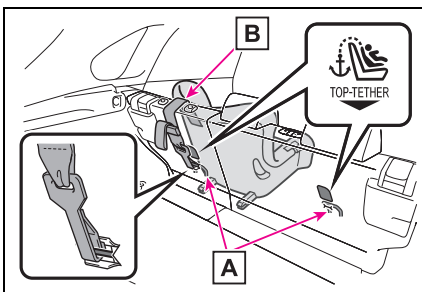
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

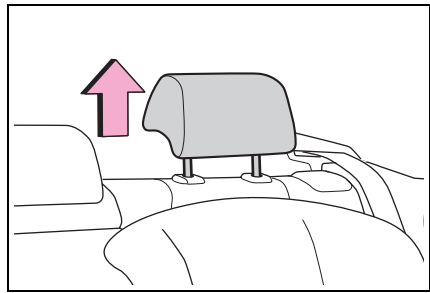
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたは

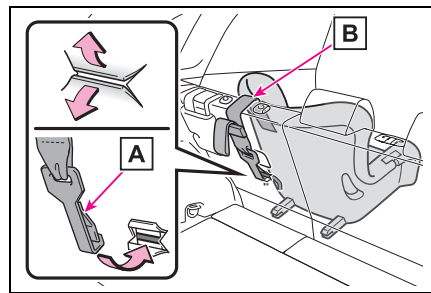
テザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.214)



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.49)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

 **警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

イモバイザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

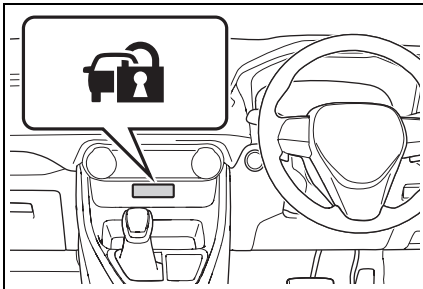
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆わ

れているとき

- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
 - ボンネットが開けられたとき
- T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。
- 詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラス・パノラマムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

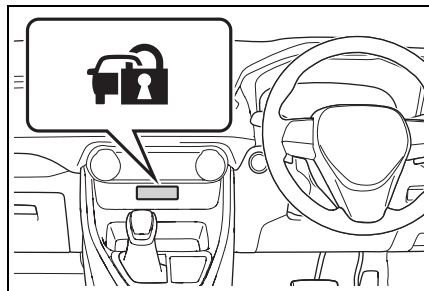
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームを設定できます。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- パワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

📖 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ T-Connect（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガ

ラス・パノラマムーンルーフ★の閉め忘れを、メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

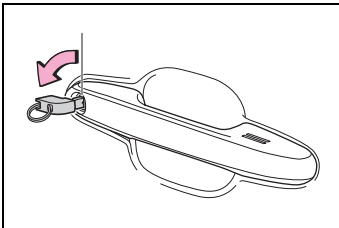
詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

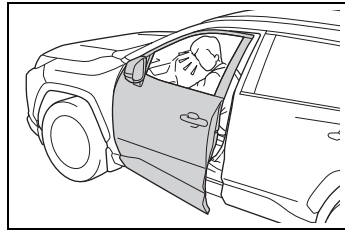
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

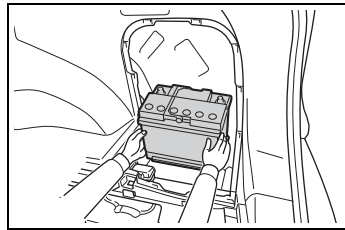
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき (→P.482)



■ オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■ カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないように設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.500)



■ **オートアラームを正常に作動させる
ために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

プラグインハイブリッドシステム

2

2-1. プラグインハイブリッドシステムについて

プラグインハイブリッドシステムの特徴	58
プラグインハイブリッドシステムの注意	68
プラグインハイブリッド車運転のアドバイス	73
EV 走行可能距離について	76

2-2. 充電について

充電に関する装備について	79
普通充電ケーブルについて	82
充電リッド・普通充電コネクターのロック・アンロック	88
接続可能な外部電源について	92
充電方法について	97
充電に関するアドバイス	99
充電の前に知っておいていただきたいこと	101
普通充電のしかた	104
タイマー充電機能を使う	111
マイルームモードを使う	124
正常に充電できないときは	127

2-3. 外部給電システムについて

AC 外部給電システムについて	136
AC 外部給電の前に知っておいていただきたいこと	138
AC 外部給電のしかた	139
正常に AC 外部給電できないときは	150

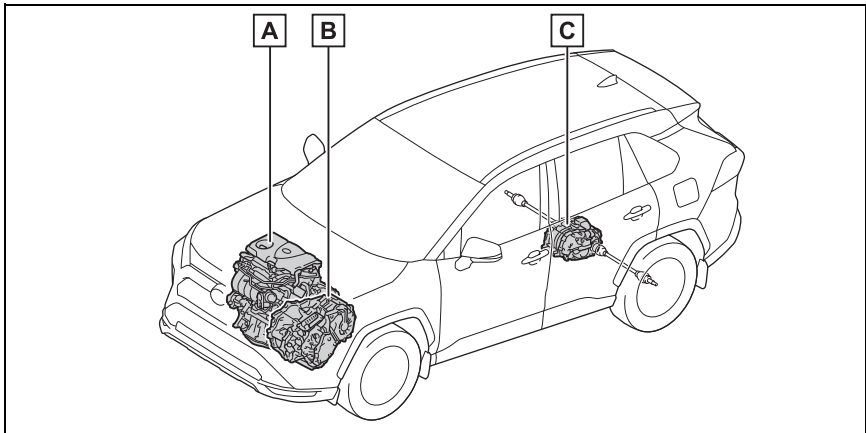
プラグインハイブリッドシステムの特徴

プラグインハイブリッドシステムは、電気自動車の経済性とハイブリッド車の実用性とを併せ持ったシステムです。

- 外部電源から駆動用電池に充電した電気を使用して、EV 走行を楽しむことができます。*
- 駆動用電池の残量が減少した場合は、ガソリンエンジンを併用するハイブリッド車として走行するように自動制御され、長距離のドライブも可能としています。

* EV 走行距離は、駆動用電池の残量や車速、エアコンの使用状況などにより変化します。また、走行状況により、ガソリンエンジンを併用することがあります。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

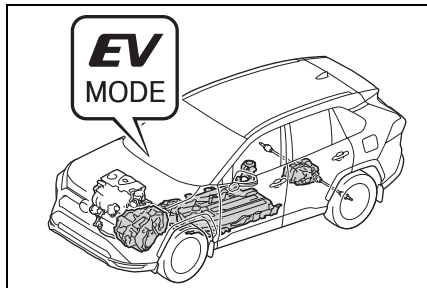
C リヤ電気モーター

プラグインハイブリッドシステムの作動モードについて

この車のプラグインハイブリッドシステムは、次の各モードで作動します。

エネルギーモニターでプラグインハイブリッドシステムの作動状況を確認することができます。(→P.179)

■ EV モード



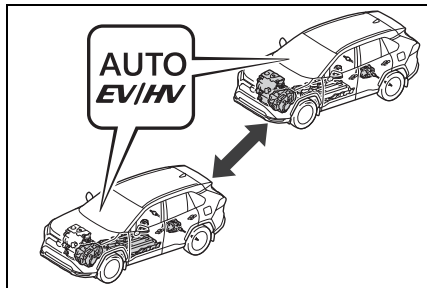
充電を実施して駆動用電池に十分な残量がある状態のとき※¹は、駆動用電池に蓄えられた電気を使用して、EV 走行します。※²

車両が EV モードのときは、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

※¹ 駆動用電池残量計の表示で、駆動用電池の残量を確認できます。
(→P.159)

※² 一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。
(→P.64)

■ AUTO EV / HV モード

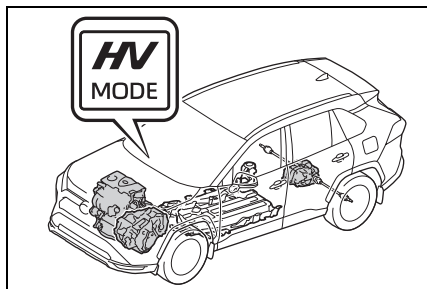


通常は駆動用電池に蓄えられた電気を使用して EV 走行しますが、登坂路や急加速時など、大きな力が必要なときは、アクセルペダルを大きく踏み込むことで、ガソリンエンジンが始動して力強く加速します。

車両が EV 走行可能な状態のとき、スイッチを操作することで EV モードと AUTO EV / HV モードを切りかえることができます。
(→P.60)

車両が AUTO EV / HV モードのときは、AUTO EV / HV モード表示灯が点灯します。

■ HV モード



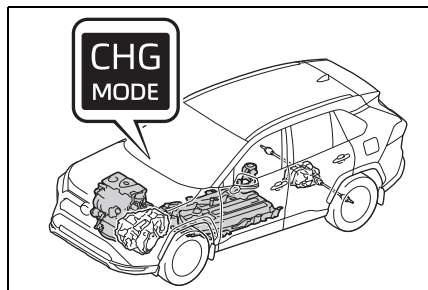
HV モード時は、ガソリンエンジンと電気モーターを併用して走行します。(→P.62)

- ・ EV モードまたは AUTO EV / HV モードでの EV 走行に必要な電池残量がなくなると、自動で HV モードに移行します。
- ・ EV 走行するための駆動用電池残量を温存したいときなどには、スイッチ操作により、任意のタイミングで HV モードに切りかえることもできます
(→P.60)。* 高速道路や登坂路を走行するときは、電気消費量を抑えるために、HV モードで走行することをおすすめします。

車両が HV モードのときは、HV モード表示灯が点灯します。

* HV モードに切りかえた場合でも、EV 走行可能距離が低下する場合があります。

■ バッテリーチャージモード (→P.61)



EV 走行に必要な駆動用電池の残量がなくなったとき、スイッチ操作でバッテリーチャージモードに切りかえることにより、ガソリンエンジンで発電した電気を駆動用電池に充電することができます。*

- ・ プラグインハイブリッドシステムの状況により、バッテリーチャージモードに切りかえることができない場合があります。(→P.61)
- ・ バッテリーチャージモードでの走行時は、車両の走行状況によって充電にかかる時間がかわります。

車両がバッテリーチャージモードのときは、バッテリーチャージモード表示灯が点灯します。

* バッテリーチャージモードに切りかえると、走行しながら駆動用電池に充電することができますが、発電のためにガソリンエンジンが作動するため、HV モードでの走行時にくらべて、燃料の消費量が増えます。

プラグインハイブリッドシステムの作動モードを切りかえるには

スイッチ操作により、任意のタイ

ミングでプラグインハイブリッドシステムの作動モードを切りかえることができます。

■ EV モード・AUTO EV / HV モード・HV モードを切りかえるには

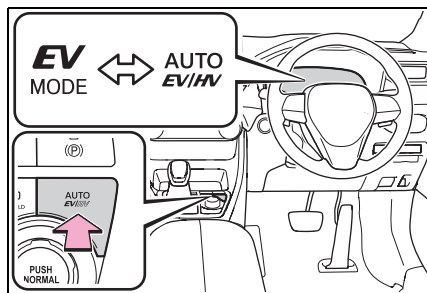
AUTO EV / HV スイッチまたは EV / HV モード切りかえスイッチを押すと、次のように作動モードが切りかわります。

EV モードのときは、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

AUTO EV / HV モードのときは、AUTO EV / HV モード表示灯が点灯します。

HV モードのときは、HV モード表示灯が点灯します。

▶ AUTO EV / HV スイッチ

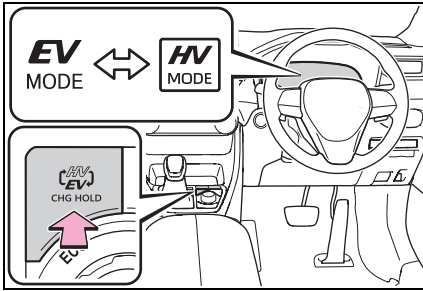


現在のモード	切りかえ後のモード
EV モード	AUTO EV / HV モード
AUTO EV / HV モード	EV モード
HV モード	AUTO EV / HV モード*

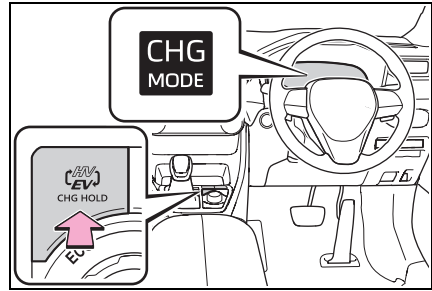
* EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないときは、AUTO EV / HV モードを選択することはできません

ん。

▶ EV / HV モード切りかえスイッチ



※ バッテリーチャージモードでの規定充電量は、普通充電での満充電量の約80%になります。



現在のモード	切りかえ後のモード
EV モード	HV モード
AUTO EV / HV モード	HV モード
HV モード	EV モード*

※ EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないときは、EV モードを選択することはできません。

■ バッテリーチャージモードに切りかえるには

EV / HV モード切りかえスイッチを押し続ける

バッテリーチャージモード表示灯が点滅したら、スイッチから手を離します。

バッテリーチャージモードへの切りかえが完了すると、バッテリーチャージモード表示灯が点灯します。

駆動用電池が満充電*になると、バッテリーチャージモードは自動で解除され、HV モードに遷移します。

バッテリーチャージモード中に AUTO EV / HV スイッチまたは EV / HV モード切りかえスイッチを押すと、バッテリーチャージモードが解除されます。

知識

■ プラグインハイブリッドシステムの作動モードを変更できないとき

次の状況のときは、AUTO EV / HV スイッチまたは EV / HV モード切りかえスイッチを操作しても、プラグインハイブリッドシステムの作動モードを変更できません。(その場合は、スイッチを操作するとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます)

- EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないとき (EV モードまたは AUTO EV / HV モード)

- 駆動用電池が満充電に近いとき (バッテリーチャージモード)

■ スイッチ操作で EV モードからほかのモードに切りかえたとき

パワースイッチを OFF にすると作動モードの切りかえが解除され、次の始動時には EV モードの状態にもどります。*

※ EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないときは、HV モードになります。

■ バッテリーチャージモードについて

- システム保護などの理由により、次のようなことが起こる場合があります。
 - ・ バッテリーチャージモードに移行でき

なかったり、解除されたりする

- ・ バッテリーチャージモードに切りかえてもガソリンエンジンが始動しない、または停止する
- エアコンの消費電力が大きいときや冷却水温度が高いときなど、システムの負荷が大きい状況では、バッテリーチャージモードによる充電にかかる時間が通常より長くなったり、駆動用電池への充電が実施されなくなったりする場合があります。

警告

■ バッテリーチャージモードを使用するとき

バッテリーチャージモードを駐車中に使用するときには、次のことをお守りください。

バッテリーチャージモードの使用中はガソリンエンジンが作動するため、お守りいただかないと思われ事故の原因となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 燃えやすいものや可燃物の付近などに車を停めない
- 車庫内や雪が積もった場所など、換気が悪く囲まれた場所では、バッテリーチャージモードを使用しない

各モードでの走行時・減速時の制御について

■ EV モード時

EV モード時はEV 走行（電気モーターのみでの走行）※ できますが、一部の状況ではEV 走行が解除され、ガソリンエンジンを併用した走行となります（→P.64）。また、駆動用電池の残量が少なくなると、自動的にHV モードに切りかわり

ます。EV モードでの走行状態を長く続けるために、次のような点にご留意ください。

- 急加速や急減速を避け、スムーズな運転を心がけてください。急加速をくり返すと、駆動用電池の残量が早く減少します。また、急加速や速度によりEV 走行が解除されます。
- なるべく控えめな速度で走行してください。車速が高くなるとEV 走行できる距離は大幅に低下します。

※ マルチインフォメーションディスプレイでEV 走行可能距離を確認できます。（→P.159）

■ AUTO EV / HV モード時

通常走行では電気モーターのみでEV 走行 ※ しますが、アクセルペダルを大きく踏み込むと、ガソリンエンジンが始動します（→P.64）。また、駆動用電池の残量が少なくなると、EV モード時と同様に自動でHV モードに切りかわります。AUTO EV / HV モードは、登坂路や急加速が必要なときなど、大きな力が必要な走行状況に適していますが、ガソリンエンジンが始動しやすくなるため、通常はEV モードでの走行をおすすめします。

※ マルチインフォメーションディスプレイでEV 走行可能距離を確認できます。（→P.159）

■ HV モード時

一般的なハイブリッド車と同じように使用することができます。

HV モード時は、走行状況に応じ

て、主に次のように制御されます。

- 停車中はガソリンエンジンを停止※します。
- 発進時は電気モーターを使って発進します。
- 通常走行時は、ガソリンエンジンと電気モーターを効率よく制御し、燃費効率が最適になるように走行します。また、必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときは、ガソリンエンジンと電気モーターの両方の動力により力強く加速します。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。
(→P.64)

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を積極的に活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、EV 走行できる距離をのばすことができます。

また、HV モード時も燃料消費を抑えるために、回生ブレーキ機能の活用が有効です。

□ 知識

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーがDまたはSで走行中に、アクセルペダルから足を離れたとき
- シフトレバーがDまたはSで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV 走行できる距離

カタログに記載の充電電力使用時走行距離（プラグインレンジ、国土交通省審査値）は、一定の条件における国土交通省指定のパターン走行モードで測定されたものです。

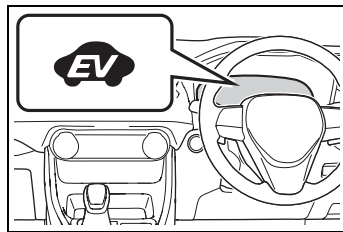
走行条件が異なれば実際のEV 走行距離はカタログ値と異なりますが、これは一般のガソリンエンジン車でも同様です。

- マルチインフォメーションディスプレイに表示される、EV 走行可能距離の表示を目安にしてください。(→P.159)
- EV 走行距離は、駆動用電池の充電状態や、車速などの状況により変化します。
- 駆動用電池の残量が十分にあって、一部の状況ではEV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。(→P.64)

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。

EV インジケーターの作動／非作動を設定できます。(→P.171)



■ 駆動用電池の残量が減少し、EV モードからHV モードに切りかわったあとは

長い下り坂を連続して走行するなどして駆動用電池の充電量が回復すると、EV 走

行可能距離がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、自動でEVモードに復帰します。

EV 走行可能距離が表示されているのにEVモードに切りかわらないときは、EV / HV モード切りかえスイッチを押してEVモードに切りかえることができます。

■EVモード・AUTO EV / HV モード時のガソリンエンジンの作動について

駆動用電池の残量が十分にあり、EV 走行可能距離（→P.159）がマルチインフォメーションディスプレイに表示されていても、一部の状況では自動でEV走行（電気モーターのみでの走行）が解除され、ガソリンエンジンを併用した走行に切りかわります（再度EV走行が可能な状態になった場合は、自動的にEV走行に復帰します）。

EV 走行が自動的に解除される状況には、主に次のようなものがあります^{*1}。

- 車速が約 135km/h 以上のとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや急加速時など、一時的にパワーが必要なとき^{*2}
- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや、登降坂・高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
- 外気温が約 -10℃ を下まわる状態で暖房を使用したとき
- フロントウインドウガラスの曇り取りスイッチ（→P.367）を押したとき
- ガソリンエンジンの始動が必要であるとシステムが判断したとき

^{*1} 状況により、上記のほかにもEV走行が解除される場合があります。

^{*2} AUTO EV / HV モードのとき。EVモード時も、駆動用電池の状況によってガソリンエンジンが始動します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「システム保護のためエンジン始動 自動停止するまで EV 走行不可」が表示されたとき

ハイブリッドシステム保護などの理由により、EV 走行が自動的に解除されます。その場合は、自動的にEV走行に復帰するまで、ガソリンエンジンを併用した走行を続けてください。

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両の状態に応じて、ガソリンエンジンが自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。^{*}

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- フロントウインドウガラスの曇り取りスイッチ（→P.367）を押したとき

^{*} 状況により、上記のほかにもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

この車はREADYインジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトレバーをPにしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる、車両後方および駆動用電池からの音

- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方および車両床下から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下部にある吸気口（→P.72）から聞こえるファンの音
- 空調システムおよび駆動用電池冷却（→P.97）の作動にともなう駆動用電池付近からの音

■メンテナンスや修理・廃車について

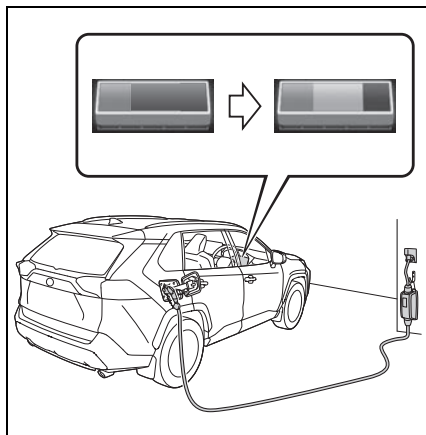
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

充電について（→P.79）

EVモードまたはAUTO EV / HVモードを利用可能にするために、車両のご使用前には、あらかじめ外部電源から駆動用電池を充電してください。

駆動用電池の充電が完了していなくても車両は使用可能ですが、残量が十分になると、EVモードまたはAUTO EV / HVモードを利用できなかつたり、EV走行できる距離が短くなつたりします。



知識

■燃料補給について

プラグインハイブリッド車は、外部からの充電により蓄えた電気を使用して走行することができますが、EVモードまたはAUTO EV / HVモード中でも一部の状況（→P.64）ではガソリンエンジンを使用するほか、HVモード中は走行の動力源としてガソリンエンジンを併用するため、燃料の補給は不可欠です。燃料計を確認し、残量が少なくなったときはすみやかに燃料を補給してください。（→P.286）

■車を長期間使用しなかったとき

- 車を長期間使用しなかった場合は、補機バッテリーや駆動用電池が充電不足になっている可能性があります。駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、外部電源から充電するか、少なくとも2～3ヶ月に一度はハイブリッドシステムを始動し、ガソリンエンジンの作動が自動的に停止したあと、パワースイッチをOFFにしてください。（READYインジケーターが点灯後、約10秒経過してもガソリンエンジンが作動しない場合は、そのままパワースイッチをOFFにしても問題ありません）

・マルチインフォメーションディスプレイ

いに「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示された場合は、P.456 の記載に従って対処してください。

- 補機バッテリーがあがってしまっている場合は、「補機バッテリーがあがったときは」（→P.482）の記載に従って、対処してください。
- 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、車両から取りはずしておいてください。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■ 車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなる場合があります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検を受けてください」が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してくだ

さい。

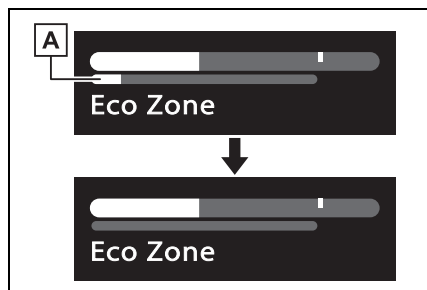
先読みエコドライブ（車載ナビゲーションシステムまたはコネクティッドナビご利用時）

本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。

先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

- ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近付くと、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド（→P.168）のアクセル操作の目安（**A**）の表示が消え、余分な加速をし続けないように支援します。



- アクセルペダルを離れたあとに、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

■ 先読みEV / HV モード切りかえ制御

ナビゲーションシステムでのルート案内中、電力を効率よく使用するために、駆動用電池の残量や経

路、交通情報といったデータをもとに、EV 走行と HV 走行を切りかえます。

たとえば、電力の消費が多くなる高速道路や登坂路などがある場合は、駆動用電池の残量を確保するために、HV 走行します。

 知識

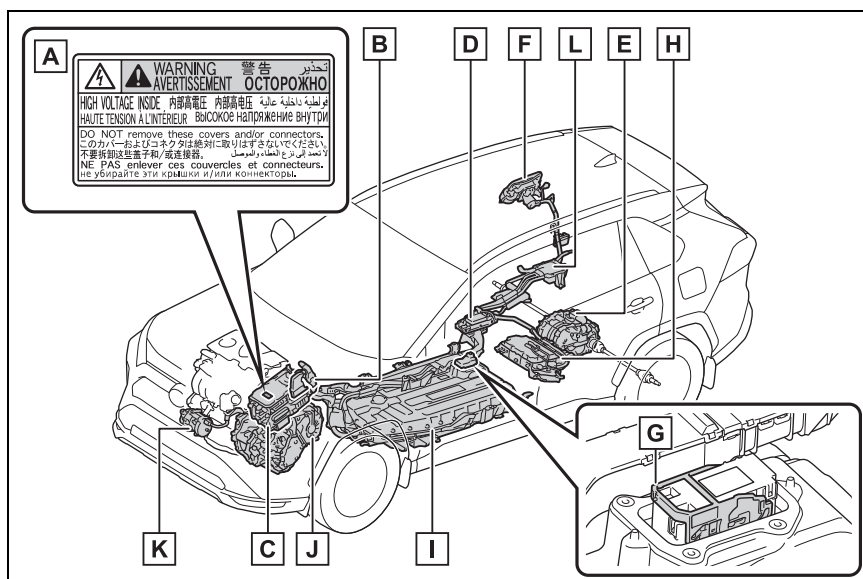
■先読み EV / HV モード切りかえ制御について

本機能は、AUTO EV / HV モード時のみ作動します。

プラグインハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** ラベル
- B** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- C** パワーコントロールユニット
- D** DC / DC コンバータ
- E** リヤ電気モーター
- F** 普通充電インレット
- G** サービスプラグ

H 車載充電器**I** 駆動用電池**J** フロント電気モーター**K** エアコンコンプレッサー**L** 分岐ボックス 知識**■ ガス欠になったとき**

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯(→P.454)が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。(給油量の目安は車両水平状態で約 8.8L です。)

車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください)

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部(遠距離通信)において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 磁力による影響について

大型スピーカーなど、強い磁力を発生するものをラゲージルーム付近に取り付けたり、ラゲージルームに置いたりすると、ハイブリッドシステムに悪影響をおよぼす場合があります。

■ 駆動用電池(リチウムイオン電池)について

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量(蓄電能力)は、ほかの充電式電池などと同様に時間の経過や

使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お客様の使用状況や環境(外気温等)により大きく異なります。

これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下するとEV走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.102の「駆動用電池の容量低下について」に記載されていることを心がけてください。

■ 極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合(およそ-30℃以下)、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 適合宣言

この車両は、ECE100(バッテリー電気車両安全)に基づいた水素排出量に適合しています。

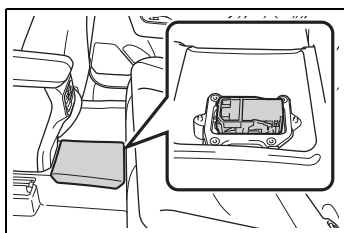
 **警告****■ 高電圧・高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店で車の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない

- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.445）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

警告

■ 駆動用電池について

- この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。
- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。

床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

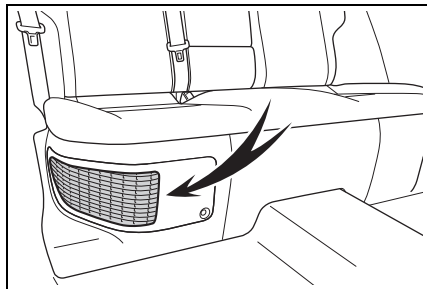
注意

■ 燃料について

- プラグインハイブリッド車では、車の使用状況によっては燃料がタンク内に長期間滞留し、燃料の品質が変化することがあります。燃料系の部品やエンジンに影響をおよぼす可能性があるため、12ヶ月ごとに20L以上（12ヶ月間の給油量が合計20L以上になるように）燃料補給を行ってください。
- 一定のあいだ燃料が補給されておらず、燃料タンクにある燃料の品質の変化が予想されるときは、パワースイッチをONにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに「長期間燃料が補給されていません燃料を補給してください」というメッセージが表示されます。メッセージが表示された場合は、すみやかに燃料を補給してください。

DC / DC コンバータ冷却用吸入口

リヤシートの下（運転席側）には、DC / DC コンバータ冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると、プラグインハイブリッドシステムが正常に作動しなくなる原因になります。



⚠ 注意

■ DC / DC コンバータ冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで、吸入口がふさがれないようにしてください。吸入口がふさがれるとプラグインハイブリッドシステムが正常に作動しなくなる原因になります。
- 吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。DC / DC コンバータを損傷するおそれがあります。
- DC / DC コンバータ周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、P.420 を参照してください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「DCDC コンバータの冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、吸入口やフィルターの目づまりが考えられます。P.420 を参考に吸入口の清掃を行ってください。

緊急停止システム

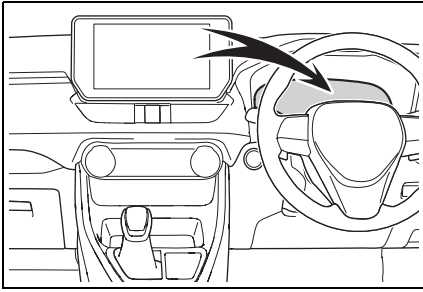
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。



□ 知識

- 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

プラグインハイブリッド車 運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

EV モード・AUTO EV / HV モードと HV モードの効果的な 使い方

主に EV モード・AUTO EV / HV モードは市街地走行時に使用し、HV モードは高速走行時に使用することで、電気や燃料の節約につながります。(→P.62)

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電気や燃料の節約につながります。(→P.353)

ハイブリッドシステムインジ ケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。(→P.162)

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。ま

た、駐車するときは、シフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電気・燃料の消費量が多くなります。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペ

ダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費や燃料消費を抑えることができます。

高速道路での運転

- 速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。
- EVモード・AUTO EV / HVモードで高速走行をすると、著しく電力を消費します。高速道路を下りてから、次に外部電源から充電する場所までの距離が長い場合、高速道路はHVモードで走行し、高速道路を下りたあとEVモード・AUTO EV / HVモードに切りかえることをおすすめします。(→P.60)

エアコンのON / OFF

- 必要時以外はエアコンスイッチをOFFにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り、電気・燃費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けてください。また、ステアリングヒーター・シートヒーター(→P.376)の活用も効果的です。

- 普通充電ケーブルが車両に接続されている状態でリモートエ

コンシステム（→P.374）を使用すると、主に外部電源の電力を使用して車内を空調できるため、出発直後の駆動用電池の電力消費を抑制できます。

／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

- タイマー設定時、充電モードを「出発」に設定し、エアコン連動をONにしておくことで、「出発」に設定した時間に併せて、あらかじめ車内を空調しておくことができ、出発直後のエアコンの負荷を低減することができます。（→P.1111）

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、EV走行できる距離が短くなったり、HVモード時の燃費悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電気・燃料の消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、それだけ余分なエネルギーが必要となります。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様にエネルギー消費の原因になります。

走行前の暖機運転

この車はガソリンエンジンの始動

EV 走行可能距離について

マルチインフォメーションディスプレイに表示される EV 走行可能距離は、現在どのくらい EV 走行（電気モーターのみでの走行）が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

EV 走行可能距離が表示されているときでも、一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。
（→P.64）

表示値について

マルチインフォメーションディスプレイに表示する値（→P.159）は、主に次のような情報から推定しています。

- 現在の駆動用電池残量
- 電力消費率（単位電力量で EV 走行できる距離）の学習値
- 過去のエアコンシステムの電力消費量

電力消費率は走行のしかたによって変化します。電力消費率の学習は車両の充電を行うたびに車両が自動的にっており、EV 走行可能距離の推定に反映されます。このため、前回までの走行のしかたにより、満充電状態で表示される EV 走行可能距離が前回と異なる場合があります。

学習値が安定するまでのあいだ（新車時から約 1 ～ 2ヶ月ほど）は充電するごとに EV 走行可能距

離が大きく変化する場合がありますが、異常ではありません。

エアコンを ON にしているときは電力消費量が多くなることを考慮して、過去のエアコン電力消費量のデータを基に、EV 走行可能距離（エアコン使用時）を推定しています。

EV 走行できる距離を伸ばすためのヒント

EV 走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より EV 走行できる距離を伸ばすことが可能です。

■ 発進するときは、ゆるやかにアクセルペダルを踏んで加速する

目安として、最初の 5 秒で時速 20km/h 程度になるように加速してください。

マルチインフォメーションディスプレイに表示されるエコアクセルガイドを活用して、やさしい発進を心がけるだけで電費／燃費の向上につながります。（→P.168）

走行モードをエコドライブモードにすると、アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、やさしいアクセル操作がしやすくなります。

同時にエアコンの制御はエコ空調モード（→P.367）に切りかわり、エアコンの作動が控えめになります。

■ 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない

走行中は、一定の速度で走行することを心がけましょう。車間距離が短いと、むだな加減速をくり返すことになり、電費／燃費が悪化する原因となります。

■ 信号などで停車する前は、早めにアクセルペダルから足を離す

回生ブレーキの作動により、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池に充電することができます。

ハイブリッドシステムインジケータで回生の状況を確認することができます。(→P.162)

減速時にブレーキペダルを軽く踏むことで回生量が増加し、より多くの電気エネルギーを回収できます。

ブレーキペダルを強く踏みすぎると、回収量の表示がいっぱいになってしまい、回収できる上限をこえてしまうため、早めのブレーキ操作を心がけてください。

■ エアコンを適切に使用し、ステアリングヒーター・シートヒーターも活用する

EVモードでは電気エネルギーによって冷房・暖房されます。(約10℃以下の極低温時を除く)

冷やしすぎたり、暖めすぎたりしないようにすると、電力消費を抑え、電費の向上につながります。

エコ空調モードを使用すると、自動的に控えめなエアコン制御になります。(→P.367)

ステアリングヒーター・シート

ヒーターは、少ない電力で直接体を暖められる、効率のよい暖房装置です。

エアコンと併せて使用することで、設定温度を控えめにでき、電費／燃費の向上につながります。

■ タイヤの空気圧を点検する

空気圧が規定値より不足すると、電費／燃費が悪化する原因となります。

規定値より50kPa(0.5kg/cm²)不足した状態で数%程度悪化します。

■ 高速道路を走行するときは、EV／HVモード切りかえスイッチを活用し、HVモードで走行する

EVモードで高速道路を走行すると、電力消費量が著しく増加します。

■ 不要な荷物を積まないように心がける

100kgの荷物を載せて走行すると、約3%程度電費／燃費が悪化します。

空気抵抗も電費／燃費に大きく影響するため、ルーフキャリアなどの外装品は、使用しないときは取りはずしましょう。

また、冬用タイヤは走行抵抗が大きく、電費／燃費の悪化する原因ですので、必要がなくなったらすみやかに標準タイヤにもどしてください。

■ ご自身の電費／燃費を把握しておきましょう

日々の電費／燃費を把握すると、エコドライブ効果が実感できます。

マルチインフォメーションディスプレイに表示される電費／燃費グラフ、エコアクセルガイド／エコジャッジなどを活用してください。

充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

- 充電ポートの充電インジケータが消灯する
- パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに「充電結果のお知らせ 充電完了しました」と表示される
(→P.100)

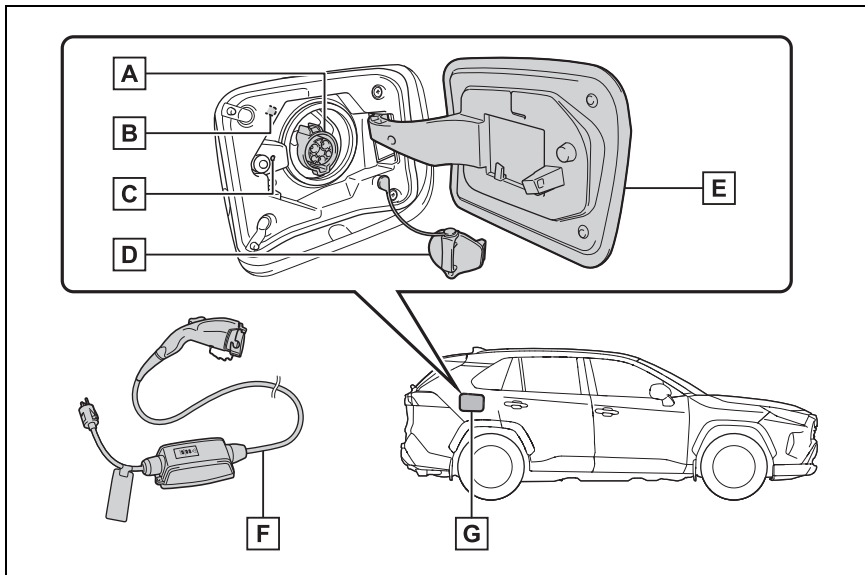
接続する電源（100V・200V）やタイマー充電機能の使用に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて：→P.131

充電に関する装備について

この車両には外部電源と接続するための普通充電インレットや、外部電源と車両とを接続するための普通充電ケーブルなどが装備されています。

充電装備と名称



- A** 普通充電インレット
- B** 普通充電インレット照明
- C** 充電インジケータ (→P.80)
- D** 普通充電インレットキャップ
- E** 充電リッド (→P.80)
- F** 普通充電ケーブル (→P.82)
- G** 充電ポート

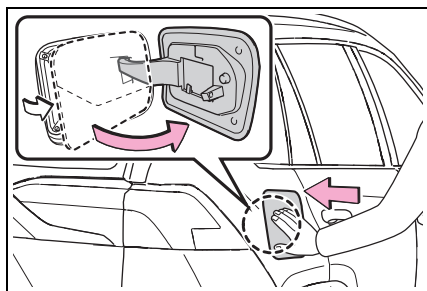
充電リッドの開閉

■ 充電リッドの開け方

ドアを解錠することで、充電リッドをアンロックする

充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押し、充電リッドを開ける

押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。

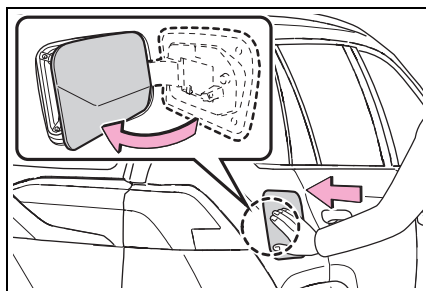


■ 充電リッドの閉め方

充電リッドを閉め、充電リッドの後辺中央部（図に示す位置）を押す

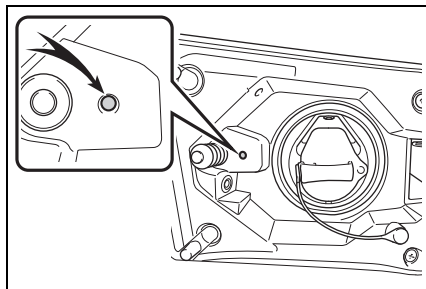
ドアを施錠すると、充電リッドもロックされます。

(→P.88)



充電インジケータ

点灯・点滅パターンの変化により、次のように充電に関する状況をお知らせします。



点灯・点滅パターン	車両の状況
点灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通充電中・AC 外部給電中^{※1} ・ 普通充電・AC 外部給電^{※1}が可能な状況のとき ・ 駆動用電池ヒーター（→P.97）の作動中 ・ 駆動用電池冷却（→P.97）の作動中
点滅（通常） ^{※2}	充電スケジュール（→P.111）が登録されている状態で、普通充電ケーブルを車両に接続したとき
速い点滅 ^{※2}	電源または車両の異常などにより充電ができない状況（→P.129）のとき
遅い点滅 ^{※3}	AC 外部給電 ^{※1} の開始操作待機中
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通充電コネクタ・ヴィークルパワーコネクタ^{※1}が普通充電インレットに挿し込まれていないとき ・ タイマー充電（→P.111）の待機中 ・ 普通充電が終了したとき

※1 ヴィークルパワーコネクタ・AC 外部給電システムについては、P.136 を参照してください。

※2 一定時間点滅したあと、消灯します。

※3 一定時間点滅したあと、点灯します。

知識

■ 充電ポートの充電インジケータについて

充電中・リモートエアコンシステムの使用中にシステム異常などが発生した場合は、一定時間、速い点滅をしたあとで消灯します。

その場合、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの内容に従って、それぞれ対処してください。

普通充電ケーブルについて

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

警告

■ 普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない

- 普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

注意

■ 普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- 普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターがアンロックされていることを確認する（→P.88）
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクターを取りはずしたあとは、普通充電インレットキャップを確実に取り付ける

■ 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

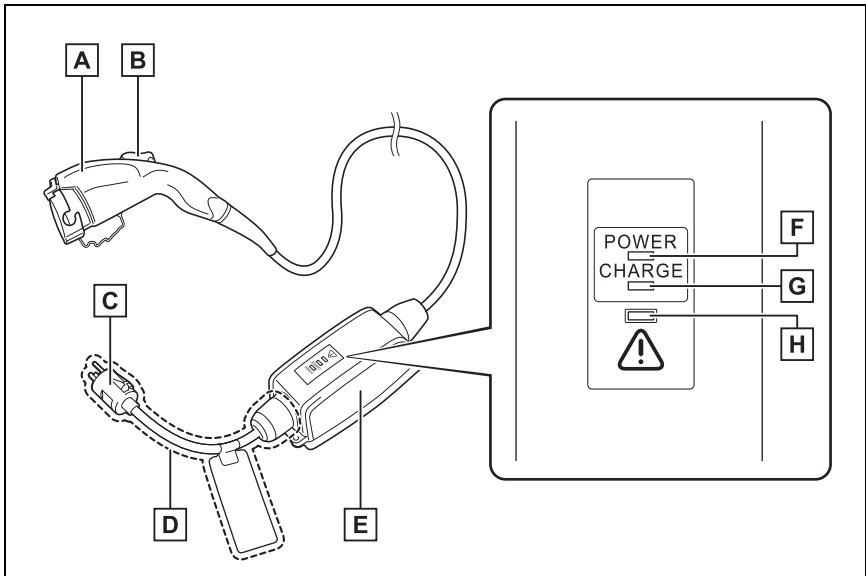
→P.104

 注意

■ 寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



- A** 普通充電コネクター
- B** ロック解除ボタン
- C** 電源プラグ
- D** 電源プラグコード*
- E** コントロールユニット
- F** 電源インジケータ (→P.84)
- G** 充電インジケータ (→P.84)
- H** エラーインジケータ (→P.84)

※ 接続する電源電圧（200V または 100V）に合わせて、電源プラグコードを交換する必要があります。（→P.85）

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケータが点滅します。（電気が遮断された場合の対処方法については、P.84 を参照してください）

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケータの点滅でお知らせします。（→P.84）

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿して

■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケータの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

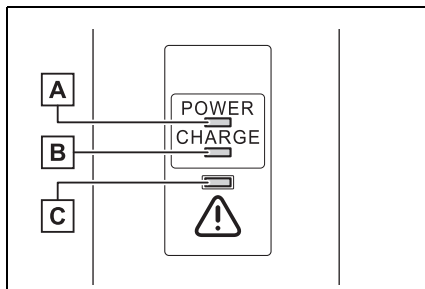
エラーインジケータが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケータが消灯するか確認してくだ

あっても、普通充電コネクタが車両に接続されていないと、普通充電コネクタに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケータについて

■ 各インジケータの働き

3つのインジケータで、それぞれ次の状態を示します。



A 電源インジケータ

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

B 充電インジケータ

充電中に点灯します。

C エラーインジケータ

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

さい。

エラーインジケータが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

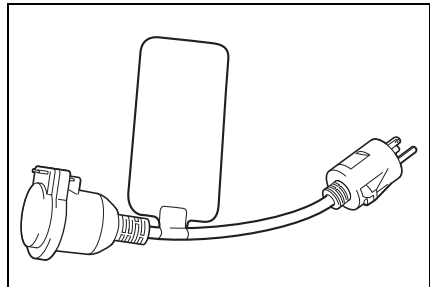
消灯しない場合は、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジケータ	エラーインジケータ	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
	点灯	点滅	
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 → 電源プラグがコンセントに確実に挿込まれているか確認してください。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 → トヨタ販売店にご相談ください。

電源プラグコードの交換

電源プラグを 100V 用、または 200V 用に交換したい場合は、次の手順で電源プラグコードを交換してください。

- 1 普通充電ケーブル (→P.83) と交換用電源プラグコードを用意する



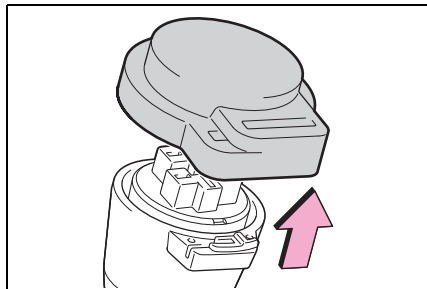
- 2 解除キーを取り出す

取り出した解除キーをなくさないように

ご注意ください。

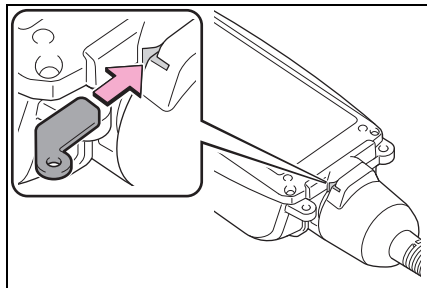


3 保護キャップを取りはずす



4 コントロールユニットの解除穴に解除キーを挿し込む

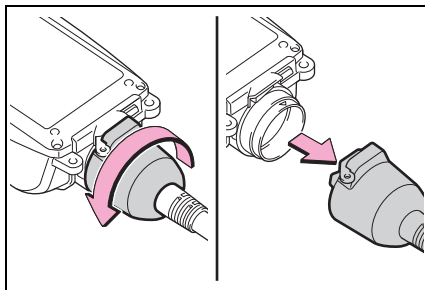
解除キーは図の向きで挿し込んでください。



5 コントロールユニットの解除穴に解除キーを奥まで挿し込んだまま、電源プラグコードのナット部をまわして、電源プラグコードを取りはずす

電源プラグコードを取りはずしたら、解除キーを抜いてください。

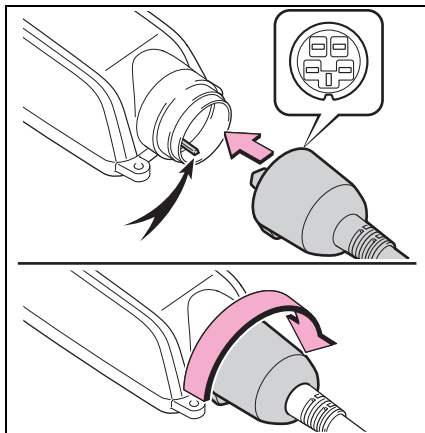
電源プラグコードを取りはずしたまま放置しないでください。電源プラグコードが接続されていないと、コントロールユニットの内部に水などが入り、故障につながるおそれがあります。



6 コントロールユニット接合部の突起と、電源プラグコードコネクタの溝とを合わせて挿し込み、電源プラグコードのナット部をまわして取り付ける

電源プラグコードを取り付ける前に、接続部に異物が付着していないか確認してください。異物が付着している場合は、必ず取り除いてください。異物が付着している状態で接続すると、水などが入り、故障につながるおそれがあります。

“カチッ”という音がして固定されるまで、取りはずしたときと逆方向にまわします。



7 取りはずした電源プラグコードに、保護キャップと解除キーを取り付ける

紛失を防ぐため、解除キーは保護キャップに確実に取り付けてください。また、解除キーが保護キャップから意図せず脱落しないよう、ご注意ください。

電源プラグコードは、ほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

警告

■電源プラグコードを交換するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 電源プラグコードの交換作業は、ぬれた手で行わない
また、雨や水のかかる場所で行わないでください。
- 電源プラグ・普通充電コネクターを接続した状態で、電源プラグコードの交換作業を行わない
- コントロールユニットから電源プラグコードを取りはずした状態で放置しない
- 電源プラグコードをコントロールユニットに取り付けるときは、接続部に異物が付着していないことを必ず確認する
- 電源プラグコードの交換時には、“カチッ”という音がするまで電源プラグコードのナット部をしっかりとまわす
- 電源プラグコードを交換する際は、必ず解除キーを使用する

注意

■電源プラグコードについての注意

電源プラグコードは充電以外の用途で使用しないでください。電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

警告

■日常点検について

定期的に次のことを確認してください。点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに破損などが無いこと
- コンセントに破損が無いこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ 普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 長期間普通充電ケーブルを使用しないとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

充電リッド・普通充電コネクターのロック・アンロック

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで充電リッド・普通充電コネクターのロック・アンロックをすることができます。

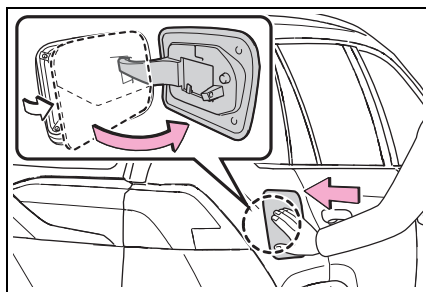
(→P.188, 194)

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合は、メカニカルキーを使用してください。(→P.480)

充電リッドをロック・アンロックするには

■ アンロックするときは

- 1 スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンなどでドアを解錠する
- 2 充電リッドの後辺中央部（図に示す位置）を押して充電リッドを開く



■ ロックするときは

充電リッドを閉めてからスマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンなどでドアを

施錠すると、充電リッドがロックされます。

知識

■ 解錠操作のセキュリティ機能

ドアのセキュリティ機能で施錠された場合、充電リッドが閉まっていれば、連動して充電リッドもロックされます。(→P.190)

■ 充電リッドのロックについて

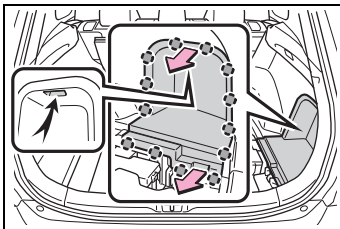
車両のドアを施錠したあとに充電リッドを閉めても、充電リッドはロックされません。その場合は、充電リッドを閉めてから再度、ドアを施錠する必要があります。

■ 充電リッドが開かないとき

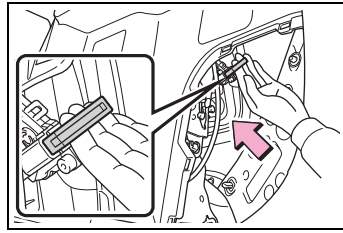
通常の手順で充電リッドが開かない緊急時は、次の方法で充電リッドを開けることができます。

- 1 バックドアを開ける (→P.194)
- 2 ラゲージサイドカバーを手前に引いて、ツメ (13箇所) をはずす

ラゲージサイドカバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。



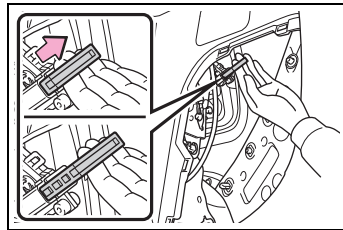
- 3 図に示す充電リッドロックの緊急解除レバーに指をかける



- 4 緊急解除レバーを矢印の方向に動かす*

充電リッドがアンロックされます。

* 必ず矢印の方向に操作してください。矢印の向き以外に力をかけると、緊急解除レバーが損傷するおそれがあります。



- 5 充電リッドの後辺中央部を押して、充電リッドを開く (→P.80)

このアンロック方法は、緊急時の一時的な対処です。異常が解消しない場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

普通充電コネクターをロック・アンロックするには

普通充電コネクターは、普通充電インレットに挿し込んだ状態において、ドアの施錠状態・解錠状態に連動してロック・アンロックされます。

■ ロックするときは

普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込んだ状態で、ドアを施錠すると、普通充電コネク

ターがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクタを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。

■ アンロックするときは

ドアを解錠すると、普通充電コネクタがアンロックされます。



知識

■ 普通充電コネクタのロック機能について

普通充電コネクタのロック機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証するものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

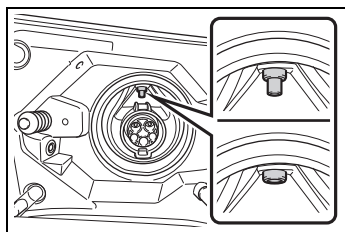
■ AC 外部給電システム (→P.136) を使用するとき

普通充電コネクタと同様に、ヴィークルパワーコネクタをロック・アンロックすることもできます。

■ 普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込めないとき

コネクタロックピンが下がっていないか確認してください。

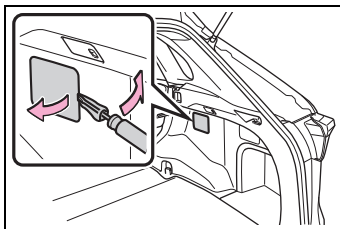
コネクタロックピンが下がっている場合は、コネクタロックが作動しています。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンなどでドアを解錠してコネクタロックをアンロックし、コネクタロックピンが上がっている状態にしてください。



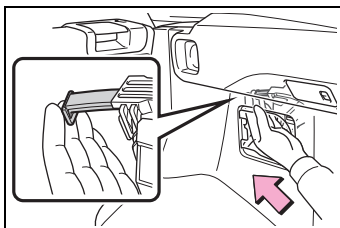
■ 普通充電コネクタをアンロックできないとき

通常の操作で普通充電コネクタをアンロックできないときは、コネクタロック緊急解除レバーを操作して、普通充電コネクタをアンロックすることができます。

- 1 バックドアを開ける (→P.194)
- 2 図に示すカバーを取りはずす



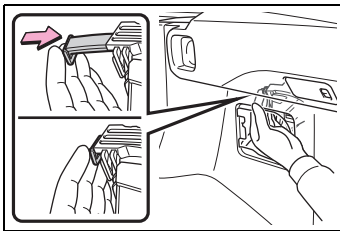
- 3 車両下側から斜め上方向に向けて手を入れ、コネクタロック緊急解除レバーに指をかける



- 4 コネクタロック緊急解除レバーを矢印の方向に動かす*

普通充電コネクタがアンロックされ、普通充電コネクタの取りはずしが可能になります。

* 必ず矢印の方向に操作してください。矢印の向き以外に力かけると、コネクタロック緊急解除レバーが損傷するおそれがあります。



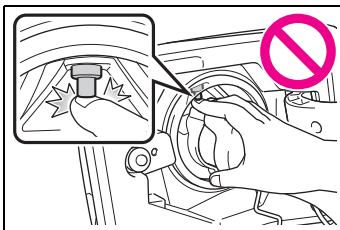
5 カバーをもとどおりに取り付ける

この方法は、緊急時の一時的な対処です。異常が解消しない場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。通常の操作で普通充電コネクタをアンロックできるときは、緊急解除レバーを操作しないでください。

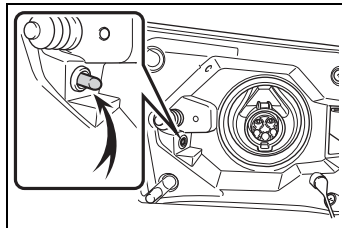
警告

■ 普通充電インレットに普通充電コネクタを接続するとき

- コネクタロック部に手を入れないでください。コネクタロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



- 充電リッドロック部にふれないようにご注意ください。コネクタロック作動時、充電リッドロックピンも作動するため、手あたり、けがをするおそれがあり危険です。



注意

■ 普通充電コネクタをロックするとき

次のことをご守りください。お守りいただかないと、コネクタロックシステムの故障の原因となります。

- 普通充電コネクタがこの車両に適合していることを確認する
異なるタイプの普通充電コネクタや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクタなどは、ロックできない可能性があります。
- 普通充電コネクタを挿し込んだあとは、普通充電コネクタに無理な力をかけない
普通充電コネクタを取りはずすときは、必ずコネクタロックを解除してください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

警告

■ 電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

■ 契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力[※]をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

[※] 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

■ 充電環境について

● 必要な電力に対応した専用の普通充電器（スタンド）、または車両に搭載され

ている普通充電ケーブルを使用して、充電を行ってください。

- ・ 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。
- ・ 家庭の 100V 電源で 6A に対応した普通充電ケーブルを使用した場合、約 0.6kW で充電されます。
- 自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

電源について

■ 200V 電源を使用する場合

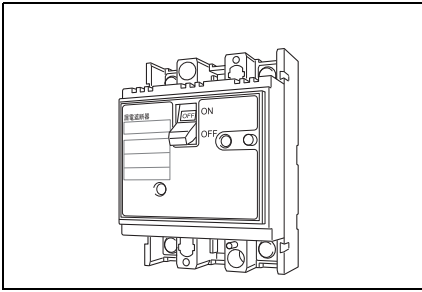
- 200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。
- 200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。[※]

[※] 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

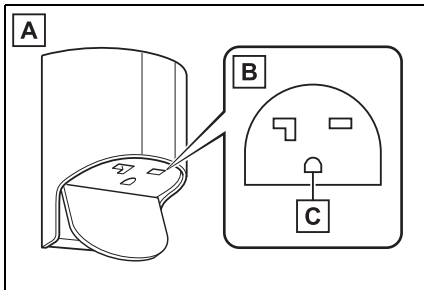
- 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。[※]

[※] 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- BEV / PHEV 専用コンセントに接続してください。



- A** BEV / PHEV 専用コンセントの例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4322 (200V)

- B** 200V コンセント極配置 ※

JIS C 8303

2 極 接地極 (アース) 付コンセント

20A 250V

- C** 接地極 (アース)

※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

■ 100V 電源を使用する場合 ※

※ 100V 電源で充電する際は、普通充電ケーブルの電源プラグを 100V 用のものに交換してください。(→P.85)

- ブレーカーの容量を確認してください。この車の充電時には、

100V で最大 6A の電流が流れます。余裕をみて、20A のブレーカーを備えたコンセントに接続することを推奨します。*

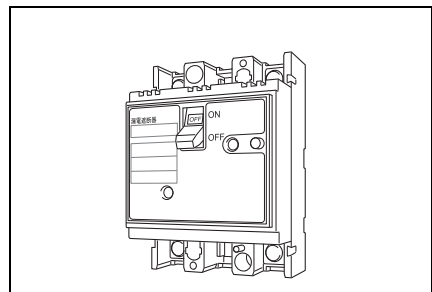
ブレーカーの容量に余裕がないと、ほかの電気製品を接続した際にブレーカーが作動して、電流が遮断される可能性があります。

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

- 回路上に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。(主幹含む)

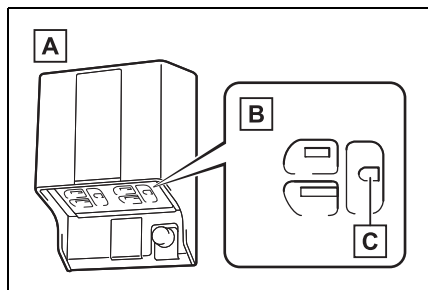
もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。*

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- 屋外で充電する場合は、軽負荷電動車両充電用コンセントに接続してください。*

※ 日々の充電にあたっては、電源プラグのひんぱんな抜き挿しが必要となるため、抜止形の防雨形 100V コンセントでは耐久性が十分でない場合があります。



A 一般回路用の軽負荷電動車両充電用コンセントの例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4632 (100V)

B 100V コンセント極配置*

JIS C 8303

2 極 接地極 (アース) 付コンセント

15A 125V

C 接地極 (アース)

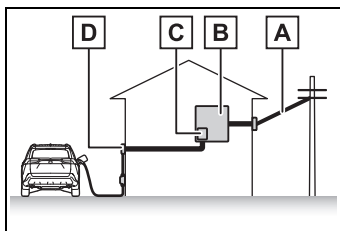
* 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

- 普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

 知識

■ 自宅の電源 (コンセント) と普通充電ケーブルを使用して充電するとき (200V 電源の使用時)

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。*



A 電線

B 分電盤

C 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

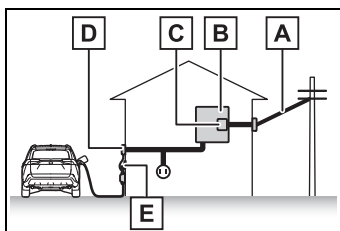
D BEV / PHEV 専用コンセント
(→P.92)

BEV / PHEV 専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

* 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き挿しをより安全に行うことができます。

■ 自宅の電源 (コンセント) と普通充電ケーブルを使用して充電するとき (100V 電源の使用時)

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。



A 電線

B 分電盤

C 高速高感度形漏電遮断器

漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D 軽負荷電動車両充電用コンセント
(→P.93)


一般的な抜き形の防雨形 100V コンセントでは、ひんぱんな抜き差し使用による耐久性が十分ではない場合がありますが、軽負荷電動車両充電用コンセントは耐久性が確保されています。










充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぐため、フックを併用していただくことをおすすめします。




E フック

普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。




■ 200V での充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチインフォメーションディスプレイの「 車両設定」で、充電電流の上限値を変更することができます。^{※1}




- 1 メーター操作スイッチの  を押し続けて、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し、 を押す
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して「 車両設定」を選択し、 を押し続ける

- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して「充電設定」を選択し、 を押す

「充電設定」画面が表示されます。

- 5 メーター操作スイッチの  または  を押して「充電電流」を選択し、 を押す

「充電電流」画面が表示されます。

- 6 メーター操作スイッチの  または  を押して「8A」を選択し、 を押す

充電時の最大電流が選択した電流以下に制限されます。^{※2}

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。(→P.92)

^{※1} カスタマイズ設定で充電電流の設定を変更しても、100V 充電時の最大電流は 6A から変更されません。

^{※2} 充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

警告

■ 電源についての警告

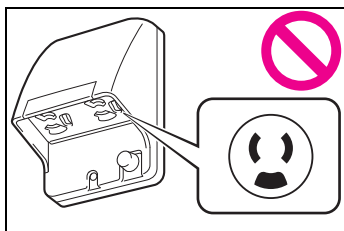
充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。

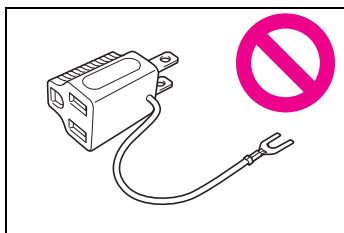
警告

- 必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。

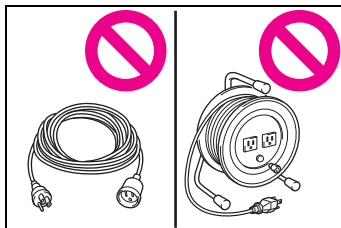
- 抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



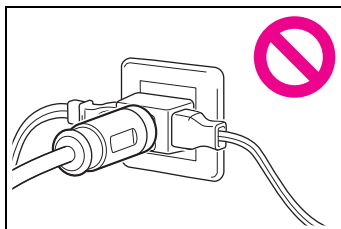
- コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。
コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。



- 必ず車両に搭載されている普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。
延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→P.84）が働かなくなるなどの原因になります。



- 分岐用コンセントには接続しないでください。



- 普通充電コネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。
普通充電コネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

充電方法について

この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

充電方法の種類

■ 普通充電 (→P.104)

AC コンセント (200V または 100V) と車両に付属している普通充電ケーブル、または普通充電器 (スタンド) などで行う充電方法です。

充電開始時刻 (または出発時刻)・曜日を設定しておくことで、ご希望の日時にタイマー充電を行うことも可能です。(→P.111)

■ バッテリーチャージモード (→P.61)

プラグインハイブリッドシステムをバッテリーチャージモードに切りかえることにより、ガソリンエンジンの作動によって発電した電気、駆動用電池を充電することができます。

バッテリーチャージモードでの最大充電量は、普通充電での満充電量の約 80% になります。

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

■ マイルームモード (→P.124)

車両に普通充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力*で、車両のエアコンやオーディオなどの電装品を使用できま

す。

* 状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

■ 駆動用電池ヒーター

外気温が低い場合、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池が一定以上の温度になるように、自動で昇温します。

マルチインフォメーションディスプレイの「充電設定」で「電池昇温」が ON に設定されているときに作動します。(→P.173)

■ 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、充電前に駆動用電池を冷却し、保護します。

● マルチインフォメーションディスプレイの「充電設定」で「電池冷却」が ON に設定されているときに作動します。(→P.173)

● 100V での充電時には作動しません。

□ 知識

■ 駆動用電池の温度調整システム (駆動用電池ヒーター・駆動用電池冷却) について

- 充電開始の時点で駆動用電池の温度が低いまたは高い場合にのみ、作動しません。
- 充電中以外でも作動する場合があります。
- タイマー充電時 (→P.111) は、タイマー設定内容に応じて作動します。

■ 駆動用電池ヒーターについて

- 駆動用電池ヒーターの作動中は、充電インジケーターが点灯します。
- 車両から普通充電ケーブルをはずす、または普通充電ケーブルを接続したまま、およそ3日が経過すると、システムが自動で停止します。
- 充電中に駆動用電池ヒーターが作動すると、通常よりも充電時間が長くなる場合があります。
- 駆動用電池ヒーターの作動中に外気温が高くなったときは、充電モード(→P.111)で「出発」に設定した時刻よりも、充電が早く完了する場合があります。
- 駆動用電池ヒーターの作動中に次の操作を行うと、駆動用電池ヒーターの作動が停止します。
 - ・ シフトレバーをP以外にしたとき
 - ・ リモートエアコンシステム(→P.374)を作動させたとき
- 駆動用電池が満充電の状態であっても、駆動用電池の温度によっては駆動用電池ヒーターが作動する場合があります。
 - ・ 駆動用電池ヒーターが作動すると、駆動用電池の残量が低下するため、駆動用電池の残量を補うために再度充電を行うことがあります。
 - ・ 再充電中に普通充電コネクタを取りはずすと、「充電コネクタ操作により充電停止しました」と表示されることがあります。(→P.132)

■ 駆動用電池冷却について

- 駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、充電インジケーターが点灯します。
- 駆動用電池冷却は、最大で約30分作動します。ただし、充電モード(→P.111)を「出発」に設定したときは、現在時刻から充電完了までの所要時間に十分な余裕がない場合、駆動用

電池冷却の作動時間が短くなります。

- 駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。
- 駆動用電池が満充電に近い場合、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。
- 駆動用電池冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用電池の冷却作動が停止します。
 - ・ ボンネットを開けたとき
 - ・ パワースイッチをOFF以外にしたとき
 - ・ リモートエアコンシステム(→P.374)を作動させたとき
 - ・ 「今すぐ充電」(→P.112)を実施したとき
- 駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部電源からの電力を利用します。
 - ・ 駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電池残量が一定の幅で増減し、通常の充電時のように駆動用電池残量が増加しません。
 - ・ 駆動用電池冷却の作動中も、普通充電器(スタンド)からは充電中と認識されます。
 - よって、充電時間に応じて課金される普通充電器(スタンド)では、駆動用電池冷却の作動中にも課金が発生しません。

充電に関するアドバイス

この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

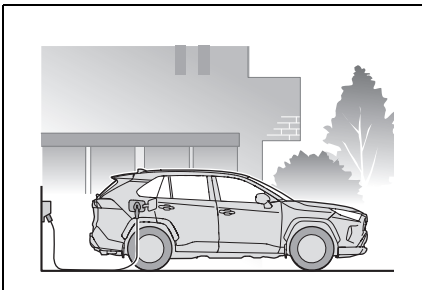
上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、車両の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。

■ お出かけの前に

EV 走行するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。(→P.104)

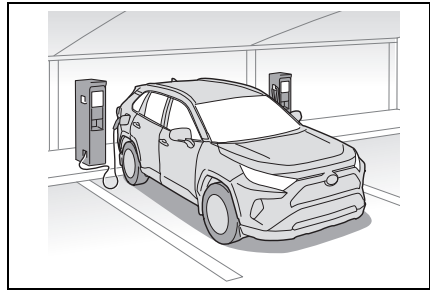
タイマー充電機能(→P.111)を使えば、ご希望の出発時刻に合わせて自動で充電が完了するように設定することができます。また、お出かけの時刻に合わせて、自動でエアコンを作動させ、あらかじめ車内を快適な状態にしておくことも可能です。



■ ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。近くに充電設備がない場合は、必要に応じてバッテリーチャージモードで駆動用電池を充電することができます。(→P.61)※

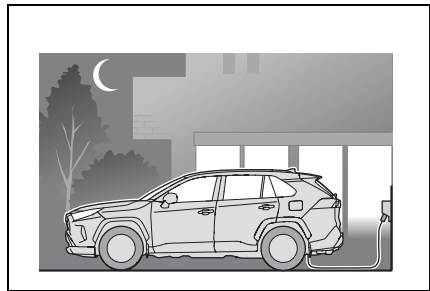
※ 駐車中にバッテリーチャージモードを使用するときは、車両の近くに可燃物がなく、換気のよい場所であることを確認してください。(→P.62)



■ 帰宅したら

次のドライブのために、駆動用電池を充電しておきましょう。

充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用電池を充電できます。なお、タイマー充電は、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。(→P.111)



■ 充電に関する情報を確認するには

車両のマルチインフォメーションディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。

■ 充電中は

充電中にいずれかのドアを開けると、現在の充電状態と充電完了ま

でに必要な時間の目安が一定時間表示されます。

充電中の充電電力値で充電完了までの時間が計算されます。接続した電源の状態によっては、実際の時間とは異なることがあります。



■ 充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開けると、充電結果についてのメッセージが一定時間表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。(→P.131)



□ 知識

■ 充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあ

と、マイルームモード (→P.124) を選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

充電の前に知っておいて いただきたいこと

車両に普通充電ケーブルを接続して充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

知識

■安全機能について

- 車両に普通充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作してもハイブリッドシステムを始動することはできません。
- READYインジケータが点灯しているときに普通充電ケーブルを接続すると、ハイブリッドシステムは自動的に停止し、走行できなくなります。

警告

■充電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 充電時は、普通充電器（スタンド）、普通充電ケーブルに近付かないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 充電中は車内にとどまらないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションがPからほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

留意事項や重要確認事項など

■充電に関する留意事項

この車は一般家庭用のACコンセントに接続して駆動用電池を充電できますが、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200Vでの普通充電時は、長時間にわたって大電流が流れる
- お客様の充電環境によっては、屋外で充電作業を行う

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- 普通充電器（スタンド）で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。
- 公共の普通充電器（スタンド）で充電する場合は、タイマー充

電の設定状態を確認してください。

- ・充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、「今すぐ充電」を ON にしてください。(→P.117, 123)
- ・充電スケジュールが ON になっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

■ 普通充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること (→P.269)
- ヘッドランプ・非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること

ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

- パワースイッチが OFF になっていること (→P.263)

■ 普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。(→P.87)

□ 知識

■ 充電中は

- 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- リヤシート付近から冷却用ファンの音が聞こえることがあります。(→P.72)
- 充電中は、空調システムおよび駆動用電池冷却 (→P.97) の作動にともない、駆動用電池付近から音が聞こえる

ことがあります。

- 充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているリヤシート周辺が温かくなることがあります。
- コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。
- マルチインフォメーションディスプレイの画面で、現在の充電状態や、充電完了までの時間の目安を確認することができます。

■ 駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- 満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける
- EV 走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない
- EV 走行の最高車速付近 (→P.64) での走行を控える
- 長期間、運転をしないときは駆動用電池の残量を少なくしておく
自動的に EV モードまたは AUTO EV / HV モードから HV モードに切りかわるのを確認してから、パワースイッチを OFF にしてください。

- 充電は走行開始前に満充電になるよう、タイマー充電 (→P.111) を活用する

なお、電池の容量が低下すると EV 走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

■ 充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充

電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後のEV走行可能距離が短くなる）※ ことがあります。

- 気温が低い、または高い環境で充電したとき
- 高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。


※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

■ 駆動用電池への充電量が減少するとき

駆動用電池ヒーターの作動等により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量が減少することがあります。

■ 充電時間が長くなるとき

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- 低温または高温の環境下にあるとき
- 高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき
- 車両の電力消費量が大きいとき（ヘッドランプが点灯しているときなど）
- マイルームモード（→P.124）を使用しているとき
- 充電中に停車したとき
- 普通充電器（スタンド）で供給電力を調整しているとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき
- 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき
- 「 車両設定」で充電時の最大電流を 8A にしたとき（→P.95）※

- 駆動用電池ヒーター（→P.97）が作動したとき
- 充電前に駆動用電池冷却（→P.97）が作動したとき
- 接続先のコンセントなどに問題があるとき

※ 200V での普通充電時のみ

■ 急速充電について

この車両は、急速充電器での急速充電には対応していません。

■ 充電電力について

この車両は最大約 3kW の充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

普通充電のしかた

ここでは、車両に付属の普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法もご確認ください。

充電スケジュールが登録されているときは、「今すぐ充電」をONにしてから充電を実施してください。（→P.117, 123）

注意

■ 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクタを抜く
- 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクタがアンロックされていることを確認する
- 普通充電コネクタの保護キャップ・普通充電インレットキャップを無理に引っ張らない
- 充電中に普通充電コネクタを揺するなど振動を与えない
充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクタ・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する

- 普通充電インレットキャップを鋭利なもので傷付けたりしない
- ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない
絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。
- 普通充電インレットの分解・修理・改造などをしていない
修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

充電前の重要確認事項

→P.102

充電するときは

- 1 普通充電ケーブルを用意する
- 2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む

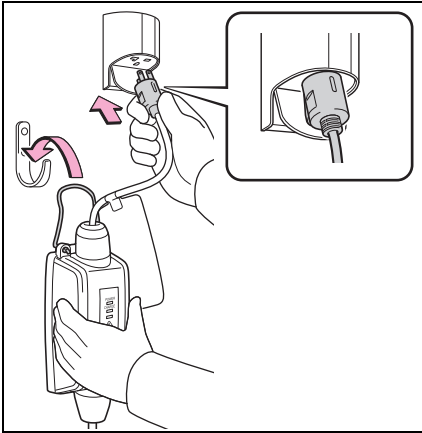
必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチをONにしてください。

コントロールユニット上の電源インジケータが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P.127を参照してください）

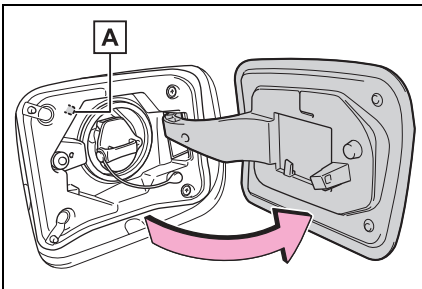
コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用し

てください。

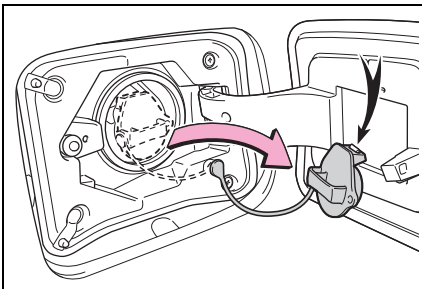


3 車両のドアを解錠して、充電リッドを開ける (→P.88)

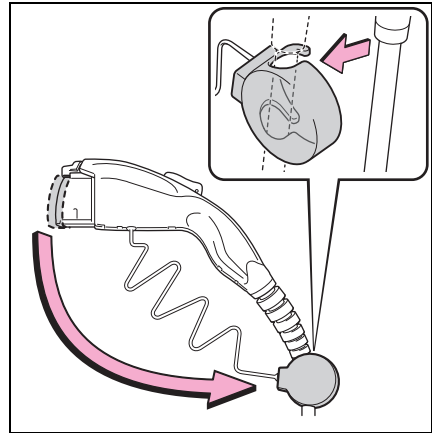
充電リッドを開けると、普通充電インレット照明 (A) が点灯します。



4 普通充電インレットキャップをはずし、充電リッド裏側のホルダーに固定する



5 普通充電コネクターの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する



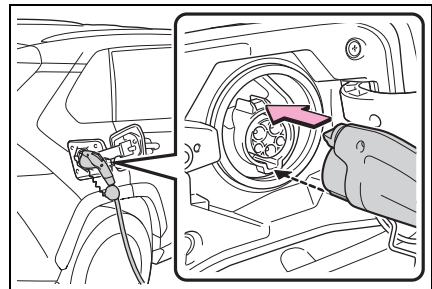
6 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む

普通充電コネクターの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込みます。

“カチッ” という音が生じて、普通充電コネクターが確実に接続されたことを確認してください。

ドアを施錠すると普通充電コネクターがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクターを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。(→P.89)



7 充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認する

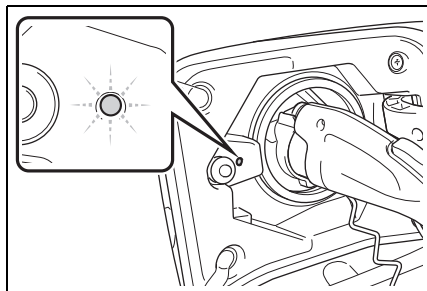
充電インジケータが点灯していないときは、充電が開始されていません。(→P.80)

充電インジケータが通常の速さで点滅しているときは、充電スケジュールが登録されています。(→P.111)

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したときは、P.84 の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、充電インジケータが消灯します。

充電完了前に何らかの理由により充電が停止したときも、充電インジケータが消灯します。その場合は、P.127 の記載をご確認ください。



□ 知識

■ 普通充電ケーブルの接続後に充電ポートの充電インジケータが点滅したとき

充電スケジュール (→P.111) が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。タイマー充電をキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- 「今すぐ充電」を ON にする (→P.117, 123)

- 充電インジケータが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクタを取りはずして、すぐに接続し直す

■ 普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込めないとき

→P.90

■ 安全機能について

普通充電コネクタを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクタを抜いてから再度、普通充電コネクタを挿し直して、充電ポートの充電インジケータが点灯することを確認してください。

■ 充電時間が長くなるとき

→P.103

■ 充電しているとき

パワースイッチを ON にしてマルチメディアディスプレイ上にエネルギーモニターを表示すると、エネルギーモニター上に普通充電コネクタが表示され、充電中の電気の流れが表示されます (→P.180)。

▲ 警告

■ 充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかない、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する (→P.92)

警告

- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
付着している場合は、普通充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクタ・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- 充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない

- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む
- 延長コード・変換アダプターを使用しない
- 普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める
冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する
- 普通充電ケーブルを接続しても、コントロールユニット上の電源インジケータが点灯しない場合は、すぐに普通充電ケーブルを取りはずしてください。

警告

■ 充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。P.84 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケータが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、トヨタ販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■ 車載充電器について

リヤシートの下部に車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ 充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。普通充電インレットが故障するおそれがあります。

■ 自家用発電機の使用について

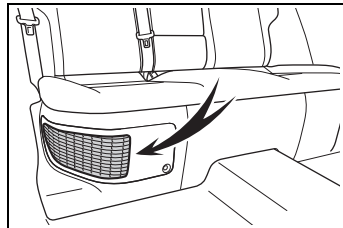
充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したりするおそれがあります。

■ 充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したりするおそれがあります。

■ 車載充電器冷却用の吸入口について

リヤシートの下には、車載充電器の冷却用吸入口があります。冷却用吸入口については、次のことをお守りください。お守りいただかないと、充電システムの故障につながるおそれがあります。



- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがない
- 吸入口にほこりなどがたまったときは、掃除機などで取り除く
- 吸入口に水や異物を入れない
- 吸入口周辺に多量の水をこぼさない
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。また、点検を受けるまで充電を実施しないでください。

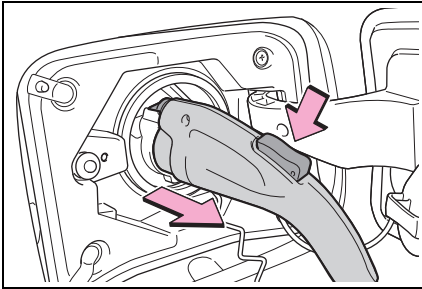
充電したあとは

- 1 車両のドアを解錠して、普通充電コネクタをアンロックする (→P.90)

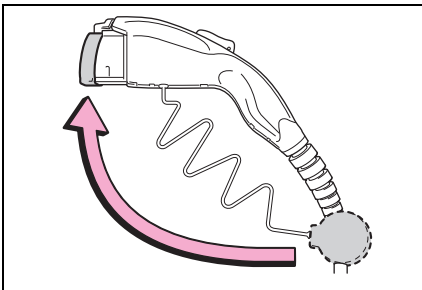
ドアを解錠すると、普通充電コネクタもアンロックされ、普通充電インレット照明が点灯します。

- 2 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクタを取りはずす

充電中（充電インジケータの点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停止します。



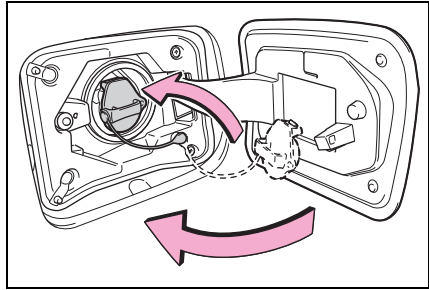
- 3 普通充電コネクタの保護キャップを取り付ける



- 4 普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉める

充電リッドをロックするときは、車両の

ドアを施錠します。(→P.88)

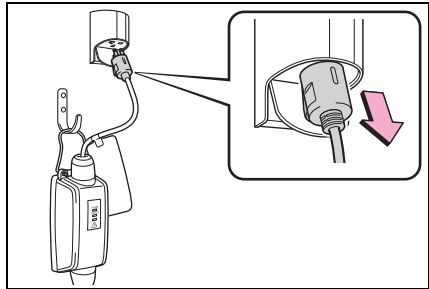


- 5 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。(→P.110)

電源プラグを挿したままにするときは、1ヶ月に1回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。



知識

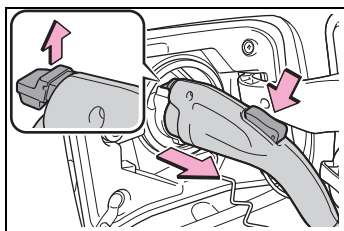
■周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計 (→P.154) が満充電の状態になっていても、パワースイッチをONにすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

■普通充電コネクタをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクタを手前に引いてください。

ロック解除ボタンを押してもレバーが上がらないときは、普通充電コネクタがロックされています。その場合は、スマートエントリー&スタートシステム、またはワイヤレスリモコンなどでドアの解錠操作をし、普通充電コネクタをアンロックしてください。(→P.88)



■ 普通充電コネクタをアンロックできないとき

→P.90

⚠ 警告

■ 充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 充電後の注意

- 普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。
- 普通充電インレットから普通充電コネクタを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはじめ、充電リッドを閉めてください。普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

- コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。

タイマー充電機能を使う

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。また、出発する時刻に合わせて充電が完了するようになり、特定の曜日の同じ時刻に充電を実施したりするなど、お好みに合わせたタイマー設定が可能です。

□ 知識

■ カレンダー設定について

現在の日時の情報は、GPS を利用して自動で設定されますが、マルチメディアシステムの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合は、手で日付の設定をマルチインフォメーションディスプレイで行う必要があります。(→P.171)

充電スケジュールを登録しようとしたときに、カレンダー設定の確認画面が表示された場合は正しい日付になっているか確認してください。カレンダーの内容が誤っていると、タイマー充電機能が正しく作動しなくなります。

■ タイマー設定でできること

充電スケジュールの登録時には、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電モードの選択

次の 2 種類から充電モードを選択できます。

▶ 開始

設定した時刻^{※1, 2}に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

夜間電力^{※3}を利用して普通充電する場合などに便利です。

▶ 出発

設定した時刻までに普通充電が完了するように、充電が実施されません。^{※4, 5}

この設定を選択したときは、エアコン連動機能が利用可能になります。

※1 駆動用電池の状態により、普通充電が開始される時刻に誤差が生じる場合があります。

※2 タイマー充電は、マルチインフォメーションディスプレイに表示される時刻に従って実行されます。

※3 夜間電力の料金設定は、電力会社との契約内容により異なります。詳しくは、各電力会社にご確認ください。

※4 車両のシステムにより、設定した出発時刻までに充電が完了できないと判断された場合は、すぐに充電が開始されます。その際は、タイマー充電の設定時刻を確認してください。

※5 普通充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。

■ 繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返しタイマー充電が行われるように設定できます。(曜日を選択しない場合は、1 回のみ充電が実施されます)

■ エアコン連動設定

充電モードを「出発」に設定したときは、設定した時刻に合わせて、車両のエアコン(→P.366)が自動で作動[※]するように設定できま

す。

お出かけに合わせて、あらかじめ車内を空調しておくことで、乗車直後から快適にお車をご使用いただけます。

※ 出発設定時刻の約 20 分前から作動を開始します。

■「今すぐ充電」の ON / OFF

充電スケジュールがひとつでも登録されていると、車両に普通充電ケーブルを接続しても、タイマー充電の設定時刻まで普通充電が開始されません。充電スケジュールの登録内容を変更することなく充電を行いたいときは、「今すぐ充電」を ON にすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電ケーブル接続後、普通充電を開始することができます。*

※ 充電スケジュールが登録されており、かつ「今すぐ充電」が ON のときに普通充電コネクタを取りはずした場合、「今すぐ充電」が OFF になります。

■「次回充電予定」※¹の変更※²

登録済みの繰り返し設定の内容を変更せずに※³、次回の充電予定のみを一時的に変更することができます。

※¹ 登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻から最も近い充電スケジュールを「次回充電予定」と呼びます。タイマー充電は、次回充電予定の設定に従い、普通充電を実施します。

※² マルチメディアディスプレイで「次回充電予定」を変更することはできません。

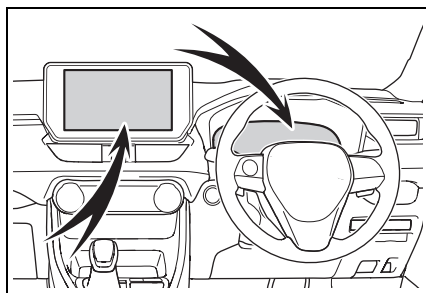
※³ 「次回充電予定」を変更すると、「次回充電予定」として登録されたタイマー充電が実施されるまでの期間の充電ス

ケジュールは、一時的に無効になります。(例えば、次回充電予定を 2 日後に設定した場合、それまでの期間に充電スケジュールが登録されていても、次回充電予定として設定された時刻までは、タイマー充電が実施されなくなります)

充電スケジュールを登録するには

マルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディアディスプレイで、充電スケジュールを登録できます。

- マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作：
→P.114
- マルチメディアディスプレイでの設定操作：
→P.119



□ 知識

■ タイマー設定について

- 走行中に充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。
- 充電スケジュールは、最大で 15 件まで登録できます。
- タイマー充電機能を正しく作動させるために

次のことをご確認ください。

- 車両の時計の時刻がずれていないこと
- カレンダーが正しい年月日に設定されていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 充電スケジュールの登録後に普通充電ケーブルを接続すること
普通充電ケーブルを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。
- 普通充電ケーブルの接続後、充電ポートの充電インジケータが点滅することを確認する (→P.80)
- 電力遮断機能 (タイマー機能を含む) を持つコンセントで使用しない
常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。
- 時計の GPS 補正設定が ON になっていること
時計の設定については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。
- **普通充電ケーブルが車両に接続されたままの状態のとき**

連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずして再接続するまで、次のタイマー充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、タイマー充電は実施されません。

■ エアコン連動設定について

- エアコン連動設定を ON にすると、設定した出発時刻までエアコンが作動するため、エアコンの電力消費量によっては、設定時刻になっても充電が終了していない場合があります。
- 駆動用電池が満充電の場合、充電スケ

ジュールが登録されていても充電は実施されませんが、エアコン連動が ON の場合は、「出発」に設定した時刻に近付くとエアコンのみが 1 回だけ作動します。その場合、エアコンの電力消費量によって、出発時に駆動用電池の残量が低下していることがあります。

- ドアが施錠されていないと、エアコン連動は作動しません。

■ スマートフォンとの連携について

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、次回充電予定の変更を行うことができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ タイマー設定が無効になるとき

タイマー充電の待機中に次の操作を行ったときは、タイマー充電を一時的にキャンセルして、充電を開始します。

- リモートエアコンシステム (→P.374) を作動させたとき
- マイルームモード (→P.124) を開始したとき
- 「今すぐ充電」を ON にしたとき (→P.117, 123)
- タイマー充電を一時的にキャンセルする操作を行ったとき (→P.106)

■ 外気温の影響について

充電モードを「出発」に設定したときは、外気温の影響によりタイマー設定が無効になり、充電が開始される場合があります。

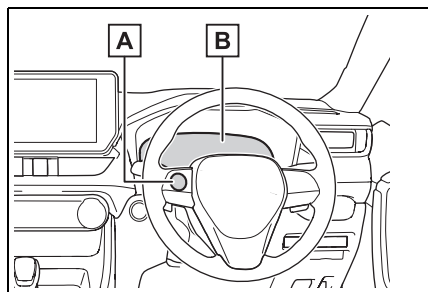
■ 駆動用電池ヒーター (→P.97) / 駆動用電池冷却 (→P.97) について

タイマー充電時、駆動用電池の温度によっては駆動用電池ヒーターまたは駆動用電池冷却機能が作動する場合があります。

- 充電モードを「開始」に設定したときは、充電開始時刻に作動します。
- 駆動用電池ヒーター：充電モードを「出発」に設定したときは、設定した出発時刻までに駆動用電池が暖まるよう、システムが自動で作動します。
- 駆動用電池冷却：充電モードを「出発」に設定したときは、システムが算出した充電開始時刻の約 30 分前に作動します。ただし、現在時刻から充電完了時刻までに十分な余裕がないタイマー設定のときは、駆動用電池冷却時間が短くなったり、駆動用電池冷却が作動しなかったりする場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

タイマー設定操作を行うときは、メーター操作スイッチを使用します。



- A** メーター操作スイッチ
(→P.166)
- B** マルチインフォメーションディスプレイ

■ 充電スケジュールを登録するには

- 1 メーター操作スイッチの **OK** を押し続けて、マルチインフォメーションディスプレイのコン

テンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる

- 2 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して **⚙️** を選択し、**OK** を押す
- 3 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して「**⚙️ 車両設定**」を選択し、**OK** を押し続ける
- 4 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して「**充電設定**」を選択し、**OK** を押す

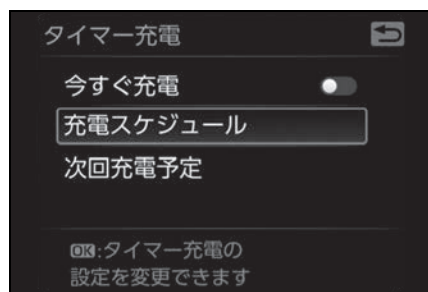
「充電設定」画面が表示されます。

- 5 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して「**タイマー充電**」を選択し、**OK** を押す

「タイマー充電」画面が表示されます。

- 6 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して、「**充電スケジュール**」を選択し、**OK** を押す

「充電スケジュール」画面が表示されます。



- 7 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して、「**+**」を選択し、**OK** を押す

「充電モード」画面が表示されます。



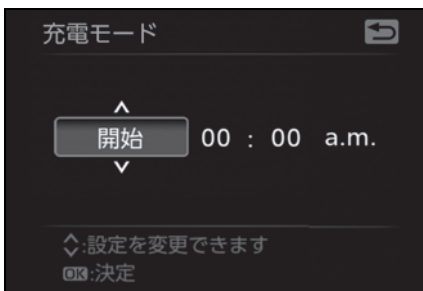
- 8 メーター操作スイッチの◀または▶を押して変更する項目にカーソルを合わせ、▲または▼を押して設定を変更する

ご希望の充電モード、および充電開始（または出発）時刻を設定します。

充電モードが「開始」のときは普通充電を開始する時刻を、「出発」のときは普通充電を完了させておきたい時刻を設定します。

ご希望の設定に変更したら、OKを押します。

充電モードを「出発」に設定したときは「エアコン連動」画面が、「開始」に設定したときは「繰り返し」画面（手順 10）が表示されます。



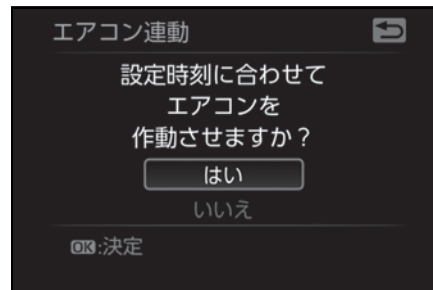
- 9 充電モードを「出発」に設定したときは、「エアコン連動」を設定する※

メーター操作スイッチの▲または▼を押して「はい」または「いいえ」を選択し、OKを押します。

「はい」を選択するとエアコン連動設定が ON になり、「いいえ」を選択すると、エアコン連動設定が OFF になります。

「繰り返し」画面が表示されます。

※ 充電モードを「開始」に設定したときは、「エアコン連動」画面は表示されません。



- 10 繰り返し設定を有効にしたいときは、メーター操作スイッチの▲または▼を押して、繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、OKを押す

OKを押すたびに、繰り返し設定の ON / OFF が切りかわります。

設定を ON にすると、選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

いずれの曜日も ON に設定していない場合は、現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。

ご希望の設定に変更したら、「完了」を選択し、OKを押す

設定の保存を確認する画面が表示されま

す。

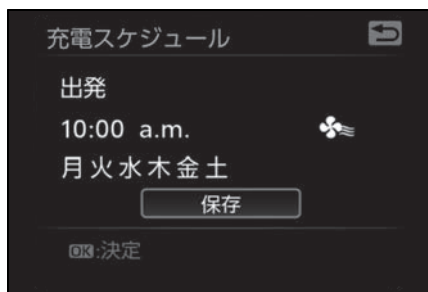


11 設定を保存するには、「保存」を選択し、**OK**を押す

設定した内容が保存されます。

設定内容を変更したい場合は**↩**を押して設定操作をやり直します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。



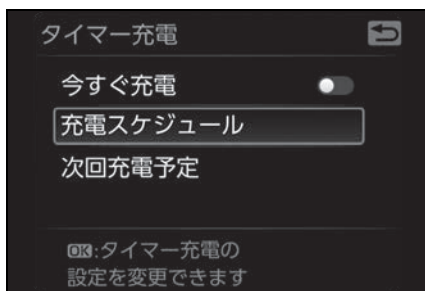
■ 充電スケジュールの ON / OFF を切りかえるには

登録済みの充電スケジュールを無効 (OFF) にしたり、再度有効 (ON) にしたりできます。

1 「充電スケジュールを登録するには」(→P.114) の手順 **1** から **6** の操作を行い、「充電スケジュール」画面を表示する

登録済みの充電スケジュールが一覧表示

されます。



2 メーター操作スイッチの**↑**または**↓**を押して、ON / OFF を切りかえたい設定の行を選択し、**OK**を押す

OKを押すたびに ON / OFF が切りかわります。

OFF に設定すると充電スケジュールが無効になり、タイマー充電が実施されなくなります。



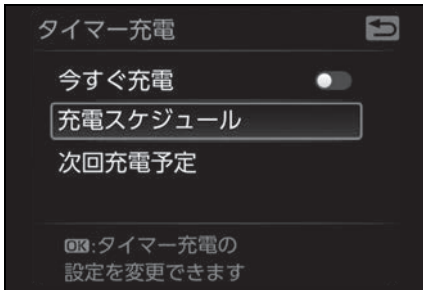
■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

登録済み充電スケジュールの登録内容を変更したり、削除したりすることができます。

1 「充電スケジュールを登録するには」(→P.114) の手順 **1** から **6** の操作を行い、「充電スケジュール」画面を表示する

登録済みの充電スケジュールが一覧表示

されます。

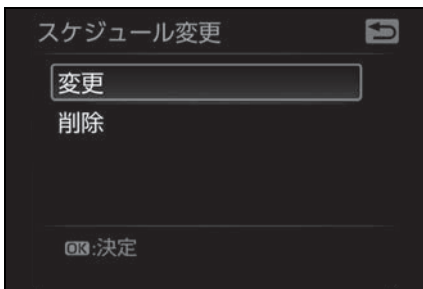


- 2 メーター操作スイッチの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して、内容を変更したい設定の行を選択し、 OK を押し続ける

「スケジュール変更」画面が表示されます。



- 3 メーター操作スイッチの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して操作したい項目を選択し、 OK を押して、それぞれ必要な操作を行う



● 変更

「充電スケジュールを登録するには」(→P.114)の手順8以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更します。

\leftarrow を押すと、前の画面にもどります。

● 削除

削除を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して「はい」を選択し、 OK を押すと、選択した充電スケジュールが削除されます。

登録内容の削除を中止するときは、「いいえ」を選択して OK を押します。

\leftarrow を押すと、前の画面にもどります。

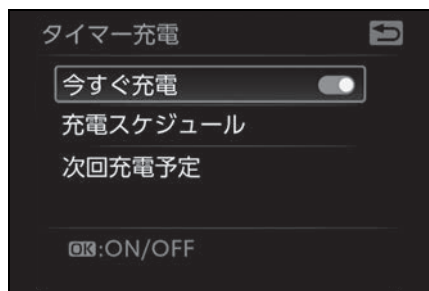
■「今すぐ充電」をONにするには次の2つのうち、いずれかの方法で「今すぐ充電」の設定を変更できます。

▶「タイマー充電」画面での操作

- 1 「充電スケジュールを登録するには」(→P.114)の手順1から5の操作を行い、「タイマー充電」画面を表示する
- 2 メーター操作スイッチの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して、「今すぐ充電」を選択し、 OK を押す


OK を押すたびに、「今すぐ充電」のON


／ OFF が切りかわります。



▶ エンディング画面での操作

1 パワースイッチを OFF にする
マルチインフォメーションディスプレイにエンディング画面が表示されます。
(→P.119)

2  を押して、「今すぐ充電」を ON にする




 を押すたびに、「今すぐ充電」の ON / OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、普通充電が開始されます。(→P.104)

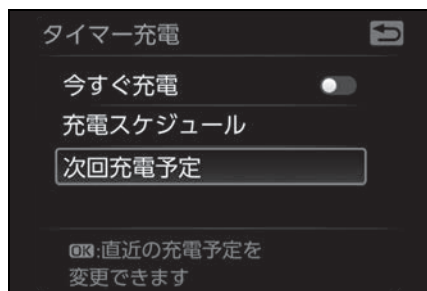
■ 「次回充電予定」を変更するには ※




※ 「今すぐ充電」を ON にしたときや、マイルームモード (→P.124) の使用中などは、次回充電予定の登録内容を変更できません。

1 「充電スケジュールを登録するには」(→P.114) の手順 1 から 5 の操作を行い、「タイマー充電」画面を表示する


2 メーター操作スイッチの  または  を押して、「次回充電予定」を選択し、 を押す

「次回充電予定」画面が表示されます。

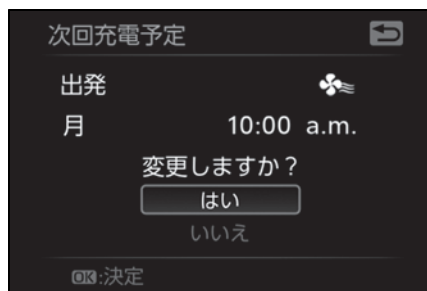


3 メーター操作スイッチの  または  を押して「はい」を選択し、 を押す

変更の確認画面が表示されます。

 を押すと、「充電モード」画面が表示されます。

 を押すと、前の画面にもどります。



4 「充電スケジュールを登録するには」(→P.114) の手順 8 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

←を押すと、前の画面にもどります。



知識

■タイマー設定操作が中断される時

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- 車両が走行し始めたとき
- タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

■「次回充電予定」について

「次回充電予定」の設定内容に従って充電が実施されても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずすまで、マルチインフォメーションディスプレイに表示される「次回充電予定」の設定内容は変化しません。

■「次回充電予定」の変更後にもとの設定にもどりたいとき

「今すぐ充電」をいったん ON にしてから再度 OFF にすることで、「次回充電予定」を現在時刻から最も近い充電スケジュールに設定することができます。

■充電中に「次回充電予定」を変更したとき

- 充電モードが「出発」のときは、充電完了までに必要な時間に応じて、現在の充電が中断、または継続されます。
- 充電モードが「開始」のときは、設定

した時刻から次回の充電が開始されるため、現在の充電は中断されます。

■パワースイッチを OFF にしたとき

パワースイッチを OFF にすると、エンディング画面に次回のタイマー充電予定（次回充電予定）が表示され、登録内容を確認できます。*

* 充電中など、エンディング画面が表示されない場合があります。



警告

■設定操作を行うときの警告

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充填し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■設定操作を行うとき

ハイブリッドシステムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マルチメディアディスプレイでの設定操作

タイマー充電に関する設定操作は、充電スケジュール画面上で行います。

マルチメディアディスプレイの詳しい操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■「充電スケジュール」画面を表示するには

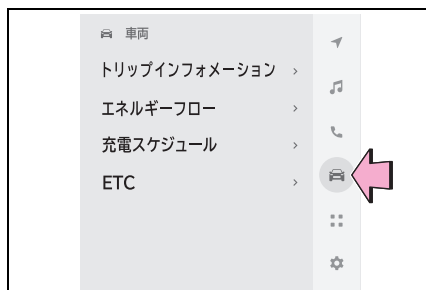
- 1 パワースイッチを ON にしてメニュー画面を表示する

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」と表示されていることを確認してください。

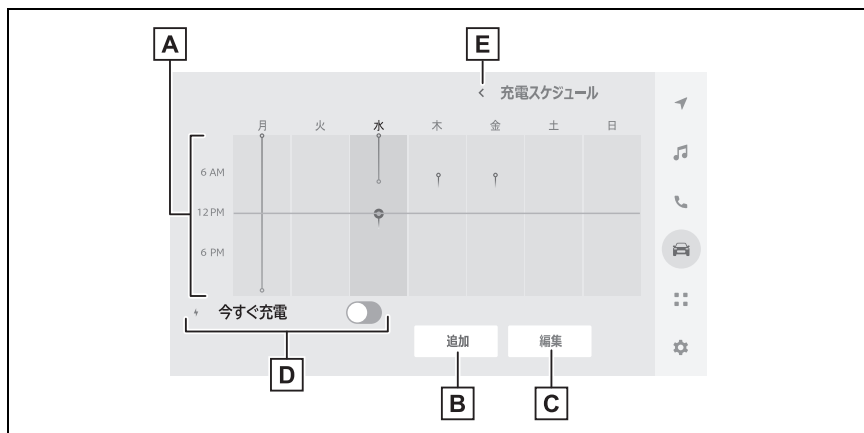
ACC では充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。

2 - 「充電スケジュール」の順に選択する

「充電スケジュール」画面が表示されず。



■「充電スケジュール」画面の見方



A 充電スケジュール（カレンダー表示）

本日を起点とした 1 週間の範囲で、登録済みの充電スケジュールがアイコンの形で一覧表示されます。

B 「追加」ボタン

充電スケジュールを新規登録するときに押します。(→P.121)

C 「編集」ボタン

登録済みの充電スケジュールの内容を変更・削除したいときに押します。(→P.122, 123)

D 「今すぐ充電」ボタン

押すたびに「今すぐ充電」の ON / OFF が切りかわります。(→P.123)

E もどるボタン

押すと、「充電スケジュール」画面が終了します。

● カレンダー上に表示される主な内容

表示	内容
灰色の線	現在時刻
緑色のアイコン	充電モードが「出発設定」の充電スケジュール
青色のアイコン	充電モードが「開始設定」の充電スケジュール

「今すぐ充電」(→P.123) を ON にしたときは、灰色の線の位置に青色のアイコンが表示されます。

■ 充電スケジュールを登録するには

1 「充電スケジュール」画面を表示する (→P.120)

2 「追加」を押す

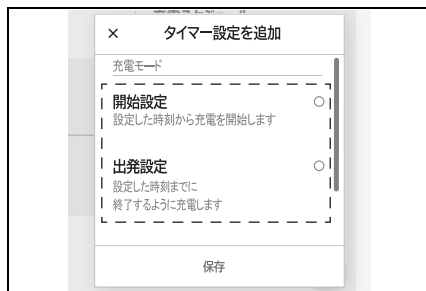
「タイマー設定を追加」画面が表示されます。

3 充電モードを選択する

設定し、OK を押します。



「出発設定」を選択した場合は：
普通充電を完了させておきたい時刻（出発時刻）を設定し、OK を押します。



「開始設定」または「出発設定」を押してご希望の充電モードを選択し、表示された画面上のボタンを操作して時刻を設定します。

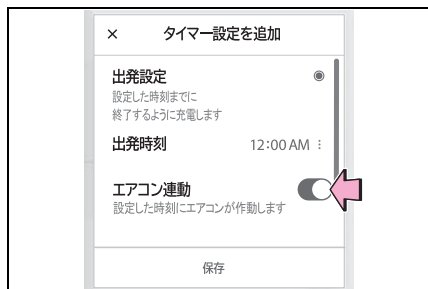
「開始設定」を選択した場合：
普通充電を開始する時刻（開始時刻）を



4 充電モードを「出発設定」に設定したときは、エアコン連動機能の ON / OFF を設定する

出発時刻に合わせてエアコンを動作させる場合は、「エアコン連動」を押して機能を ON にします。ボタンを押すたびに、

機能の ON / OFF が切りかわります。



5 繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、「OK」を押す

選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

いずれの曜日も選択していない場合は、現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。



6 すべての設定が終了したら、「保存」を押す

充電スケジュールが登録され、カレンダー上にアイコンが追加されます。

タイマー設定の登録を中止するとき、× ボタンを押します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、設定内容に従ってタイ

マー充電が実施されます。



■ 充電スケジュールの ON / OFF を切りかえるには

1 「充電スケジュール」画面を表示する (→P.120)

2 「編集」を押す

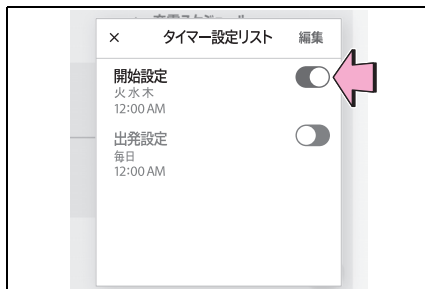
「タイマー設定リスト」画面が表示されます。

3 画面に表示されているリストの中から、ON / OFF を切りかえたい充電スケジュールの行の

または を押す

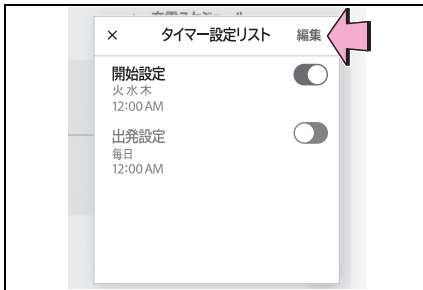
ON / OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンを押すたびに充電スケジュールの ON / OFF が切りかわります。



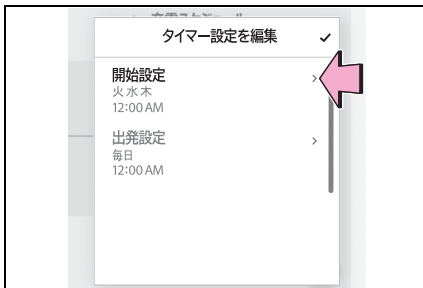
■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

- 1 「充電スケジュール」画面を表示する (→P.120)
- 2 「編集」を押す
「タイマー設定リスト」画面が表示されます。
- 3 「タイマー設定リスト」画面の「編集」を押す



- 4 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したい充電スケジュールを押す

「タイマー設定を編集」画面が表示されます。



● 登録内容を変更するときは：

「充電スケジュールを登録するには」(→P.121)の手順3～6の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

設定を変更すると、カレンダー上のアイコンの表示もかわります。

● 登録内容を削除するときは：

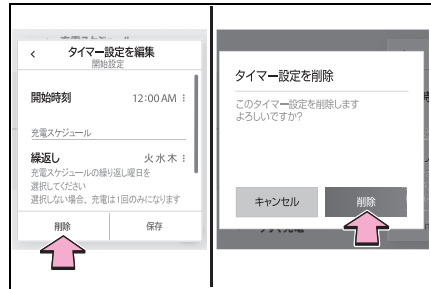
「削除」を押す

削除を確認するメッセージが表示されます。

「削除」を押すと、選択した充電スケジュールが削除されます。

削除を中止する場合は、「キャンセル」またはもどるボタンを押します。

充電スケジュールを削除すると、カレンダー上のアイコンも削除されます。

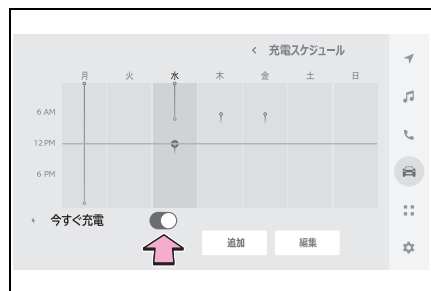


■ 「今すぐ充電」をONにするには

- 1 「充電スケジュール」画面を表示する (→P.120)

- 2 「今すぐ充電」の を押す

ボタンを押すたびに、「今すぐ充電」のON / OFF が切りかわります。



設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、普通充電が開始されます。(→P.104)

知識

■ 充電スケジュールを登録したとき

充電スケジュールをすべて OFF にすると、「充電スケジュール（カレンダー表示）」画面上にアイコンは表示されません。「タイマー設定リスト」画面で ON にすることで、アイコンが表示されます。

■ タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを OFF にしたとき
- 車両が走行し始めたとき
- タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

警告

■ 設定操作を行うときの警告

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充填し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 設定操作を行うとき

ハイブリッドシステムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。




マイルームモードを使う

車両に普通充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。


マイルームモードを開始するには

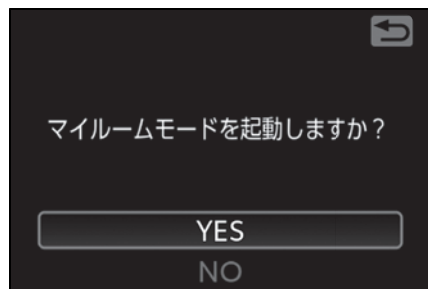
- 1 車両に普通充電ケーブルを接続して、充電を開始する（→P.104）
- 2 充電の実施中にパワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにマイルームモードの起動を確認する画面が表示されます。

- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して「YES」を選択し、 を押す

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオなどが利用可能になります。

マイルームモードを使用しないときは、「NO」を選択して  を押します。

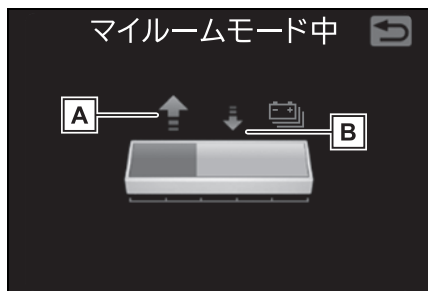


マイルームモードを停止するとき、パワースイッチを OFF にしま

す。

マイルームモード使用中の電力収支に関する情報の表示

マイルームモードを開始すると、マルチインフォメーションディスプレイに駆動用電池の残量表示画面が自動的に表示され、矢印の色と大きさに、マイルームモード使用中の電力収支（電気供給量と電力消費量とのバランス）の目安を確認することができます。



A 放電状況

B 充電状況

普通充電ケーブルからの電気供給量が車内の消費電力より多いときは**B**が大きくなり、電気供給量より消費電力が大きいたときは、**A**が大きくなります。

電気供給量と電力消費量の釣り合いがとれているとき（電力の収支がゼロと判断されたとき）は、**A**と**B**の矢印が同じ大きさと表示されます。

知識

■ 充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■ マイルームモードの使用中は


次のようなことが起こる場合があります。

- 駆動用電池の残量が下限に達すると、エアコンが自動的に停止する
その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。
- 外気温が低いときには、エアコンの作動が制限され、暖房が効きにくくなる場合があります。
- パワーステアリング警告灯（黄色）・エンジン警告灯などの警告灯および表示灯が点灯することがありますが、異常ではありません。
また、周囲が暗いときはヘッドランプが点灯します。（→P.275）

■ 充電スケジュール（→P.111）が登録されているとき

タイマー充電の待機中にマイルームモードを開始すると、タイマー設定が無効になり、充電が開始されます。

■ 駆動用電池が満充電の状態マイルームモードを使用するとき

駆動用電池が満充電、かつ電力が供給されている普通充電コネクタが接続された状態で、パワースイッチを ON にすると、「充電リッドが開いています」というメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メーター操作スイッチの  を押すことで、マイルームモードの起動を確認する画面が表示され、マイルームモードを選択することができます。

駆動用電池が満充電の状態マイルームモードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

■ マイルームモードに関するメッセージが表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、それぞれ次のように対処してください。

- 「駆動用電池残量不足 マイルームモード 起動不可」

マイルームモードの開始に必要な駆動用電池の残量がない状態です。

駆動用電池の残量が増えるまでしばらく待ってから、マイルームモードを開始してください。

- 「駆動用電池残量不足 マイルームモードを終了します」

駆動用電池の残量が不足しています。マイルームモードの使用を中止して、駆動用電池を充電してください。

- 「駆動用電池残量低下 使用電力抑制下さい」

駆動用電池への充電量よりも車内の電力消費量が多く、駆動用電池の残量が低下しています。*

- ・ 車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。
- ・ マイルームモードを継続したいときは、エアコンやオーディオなどの電源をOFFにして、駆動用電池の残量を増やしてください。

* マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量表示画面で、マイルームモード中の電力収支の状況を確認できます。(→P.125)

⚠ 警告

■ マイルームモードの使用上の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止等により車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P.131 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケータが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチが設置されている場合は、スイッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。 充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。
コントロールユニットから電源プラグまでのあいだに断線が発生している	ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ コントロールユニット上のエラーインジケータが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケータが点滅することがあります。リセット操作を行い、正常な電源に接続してください。(→P.84) 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 普通充電コネクタを接続しても充電ポートの充電インジケータが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに確実に接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
普通充電コネクタが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクタの接続状態を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> 普通充電コネクタを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 普通充電コネクタの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認してください。 普通充電コネクタが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケータが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

■ 充電ポートの充電インジケーターが点滅して充電できない

考えられる原因	対処方法
充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているとき※：充電スケジュールが登録されている	タイマー充電を実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、「今すぐ充電」をONにしてください。(→P.117, 123)
充電ポートの充電インジケーターが速い点滅をしているとき※：外部電源、または車両に異常が発生している	マルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。(→P.131)

※ 充電ポートの充電インジケーターの点灯・点滅については、P.80を参照してください。

タイマー充電機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 希望の時刻に充電できない

考えられる原因	対処方法
車両の時計の時刻やカレンダーが正しく設定されていない	時計の設定を確認し、正しい時刻に調整してください。※ ¹ カレンダーの設定内容を確認し、正しい年月日に設定してください。※ ² (→P.171)
車両に普通充電ケーブルが接続されていない	タイマー充電を使用する際は、あらかじめ普通充電ケーブルを接続しておいてください。
誤った充電モードを選択している	充電モードの設定をご確認ください。 (→P.111) 充電モードが「開始」のときは設定した時刻に充電が開始されますが、「出発」に設定したときは、設定した時刻に充電が完了するように充電が実施されます。(充電開始時刻は、システムにより自動制御されます)

※¹ 時計のGPS補正設定がONになっていることを確認してください。時計の設定については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

※²マルチメディアディスプレイの設定で、時計のGPS補正をOFFにした場合のみ、設定が可能になります。

■ スマートフォンのアプリケーション※ から次回充電予定の変更ができない

考えられる原因	対処方法
スマートフォンが通信圏外にある	電波状態を確認し、通信圏外になっている場合は電波の状況がよい場所へ移動してください。

※ ご利用には T-Connect へのお申し込みが必要です。T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

考えられる原因	対処方法
「今すぐ充電」がONになっている	タイマー充電する際は、「今すぐ充電」をOFFに設定してください。(→P.117, 123)
充電スケジュールがOFFになっている	充電スケジュールがOFFに設定されていないか確認してください。(→P.116, 122)
充電モードが「出発」に設定されており、かつ出発予定時刻が現在時刻に近い時刻に設定されている	車両のシステムにより、設定した出発時刻までに充電が完了できないと判断された場合は、充電が開始されます。充電スケジュールを確認してください。
充電ポートの充電インジケータが通常の速さで点滅しているときに普通充電ケーブルを抜き挿しした	充電インジケータが通常の速さで点滅しているときに普通充電ケーブルを取りはずして、再度、接続し直してください。
マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させた	マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。タイマー充電を実施したい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。
駆動用電池ヒーター(→P.97)が作動した	充電モードが「出発」のときは、充電前に駆動用電池ヒーターが作動する場合があります。充電ポートの充電インジケータの状態を確認してください。(→P.80)

■ 「出発」 に設定した時刻よりも早く充電が終了する

考えられる原因	対処方法
電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた	充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測よりも早く充電が終了する場合があります。

■ 「出発」 に設定した時刻になっても充電が完了しない

考えられる原因	対処方法
エアコン連動機能を使用している	エアコン連動機能を使用すると、「出発」に設定した時刻までエアコンが作動するため、充電状態によっては、設定時刻になっても充電が完了しない場合があります。その場合は、満充電になるまで充電が継続されるため、充電を続けるときはそのままお待ちください。
電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた	充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。

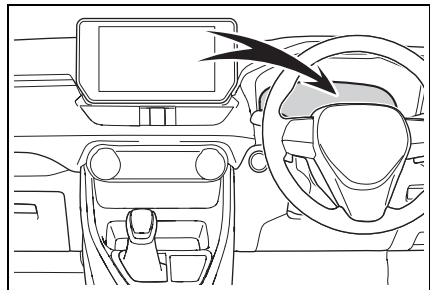
■ 「開始」 に設定した時刻になっても充電が開始されない

考えられる原因	対処方法
設定した時刻が過ぎてから普通充電ケーブルを接続した	普通充電ケーブルは、「開始」に設定した時刻になる前に接続してください。

充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にパワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。



■「充電コネクタ操作により充電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電中に普通充電コネクタを取りはずした	充電中に普通充電コネクタを取りはずすと、充電は中断されます。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能 [*] が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクタを取りはずした	満充電にしたい場合は再度、充電を行ってください。
普通充電コネクタが確実に接続されていない	<p>普通充電コネクタの接続状態を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通充電コネクタを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 普通充電コネクタの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認してください。 <p>正しい作業手順に従っても充電できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
充電中に普通充電コネクタのロック解除ボタンを押した	充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクタを接続し直してください。

^{*} 駆動用電池ヒーター (→P.97)・エアコン連動機能 (→P.111)・リモートエアコンシステム (→P.374) が作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモード (→P.124) の使用も、電力を消費します。

■「充電完了しました (駆動用電池温度による制限)」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。

■ 「停電または電源プラグ抜けにより充電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
<p>外部電源からの電源供給に問題がある</p>	<p>次の点をご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電源プラグが抜けていないか ・ 手元スイッチが OFF になっていないか ・ コントロールユニット上の電源インジケータが点灯しているか ・ ブレーカーが落ちていないか <p>以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。(充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください)</p> <p>電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>なお、コントロールユニット上のエラーインジケータが点滅している場合は、漏電の可能性あります。トヨタ販売店にご相談ください。</p>
<p>普通充電器（スタンド）が充電を停止した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。 ・ 普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した ・ 普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある ・ 普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない ● この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■「充電設備の要因により充電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■「AC 供給電源の要因により充電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	<p>次の点をご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電源プラグがしっかりと挿し込まれているか ・ 延長コードを使用したり、分岐コンセントに接続したりしていないか ・ 専用回線に接続されているか ・ 停電が発生していないか <p>以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください）</p> <p>電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	<p>この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。</p> <p>トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。</p>

■ 「電装品の電力消費大のため充電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の電装品によって電力が消費されている	<p>次の点をご確認の上、再度充電してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘッドランプやオーディオなどが ON になっている場合は、OFF にしてください。 ・ パワースイッチを OFF にしてください。 <p>以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。ハイブリッドシステムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。</p>

■ 「システムの要因により充電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電システムに異常が発生した	トヨタ販売店で点検を受けてください。

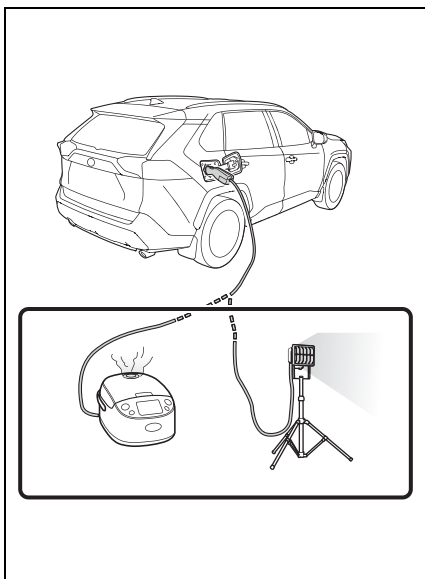
AC 外部給電システムについて

この車の AC 外部給電システムは、車両から屋外での外部給電が可能という点で一般家庭のコンセントと異なるため、取り扱いには注意が必要です。

ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。

AC 外部給電システムについて

普通充電インレットに専用変換アダプタ（ヴィークルパワーコネクタ）を取り付け、外部給電開始操作を行うことで、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下※の電気製品を使用することができるシステムです。



※ ヴィークルパワーコネクタの車外コンセント、および車内のアクセサリコンセント（→P.395）に接続する電気製品の、消費電力の合計が 1500W 以下であることが必要です。

AC 外部給電モードについて

次の 2 種類からご希望のモードを選択して、AC 外部給電を行うことができます。

■ EV 給電モード

駆動用電池に蓄えられている電力のみを使用して AC 外部給電を行います。外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、外部給電を終了します。

■ HV 給電モード

AC 外部給電中に外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、エンジンが作動して外部給電を継続します。燃料残量警告灯が点灯すると、外部給電を終了します。

□ 知識

■ アイドリングストップ条例について

HV 給電モードでの使用時は、外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。

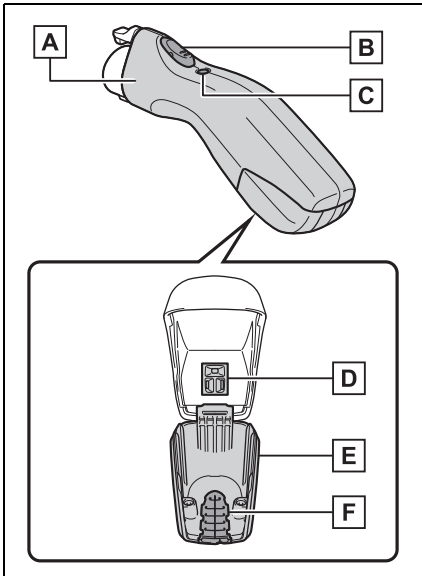
一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、アイドリングストップに関する条例にふれるおそれがあります。関係する自治体に確認した上で、適切にご使用ください。

■ スマートフォンとの連携について

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、AC 外部給電システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

ヴィークルパワーコネクタ各部の名称



- A** ヴィークルパワーコネクタ
- B** ロック解除ボタン
- C** 電源スイッチ
- D** 車外コンセント
- E** 防水カバー
- F** 防水ゴム

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ヴィークルパワーコネクタを取り扱うとき

- 分解・修理・改造・塗装をしない
異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。
- 強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 水にぬれたときや汚れがあるときは、乾いた布でふく
- 水洗いしたり、水やほかの液体に浸けたりしない
水やほかの液体に浸けた場合は使用しないでください。
- シールなどを貼り付けない
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない
- お子さまにはさわらせない
- 車外コンセントに液体やほこりなどの汚れが付着しないようにする
- 対応していない、ほかの車両には接続しない

AC 外部給電の前に知っておいていただきたいこと

AC 外部給電システムを安全にお使いいただくため、ご使用前には次の事項をご確認ください。

警告

■ ご使用前の点検について

次のことを確認してください。
点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヴィークルパワーコネクタに破損などがないこと
異常がある場合はただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

- 電源プラグに破損・変形などがないこと
異常がある場合はただちに使用を中止してください。

- 車外コンセントに汚れや破損などがないこと

■ ヴィークルパワーコネクタを清掃するとき

- 水洗いによる清掃は行わないでください。ヴィークルパワーコネクタ内部に水が浸入すると、使用時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヴィークルパワーコネクタが汚れたときは、固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。

- ガソリン等の溶剤・酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。

■ 車外コンセントの交換について

電源プラグを車外コンセントに挿し込んでもゆるいときは、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ ヴィークルパワーコネクタを使用しないとき

衝撃やほこりから保護するため、すみやかに車両から取りはずして保管してください。

なお、長期間使用しないときは、水気がなく、直射日光が当たらない場所に保管してください。

AC 外部給電のしかた

AC 外部給電作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

AC 外部給電作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキがかかっていること (→P.269)
- パワースイッチが OFF になっていること (→P.263)
- HV 給電モードのときは、AC 外部給電中にエンジンが作動する場合がありますため、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気の良い場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- シフトレバーが P の位置にあること

AC 外部給電を開始するときは

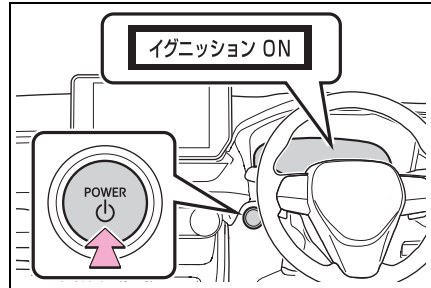
- 1 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを 2 回押して、ON にする


マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」と表示されていることを確認してください。


ブレーキペダルを踏んだままパワース

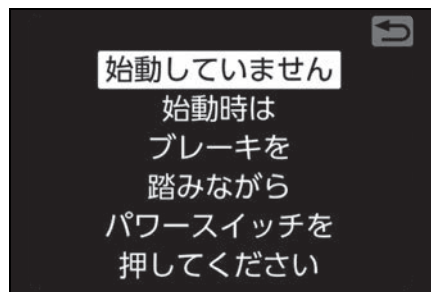
イッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動してしまい、AC 外部給電システムが使用できません。


ON にしたあとは、シフトレバーを操作しないでください。シフトレバーの位置が P でないと、AC 外部給電システムを使用できません。



- 2 始動操作に関するアドバイス画面が表示されたときは、メーター操作スイッチの  を押して前の画面にもどす

一定時間、メーター操作スイッチを操作しないと、始動操作に関するアドバイス画面が再表示されます。その場合は、そのつど  を押して前の画面にもどしてください。



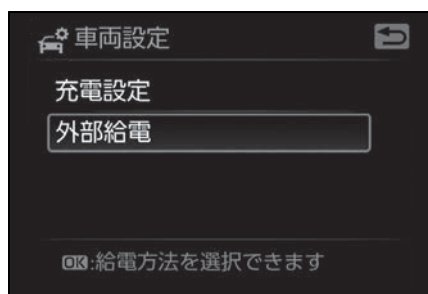
- 3 メーター操作スイッチの  を押し続けて、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリア (中央) にカーソルを表示させる

4 メーター操作スイッチの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して ⚙ を選択し、 OK を押す

5 メーター操作スイッチの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して「 🚗⚙ 車両設定」を選択する
 OK を押し続ける

6 メーター操作スイッチの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して「外部給電」を選択し、 OK を押す

外部給電モードの選択画面が表示されます。



7 メーター操作スイッチの \blacktriangle または \blacktriangledown を押してご希望の外部給電モードを選択し、 OK を押す
※1, 2

外部給電モードの選択画面上に、各モードでの外部給電可能時間の目安が表示さ

れます。※3

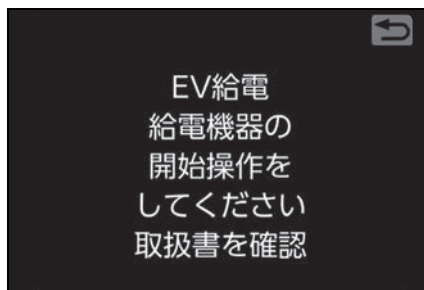


※1 外部給電に必要な燃料が不足しているときは、HV 給電モードを選択できません。

※2 駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

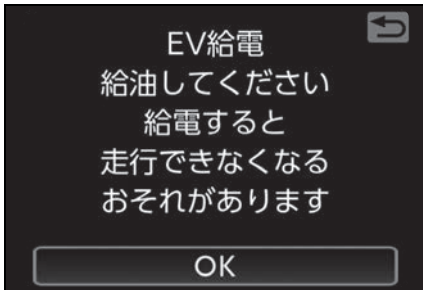
※3 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

▶ EV 給電モードを選択した場合
8 操作ガイド画面の表示に従う

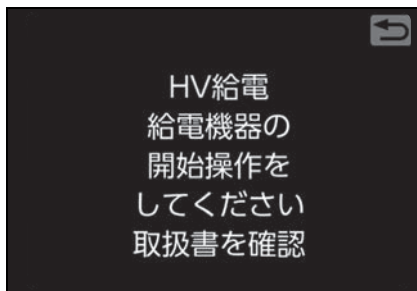
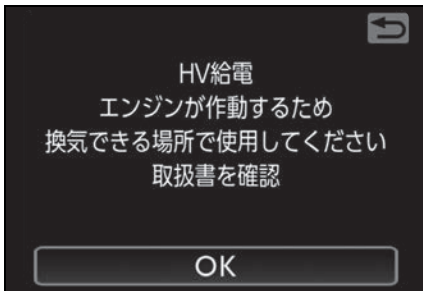


燃料残量警告灯が点灯していると、操作ガイド画面の前に、警告画面が表示されます。そのまま AC 外部給電を行うと、駆動用電池の残量不足、かつ燃料不足により、走行できなくなるおそれがあります。AC 外部給電を行う前に給油するこ

とをおすすめします。



- ▶ HV 給電モードを選択した場合
8 使用上の注意に関する画面を確認して **OK** を押し、操作ガイド画面の表示に待つ

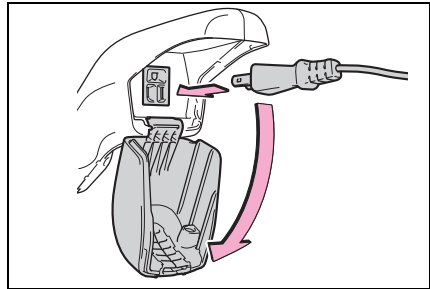


- 9** ヴィークルパワーコネクタを用意する

ヴィークルパワーコネクタに異常がないことを確認してください。(→P.138)

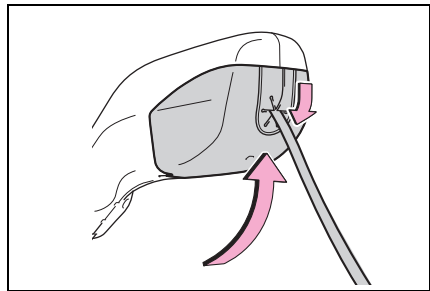
- 10** ヴィークルパワーコネクタの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する

電源プラグは奥までしっかり挿し込んでください。(→P.147)



- 11** 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる

防水カバーがロックされたことを確認してください。(→P.147)



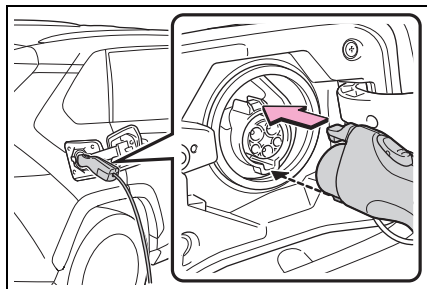
- 12** 充電リッドを開け (→P.80)、ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する

ヴィークルパワーコネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込み、「カチッ」という音がして、確実に接続されたことを確認してください。

ドアを施錠するとヴィークルパワーコネクタがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、ヴィークルパワーコネクタを挿し込んだ場合は、

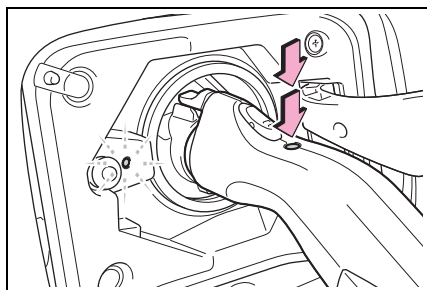
自動的にロックされます。



13 ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを2回連続で押す

充電ポートの充電インジケータがゆっくり点滅します。(→P.80)

電源スイッチを2回連続で押す間隔が3秒以上空いたり、2回よりも多く押ししたりした場合は、充電インジケータは点滅しません。



14 充電インジケータが点滅から点灯にかわったら、接続した電気製品の電源をONにする

充電インジケータは一定時間点滅します。点滅中はAC外部給電が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。(AC外部給電が開始されないときは:→P.151)

AC外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイの表示で、現在の外部給電状況をお知らせします。

知識

■ 外部給電モードの選択画面の表示方法

次の手順でも外部給電モードの選択画面を表示することができます。

- 1 充電リッドを開け、ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する
- 2 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを2回押して、ONにする

AC 外部給電を停止するとき

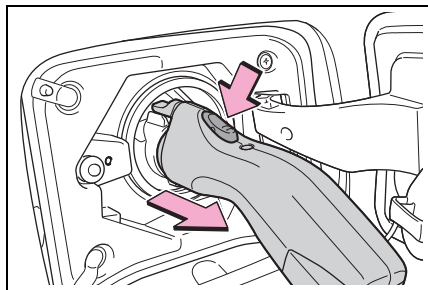
- 1 使用している電気製品の電源をOFFにする
- 2 車両のドアを解錠して、ヴィークルパワーコネクタをアンロックする(→P.89)

ドアを解錠すると、普通充電インレット照明が点灯します。

- 3 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、ヴィークルパワーコネクタを取りはずす

パワースイッチが自動でOFFになります。

ロック解除ボタンを押すだけでも、AC外部給電は停止します。また、パワースイッチを押して、AC外部給電を停止することもできます。



- 4 車外コンセントから電源プラグを取りはずす

ヴェイクルパワーコネクタと電気製品を片付けてください。

電気製品の電源プラグを接続するとき

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

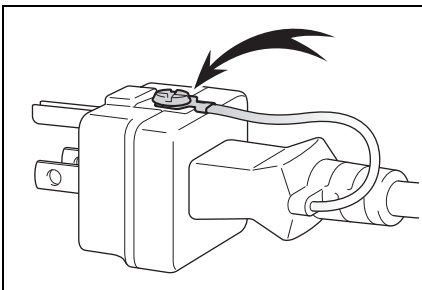
- 1 電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源がOFFになっていることを確認する
- 2 防水カバーを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり差し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続する



AC 外部給電に関する情報の表示

AC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイに外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間^{※1}などの情報を確認することができます。

マルチメディアディスプレイに表示されるエネルギーモニターからも、AC 外部給電システムの作動状況^{※2}を確認することができます。(→P.180)



※1 表示される時間は 400W 消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

※2 エネルギーモニターの見方については、P.180 を参照してください。

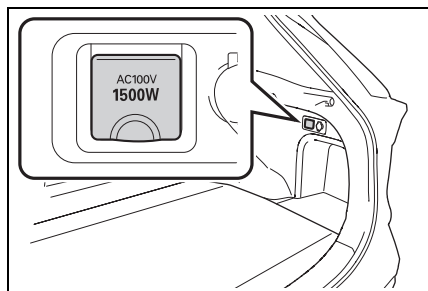
車内のアクセサリーコンセントについて

AC 外部給電システムを使用しているときは、車内にあるアクセサリーコンセントからも電源を取り出すことができます。

AC 外部給電システムの使用中は、AC100V スイッチ (→P.400) を押さなくてもアクセサリーコンセントを使用できます。また、AC100V スイッチを押して OFF にすることはできません。

アクセサリーコンセントの使用方法につ

いては、P.395 を参照してください。



知識

■ ヴィークルパワーコネクタをアンロックできないとき

「普通充電コネクタをアンロックできないとき」(→P.90)をご確認ください。

■ AC 外部給電システムの使用中は

- スマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
 - ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。
使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。
 - ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません キーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。
 - 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.275 を参照してください。
- #### ■ AC 外部給電システムについて
- AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、車外コンセント、および車内のアクセ

サリーコンセントが使用できなくなりますが、故障ではありません。なお、保護機能が作動したときに音があることがありますが、異常ではありません。

- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。
その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
 - 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。
その場合は、単独で電気製品を使用してください。
 - AC 外部給電システムの起動中に、電気製品によっては大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえることがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、AC 外部給電システムが停止することがありますが、故障ではありません。
その場合は、いったん電気製品の電源を OFF にし、電源プラグを挿し直してから、再度、AC 外部給電を開始してください。
 - 使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- #### ■ 車外コンセントに接続する電気機器について
- 次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。
- 起動時の電力が高い電気製品
 - 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
 - 精密なデータ処理をする計測機器
 - 極めて安定した電力供給を必要とする電気製品

- タイマー設定する機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■ AC 外部給電中のいたずらなどを防ぐために

普通充電コネクタと同様に、ヴィークルパワーコネクタを接続した状態でドアをロックすると、ヴィークルパワーコネクタをロックできます。(→P.89)

■ 電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ (50 / 60Hz) 機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ AC 外部給電システムを使用しているとき

- AC 外部給電システムの作動中は、リヤシートの下側から冷却用ファンの音がすることがあります。
- AC 外部給電システムを開始した時点で、いったんエアコンが OFF になります。AC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作して、エアコンを作動させてください。*
- * AC 外部給電システムの使用中にエアコンを使用すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の外部給電時間が異なる場合があります。

■ エアコンの使用について

外気温が低いときには、エアコンの作動が制限され、暖房が効きにくくなる場合

がありますが、故障ではありません。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ AC外部給電システムを使用するときの警告

- 使用中は車両から離れない
- 換気の悪い場所に停車しない
HV 給電モードでの使用時は、駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。排気ガスによる人体への影響を避けるため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所 (雪が積もった場所) などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
 - ・ 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所 (雪が積もった場所) などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。(→P.36)
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

警告

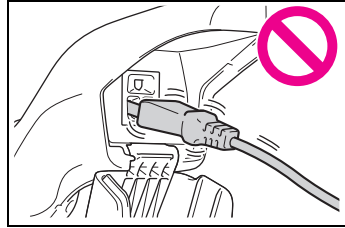
- ボンネットが閉まっていることを確認する
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くに停車しない
過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- 車内のアクセサリーコンセントに、使用する意図のない電気製品が接続されていないことを確認する
AC 外部給電を開始したときに、車内のアクセサリーコンセントにも電源供給されることにより、それらの電気製品が作動するおそれがあります。
- 給油をしない
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない
- お子さまにはヴィークルパワーコネクタを使用させない
- 破損したヴィークルパワーコネクタ・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない
使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。

- ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続する
ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 本来の用途以外には使用しない
コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する用途として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の外部給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- 落雷の可能性がある天候のときは AC 外部給電システムを使用しない
使用中、雷に気付いたときには AC 外部給電システムを停止してください。
- 普通充電インレットに普通充電コネクタ・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない
- ヴィークルパワーコネクタに破損箇所がないか確認する
- ヴィークルパワーコネクタ・普通充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する
付着している場合は、ヴィークルパワーコネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ヴィークルパワーコネクタの端子部および、普通充電インレットの端子部がぬれないようにする

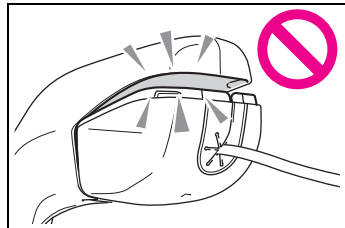
警告

- ヴィークルパワーコネクタの端子・車外コンセントに金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない
- ヴィークルパワーコネクタの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにする
- 車外コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをする
プラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- 車外コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグを挿さない
すでに電源プラグが挿してあり、抜く必要がある場合は、まずパワースイッチをOFFにし、ヴィークルパワーコネクタを車両から取りはずしたあと、電源プラグを抜いてください。
- ぬれた手で電源プラグの抜き差しを行わない。また、電源プラグやコンセントをぬらさない
- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続する

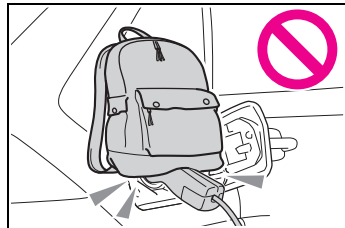
- 電源プラグはコンセントにしっかりと挿し込む
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。



- 車外コンセントに電源プラグを接続したあとは、防水カバーを閉じる
確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。



- ヴィークルパワーコネクタの上に重量物を置いたり、ものを引っ掛けたりしない



- 異常な発熱を感じたらただちに使用を中止する

⚠ 警告

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ エアコンの使用に関する警告

AC 外部給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。

AC 外部給電中にエアコンを使用しても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります。熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 車両にヴィークルパワーコネクタが接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。万一、ヴィークルパワーコネクタが故障していた場合、シフトポジションがPからほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ AC外部給電システムを使用するときの注意

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- AC100V以外の電気製品を接続しない
- 消費電力の合計が1500Wをこえないようにする
また、振動や熱などに弱い電気製品を使用しないでください。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しない
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- 車外コンセントにほこりやごみが付着していないことを確認する
車外コンセントは定期的に清掃してください。
- 使用中はヴィークルパワーコネクタを揺るなどの不要な振動を与えない
外部給電を停止することがあります。
- 電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続するとき
 - 電源プラグを車外コンセントに接続する前に、電気製品の電源がOFFになっていることを確認してください。
 - 晴天であっても、防水カバーを確実に閉めた状態で使用してください。
- 車両を長時間駐車して外部給電を行うとき

次のことにご注意ください。

 注意

- ガソリンエンジンの作動中に排気管から水が出る場合がありますが、異常ではありません。
 - HV 給電モードでの使用時、特に外気温が低いときには、排気管の中にある水が凍り、ガソリンエンジンが始動しにくくなったり、ガソリンエンジン作動中に排気管から臭いが発生したりすることがあります。その場合は、いったん外部給電作業を中断して、15～30分ほど走行してください。
- AC外部給電システムを使用したあとの注意
- 必ず電気製品の電源を切ってから、ヴィークルパワーコネクタを取りはずしてください。
電気製品の電源を OFF にしないまま、先に車両からヴィークルパワーコネクタを取りはずすと、電気製品が正常に終了せず、電気製品の故障につながるおそれがあります。
 - 普通充電インレットからヴィークルパワーコネクタを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。
普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
 - 車両から離れる際は、ドアを確実に施錠したことを確認してください。

正常に AC 外部給電できないときは

正しい手順に従って作業しても外部給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常に AC 外部給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 外部給電モードの選択画面 (→P.139) が表示されない

考えられる原因	対処方法
ヴィークルパワーコネクタがしっかりと接続されていない	ヴィークルパワーコネクタを接続してからパワースイッチを ON にする際、しっかりと接続されていないと外部給電モードの選択画面が表示されません。 いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずし、再度、“カチッ”と音がするまで確実に挿し込んでください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態でパワースイッチを 2 回押して、メーターに「イグニッション ON」と表示されていることを確認してください。
シフトレバーが P 以外にある	シフトレバーが P の位置にあることを確認してください。

■ HV 給電モードを選択できない

考えられる原因	対処方法
燃料が不足している	燃料残量警告灯 (→P.454) を確認し、点灯している場合はすみやかに燃料を補給してください。

■ EV 給電モードを選択できない

考えられる原因	対処方法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し (→P.159)、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。(→P.104)

■ ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを押しても AC 外部給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
電源スイッチを 2 回押す間隔が長すぎる、または電源スイッチを 2 回よりも多く押している	電源スイッチは、約 3 秒以内に 2 回連続で押してください。(→P.139)
消費電力の合計が 1500W をこえている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が故障している	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずしてから車両を日陰に移動したり、エアコンを使用するなどして車内の温度を下げ、再度、AC 外部給電を開始してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずしてからしばらく走行したり、エアコンを使用するなどして駆動用電池をあたためてから使用してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、はじめから操作をやり直してください。 ●ピンなどの異物が挿さっていないか ●飲料水、雨水、雪などが付着していないか ●ほこりやごみが付着していないか
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認してください(→P.159)。 残量が少なくなっているときは、ヴィークルパワーコネクタを取りはずし、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押して、駆動用電池の残量を回復させてください。または、普通充電を実施し、駆動用電池の残量を回復させてください(→P.104)。

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	154
計器類	159
マルチインフォメーションディスプレイ	165
ヘッドアップディスプレイ	175
エネルギーモニター／燃費画面	179

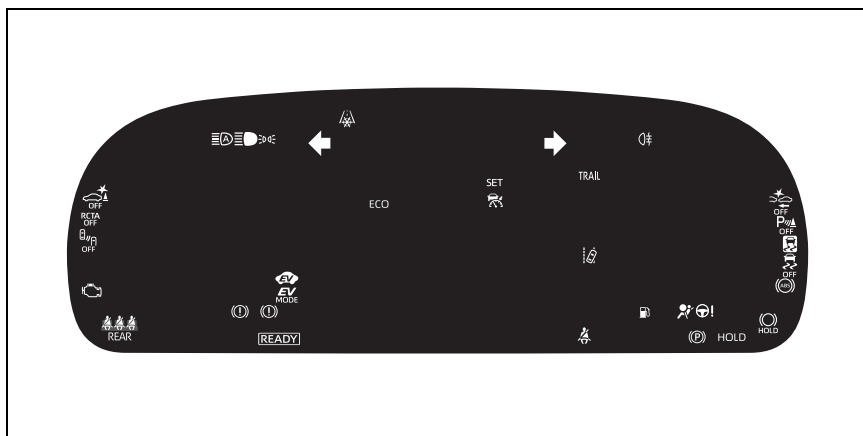
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラー・インストルメントパネルの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

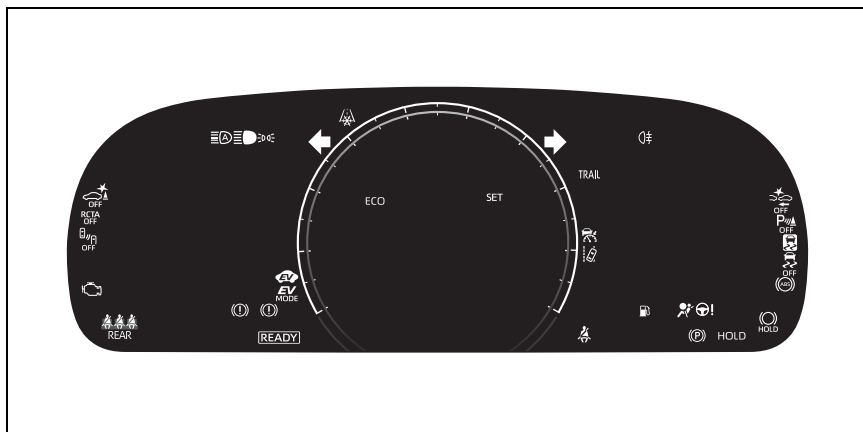
メーター表示のタイプを選択することができます。(→P.171)

▶ タイプ 1



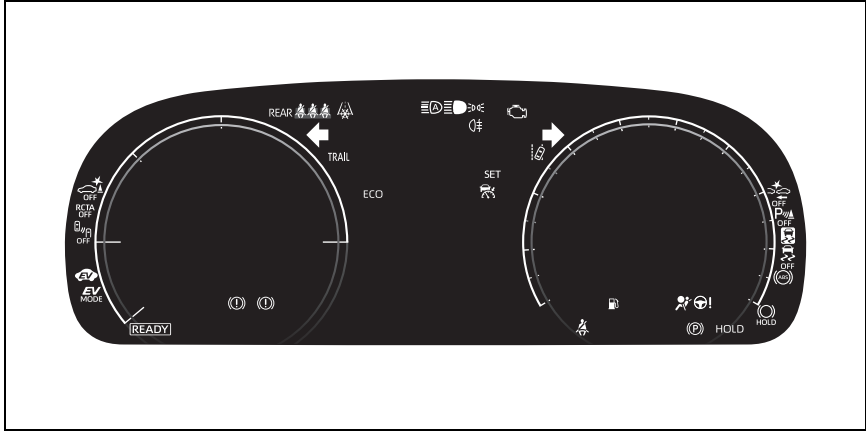
実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

▶ タイプ 2



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

▶ タイプ 3



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※1
(→P.449)

(赤色)



ブレーキ警告灯 ※1
(→P.449)

(黄色)



充電警告灯 ※2 (→P.449)



高水温警告灯 ※2 (→P.450)



ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2 (→P.450)



油圧警告灯 ※2 (→P.450)



エンジン警告灯 ※1
(→P.450)

SRSエアバッグ/プリテン



ショナー警告灯 ※1
(→P.450)



ABS & ブレーキアシスト警告灯 ※1 (→P.451)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.451)

(赤色)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.451)

(黄色)



PCS 警告灯 ※1 (→P.451)

(点滅または点灯)



LTA 表示灯 (→P.451)

(橙色)



クリアランスソナー OFF 表示灯 ※3 (→P.452)



PKSB OFF 表示灯 ※1
(→P.452)



RCTA OFF 表示灯 ※1
(→P.452)



スリップ表示灯 ※1
(→P.453)



ペダル誤操作警告灯 ※²
(→P.293, 453)



ブレーキホールド作動表示灯
※¹ (→P.453)
(点滅)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.453)
(点滅)



燃料残量警告灯 (→P.454)



運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P.454)



リヤ席シートベルト非着用
警告灯 (→P.454)



リヤ席シートベルト非
着用警告灯
(→P.454)

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※³ クリアランスソナー機能が ON のときは、パワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.268)



尾灯表示灯 (→P.275)



ハイビーム表示灯
(→P.277, 278)



オートマチックハイビーム表示灯 (→P.278)



リヤフォグランプ表示灯★
(→P.281)



スマートエントリー&スタートシステム表示灯 ※¹
(→P.261)



クルーズコントロール表示灯
(→P.314)



レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.314)



クルーズコントロールセット表示灯 (→P.314)



LTA 表示灯 ※² (→P.308)

(白色)



LTA 表示灯 ※² (→P.294, 308)



(橙色点滅)

LTA 表示灯 ※² (→P.308)



クリアランスソナー OFF 表示灯 ※^{3, 4} (→P.339)



PKSB OFF 表示灯 ※^{3, 5} (→P.346)



(点滅)

スリップ表示灯 ※⁵ (→P.453)



VSC OFF 表示灯 ※^{3, 5} (→P.357)



PCS 警告灯 ※^{3, 5} (→P.296)



BSM ドアミラーインジケーター ※^{5, 6} (→P.331)



BSM OFF 表示灯 ※^{3, 5} (→P.331)



RCTA OFF 表示灯 ※^{3, 5} (→P.331)



ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※⁵ (→P.273)



ブレーキホールド作動表示灯 ※⁵ (→P.273)



セキュリティ表示灯 ※⁸ (→P.53, 54)



READY インジケーター (→P.261)



低温表示灯 ※⁷ (→P.163)



EV インジケーター (→P.63)



パーキングブレーキ表示灯 (→P.269)



EV ドライブモード表示灯 (→P.60)



AUTO EV / HV モード表示灯 (→P.60)



HV モード表示灯 (→P.60)



バッテリーチャージモード表示灯 (→P.61)



エコドライブモード表示灯 (→P.353)



スポーツモード表示灯 (→P.353)



トレイルモード表示灯 (→P.354)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されません。

※²システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※³システムが OFF のときに点灯します。

※⁴クリアランスソナー機能が ON のときは、パワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

※⁵作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※⁶ドアミラーに表示されます。

※⁷外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※⁸センターパネルに表示されます。



■ BSM ドアミラーインジケーターについて

作動確認のため、パワースイッチを ON にしたとき、またはパワースイッチが ON の状態で、BSM 機能または RCTA 機能を ON にしたときにインジケーターが点灯します。


システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類

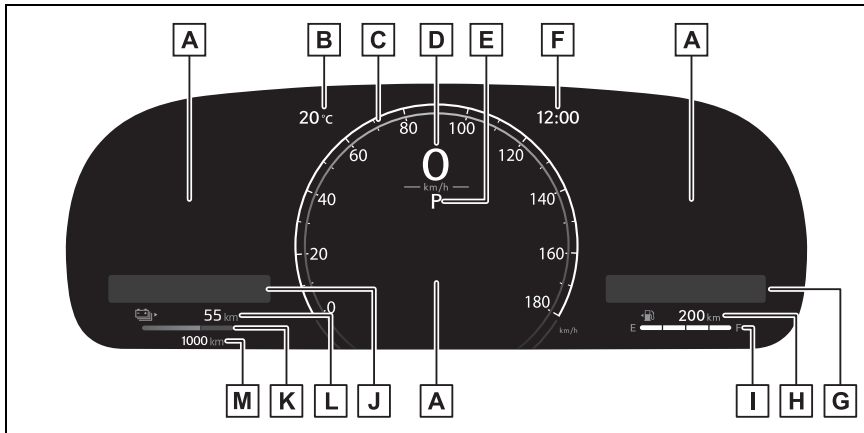
走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置

マルチインフォメーションディスプレイのから、メーター表示タイプを切りかえることができます。(→P.171)

▶ タイプ1 / タイプ2



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.165)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.455)

B 外気温 (→P.163)

C アナログメーター (タイプ2のみ)

お好みのメーターに変更することができます。(→P.171)

アナログスピードメーター：

車両の走行速度を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.162)

D デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→P.265)

F 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

G ウィジェット (オーディオ連携表示)

オーディオ連携表示の一部を簡易表示します。(→P.170)

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。(→P.167)

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(→P.163)

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

J ウィジェット (電費/燃費グラフ)

電費/燃費グラフの一部を簡易表示します。(→P.167)

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。(→P.167)

K 駆動用電池残量計

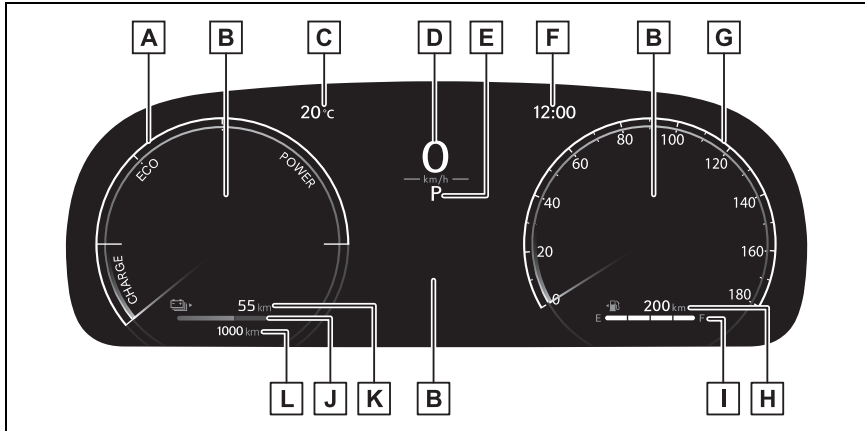
駆動用電池の残量を示します。(→P.162)

L EV 走行可能距離

現在の駆動用電池残量で走行可能なおよその距離を表示します。

M オドメーター/トリップメーターディスプレイ (→P.164)

▶ タイプ 3

**A** ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.162)

B マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.165)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.455)

C 外気温 (→P.163)**D** デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→P.265)

F 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

G アナログスピードメーター

車両の走行速度を示します。

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(→P.163)

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき

・ 坂道やカーブを走行したとき

J 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。(→P.162)

K EV 走行可能距離

現在の駆動用電池残量で走行可能なおよその距離を表示します。

L オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.164)



知識

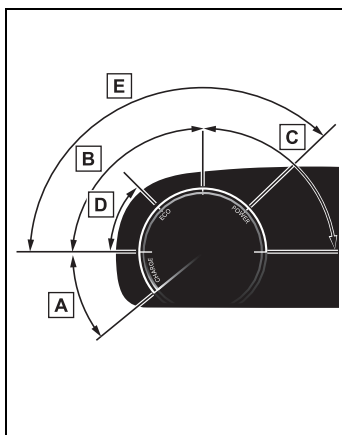
■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

D ハイブリッドエコエリア (HV モード時)

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

E EV 走行エリア (EV モード・AUTOEV / HV モード時)

電気モーターのみで走行している状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- READYインジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションがDまたはS以外のとき

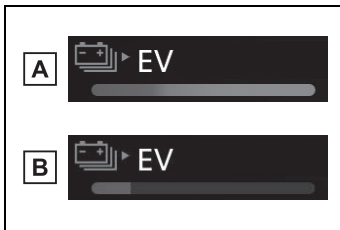
■駆動用電池残量計について

現在の駆動用電池の残量を示します。

- EV モードでの EV 走行に使用される電


池残量は緑色で、HV モードで使用される電池残量は青色で表示されます。

- 駆動用電池の残量表示は走行に伴って減少し、駆動用電池を充電、または再生ブレーキ（→P.63）による電気エネルギー回収、ガソリンエンジンによる発電が実施されると増加します。
- 緑色の表示領域がないときはHV モードで走行し、EV モードに切りかえることはできません。EV 走行を楽しむためには、駆動用電池の充電を実施してください。（→P.79）



- A** 駆動用電池が満充電のとき
- B** EV モード用の駆動用電池残量がないとき

■ EV 走行可能距離について

- エアコンの作動中は EV 走行可能距離の横にが表示され、エアコンを使用した場合の EV 走行可能距離にかかります。
- システムの電力消費により、走行していなくても EV 走行可能距離が減少する場合があります。
- EV 走行可能距離について、詳しくは P.76 の記載を参照してください。

■ 航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、

実際に走行できる距離とは異なります。

- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.163）
- 「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。


■ 燃料計と航続可能距離の手动更新について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 “ODO TRIP” スイッチを押してオドメーター/トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチを OFF にする
- 4 “ODO TRIP” スイッチを押したまま、パワースイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間 “ODO TRIP” スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 外気温度を -40°C ~ 60°C のあいだで表示します。
- 外気温度が約 3°C 以下のときは、外気温表示の横にが点滅し、そのあと点灯します。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約

20km/h以下) のとき

- ・ 外気温が急激に変化したとき (車庫・トンネルの出入り口付近など)
- “-” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.166


■ フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下のURLで入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/>

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。(→P.171)

▲ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンブレキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲ 注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.487)

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

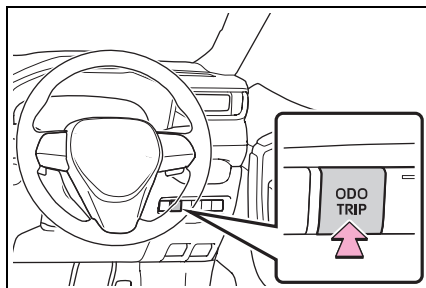
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A / トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。

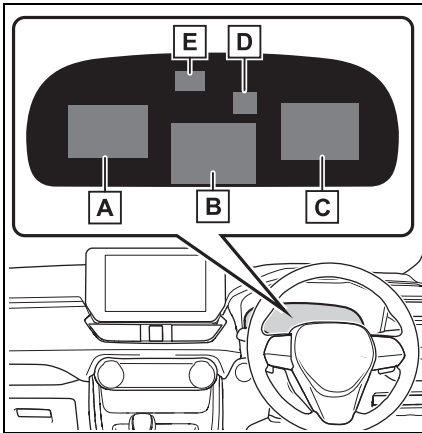


マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

ディスプレイの表示

マルチインフォメーションディスプレイの各エリアには、次の情報が表示されます。



- A** コンテンツ表示エリア (左)
- B** コンテンツ表示エリア (中央)
- C** コンテンツ表示エリア (右)
- D** 運転支援システム情報表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を選択している場合は、表示されません。

- E** RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.312)

■ コンテンツ表示エリア (中央)

- 運転支援システム情報 (→P.170)
- 設定 (→P.171)
- 警告メッセージ
- ブランク (非表示) (→P.171)

■ コンテンツ表示エリア (左/右)

- 燃費グラフ/電費グラフ (→P.167)
 - エコアクセルガイド/エコジャッジ (→P.168)
 - 始動後走行時間/ EV 走行比率 (→P.169)
 - 運転支援システム情報 (→P.170)
 - ナビゲーションシステム連携表示★ (→P.170)
 - オーディオ連携表示 (→P.170)
 - ドライブインフォメーション (→P.170)
 - エネルギーモニター (→P.179)
 - 4WD 作動状態表示 (→P.171)
 - ブランク (非表示) (→P.171)
- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 走行モードを切りかえたとき

選択した走行モードに従って、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変化します。(→P.353)

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 警告

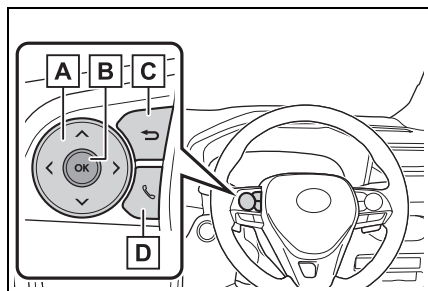
■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

(→P.164)

メーター操作スイッチ



- A** ◀ / ▶: ページの切りかえ・カーソル移動
 ▲ / ▼: 表示項目の切りかえ・ページ送り
- B** 短押し: 決定
 長押し: リセット・詳細項目表

示・カーソル表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って表示を切りかえることができます。

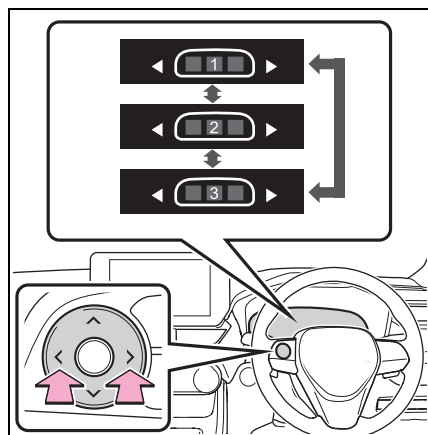
■ メーター表示タイプの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、メーター表示タイプを切りかえることができます。(→P.171)

■ ページの切りかえ

3 エリアのコンテンツ表示を、3 ページ分の組み合わせから選択することができます。

◀ または ▶ を押してページを切りかえます。



■ コンテンツ表示項目の切りかえ

コンテンツ表示エリア（左／中央／右）の項目を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチの **OK** を長押しして、コンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる
- 2 **◀** または **▶** を押してカーソルを移動し、コンテンツ表示エリアを選択する
- 3 **▲** または **▼** を押して表示項目を選択する

■ コンテンツ表示項目の表示／非表示

コンテンツ表示エリア（左／右）の項目を表示／非表示することができます。

- 1 メーター操作スイッチの **OK** を長押しして、コンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる
- 2 **◀** または **▶** を押してカーソルを移動し、コンテンツ表示エリアを選択する
- 3 コンテンツ表示エリア（左）：
◀ を押してコンテンツ一覧を表示させる
コンテンツ表示エリア（右）：
▶ を押してコンテンツ一覧を表示させる
- 4 **▲** または **▼** を押して項目を選択する
- 5 **OK** を押して、各項目の表示／非表示を選択する

⚠ 警告

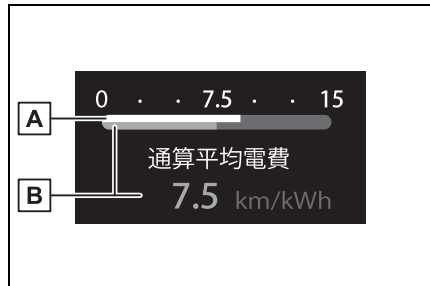
■ 走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けしないでください。

電費／燃費グラフ

EV モードまたは AUTO EV / HV モードと HV モードとで表示される内容がかわります。

- ▶ EV モード・AUTO EV / HV モード時



A 瞬間電費

現在の瞬間電費を表示します。

B 平均電費

始動後・通算のうち、いずれかの平均電費を表示します。*1, 2, 3

⚙ 画面の「電費グラフ」で選択した電費が表示されます。（→P.171）

*1 表示される電費は参考として利用してください。

*2 始動後平均電費は、ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセット

トされます。

※³通算平均電費の表示中に **OK** を押し続けると、リセットされます。

▶ HV モード時



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

始動後・リセット間のうち、いずれかの平均燃費を表示します。※^{1, 2, 3}

⚙️画面の「燃費グラフ」で選択した燃費が表示されます。(→P.171)

※¹表示される燃費は参考として利用してください。

※²始動後平均燃費は、ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

※³リセット間平均燃費の表示中に **OK** を押し続けると、リセットされます。

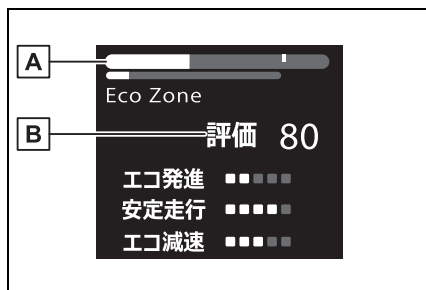
□ 知識

■ 電費について

EV 走行時の電力消費率を表す数値で、ガソリンエンジンの燃料消費率に相当します。この車では、電力 1 キロワット時 (1kWh) あたりの走行キロ数 (km/kWh) が、「電費」として各画面上に表示されます。

■ エコアクセルガイド／エコジャッジ

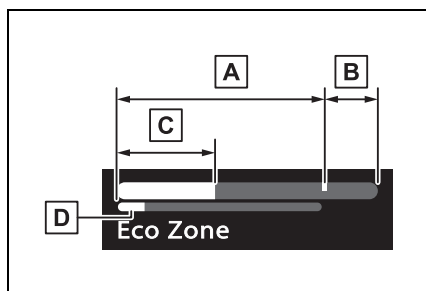
走行状況に適したアクセル操作の目安や、走行状況を評価して採点結果を表示します。



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

■ エコアクセルガイドの見方



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセル開度

D アクセル操作の目安

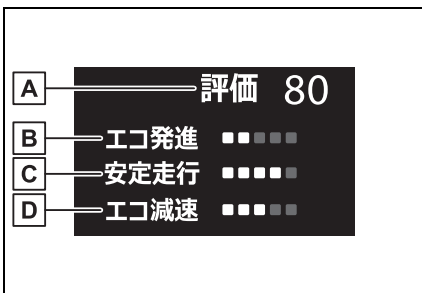
発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。

■ エコジャッジの見方

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ減速）という3つの観点から、走行状況をそれぞれ5段階で評価し、車両が停車するたびに100点満点で採点結果を表示します。



A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

走行中は3つの走行状況がそれぞれのアイコンで表示されます。

各採点項目のゲージは、それぞれ次の意味を示しています。

状況	表示
未評価	■■■■■

状況	表示
評価が低い	■■■■■
評価が高い	■■■■■

発進後、車速が約30km/hをこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

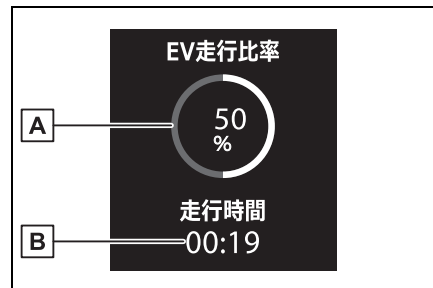
□ 知識

■ エコアクセルガイド／エコジャッジの作動条件

次の場合、エコジャッジとエコアクセルガイドの作動が停止します。

- ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しているとき

■ 始動後走行時間／EV走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までにEV走行できた割合をグラフ表示します。*

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。*

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA (レーンレーシングアシスト) (→P.303)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.314)

ナビゲーションシステム連携表示★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン (車線) 案内
- コンパス

オーディオ連携画面について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

ドライブインフォメーション

■ ドライブインフォメーション

「ドライブインフォ項目選択」の設定で選択した項目 (平均車速・走行距離・走行時間) を上下に2つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ・ 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示 ※
- ・ 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示 ※
- ・ 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示 ※


※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

■ トリップインフォメーション

「TRIP A 項目選択」「TRIP B 項目選択」の設定で選択した項目 (平均車速・走行距離・走行時間) を上下に2つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

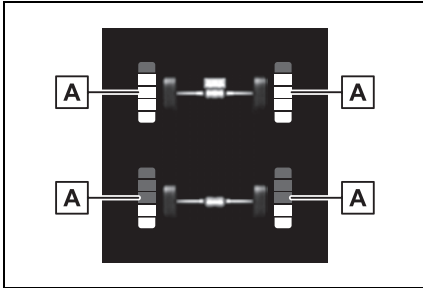
- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示 ※
- ・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示 ※
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示 ※

※  を押し続けるとリセットされます。

エネルギーモニター

→P.179

4WD 作動状態表示



A 駆動力表示

0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

ブランク（非表示）

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

設定について

メーター操作スイッチを操作してご希望の項目を選択することで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチの **OK** を長押しして、コンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる
- 2 メーター操作スイッチの **↑** または **↓** を押して **⚙️** を選択し、**OK** を押す

- 3 メーター操作スイッチの **↑** または **↓** を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する

機能の ON / OFF やブザー音量などを設定する項目では、**OK** を押すたびに機能の ON / OFF、または調整値が切りかわります。

機能の作動内容を変更できる項目では、

OK を押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

- 4 設定が完了したら、メーター操作スイッチの **↩** を押す

■ メーター照度設定

メーター照明の明るさを調整できます。

■ HUD メイン（ヘッドアップディスプレイ）（→P.175）

ヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.303）

次の設定を変更することができます。

● センタートレース

車線維持支援機能の作動／非作動を変更することができます。

● 警報手段

車線逸脱警報機能の警報手段を変更することができます。

● 警報感度

車線逸脱警報機能の感度を変更すること

ができます。

● ふらつき検知

ふらつき検知機能の作動／非作動を変更することができます。

● ふらつき検知感度

ふらつき警報機能の感度を変更することができます。

■ BSM (ブラインドスポットモニター) (→P.331)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

ブラインドスポットモニターの作動／非作動を変更することができます。

● 警報感度

接近車両の検知を知らせるタイミングを変更することができます。

● 明るさ

ドアミラーインジケーター (→P.331) の明るさを変更することができます。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.293)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

プリクラッシュセーフティの作動／非作動を変更することができます。

● 警報感度

衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

■ (クリアランスソナー) (→P.339)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

クリアランスソナーの作動／非作動を変更することができます。

● 音量

クリアランスソナー機能作動時のブザー音量を変更することができます。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) (→P.331)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

RCTA 機能の作動／非作動を変更することができます。

● 音量

RCTA 機能作動時のブザー音量を変更することができます。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.345)

パーキングサポートブレーキの作動／非作動を変更することができます。

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.312)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

RSA の作動／非作動を変更することができます。

● 告知手段

最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の各標識を認識したときの警報方法をそれぞれ変更することができます。

● 告知車速

最高速度標識の認識時、標識が示す制限速度に対して告知を実施する超過速度を

変更することができます。

■ 車両設定

● 充電設定

次の設定を変更することができます。

- ・ タイマー充電

充電スケジュールの登録や変更などの操作を行うことができます。(→P.111)

- ・ 充電電流

充電時の電流値を変更することができます(200V 電源での充電時のみ)。(→P.95)

- ・ 電池冷却

駆動用電池冷却(→P.97)の作動/非作動を変更することができます。

- ・ 電池昇温

駆動用電池ヒーター(→P.97)の作動/非作動を変更することができます。

● 外部給電

AC 外部給電システムの外部給電モードを選択することができます。(→P.136)

● クルーズ

カーブ速度抑制機能の設定を変更することができます。

● PBD (パワーバックドア) (→P.194)

次の設定を変更することができます。

- ・ 機能の ON / OFF

パワーバックドアの作動/非作動を変更することができます。

- ・ ハンズフリー

ハンズフリーパワーバックドアの作動/非作動を変更することができます。

- ・ 開位置調節

パワーバックドアが全開したときの停止位置を変更することができます。

- ・ 音量

パワーバックドア作動時のブザー音量を変更することができます。

● 先行車発進告知 (→P.324)

次の設定を変更することができます。

- ・ 先行車発進告知

先行車発進告知機能の作動/非作動を変更することができます。

- ・ 告知距離

先行車の発進を告知する距離を変更することができます。

● リヤシートリマインダー (→P.190)

リヤシート置き忘れ警告の作動/非作動を変更することができます。

● 後退速度抑制(→P.258)

ドライブスタートコントロールの後退速度抑制の作動/非作動を変更することができます。

■ 表示設定

● 言語

マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を変更することができます。

● 単位

電費/燃費表示の単位を変更することができます。

● メータータイプ(→P.159)

メーター表示のタイプを変更することができます。

● メーターデザイン

メーター表示のデザインを選択することができます。

● アナログメーター切りかえ

アナログメーター（→P.159）に表示する項目を選択することができます。

● (EV インジケーター) （→P.63）

EV インジケーターの作動／非作動を変更することができます。

● 燃費グラフ

燃費グラフ（→P.167）に表示する平均燃費の種類を変更することができます。

● ハイブリッドシステムインジケーター

エコアクセルガイド（→P.168）の作動／非作動を変更することができます。

● 電費グラフ

電費グラフ（→P.167）に表示する平均電費の種類を変更することができます。

● ドライブインフォメーション （→P.170）

ドライブインフォメーションに表示する項目の種類を選択することができます。

● 割込表示

割り込み表示される項目の表示／非表示を、項目ごとに変更することができます。

● カレンダー

年・月・日を設定することができます。（マルチメディアシステムの設定で、時計のGPS補正をOFFにした場合のみ、設定が可能になります）

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があ

り、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

■ 設定画面の操作について

- 設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

- ・ 警告メッセージが表示されたとき
- ・ 走行し始めたとき

- 車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

- 設定変更の対象となる機能がOFFになっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→P.455)

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

■ 窓閉め提案 (ワイパー連動)

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが作動しているとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

□ 知識

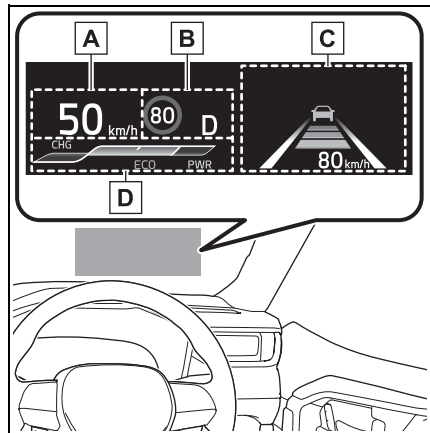
■ カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.501)

ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウィンドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 車速表示
- B** シフトポジション／RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.265, 312)
- C** 運転支援システム／ナビゲーションシステム連携★表示エリア (→P.177)
- D** ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター (→P.179)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **ヘッドアップディスプレイの作動条件**
 パワースイッチが ON のとき

■ **ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ **交差点名表示について（メーカーオプションの車載ナビゲーションシステム装着車）**

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

警告

■ **ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

● 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。

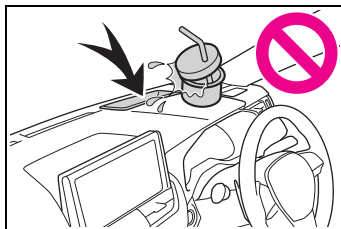
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ **ヘッドアップディスプレイ映写部について**

● 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。






● 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。

ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。


● 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方


メーター操作スイッチ（→P.171）を操作して、ヘッドアップディスプレイに関する設定を変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチを操作して、を選択する
- 2 メーター操作スイッチのまたはを押して、「HUD メイン」を選択し、次の設定を変更する

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

メーター操作スイッチの  を押しごとにヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチの  を押し続けると次の設定を変更できます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示内容

次のいずれかから表示する項目を選択することができます。

- ・ 表示なし
- ・ ハイブリッドシステムインジケーター表示
- ・ タコメーター表示

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- ・ 目的地案内★
- ・ 運転支援
- ・ コンパス★
- ・ オーディオ表示
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。




知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にした

あとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの  画面による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。



警告

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが始動している状態で実施してください。

■ 運転支援システム／ナビゲーションシステム連携★表示エリア

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.303)
- レーダークルーズコントロール

(全車速追従機能付き)
(→P.314)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ ナビゲーションシステム連携表示エリア★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- 交差点名
- 目的地案内
- コンパス

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。


- PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.293)
- 先行車発進告知機能 (→P.324)
- ブレーキオーバーライドシステム (→P.253)
- ドライブスタートコントロール (→P.253)
- パーキングサポートブレーキ (静止物) (→P.345)
- ドライバー異常時対応システム (→P.326)

表示される内容はマルチインフォメー


ションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ アイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

：マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。(→P.455)

：インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案サービス (→P.175) や操作アドバイスのメッセージが表示されているときに表示されます。

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。(マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容)

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

■ 外気温表示

パワースイッチを ON にしたとき、または低温表示が点滅しているときに表示されます。

知識

■ 割り込み表示について

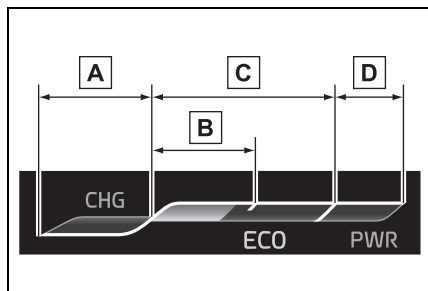
割り込み表示される項目によっては、一

部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター

画面の「HUD 表示カスタマイズ」で選択した項目が表示されません。

■ ハイブリッドシステムインジケーター



- A** チャージエリア
- B** ハイブリッドエコエリア
- C** エコエリア
- D** パワーエリア

表示される内容はメーターのハイブリッドシステムインジケーターと同様です。詳しくは、P.162 を参照してください。

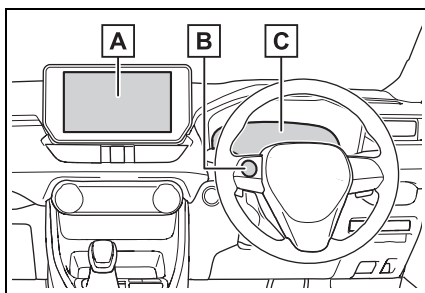
■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイに表示します。

システムの構成部品



- A** マルチメディアディスプレイ
- B** メーター操作スイッチ
- C** マルチインフォメーションディスプレイ

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた


- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターを表示させる

マルチインフォメーションディスプレイ

の操作方法については、P.170 を参照してください。

▶ マルチメディアディスプレイ

メインメニューの を押し、サブメニューの「エネルギーフロー」を押す

マルチメディアディスプレイの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

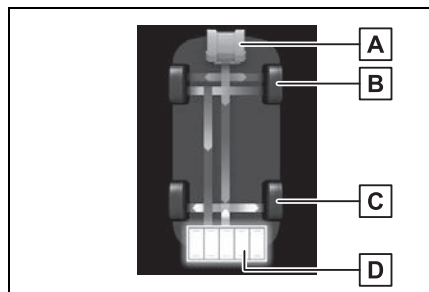
矢印の色は次のように変化します。

青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

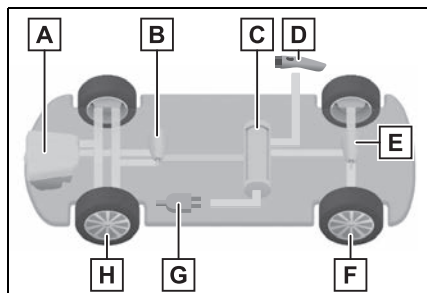
A エンジン

B フロントタイヤ

C リヤタイヤ

D 駆動用電池

▶ マルチメディアディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B フロント電気モーター

C 駆動用電池

D 普通充電コネクタ／ヴィークルパワーコネクタ※¹

E リヤ電気モーター

F リヤタイヤ

G アクセサリーコンセント※²

H フロントタイヤ

※¹ 普通充電中 (→P.104)、または AC 外部給電中 (→P.136) にエネルギーの流れが表示されます。

※² アクセサリーコンセントが使用可能なときに、エネルギーの流れが表示されます。

□ 知識

■ マルチメディアディスプレイ上の駆動用電池の表示について

駆動用電池に充電しているときは緑色に、駆動用電池の電力が使用されているときは黄色に、それぞれ表示色がかわります。

■ 駆動用電池の残量警告について


- シフトレバーがNで、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかかります。
- マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

■ マルチメディアディスプレイ上のエンジンの表示について

ガソリンエンジンの暖機中はガソリンエンジンのイメージが青色で表示され、暖機が終了すると赤色にかかります。

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

メインメニューの  を押し、サブメニューの「トリップインフォメーション」を押す

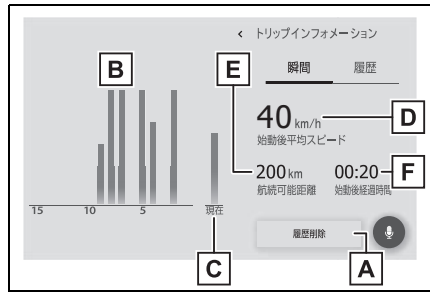
マルチメディアディスプレイの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 瞬間燃費画面の見方

瞬間燃費画面以外が表示されたときは、「瞬間」を押します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とは一致しない場合があります。



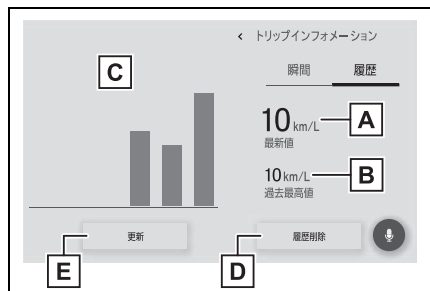
- A** 履歴削除
- B** 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)
- C** 瞬間燃費
- D** ハイブリッドシステム始動後平均車速
- E** 航続可能距離
- F** ハイブリッドシステム始動後経過時間

■ 燃費履歴画面の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「履歴」を押します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とは一致しない場合があります。



- A** 最新値表示
- B** 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新



■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で「更新」を押すと、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

「履歴削除」を押すと、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

4-1. キー

キー..... 184

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア）
..... 188

バックドア..... 193

スマートエントリー&スタートシス
テム..... 204

4-3. シートの調整

フロントシート..... 209

リヤシート..... 210

ポジションメモリー／メモリーコー
ル機能..... 212

ヘッドレスト..... 214

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル..... 216

デジタルインナーミラー（前後方録
画機能付）..... 217

ドアミラー..... 241

4-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開閉

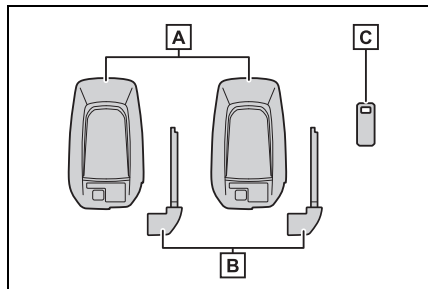
パワーウィンドウ..... 243

パノラマムーンルーフ..... 246

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.204)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.186)

リモートエアコンシステムの作動
(→P.374)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ~ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示さ

れます。

- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。
(→P.205)

- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーのLED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます (→P.426) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店で交換をおすすめします。

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器
- スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。
- 電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。(→P.189)

■ 電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■ 電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

JP

00

■ マルチインフォメーションディスプレイに「新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください」と表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

■ マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。(→P.426)

■ 電池の交換方法

→P.426

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

⚠ 注意

●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

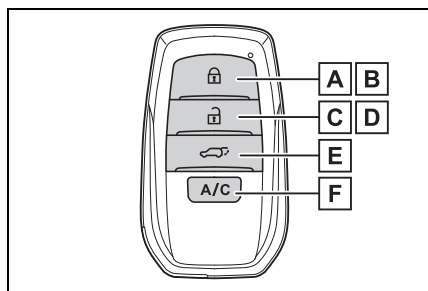
→P.480

■電子キーを紛失したとき

→P.479

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する (→P.188)

B ドアガラスとパノラマムーンルーフ★を閉める ※ (→P.188)

C 全ドアを解錠する (→P.188)

D ドアガラスとパノラマムーン

ルーフ★を開く ※ (→P.188)

E パワーバックドアを開閉する (→P.194)

F リモートエアコンシステムを作動・停止する (→P.374)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

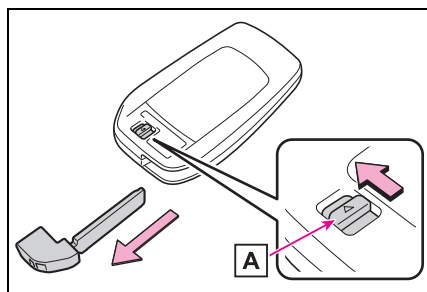
※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー**A**をスライドさせてキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P.480)



📖 知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.479

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア（フロントドア・リヤドア）

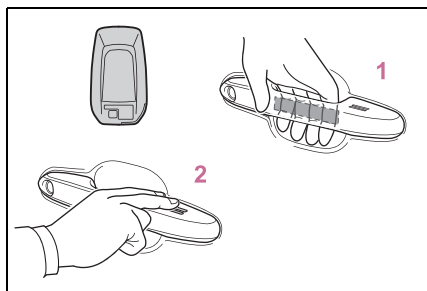
スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

ドアを施錠・解錠すると、充電リッド・普通充電コネクタもロック・アンロックされます。（→P.88）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



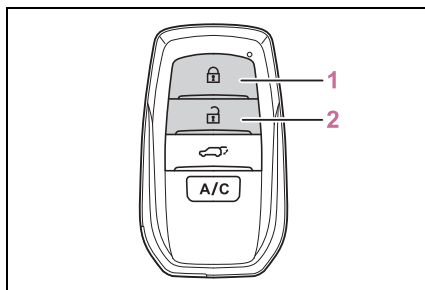
1 ドアハンドルを握って解錠する
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。
押し続けるとドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉まります。*

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとパノラマムーンルーフ★が開きます。*

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

* トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■ 降車オートロック機能*

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。

車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.204）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になりません。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせます。(→P.190)

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。

この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能

パワーバックドアの閉作動中^{*1}にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。^{*2}

^{*1}バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

^{*2}トヨタ販売店ででの設定変更が必要で

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。




降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアを施錠・解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する



■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。切りかえ操作は、車内または車から約 1m 以内の範囲で実施してください。


- 1 パワースイッチを OFF にする

- 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、
 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示/ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピッ” (3 回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドル・リヤドアのドアハンドルを握る、またはバックドアオープンスイッチを押すと全ドア解錠
 車外：“ピッ” (2 回)	フロントドアのドアハンドル・リヤドアのドアハンドルを握る、またはバックドアオープンスイッチを押すと全ドア解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます) オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.54)

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、

すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとパノラマムーンルーフ★の開閉をブザーで知らせます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

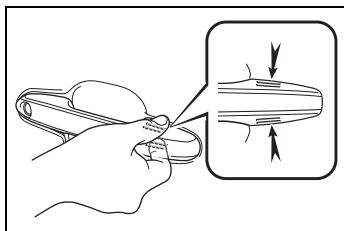
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

● スマートエントリー&スタートシステ

ムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた

● ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■ オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されません。(→P.55)

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.205

■ スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

● メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.480)

● 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.426)

■ 補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.480)

■ リヤシートリマインダー機能

● リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ・ リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
- ・ ハイブリッドシステムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

● リヤシートリマインダー機能は、リヤ

ドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたかと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

- リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.499)

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.503)

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるように、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

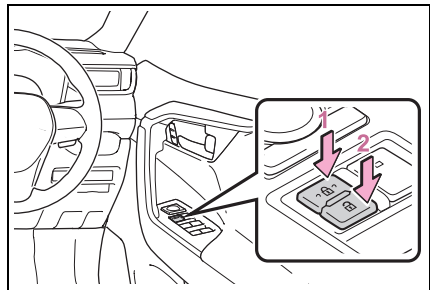
■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやパノラマムーンルーフ★を操作するとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

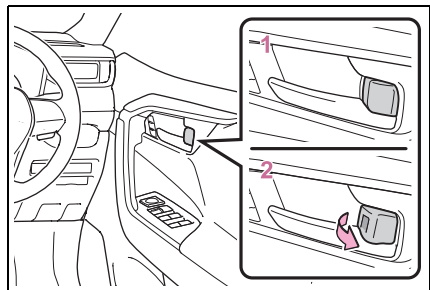
車内から解錠／施錠するには

■ドアロックスイッチを使用する



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する

■ロックレバーを使用する



- 1 ドアを施錠する
- 2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

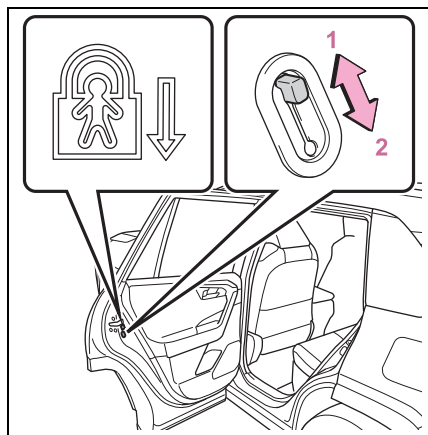
パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げても手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.499 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステム作動中にシフトレバーを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されません。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

ドアを施錠・解錠すると、充電リッド・普通充電コネクタもロック・アンロックされます。(→P.88)

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたりたり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたりたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バックドアハンドルについて

バックドアハンドルにものをかけないでください。

バックドアが突然閉じて、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

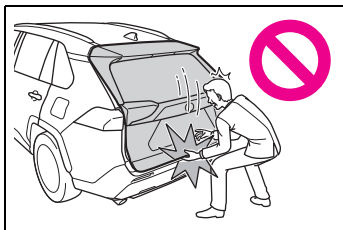
■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

警告

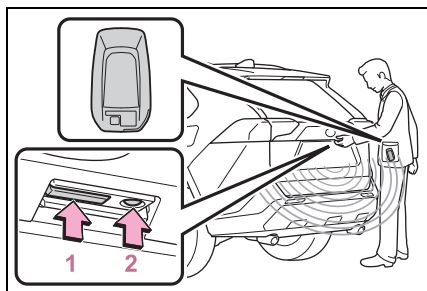
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- スピンドルユニット (→P.201) を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車外から解錠／施錠するには**■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する**

電子キーを携帯して操作します。

**1 全ドアを解錠する**

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.188

知識**■ 作動の合図**

→P.190

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P.190

車内から解錠／施錠するには**■ ドアロックスイッチを使用する**

→P.191

バックドアを開閉するには**■ ワイヤレス機能を使用して開閉する**

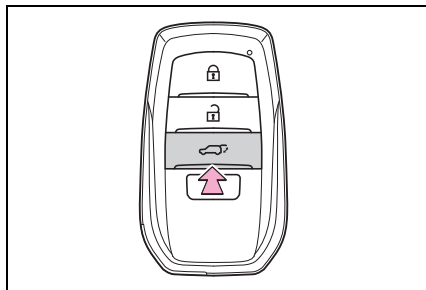
スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。*

* カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。

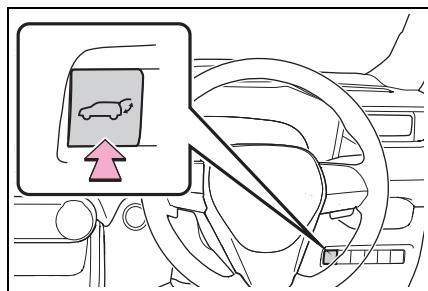


■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける
ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



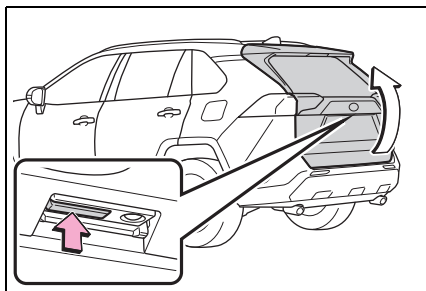
■ バックドアオープンスイッチを使用して開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動が停止します。

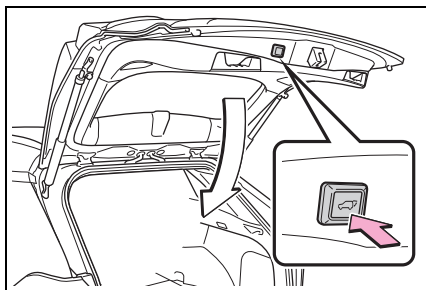


■ バックドアのスイッチを使用して閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

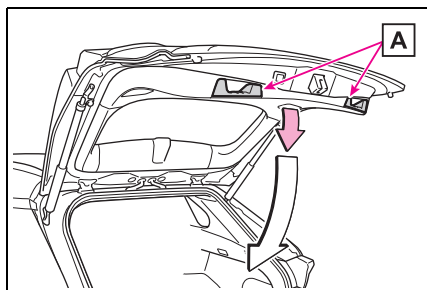
バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



■ バックドアハンドルを使用して閉じる

バックドアハンドル **A** を持って
バックドアを引き下げる

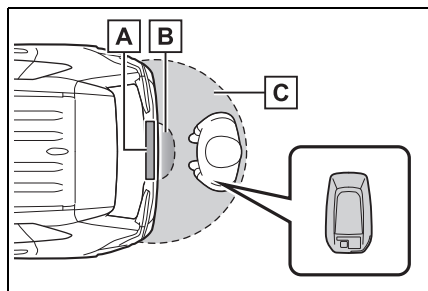
ブザーが鳴りバックドアクローズアシスト機能 (→P.197) が作動し、バックドアが自動で閉まります。



■ キックセンサーを使用して開閉する (ハンズフリーパワーバックドア)

リアバンパー中央の下部に足を近づけて離す動作をすることで、バックドアを自動で開閉することができます。キックセンサーを使用して開閉するときは、パワースイッチが OFF、かつハンズフリーパワーバックドアの作動が ON で (→P.173)、電子キーを携帯していることを確認してください。

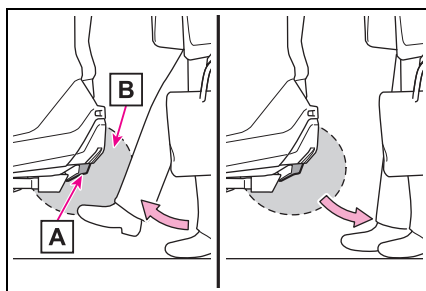
- 1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動範囲内でリアバンパーから約 30 ~ 50cm 離れた位置に立つ



- A** キックセンサー
- B** ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア
- C** スマートエントリー&スタート

システム作動検知エリア (→P.204)

- 2 足をリアバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて、ブザーが 1 回鳴ったあと足を引く
 - ・足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
 - ・足先をリアバンパーの下に入れたままでは作動しません。
 - ・リアバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
 - ・車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなる場合があります。
 - ・ブザーが 2 回鳴った場合は、再度足を近づけて引く動作を行ってください。



- A** キックセンサー
 - B** ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア
- 3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

作動が停止した状態から再度操作をすると、バックドアは反転作動します。

知識

■ ラゲージルームランプ

- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ バックドアアイズークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアアイズークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、バックドアアイズークローザーは作動します。

■ パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

- パワーバックドアの作動が ON のとき (→P.173)
- バックドアが解錠されているとき
ただし電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押し続けたときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。(→P.195)
- パワースイッチが ON のとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 未満で次のいずれかの条件を満たす必要があります。
 - ・ パーキングブレーキがかかっている
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいる
 - ・ シフトレバーが P の位置にある

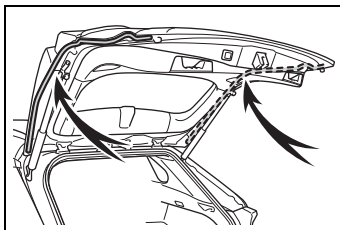
■ パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。
- パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しません
が手動で開閉できます。
- パワーバックドアが自動で開いている

ときに、人や異物などにより異常を感じると、作動が停止します。

■ 挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■ 落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■ バックドアクローズアシスト機能

バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動し、自動で全閉します。

■ 予約ドアロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

- 1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてスマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う (→P.188)、またはワイヤレスリモ

コンによる施錠操作を行う
(→P.188)

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

- ハンズフリーパワーバックドアの作動が ON のとき (→P.173)
- パワースイッチが OFF のとき
- 電子キーが作動範囲内にあるとき (→P.204)
- 足をリヤバンパー中央の下部に近付けて離す動作をしたとき (手やひじ、ひざなどでも作動します)

■ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
- リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき

リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

- 人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき
- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき (→P.205)
- 外部電源から駆動用電池を充電しているときや、普通充電ケーブルを接続しているとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき
- リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドアの作動を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、ハンズフリーパワーバックドアの作動を OFF にしてください。(→P.173)

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量

の水がかかっているとき

- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリ用品やカーカバーの着脱作業をしたとき
- けん引されるとき

■補機バッテリーを再接続したとき

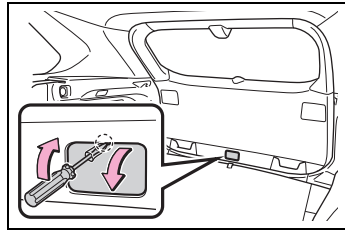
パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全開にしてください。

■バックドアが開かないとき

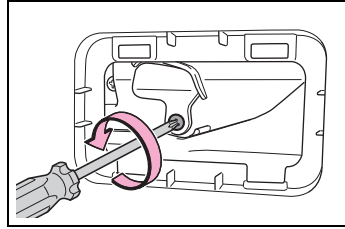
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1 カバーをはずす

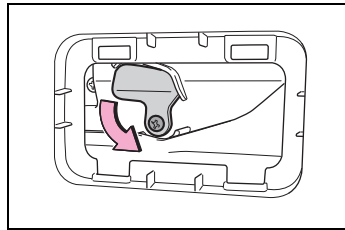
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



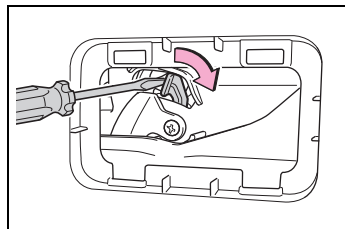
2 ネジをゆるめる



3 カバーをまわす



4 レバーを押す



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

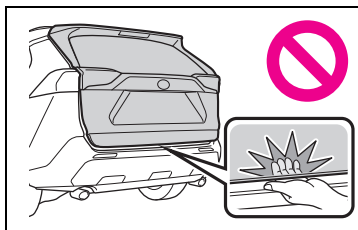
■カスタマイズ機能

パワーバックドアの全開時の開度などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P.504)

警告

■バックドアアイズクローザーについて

- バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアアイズクローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- バックドアアイズクローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- 自動開閉中に作動条件（→P.197）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- ・自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

警告

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ ハンズフリーパワーバックドアについて

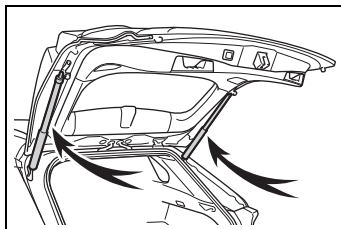
ハンズフリーパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする際は、排気管にふれないように注意してください。熱くなっている排気管にふれると、やけどをするおそれがあります。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

注意

■ スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ バックドアアイズクローザーの故障を防ぐために

バックドアアイズクローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアアイズクローザーの故障の原因になります。

■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

注意

- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.197）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。


■ ハンズフリーパワーバックドアについて


キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない
- リヤバンパーに草木など動くものを近付けない
リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・ キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドアの作動を OFF にする

パワーバックドアの設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの  画面から、「車両設定」を選択し、「PBD」画面を表示することで、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.171）

パワーバックドアの設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  画面での設定操作が必要です。

バックドア自動開停止位置調整について

パワーバックドアを自動で開けた

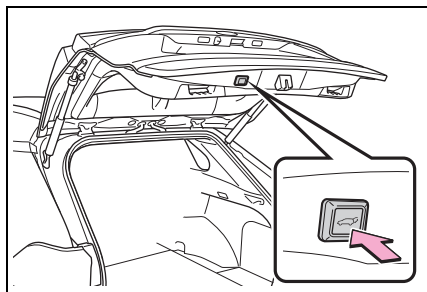
ときに、開く位置を調整できます。

- 1 バックドアをお好みの位置で停止させる (→P.194)
- 2 バックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

バックドア下部のスイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

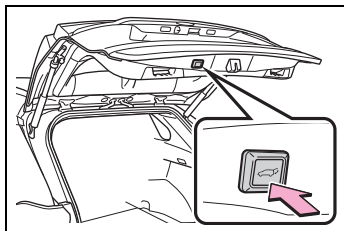


知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続けてください。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。(→P.171)

スマートエントリー&スタートシステム

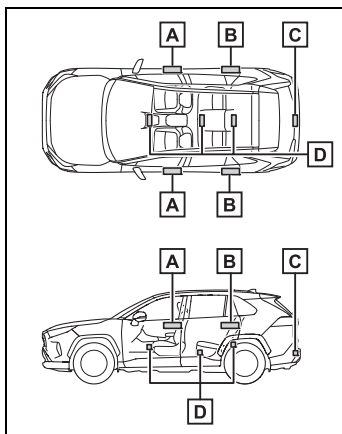
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する ※
(→P.188)
- バックドアを施錠・解錠する
※ (→P.194)
- ハイブリッドシステムを始動する (→P.261)

※ ドアを解錠・施錠すると、充電リップ・普通充電コネクタもロック・アンロックされます。(→P.88)

知識

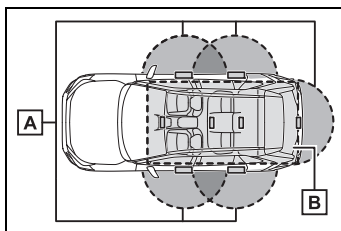
■ アンテナの位置



- A** 車外アンテナ (フロントドア)
- B** 車外アンテナ (リヤドア)
- C** 車外アンテナ (バックドア)

D 車室内アンテナ

■ 作動範囲 (電子キーの検知エリア)



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・リヤドアのドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- 車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能


長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。また、解錠時に室内灯が点灯しない場合があります。
 - ・車の外約3.5m以内に電子キーを40秒以上放置した
 - ・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

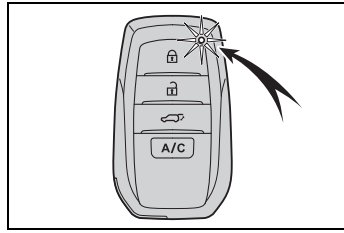
■電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、

 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箱などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箱を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CDやDVDなどのメディア

- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合
- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

- ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する
- ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.186）

また、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.481 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子

キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている

- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では施錠・解錠できません。（リヤドアハンドルにセンサーが装着されている車両では、電子キーを検知しているドア以外でも、施錠のみ行えます）
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動することができます。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できません）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

- ・ キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
- ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.205）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ハンドル下側のロックセンサーで操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■ 降車オートロック機能^{*1} についてご留意いただきたいこと

- ^{*1} トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。
- 車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.189）

乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

- 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車

オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

- すべてのドアを閉めたあと（パワーバックドア閉作動中も含む^{*2}）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
 - ・ ブレーキペダルを踏む
 - ・ パワースイッチを押す
 - ・ 降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉（パワーバックドア閉作動開始も含む^{*2}）してください。

- 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。^{*2}
- すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。^{*2}

- 電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.189）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
 - ・ いずれかのドアを開ける
 - ・ ブレーキペダルを踏む
 - ・ パワースイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

- 降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.189）ときは、施錠さ

れていないドアのドアハンドルを握ってください。

- 降車オートロック機能を一時的に非作動にする (→P.189) ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。
- *² パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能 (→P.189) の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.503)
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.205)

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ 電子キーが正常に働かないとき

- ドアの施錠・解錠 (→P.480)
- ハイブリッドシステムの始動 (→P.481)

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P.503)

カスタマイズ機能でスマートエントリー

&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.188, 480)
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.481
- ハイブリッドシステムの停止：P.263

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について (スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ (→P.204) から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

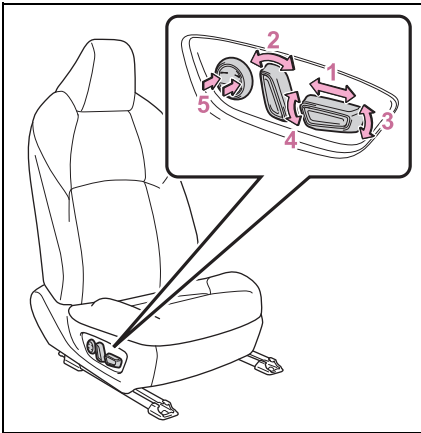
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.25)

調整するには



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端の上下調整（運転席のみ）
- 4 シート全体の上下調整（運転席のみ）
- 5 腰部位置調整（運転席のみ）

知識

■シートを調整するとき

ヘッドレストが天井やサンバイザーなどにあたらないよう注意してください。

警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

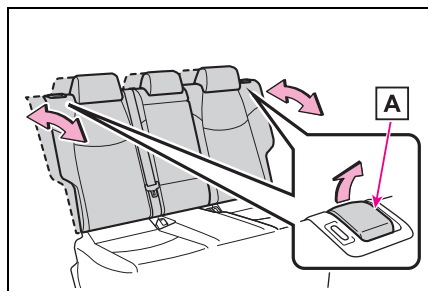
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

レバーの操作で、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

リクライニング調整レバー**A**を引いて、背もたれを調整します。



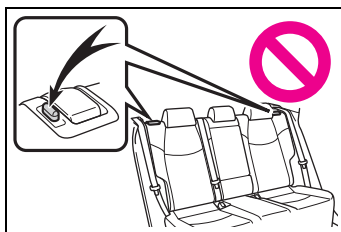
警告

■ 背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートのあいだや動いている部分に手を近づけないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。

- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



背もたれを倒すには

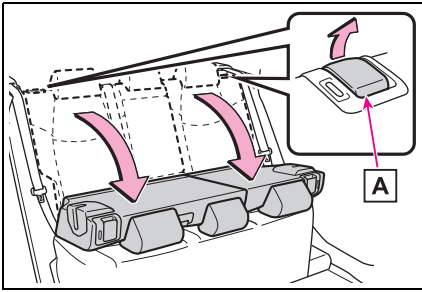
■ 背もたれを倒す前に

- 1 車を安全な場所に駐車する
パーキングブレーキをかけ (→P.269)、シフトレバーをPにします。
(→P.266)
- 2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する
(→P.209)
- 3 リヤシートのヘッドレストを下げる (→P.214)
- 4 リヤシートのアームレストを引き出ししている場合は、格納する
(→P.394)

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

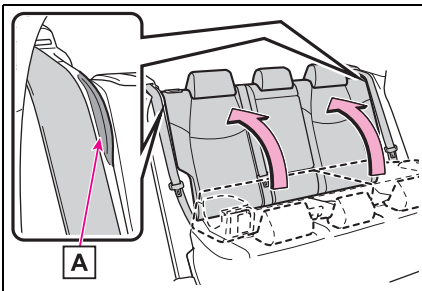
■ 背もたれを倒す

リクライニング調整レバー**A**を引きながら、背もたれを倒す



■ 背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイド^Aにかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



▲ 警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

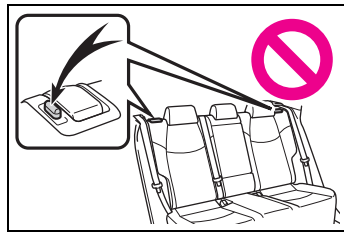
■ 背もたれを前倒しするときや、前倒したあとは

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動で運転席を動かし、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、2パターンまで登録できます。

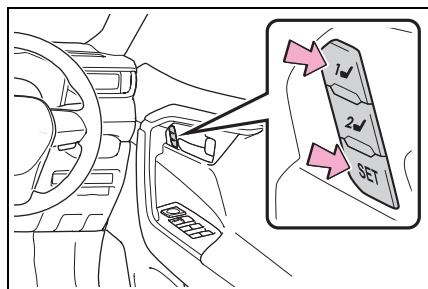
ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

ドライビングポジションを登録する／呼び出すには

■ 登録方法

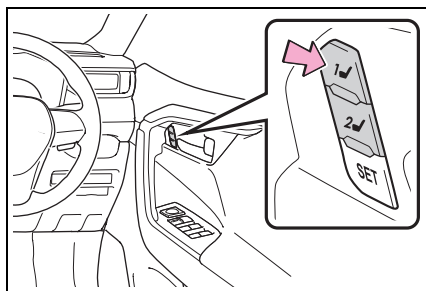
- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチをONにする
- 3 運転席をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、またはSET ボタンを押したあと3秒以内に1、2のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



■ 呼び出し方法

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチをONにする
- 3 1、2のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



□ 知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1、2のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する

■ 登録できるシート位置 (→P.209)

腰部位置調整以外の位置が登録できます。

■ パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて180秒以内、または運転席ドアを閉めて60秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ ポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■ 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

電子キーにドライビングポジションを登録／呼び出し／解除するには（メモリーコール機能）

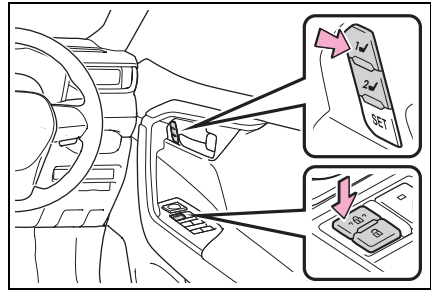
■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1、2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1、2）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートが登録されたポジションへ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートは動きません。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

□ 知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.505)

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

▲ 警告

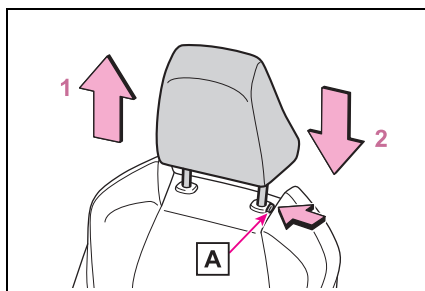
■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロント席

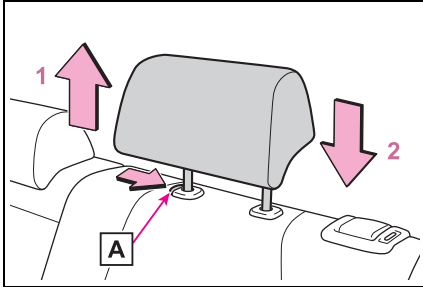


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

■ リヤ席



1 上げる

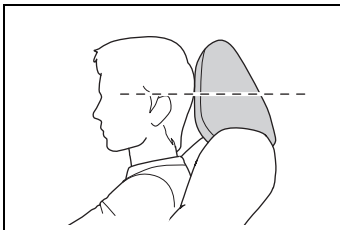
2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しなが
ら操作します。

□ 知識

■ ヘッドレストの高さについて（フロント ト席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちば
ん上あたりになるよう調整してください。



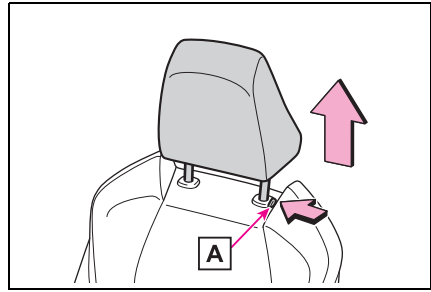
■ リヤ席について

使用するときには、常に格納位置から一段
上げた位置にしてください。

■ ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタン **A** を押しながらヘッド
レストを引き上げる

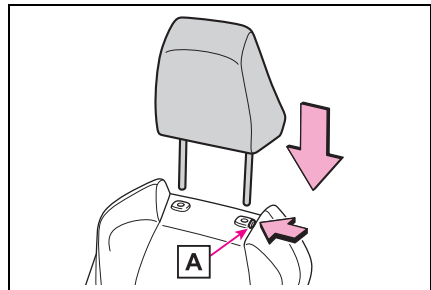
ヘッドレストが天井にあたって取りはず
しにくいときは、シートの高さや角度を
かえてください。（→P.209）



■ ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わ
せて、ロック位置まで押し上げる

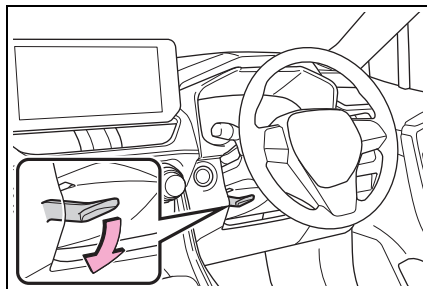
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を
押しながら操作してください。



ハンドル

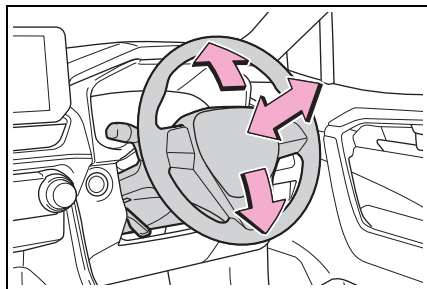
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

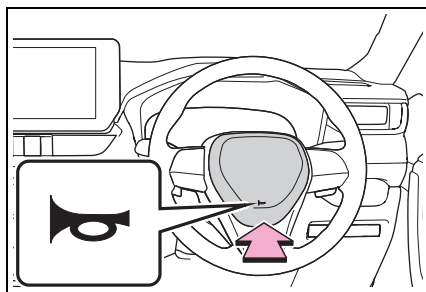
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



デジタルインナーミラー (前後方録画機能付)

デジタルインナーミラー (前後方録画機能付) の概要

デジタルインナーミラー (前後方録画機能付) で次のことができます。

■ デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する運転補助装置です。ディスプレイスイッチを操作することで、光学ミラーモードとデジタルインナーミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

■ 前後方録画機能

車両前後のカメラで撮影した映像をデジタルインナーミラー内の microSD カードに録画します。

お使いになる前に

- 本機はパワースイッチが ON のあいだ常時映像を録画する装置ですが、すべての状況において録画することを保証したものではありません。
正常に録画できなかった場合や、録画データが破損していた場合による損害については、トヨタは一切の責任を負いません。
- 本機は、事故などの検証時に役

立つことを目的の一つとしていますが、証拠としての効力を保証するものではありません。

- 本機は常時録画型の映像録画装置です。
- microSD カードがセットされていることを必ず確認してください (→P.227)。microSD カードがセットされていないと、映像が録画されません。また、microSD カードの保存容量をこえると、映像が書き込まれません。必要な映像については、パソコンに保存するなどして保護してください。
- 本機で録画した映像は、その使用目的や使用方法によっては、被写体のプライバシーなどの権利を侵害する場合がありますのでご注意ください。いたずらなどの目的のためには使用しないでください。これらの場合についてはトヨタは一切責任を負いません。
- 録画した映像から信号機の状態が必ず確認できることを保証した装置ではありません。
環境によって信号機の状態が確認できない場合は、前後の映像や周辺の車両の状況からご判断ください。信号機の状態が確認できない場合があっても、トヨタは一切の責任を負いません。
- LED 式信号機の場合は目に見えない速さで点滅しているため、点滅して録画される場合があります。信号が映っていない場合は前後の映像や周辺の車両の状

況からご判断ください。LED 式信号機が映らない場合があっても、トヨタは一切の責任を負いません。

● 免責事項について

お客様または第三者が、本機の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合または本機の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、トヨタは一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

● 著作権について

- ・ 録画・撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- ・ 鑑賞・興行・展示物など、個人として楽しむ目的でも撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。

□ 知識

■ デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）の作動条件

パワースイッチが ON のとき、かつ前後方録画機能を ON にしているとき（→P.229）

いったん前後方録画機能を ON / OFF すると、次回パワースイッチを ON にしたときにも、そのままの状態が続きます。

パワースイッチを ON から OFF にすると、数秒後に表示が消えますが、前後方録画機能はパワースイッチを ON から OFF にした直後に停止します。

■ ディスプレイに表示される映像が見えにくかったり、鮮明な映像が撮影できなくなる状況について

- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫

感が気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

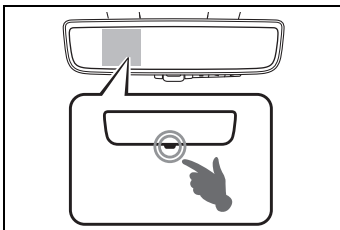
- フロントウインドウガラスまたはリヤウインドウガラスに水滴が付いているときや、汚れているときなどは、鮮明な映像を表示や録画できない場合があります。フロントウインドウガラスまたはリヤウインドウガラスの外側に水滴が付いていたり汚れているときは、ワイパーやウォッシャー（→P.282, 284）で水滴や汚れを取り除いてください。
 - 映像への不要な映り込みが発生しないように、フロントウインドウガラスおよびリヤウインドウガラスのカメラ周辺やダッシュボード上には何も取り付けたり、貼り付けたり、置いたりしないで下さい。正常な映像が録画できないおそれがあります。
 - バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されなかったり、映像を正しく撮影できません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
 - パノラマムーンルーフ装着車：太陽光等が反射して、ディスプレイが見えにくい場合は、電動サンシェードを閉めてください。
 - 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 映像の色と実際の色が異なって見える
 - ・ 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
 - ・ 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する
- 映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

■ご留意いただきたいこと

- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいつと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。
- カメラレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なって見えることがあります。
- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。ディスプレイスイッチを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。



■ミラー内のディスプレイにメッセージが表示されたときは

→P.237

■お車を手放すときや、microSD カードを交換したときは

microSD カードに保存された録画データには個人情報が含まれている可能性があります。

個人情報保護のため、microSD カードの管理について次のことをおすすめします。

- お車を手放すときは、本機から

microSD カードを取り出ししておく

- microSD カードの交換などで本機から取り出した microSD カードは、お客様自身で保管する
- microSD カードが不要になった場合は、保存されている録画データを完全に消去、もしくは、microSD カードをハサミなどで切断した上で処分する

▲警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

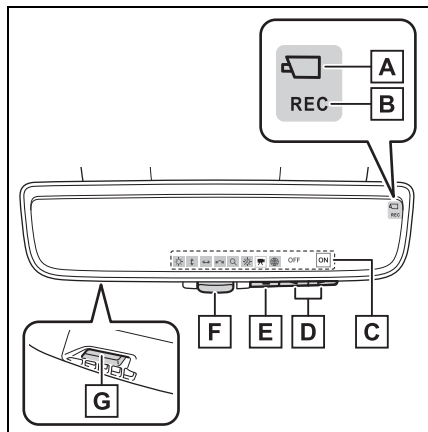
■デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）をお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→P.228）
 - ・ 光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
 - ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- 安全のため、デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）はできるだけ走行中に操作しないでください。デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）は、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中はディスプレイを見続けしないでください。
- ディスプレイに表示される映像と光学ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

警告

- 故意に危険な運転をすることによって、前後方録画機能の作動をテストしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

各部の名称



A カメラインジケータ

デジタルインナーミラーシステムの作動状態を示します。

☐点灯時：デジタルインナーミラーシステムが正常に作動していることを示します。

⚠点灯時：デジタルインナーミラーシステムに異常が発生していることを示します。(→P.233)

B REC インジケータ

正常に録画していることを示します。

C アイコン表示エリア

調整アイコン (→P.229)・調整ゲージが表示されます。

D 選択/調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

E メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

F ディスプレイスイッチ

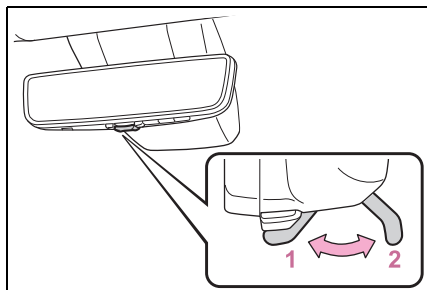
デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

G microSD カード挿入口

microSD カードの出し入れを行います。

モードを切りかえるには

ディスプレイスイッチを操作することで、デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに☐が表示されます。

2 光学ミラーモード

映像が消え、光学ミラーとして使用できます。

前後方録画機能について

車両の前後に装着されているカメラで撮影した映像が microSD カードに録画されます。本機は、次の 4 種類の録画機能を備えています。

- 常時録画 (→P.221)

パワースイッチが ON のあいだ常時録画されます。

- 衝撃検知録画 (→P.221)

一定以上の衝撃を検知したとき、自動的に録画されます。

- 手動録画 (→P.221)

手動操作により、任意のタイミングで録画できます。

- 静止画撮影 (→P.222)

手動操作により、任意のタイミングで静止画の撮影ができます。

録画するには

録画中はディスプレイに REC インジケーター (→P.220) が表示されます。

■ 常時録画

パワースイッチを ON にすると、自動的に録画が開始されます。

パワースイッチを OFF にすると、録画が停止されます。

- 常時録画の録画時間は、約 230 分です。

録画状態によっては、録画時間が短くなったり長くなったりする場合があります。

- 録画データは、前方映像と後方映像が別ファイルとしてそれぞれ 1 ファイル約 1 分の長さで保存されます。


- microSD カードの録画領域がなくなると古い日時のファイルから順に消去され、録画が継続されます。
録画した映像を残しておきたい

場合は、パソコンに保存しておくなどの対応をお願いします。

- 必要に応じて、録画機能を停止することもできます。
(→P.229)

■ 衝撃検知録画

常時録画中に、一定以上の衝撃や衝撃に近い状態 (SRS エアバッグの作動および急ブレーキ、急ハンドルなど) が発生した時に録画が開始されます。

衝撃検知録画中はディスプレイに  が表示されます。

- 衝撃検知録画は、衝撃検知前の約 12 秒間、衝撃検知後の約 8 秒間の約 20 秒間の映像が保存されます。


衝撃検知のタイミングによっては、合計録画時間が最大約 80 秒になる場合があります。

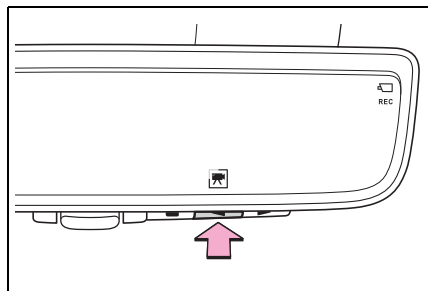
- 衝撃検知録画は前方映像と後方映像が別ファイルとしてそれぞれ 10 件まで保存できます。10 件をこえると古いファイルから順に消去され、録画が継続されます。録画した映像を残しておきたい場合は、パソコンに保存しておくなどの対応をお願いします。



- 衝撃検知録画開始時、静止画も同時に保存されます。

■ 手動録画

常時録画中に選択スイッチの

 を押すことで、任意のタイミングで録画できます。







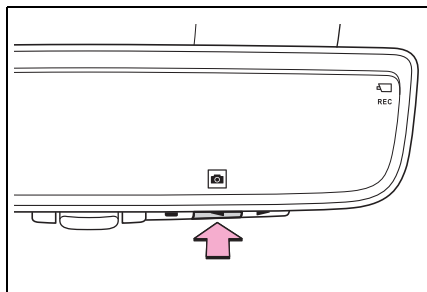
-  を押す前の約 12 秒間、押したあとの約 8 秒間の約 20 秒間の映像を保存します。手動録画のタイミングによっては、録画時間が最大約 80 秒になる場合があります。
- 手動録画が終了すると、常時録画にもどります。
- 手動録画中はディスプレイに  が表示されます。
- 衝撃検知録画中 (→P.221) は、手動での録画は行えません。
- 調整アイコン (→P.229) の表示中は、手動での録画は行えません。
- 手動録画は前方映像と後方映像が別ファイルとしてそれぞれ 20 件まで保存できます。20 件をこえると古いファイルから順に消去され、録画が継続されます。録画した映像を残しておきたい場合は、パソコンに保存しておくなどの対応をお願いします。

す。

- 手動録画開始時、静止画も同時に保存されます。

■ 静止画撮影

常時録画中に選択スイッチの  を押し続けると、ディスプレイに  が表示されます。 が表示されているあいだに  から手を離すと静止画を撮影します。



- 衝撃検知録画中 (→P.221) は、静止画撮影は行えません。
- 調整アイコン (→P.229) の表示中は、静止画撮影は行えません。
- 静止画は前方映像と後方映像が別ファイルとしてそれぞれ 500 枚まで保存できます。500 枚をこえると古いファイルから順に消去されます。撮影した静止画を残しておきたい場合は、パソコンに保存しておくなどの対応をお願いします。

録画データについて

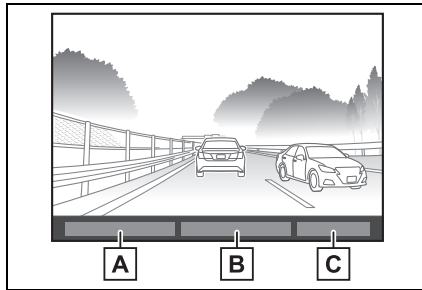
■ 録画データを再生するには

本機から取り出した microSD カードをパソコンに挿入し、各ファイルの形式 (→P.239) に対応した動画プレイヤーで再生できます。

- 動画プレイヤーの使用方法については、ご使用になる動画プレイヤーに付属の取扱説明書をお読みください。
- ご使用になる動画プレイヤーによっては、再生できない場合もあります。
- microSD カードの取り出し方については、P.227 を参照してください。

■ 再生時の情報表示について

録画データを字幕対応の動画プレイヤーで再生すると、次の情報が表示されます。



ご使用になる動画プレイヤーによっては、再生時の情報表示位置が上図と異なる場合があります。

■ A 位置情報表示部

GPS 測位した情報から録画時の位置情報を表示します。

■ B 日付／時刻表示部

録画時の年／月／日と時刻を表示します。

■ C 車速表示部

録画時の車速を表示します。

■ 録画データのファイル形式について

録画データ	ファイル形式
常時録画映像	MP4 (MPEG-4)
衝撃検知録画映像	
手動録画映像	
静止画	JPG

■ 各録画データのフォルダ構成について

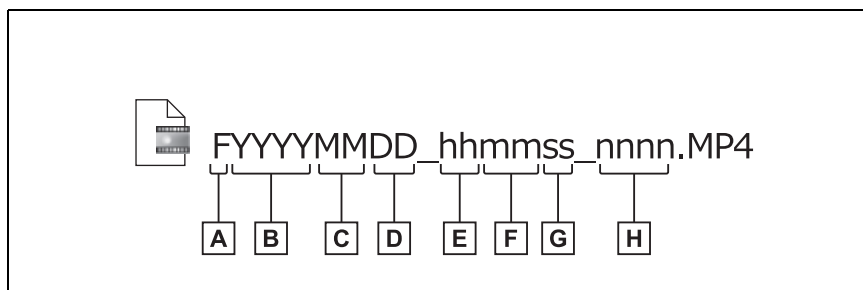
microSD カードに録画されたデータは、録画機能ごとのフォルダに保存されます。ファイル名は年月日と時間が自動的に付与されます。

● フォルダの構成について

フォルダ名	保存内容
FRONT_CAMERA	前方カメラ (→P.231) の各種映像を保存するフォルダが構成されます。
REAR_CAMERA	後方カメラ (→P.231) の各種映像を保存するフォルダが構成されます。
NORMAL	常時録画 (→P.221) による映像を保存します。
EVENT	衝撃検知録画 (→P.221) による映像を保存します。
MANUAL	手動録画 (→P.221) による映像を保存します。
PICTURE	衝撃検知記録、および手動記録 (→P.222) による静止画を保存します。

● ファイル名の表記について

・ 常時録画により保存されたファイル



A F：前方カメラ R：後方カメラ

E 時

B 年

F 分

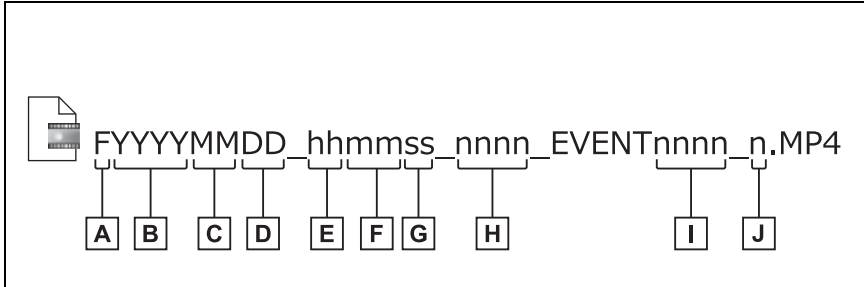
C 月

G 秒

D 日

H 通し番号

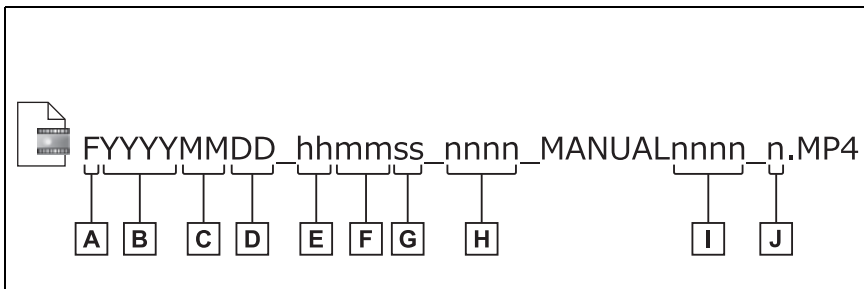
・ 衝撃検知録画により保存されたファイル



- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| A F：前方カメラ R：後方カメラ | F 分 |
| B 年 | G 秒 |
| C 月 | H 録画映像全体通し番号 |
| D 日 | I EVENT 録画通し番号 |
| E 時 | J ファイル番号※ |

※ 1つの衝撃検知録画に対してファイルが2つ保存される場合があります。その際にファイル番号が付与されます。(最大2つまで)

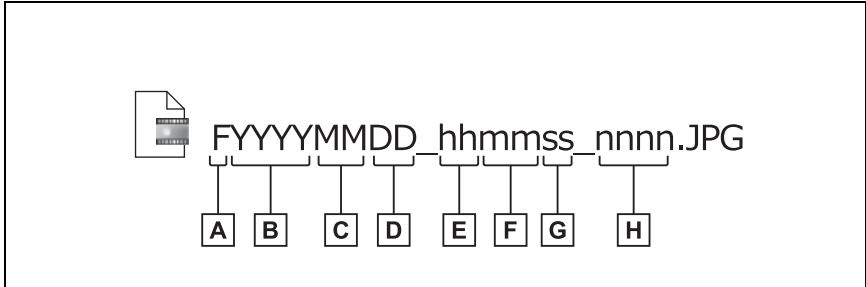
・ 手動録画により保存したファイル



- | | |
|--------------------------|------------------------|
| A F：前方カメラ R：後方カメラ | F 分 |
| B 年 | G 秒 |
| C 月 | H 録画映像全体通し番号 |
| D 日 | I MANUAL 録画通し番号 |
| E 時 | J ファイル番号※ |

※ 1つの手動録画に対してファイルが2つ保存される場合があります。その際にファイル番号が付与されます。(最大2つまで)

- ・ 静止画撮影により保存したファイル



A F：前方カメラ R：後方カメラ

B 年

C 月

D 日

E 時

F 分

G 秒

H 通し番号

知識

■録画データについて

- デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）は常時録画型の映像録画装置です。microSD カードに保存された録画データがいっぱいになると古い録画データから削除して新しい録画データを上書きします。

事故などで録画データの保存が必要な場合は、すみやかにパワースイッチを OFF にしてから microSD カードを取り出してパソコンに録画データを保存してください。

- 前方カメラと後方カメラで、それぞれ映像のサイズは異なります。後方カメラの録画データはデジタルインナーミラーに表示される範囲を保存

します。

■デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）を正常に作動させるために

- 録画したデータの日時や位置情報を定期的に確認してください。日時がずれているときや位置情報が正しくないときは GPS 情報を正しく受信できていない可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。
- 次のような場合は、録画データが保存されていないことがあります。
 - ・ 本体に microSD カードを挿入していない場合や microSD カードを抜いた場合
 - ・ 古い録画データが新しい録画データによって上書きされてしまった場合
 - ・ 大きな事故や水没などでデジタルインナーミラー（前後方録画機能付）および microSD カードが損傷を受けた場合
 - ・ 大きな事故などでデジタルインナーミラー（前後方録画機能付）の電源コードが断線した場合や、補機バッテリーが損傷を受けた場合
 - ・ フロントウインドウガラス、リヤウインドウガラスのくもりや雪などでカメラの視界がふさがれた場合
 - ・ カメラの前に撮影をさえぎるものを設置した場合
 - ・ REC インジケーター（→P.220）が表示されていない場合

■ 補機バッテリーを脱着したとき

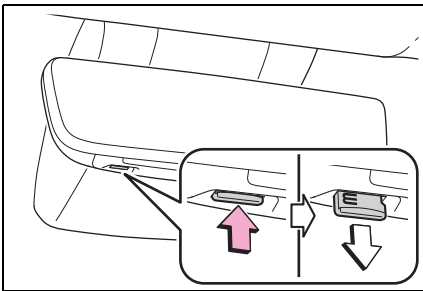
補機バッテリーをはずしたあとは、録画データのファイル名や位置情報で GPS 情報を正しく受信できているか確認してください。

microSD カードについて

本機から microSD カードを出し入れするときは、必ずパワースイッチを OFF にしてください。

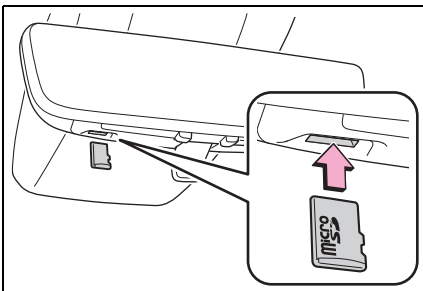
■ microSD カードを取り出す

microSD カードを押して、microSD カードが少し飛び出たら引き抜きます。




■ microSD カードを入れる

microSD のロゴ面を図のように車両後方側にして、挿入口にまっすぐ奥まで挿入します。




■ microSD カードを初期化 (フォーマット) するには


次の操作により、microSD カードを初期化できます。(すべての録画データが消去されますのでご注意ください)

- 1 常時録画中に選択スイッチの  を約 10 秒以上押し続ける

鏡面に「フォーマットしますか?」と表示されます。

- 2  を押して「フォーマット」を選択する

初期化をキャンセルするときは

-  を押して「キャンセル」を選択してください。

知識

■ microSD カードについて

必ずデジタルインナーミラー（前後方録画機能付）に microSD カードを正しく挿入して使用してください。microSD カードが正しく挿入されていないと録画機能が作動しません。

- microSD カードは、正しい向きで挿入してください。(→P.227)
- デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）に付属の microSD カードを使用してください。市販の microSD カードを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。microSD カードの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(microSD カード品番：8780A-42010)
- 本機で使用する microSD カードは本機・パソコン・スマートフォン以外では使用しないでください。他の機器で使用すると本機で正しく動作しなくな

るおそれがあります。

- 本機で録画される映像や静止画以外のデータを microSD カードに保存しないでください。映像や静止画が正しく保存されないおそれがあります。
- 本機で microSD カードの初期化（フォーマット）を実施する場合は、必ず P.227 の手順で行ってください。本機以外で初期化すると、本機で使用できない、または、映像や画像が正しく保存されないおそれがあります。
- 新しい microSD カードまたは、パソコンやスマートフォンで初期化した microSD カードを挿入すると、鏡面に「フォーマットしますか？」と表示される場合があります。新しい microSD カードまたは、パソコンやスマートフォンで初期化した microSD カードを使用するときは、はじめに本機で microSD カードを初期化してください。（→P.227）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ microSD カードの取り扱いについて

- お子さまにさわらせないでください。部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- microSD カード挿入口に指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ microSD カードの取り扱いについて

破損を防ぐために次のことをお守りください。

microSD カードが破損し、映像を録画できなくなるおそれがあります。

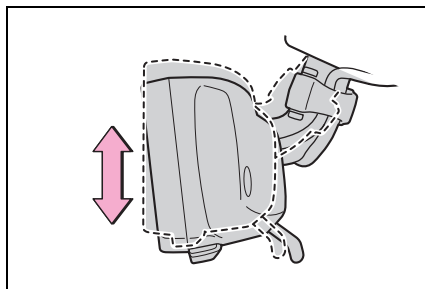
- microSD カードを出し入れする際は、microSD カードを落として紛失しないようご注意ください。万一、車内の隙間に落ちた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラインジケータ / REC インジケータ（→P.221）が表示されているときに microSD カードを抜かないでください。
- microSD カード挿入口に異物を入れないでください。

調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

光学ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



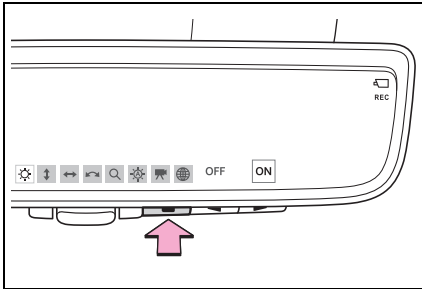
■ ディスプレイの調整・機能の切りかえ

▶ デジタルミラーモード時

デジタルミラーモードの調整、機能の ON/OFF やディスプレイ表示言語の切りかえができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押しして、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 または を押して設定を変更する

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示範囲を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示範囲を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示範囲の傾きを調整することができます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの表示範囲を拡大縮小することができます。
	自動防眩機能の ON / OFF を切りかえることができます。* ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて鏡面の反射光を自動的に低減させます。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	前後方録画機能の ON / OFF を切りかえることができます。
	ディスプレイ表示言語を切りかえることができます。

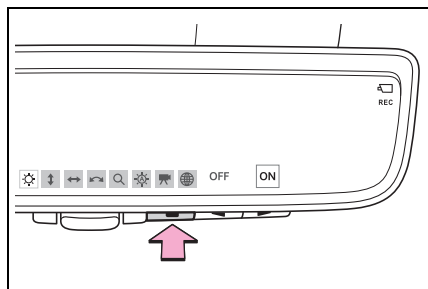
* 光学ミラーモード時の機能ですが、デジタルミラーモード時にも設定できます。



▶ 光学ミラーモード時

光学ミラーモードの自動防眩機能、前後方録画機能の ON / OFF や、ディスプレイ表示言語の切りかえができます。




1 メニュースイッチを押す




調整アイコンが表示されます。



- 2 メニュースイッチをくり返し押しして、調整したい項目（調整アイコン）を選択する
- 3  または  を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.229)
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.229)
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.229)
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.229)
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.229)

調整アイコン	設定内容
	自動防眩機能の ON / OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて鏡面の反射光を自動的に低減させます。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	前後方録画機能の ON / OFF を切りかえることができます。
	ディスプレイ表示言語を切りかえることができます。

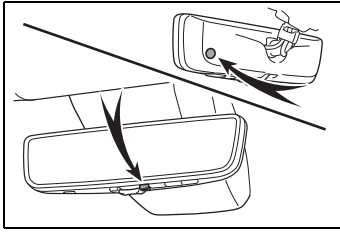
知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわりません。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■ 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをふき取ってください。

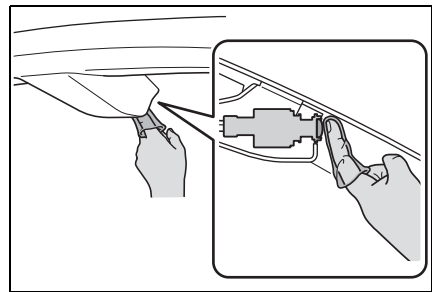
■ カメラのお手入れについて

カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像を表示および録画できません。

水滴やほこりなどが付着したときは水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。

清掃しにくい場合は綿棒を使用してください。

また、清掃する際はフロントウインドウガラスまたはリヤウインドウガラスの内側も同様に清掃してください。

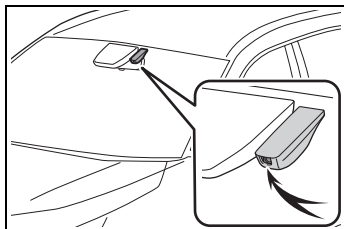


□ 知識

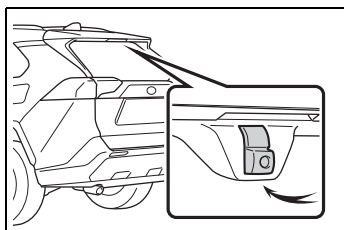
■ カメラについて

デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）のカメラは、図の位置にあります。

▶ 前方カメラ



▶ 後方カメラ



■ 冷却用のファンについて

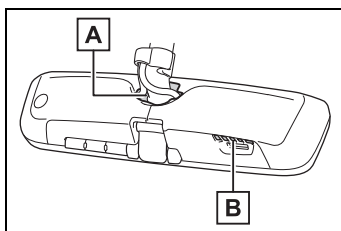
デジタルインナーミラー内には、ミラー冷却用のファンがあります。デジタルインナーミラーの使用中は、冷却用のファンの音が聞こえることがあります。

⚠ 注意

■ デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）の取りはずし・改造・分解・塗装などをしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。
- ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

- ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



A 排気口

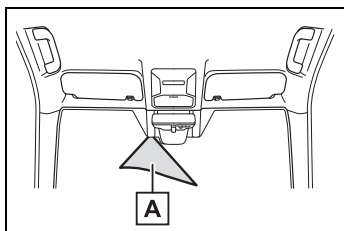
B 吸気口

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - 有機溶剤・ワックス・油膜取り剤・ガラスコーティング剤などが付着したときはすぐにふき取ってください。
 - カメラレンズをふくときは水で湿らせたやわらかい布を使用してください。
 - カメラレンズを強くこするとレンズが傷付いて、鮮明な映像の表示や録画ができなくなるおそれがあります。
 - リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。
- カメラ前部に貼り付けた場合、映像の表示や録画が正しくできなくなる場合があります。

 注意

- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラの撮影範囲内にステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。撮影した映像や画像が欠けるなどの原因になります。



A カメラの撮影範囲内






故障とお考えになる前に

次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ デジタルミラーモードが正常に作動しないとき

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをふき取ってください。
	パノラマムーンルーフ★から強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	電動サンシェード★を閉めてください
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間など暗いところで使用した ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・ カメラ付近の温度が高い、または低い ・ 外気温が低い ・ 雨天時など湿度が高い ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した 	光学ミラーモードに切りかえてください。 (カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください)
	カメラのレンズに水滴・ほこりなどの異物や汚れが付着している	水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。
	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光学ミラーモードに切りかえてください。 ・ 荷物を映り込まない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	リヤウインドウガラスが曇っている	光学ミラーモードに切りかえてください。 リヤウインドウデフォグガー(→P.367)を使用し、曇りが取れてから再びデジタルインナーミラーモードでご使用ください
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	水で湿らせたやわらかい布で清掃してください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に  が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の  が消灯した		
ディスプレイ上に  が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 (ミラーの温度が下がると  が消えます) ミラーの温度が下がっても  が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイスイッチが正常に作動しない	ディスプレイスイッチに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 (メニュースイッチを約 10 秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます)


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 前後方録画機能が正常に作動しないとき

症状	考えられる原因	処置
手動録画・静止画撮影ができない	<ul style="list-style-type: none"> 衝撃検知録画 (→P.221) による録画機能が作動しているとき (最優先動作) 調整アイコンが表示されているとき (→P.228) 	衝撃検知録画の終了後に再度手動録画・静止画撮影の操作を行ってください。
		調整アイコンの表示が消えてから再度手動録画・静止画撮影の操作を行ってください。
microSD カードを初期化 (→P.227) できない	<ul style="list-style-type: none"> 衝撃検知録画 (→P.221) による録画機能が作動しているとき (最優先動作) 調整アイコンが表示されているとき (→P.228) 	衝撃検知録画の終了後に再度 microSD カード初期化操作を行ってください。
		調整アイコンの表示が消えてから再度 microSD カード初期化操作を行ってください。
デジタルインナーミラー (前後方録画機能付) の電源が入らない	システムに異常が発生している	光学ミラーモード (→P.220) に切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
microSD カードに録画データが保存できない	microSD カードが正しく挿入されていない	microSD カードを正しく挿入してください。(→P.227)
	microSD カードに異常が発生している	microSD カードを初期化してください。(→P.227)
	市販の microSD カードを使用している	本機に付属の microSD カードを使用してください。
	デジタルインナーミラー (前後方録画機能付) の温度が非常に高い	エアコンで車内の温度を下げてください。(→P.366)

■ 鏡面にメッセージが表示されたあと が点灯しているとき

それぞれ、次のように対処してください。

再度、メッセージを表示させたいときは  を押してください。

メッセージ	考えられる原因	処置
SD カードを挿入してください	microSD カードが入っていない	microSD カードを挿入してください。(→P.227)
ファイルシステムフォーマット無効 フォーマットしますか？	microSD カードの読み込みエラーが発生している	メッセージと同時に「キャンセル フォーマット」と表示されます。 挿入した microSD カードを本機で使用する場合は「フォーマット」を選択し、microSD カードを初期化(フォーマット)してください。ただし、microSD カード内にデータがある場合は消去されます。
SD カード容量が一杯です 新しい SD カードを挿入ください	microSD カードの空き容量が不足している	microSD カードを初期化する(→P.227)か、新しい microSD カードに交換してください。
ミラー動作温度範囲外	炎天下や極寒の環境などで、デジタルインナーミラー(前後方録画機能付)が作動可能範囲外の温度になっている	エアコンを使用して車内の温度を調節してください。(→P.366)
SD カードの性能が低下しているため、交換してください	microSD カードの性能が低下している	新しい microSD カードに交換してください。
SD カードのデータが壊れた可能性があります。再度挿入してください	パワースイッチが ON のまま microSD カードを本体から取り出した	再度 microSD カードを挿入してください。 「SD カードを取り出す時は車両電源を OFF にしてください」と表示されます。

メッセージ	考えられる原因	処置
車両通信エラー	システムに異常が発生している	トヨタ販売店で点検を受けてください。
フロントカメラ未接続		
リアカメラ未接続		
フロント・リアカメラ未接続		

オープンソースソフトウェアについて

デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）には、以下のソフトウェアが含まれています。

JPEG library version 6b

=====

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane. All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:

- (1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.

(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".

(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

動作環境について

- 録画映像の確認はパソコンで行ってください。デジタルインナーミラー（前後方録画機能付）では録画映像を再生することができません。
- 録画映像はパソコンに内蔵されている一般的な動画プレイヤー（例：Windows Media Player, QuickTime）にて再生可能です。
- 録画データのファイル形式は一般的な MP4/JPEG になります。microSD カードが挿入可能な機種であれば、スマートフォンやタブレットのアプリからでも録画映像を再生できる場合もあります。
- パソコンで microSD カードの初期化をする場合は exFAT ファイルシステムをサポートする OS であることをご確認ください。

次の OS が exFAT をサポートしています。

OS	exFAT サポート
Windows Vista ^{※1}	サービスパック 1 以降でサポートされています。
Windows 7 ^{※1}	サポートされています。
Windows 8 ^{※1}	サポートされています。
Windows 10 ^{※1}	サポートされています。
Windows 11 ^{※1}	サポートされています。

OS	exFAT サポート
Mac OS X ^{*2, 3}	High Sierra か、それ以上を必要とします。
Linux ^{*2, 4}	更新用ドライバーを必要とします。

*¹Microsoft: <https://www.microsoft.com/en-us/legal/intellectualproperty/mtl/exfat-licensing.aspx>

*²HCC Embedded: <https://www.hcc-embedded.com/exfat/>

*³Apple: <https://support.apple.com/ja-jp/guide/disk-utility/dsku19ed921c/16.0/mac/10.13>

*⁴Microsoft: <https://cloudblogs.microsoft.com/opensource/2019/08/28/exfat-linux-kernel/>

2023 年 10 月時点のものであり、変更される場合があります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結している、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグラーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.367)

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

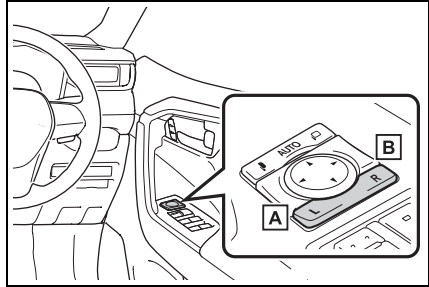
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーヒーターが作動しているとき
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

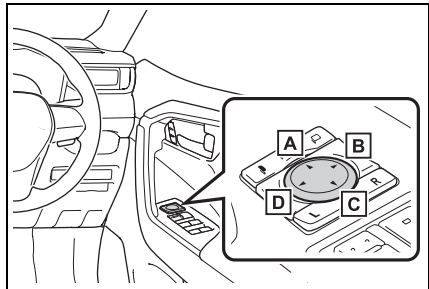
1 調整するミラーを選ぶ



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

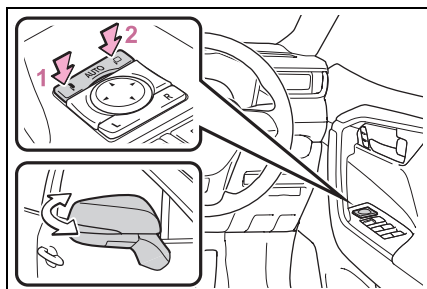
C 下

D 左

知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

ドアミラーを格納するには

- 1 ミラーを格納する
- 2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

 **知識****■カスタマイズ機能**

オート作動の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.505）

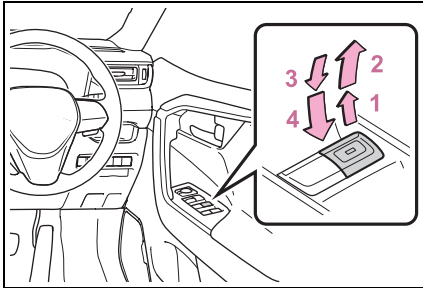
 **警告****■ミラーが動いているとき**

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全閉※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれ

ると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。^{*} (→P.480)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。^{*} (→P.188)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.54)

^{*} トヨタ販売店での設定が必要です。

■ 窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。

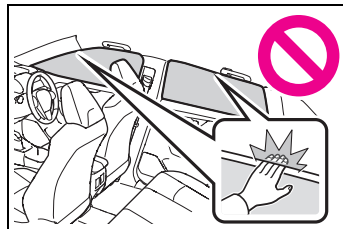
(カスタマイズ一覧：→P.505)

▲ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.245)
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告**■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

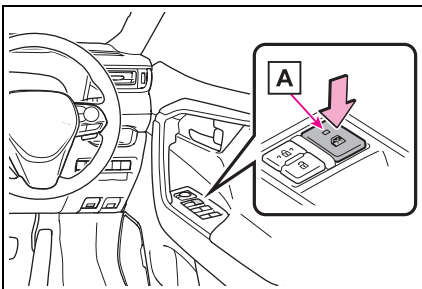
■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケータ **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

**知識****■ 作動条件**

パワースイッチが ON のとき

■ 補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

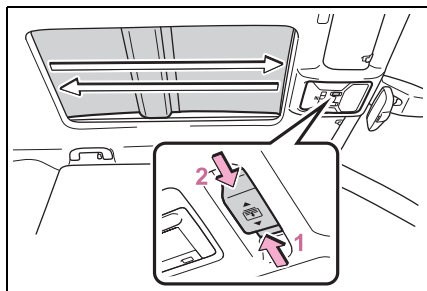
パノラマムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


頭上のスイッチでパノラマムーンルーフと電動サンシェードの操作ができます。

電動サンシェード・パノラマムーンルーフを操作するには


■ 電動サンシェードを開閉するには




1 開ける※

 を▲側に押し続けると、自動で全開します。


2 閉める※

 を▼側に押し続けると、自動で全閉します。

パノラマムーンルーフが完全に閉まっていないときは、電動サンシェードが閉まる前にパノラマムーンルーフが閉まります。


※途中で停止するときは、 をもう一度押します。


■ パノラマムーンルーフをチルトアップ／ダウンするには

チルトアップするには、 ス

イッチを短く押す※

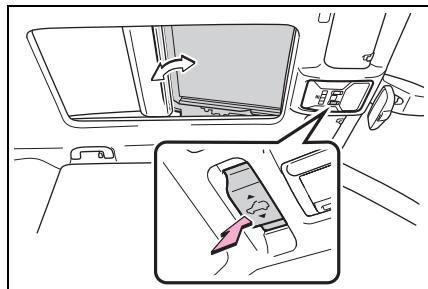
パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分的位置まで開きます。

※途中で停止するときは、 スイッチをもう一度押します。

チルトダウンするには、 ス


イッチを押し続ける

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできません。




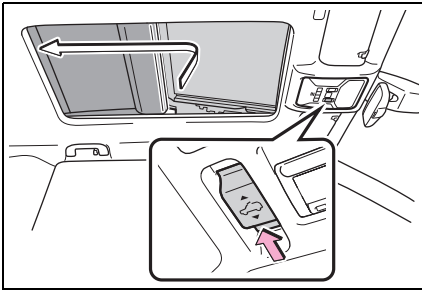
■ パノラマムーンルーフを開閉するには

開ける※


 スイッチを▲側に押すと、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。

チルトアップした状態からでも開くことができます。

※途中で停止するときは、 スイッチをもう一度押します。



閉める

 スイッチを▼側に押すと、パノラマムーンルーフが全閉します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動


パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し少し開きます。

- パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするとき
- 電動サンシェードを閉めるとき

■ パノラマムーンルーフと電動サンシェードの両方を閉じるには

 スイッチを▼側に押す

電動サンシェードがルーフの半分の位置まで閉まったあと、いったん停止し、パノラマムーンルーフが閉じます。その後、電動サンシェードが全閉します。



■ ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでパノラマムーンルーフを開閉できます。* (→P.480)
- ワイヤレスリモコンでパノラマムーンルーフを開閉できます。* (→P.188)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能でパノラマムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.54)

* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

■ パノラマムーンルーフまたは電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

- 1 車を停止する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3  スイッチまたは  スイッチを▼側に押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じ切り作動を開始します。*
- 4 パノラマムーンルーフと電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

* 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パノラマムーンルーフ開警告機能

パワースイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

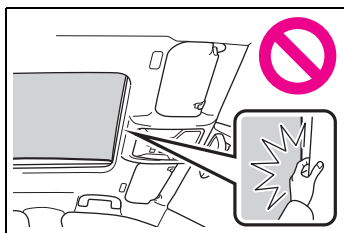
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.505)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 電動サンシェードを開閉するとき

- 電動サンシェードを開閉するとき、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



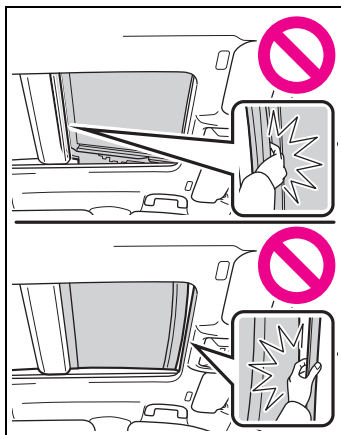
- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ パノラマムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ パノラマムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

 **警告**

- 車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードのすき間にはふれないでください。手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

■ 洗車後や雨が降ったあとなどは

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

 **注意****■ パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために**

- 開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。
- パノラマムーンルーフの表面・端面には、硬いものをぶつけないでください。

5-1. 運転にあたって

運転にあたって	252
荷物を積むときの注意	259

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ	261
トランスミッション	265
方向指示レバー	268
電動パーキングブレーキ	269
ブレーキホールド	273

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	275
AHB（オートマチックハイビーム）	278
リヤフォグランプスイッチ	281
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	282
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	284

5-4. 給油のしかた

給油口の開け方	286
---------------	-----

5-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	288
PCS（プリクラッシュセーフティ）	293
LTA（レーントレーシングアシスト）	303
RSA（ロードサインアシスト）	312
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）	314
先行車発進告知機能	324
ドライバー異常時対応システム	326

BSM（ブラインドスポットモニター）	331
クリアランスソナー	339
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	345
パーキングサポートブレーキ（静止物）	349
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	351
ドライブモードセレクトスイッチ	353
トレイルモード	354
運転を補助する装置	356

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	362
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ 乗車前の確認事項

普通充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないことを確認する
(→P.104, 136)

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.261

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.265)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.269)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.271)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.269)

長時間停車する場合は、シフトレバーをPにします。(→P.265)

■ 駐車する

- 1 車を完全に停止させる

- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.269)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 3 シフトレバーをPにする
(→P.265)

シフトポジションをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する
- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.265)
- 2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける (→P.269)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏んで発進する

パーキングブレーキ自動解除機能
(→P.271)

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P.356)

■ 電気・燃料を節約する走り方

この車のシステム特性を理解し、ハイブリッドシステムの各機能を活用してくだ

さい。また、急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけも必要です。「プラグインハイブリッド車運転のアドバイス」(→P.73)を参照してください。

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド(→P.168)

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ減速の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について(ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

→P.162

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケータが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

 **警告****■ 運転するとき**

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.442 を参照してください。
 - 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.265)
 - 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・デジタルインナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
 - すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
 - オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした4WD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
 - 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するとき**
- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

警告

● 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

● シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

● 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

● アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

● 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

警告

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておく、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやフロントドアガラス・リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。

- 車から離れるときは、必ずシフトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけて、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

タイヤがパンクした場合の対処法はP.459, 471を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化

注意

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

●駆動用電池に接続されている構成部品

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- Rに切りかえたとき※
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRCの作動を停止(→P.357)すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRCの作動を停止してください。(→P.357)

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

- ・トレイルモードをONにしているとき
- タイヤがスリップ(空転)していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御のON(作動)/OFF(非作動)を切りかえることができます。(→P.499)
- ・パワースイッチをONにしたときは、後退速度の抑制制御は常にON(作動)になっています。
- ・後退速度の抑制制御をOFF(非作動)にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

- 次の場所には荷物を積まないでください。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

- ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こし思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ルーフレールを使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2つ以上のトヨタ純正キャリアを装着してください。トヨタ純正品以外を装着される場合は、トヨタ純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。
- 車両の大きさ（全長・全幅）をこえる荷物を積まないでください。
- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

 **警告**

- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行・急加速・急旋回・急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、ときおり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 80kg以上の荷物を積まないでください。

 **注意****■ 荷物を積むとき**

パノラマルーフ★に荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 普通充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないことを確認する（→P.104, 136）
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.269）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

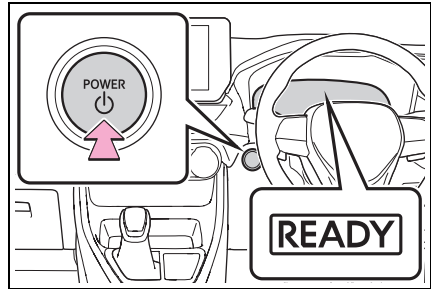
- 3 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏みマルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。
- 5 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



- 6 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

■ パワースイッチ文字照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ文字照明が切りかわります。

- 運転席または助手席ドアが開いているときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチがOFFのとき、電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ文字照明が点滅します。
- パワースイッチがACCまたはONのときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチをACCまたはONからOFFにしたときは、パワースイッチ文字照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

■ ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.53）トヨタ販売店へご連絡ください。

● 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ 外気温が低いとき

● ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなる場合があります。READYインジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

● 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.64

■ 補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.482を参照してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P.184

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.205

■ ご留意いただきたいこと

→P.206

■ スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシ

テム故障 取扱書を確認」が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READYインジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッドシステムに異常があるとき

→P.72

■ 電子キーの電池交換

→P.426

■ パワースイッチの操作について

● スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

● パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.481を参照してください。

警告

■ ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ ハイブリッドシステムを始動するとき**

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
 - 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける (→P.269)
- メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。
- 3 シフトレバーを P の位置にする (→P.266)

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 4 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。

パワースイッチを押すときは、シフトレバーから手を離してください。

- 5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」や「イグニッション ON」の表示が消灯していることを確認する

 警告**■ 緊急時のハイブリッドシステム停止方法**

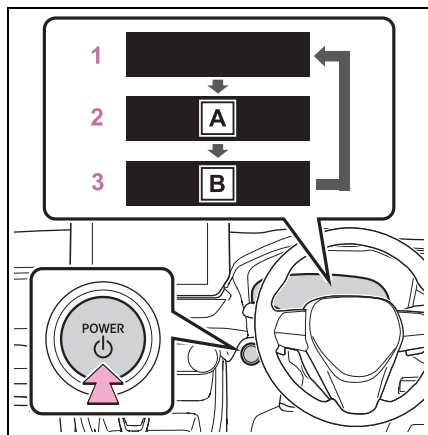
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押ししてください。(→P.442)

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、パワースイッチを短く確実に押ししてください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A アクセサリー

B イグニッション ON

1 OFF*

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリ」が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

*シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは ON のままになり、OFF になりません。

知識

■ 自動電源 OFF 機能

●シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、約 20 分以上パワースイッチを ACC または ON (ハイブリッドシステムが始動していない状態) のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

●シフトポジションが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、ACC または ON (ハイブリッドシステムが作動していない状態) にしたままで補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。

次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されていることを確認し、パワースイッチを短く確実に押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」または「イグニッション ON」の表示が消灯していることを確認する

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチは ON のままになるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

トランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2 (→P.267)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

※2 S モードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- Sモードで走行中にS5またはS4レンジにシフトダウンしたとき（→P.267）
- Dポジションで走行中に走行モードをス

スポーツモードにしたとき (→P.353)

■ ドライブスタートコントロールについて

→P.258

警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

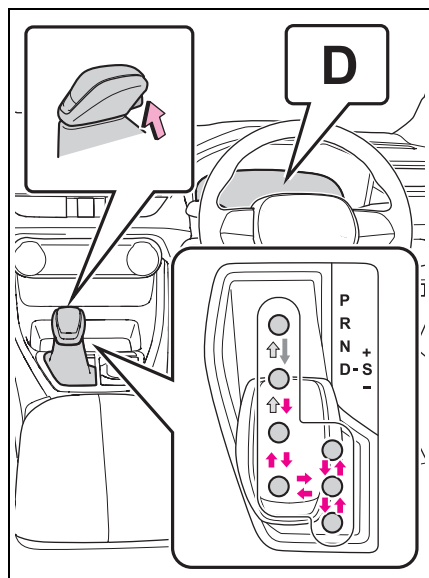
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■ 駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



← パワースイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。*

← シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

← シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

* シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

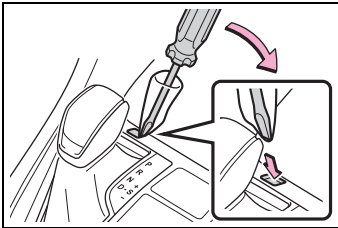
■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

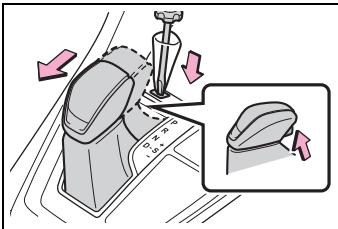
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する (→P.269)
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

シフトロック解除時の事故を防ぐために

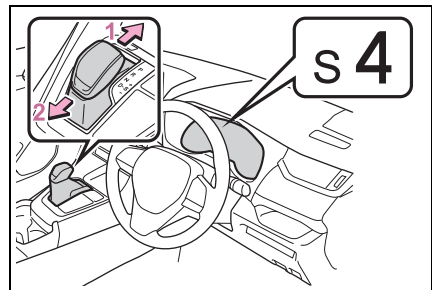
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.353

Sモードでのシフトレンジ選択

シフトレバーをSポジションにすると、Sモードに切りかわります。シフトレバーの操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます。シフトレバーの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



- 1 シフトアップ
- 2 シフトダウン

S1 から S6 のあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、S4 に設定されます。^{*}

^{*} 走行モードがスポーツモードのときは、S3 に設定されます。(→P.353)

知識

■ S モードについて

- 加速力・エンジブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- S1 または S2 レンジのとき、エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。
- S4 レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると S6 レンジに設定されます。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

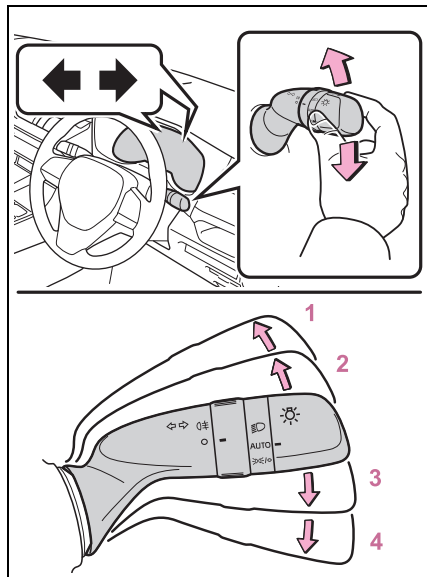
■ シフトレバーを S にしても、シフトポジション表示に S が表示されないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

- 4 右折

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

各方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

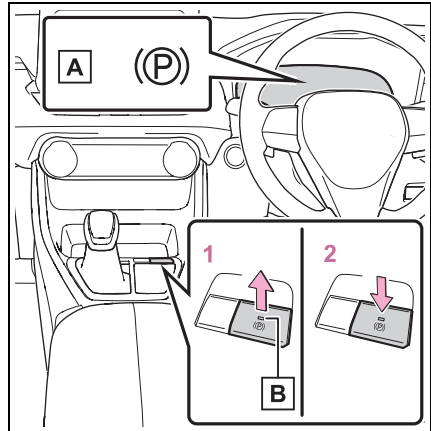
自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

B パーキングブレーキスイッチランプ

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプが点灯します。緊急時、走行中にパーキングブレーキを

かける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

(→P.271)

解除後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプが消灯します。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.453)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキス

イッチランプが消灯します。

- シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプが点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。

(→P.269)

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける



知識

■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手で解除してください。

オートモードではシフトレバーを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- シフトレバーが P もしくは N 以外の位

置にある

- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

■ マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください」と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプについて

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプが点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプが約 15 秒間点

灯したままになります。異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.252

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。(車速が 5km/h をこえたとき)

■ ブレーキ警告灯が点灯したとき

→ P.449

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.363

⚠ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてください。
車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.482)

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

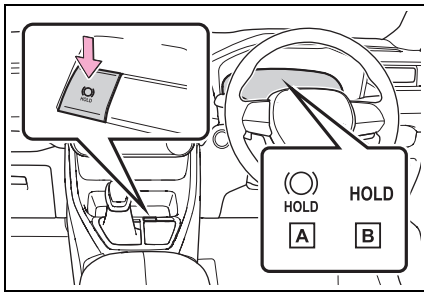
シフトレバーがD・SまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯

A (緑) が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 **B** (黄) が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
 - 運転席シートベルトを着用していない
 - パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキホールドシステムがONのとき

に上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯(緑)が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかけたとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。

(→P.269)

■ トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を

満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください」または「BrakeHold 故障 販売店で点検してください」が表示されたときは**

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **警告メッセージ・警告ブザーについて**

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ **ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは**

→ P.453

注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ すべりやすい路面では

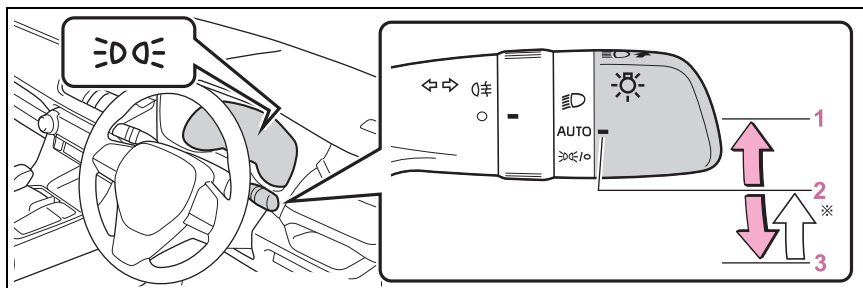
タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。



ランプスイッチ




自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  /  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。




ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ^{※1}	デイトタイムランニングランプ (→P.276)・LED デイライト (→P.276) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  /  ^{※1}	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ^{※2}



上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・薄暮灯 (→P.276) を意味します。

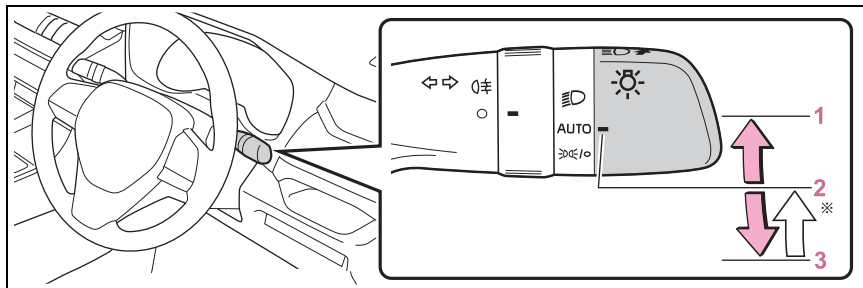
※¹ 操作するたびに、**2** AUTO による点灯状態と **3**  /  による点灯状態が切りかわります。


※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** AUTO による点灯状態に切りかわります。


消灯のしかた

 スイッチを **3**  /  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3**  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 	ヘッドランプ・スモールランプ・デイトタイムランニングランプ・LED デイライト (→P.276) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプ (→P.276) が消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ デイトタイムランニングランプ

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除すると、デイトタイムランニングランプが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

デイトタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■ LED デイライト／薄暮灯

● LED デイライト：周囲が明るいとき、自車が他の運転者から見えやすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除すると、自

動で点灯します。

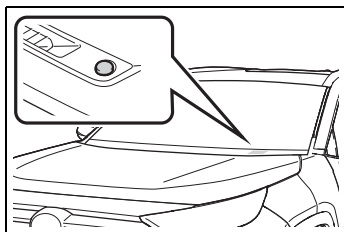
● 薄暮灯：尾灯に連動して自動で点灯します。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから または の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが ACC または OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が動き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が動き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき

- ドアを開閉したとき

■ ワイパー運動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。*

* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

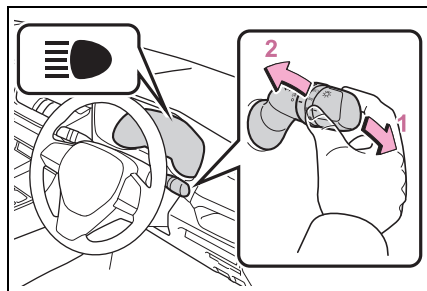
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧: →P.506)

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



- 1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
- レバーをもとの位置へもどすとロービーム

ムにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AHB (オートマチックハイビーム)

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

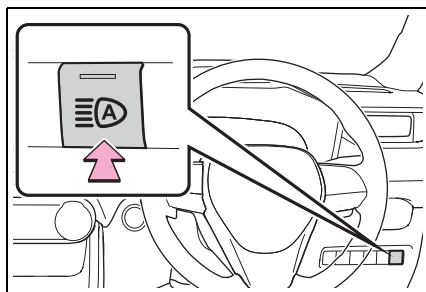
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。


■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使うには

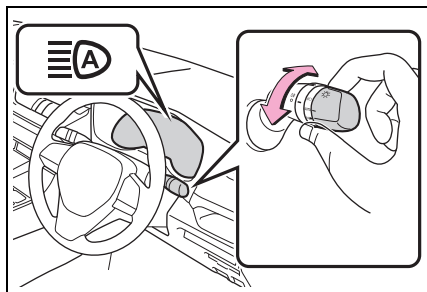
- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたはにする

オートマチックハイビームが作動すると、

オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合

があります。

- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方カメラが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
 - ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上

げがあるとき

- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

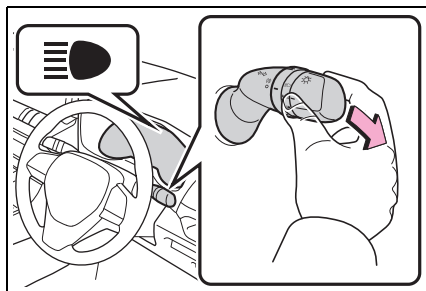
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

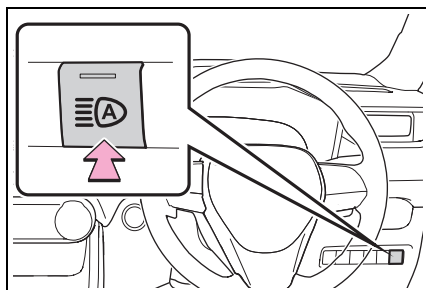


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

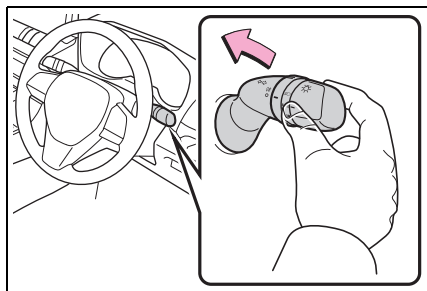
オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

■一時的なロービームへの切りかえについて

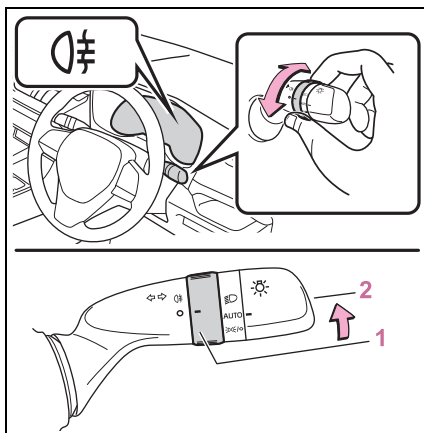
ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。


リヤフォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下では、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた



- 1 ○ 消灯する
- 2  リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。

知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプ★について

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー&ウォッシャー (フロント)


レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

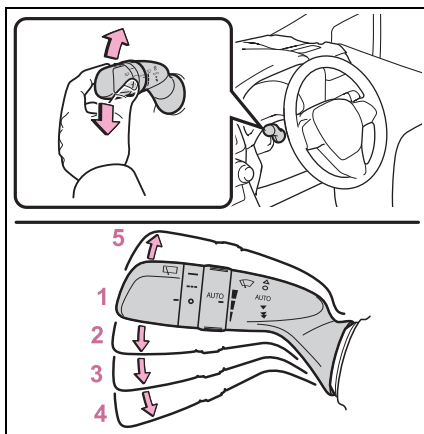
⚠ 注意

■ フロントウィンドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

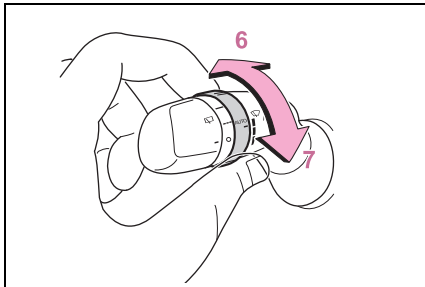


- 1 ○ 停止
- 2 AUTO AUTO モード (AUTO)
- 3 ▼ 低速作動 (LO)
- 4 ▼ 高速作動 (HI)
- 5 △ 一時作動 (MIST)

AUTO モードを選択しているとき、雨滴

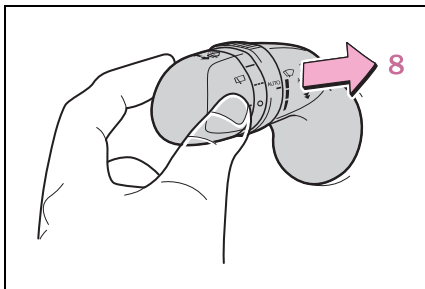
量と車速に応じてワイパーが作動します。


AUTO モードが選択されているときは、次のようにつまみをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■ 作動条件

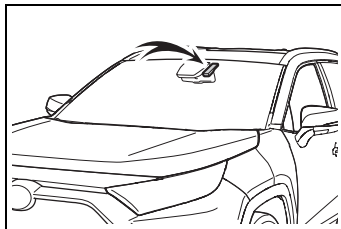
パワースイッチが ON のとき

■ 車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。(雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます)

■ 雨滴感知センサー

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



● パワースイッチが ON のときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

● AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

● 雨滴感知センサーの温度が 85 °C 以上または -15 °C 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

警告**■ ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意**■ ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルが詰まったとき

ノズルが詰まったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。


**ワイパー&ウォッシャー
(リヤ)**

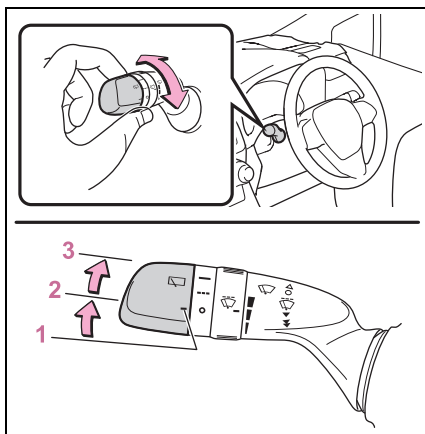
レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているときは**

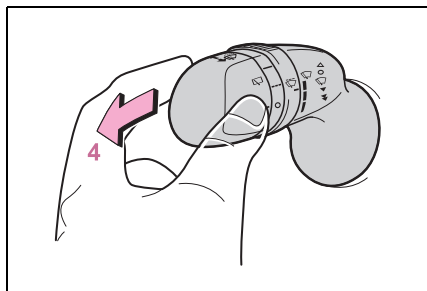
ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。


操作のしかた

次のように  スwitchを操作すると、リヤワイパーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 --- 間欠作動
- 3 — 通常作動



- 4**  ウォッシャー液を出す
レバーを前方へ押しとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき




ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。*

* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが ・・ で作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトレバーを R の位置にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

■ カスタマイズ機能

リバース連動機能などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.506)

注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

⚠ 注意

● 塗装が損傷する

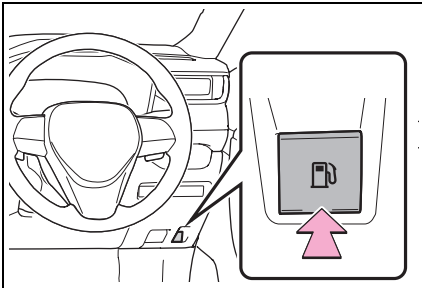
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

■ 燃料について

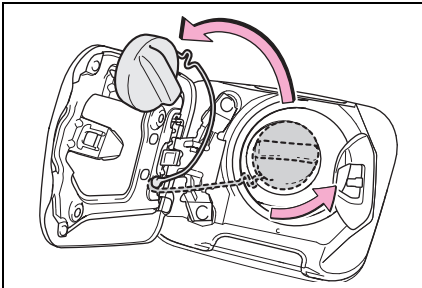
→P.71

給油口を開けるには

- 1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開ける



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



□ 知識

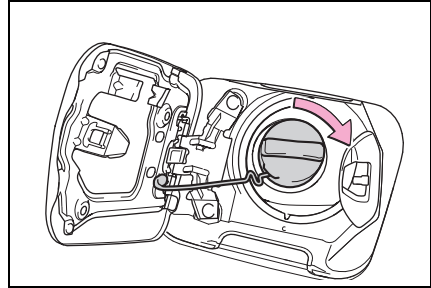
■ 給油扉が開かないとき

→P.479

給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
→P.293
- LTA (レーントレーシングアシスト)
→P.303
- AHB (オートマチックハイビーム)
→P.278
- RSA (ロードサインアシスト)
→P.312
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)
→P.314
- 先行車発進告知機能
→P.324
- ドライバー異常時対応システム
→P.326

警告

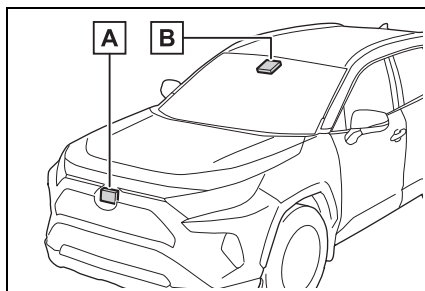
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

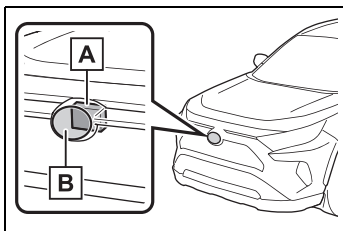
警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

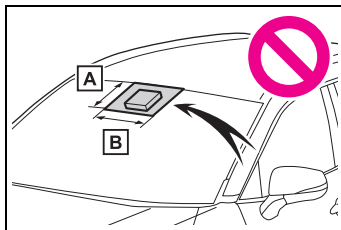
- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパーを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



- A** フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
- B** 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

 **警告**

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.367）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く (フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.367)
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
「プリクラッシュセーフティレーダー向き調整中 取扱書確認ください」が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
- ・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

- ・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には「プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください」
が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.293）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティのON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.296）

システムの作動対象

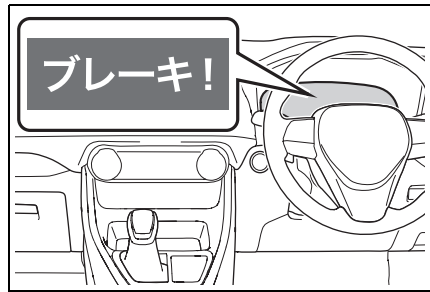
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

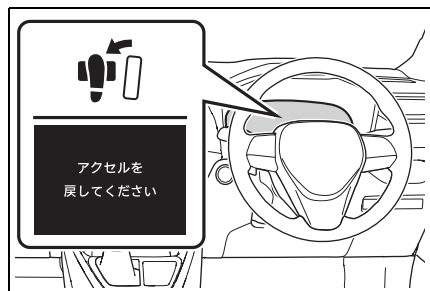
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

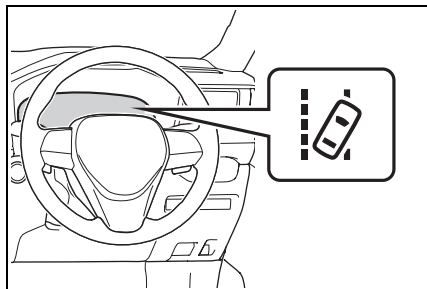
■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

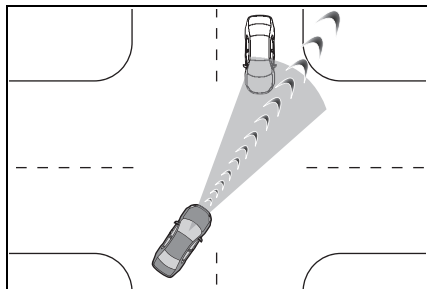


■ 交差点右左折支援

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

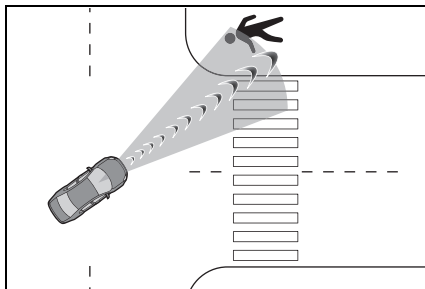
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転

車運転者は対象ではありません)



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.299
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.300

警告

- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。

対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
 - ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
 - ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
 - ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

■プリクラッシュセーフティをOFFにすると

次のときは、システムをOFFにしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき

警告

- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

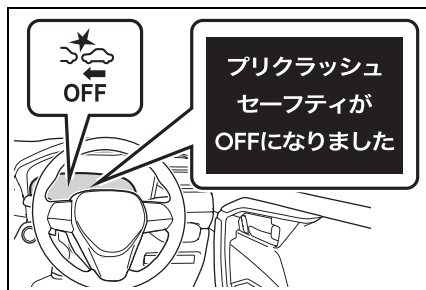
■ プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  画面（→P.171）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）/ OFF（非作動）を変更することができます。


パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッ

セージが表示されます。



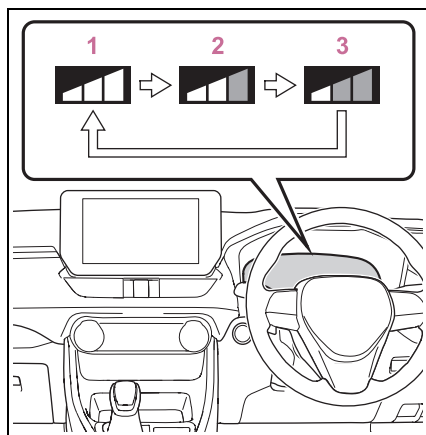
■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  画面（→P.171）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



- 1 早い
2 中間
初期設定

- 3 遅い



知識

●プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・ 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトレバーが R のとき
- ・ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

● 交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

● 交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

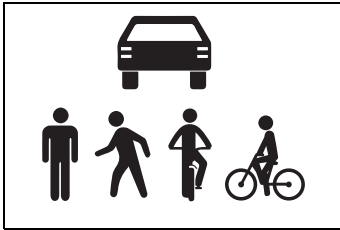
■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそ

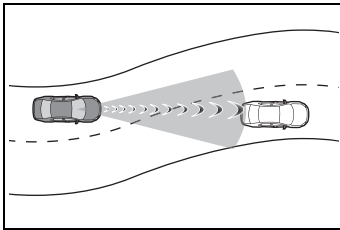
れがあります。(→P.300)

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

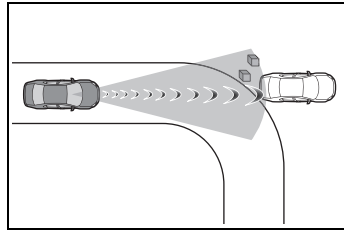


■衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

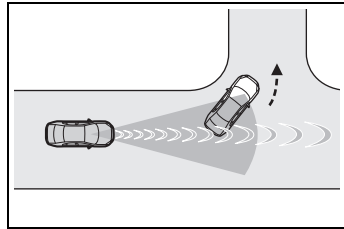
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
- ・作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



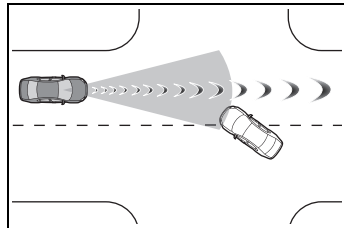
- ・作動対象などに急接近したとき
- ・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体が存在するとき



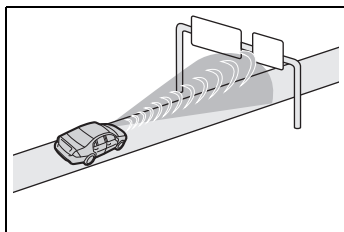
- ・自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



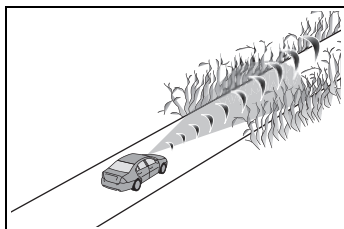
- ・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



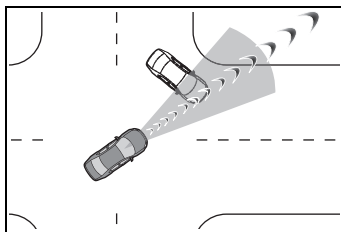
- ・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



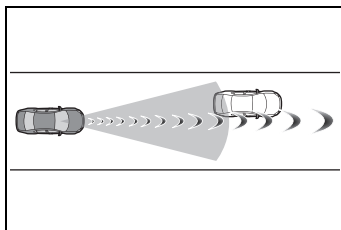
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

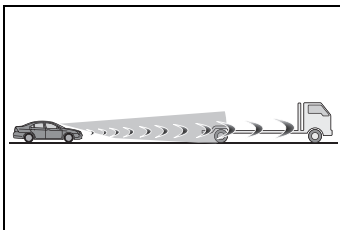
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



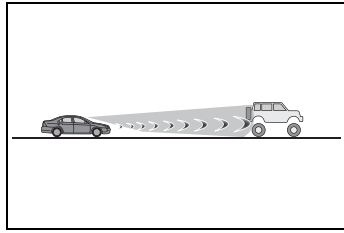
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき

るとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

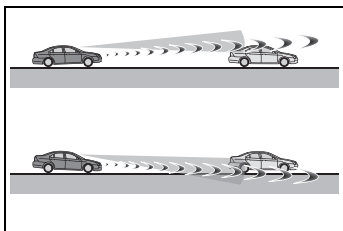


- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

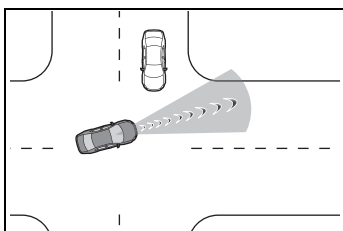


- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物載せた自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間

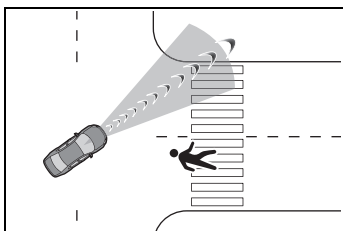
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- ・ 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも2つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

- ・ 車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
- ・ 車線幅が狭いとき、または広いとき
- ・ 工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
- ・ 対象に近づきすぎたとき
- ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- ・ 対向車がいるとき
- ・ VSC が作動しているとき
- 例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- ・ 道路面に深いわだちがあるとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 左右に傾きのある道路を走行しているとき

■ VSC を停止したとき

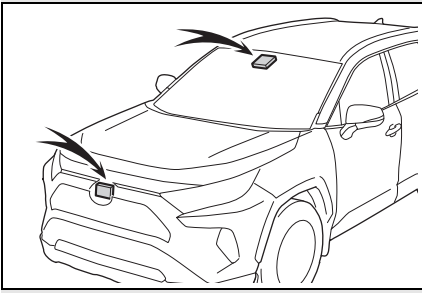
- VSC の作動を停止（→P.357）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LTA (レーントレーシングアシスト)

白(黄)線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)(→P.314)の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白(黄)線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■ LTAをお使いになる前に

● LTAを過信しないでください。LTAは自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

● 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ LTAを使用してはいけない状況

次の状況では、LTAスイッチでシステムをOFFにしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白(黄)線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

■ LTAの故障、または誤作動を防ぐために

● ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

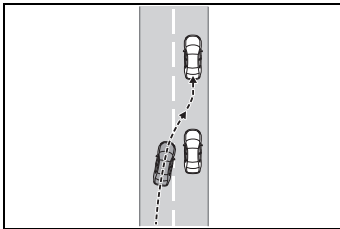
警告

- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

機能が正常に作動しないおそれのある状況

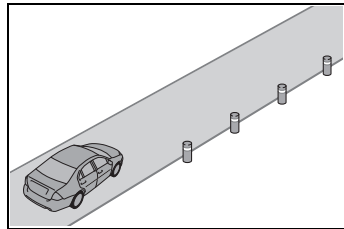
次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車追従表示中（→P.308）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

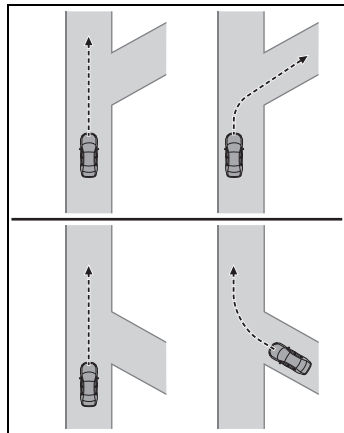


- 先行車追従表示中（→P.308）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

- 先行車追従表示中（→P.308）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→P.308）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

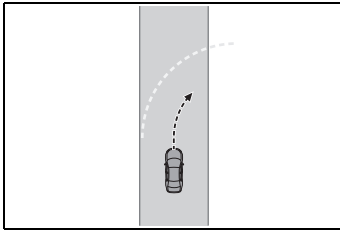


- 分岐・合流路などを走行するとき



警告

- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTAに含まれる機能

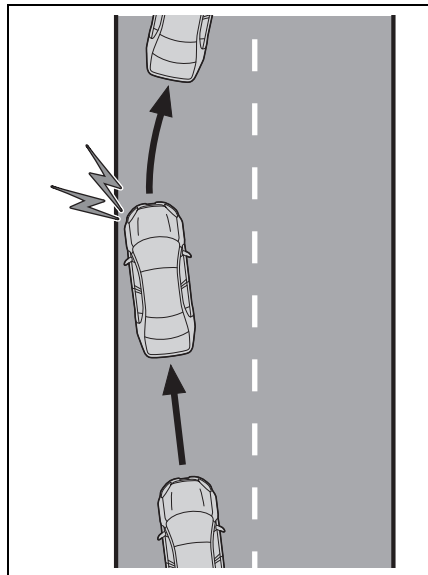
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白(黄)線または走路[※]内の中央付近にもどってください。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるときシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



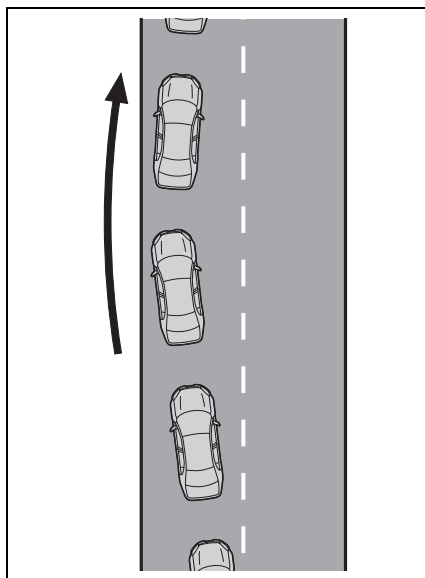
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、短時間、

小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

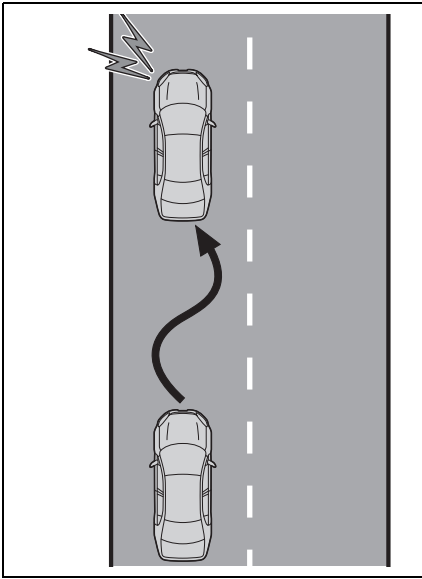
車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるときシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

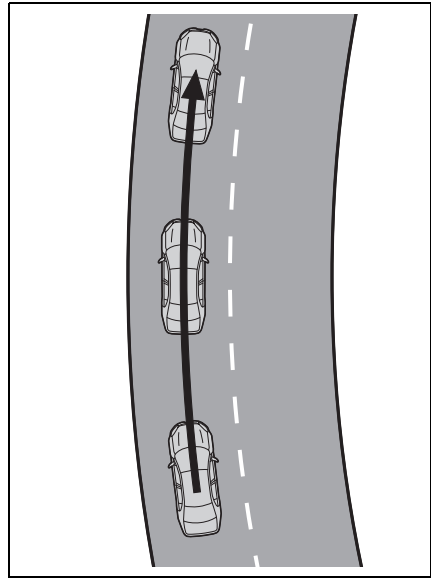


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

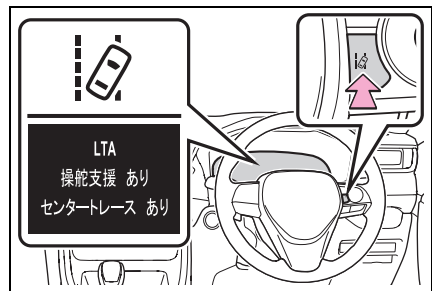


■ 設定のしかた

■ 車線維持支援機能のON / OFF を変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能のON / OFF が切りかわります。



車線維持支援機能がONのとき：「LTA 操舵支援あり センタートレースあり」と表示されます。

LTA をONにすると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

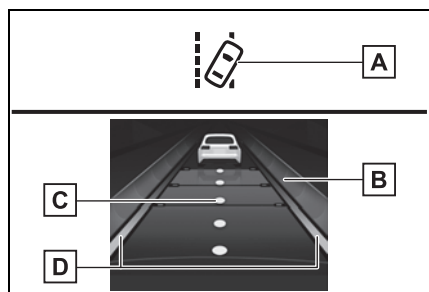
LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。

ON には、再度スイッチを押します。

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

ただし、車線維持支援機能は、パワースイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



■ A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

■ B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

■ C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

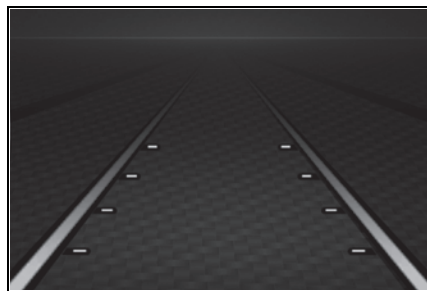
車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

■ D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

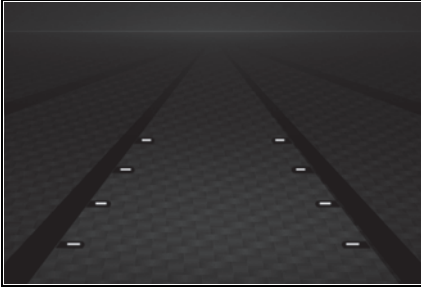
▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路^{*}を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

^{*} アスファルトと草・土・縁石等の境界

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき※¹
- ・ システムが白（黄）線または走路※²を認識しているとき（白〔黄〕線または走路※²が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3 m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.311）

※¹車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※²アスファルトと草・土・縁石等の境界

● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動しま

す。

- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき

● ぶらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの⚙️画面で「ぶらつき検知」を「有」に設定しているとき（→P.165）
- ・ 車速が約 50 km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3 m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.311）

● 車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ マルチインフォメーションディスプレイの⚙️画面で「セントラートレース」を「有」に設定しているとき（→P.165）
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
- ・ 車線の幅が約 3 ~ 4m のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.311）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき

- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起（→P.310）が行われていないとき
- ・ 車線中央付近を走行しているとき
- ・ 車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

- 作動条件（→P.309）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.309）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で「警報手段」をハンドル振動に設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。
- これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。
- 走路^{*} がはっきり見えない場合、または

直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

- とよりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

* アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、警報手段をハンドル振動に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

- 車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、警報手段をハンドル振動に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■ 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- 「LTA 故障 販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

- 「LTA 現在の車速では使用できません」

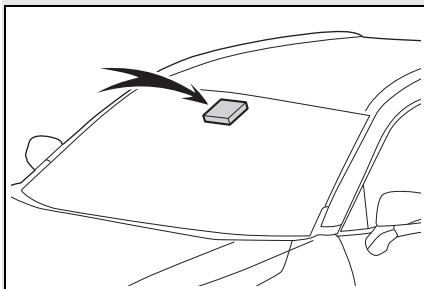
車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■ カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(→P.171)

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラまたはナビゲーションシステム (情報を取得した場合) を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

警告

■ RSA をお使いになる前に

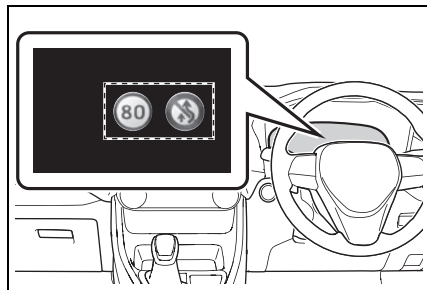
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム (情報を取得した場合)

によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 最大2つの標識を表示できます。(→P.165)



認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



最高速度



車両進入禁止



一時停止



はみ出し通行禁止



終わり*

* マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。



知識

■ 設定のしかた

→P.171

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識した

とき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範

圏内に入ったとき

- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■ 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（→P.171）

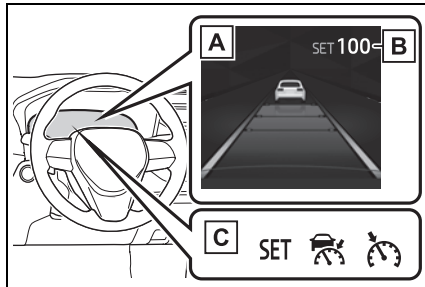
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.317）
- 定速制御モード（→P.320）

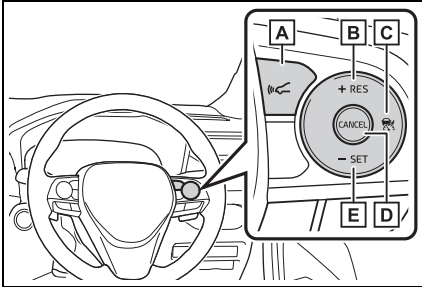
システムの構成部品

■ メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** クルーズコントロールメインスイッチ
- D** キャンセルスイッチ
- E** “-SET” スイッチ

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.322
- ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.323

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムをOFFにしてください。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

 **警告**

● 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ **レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

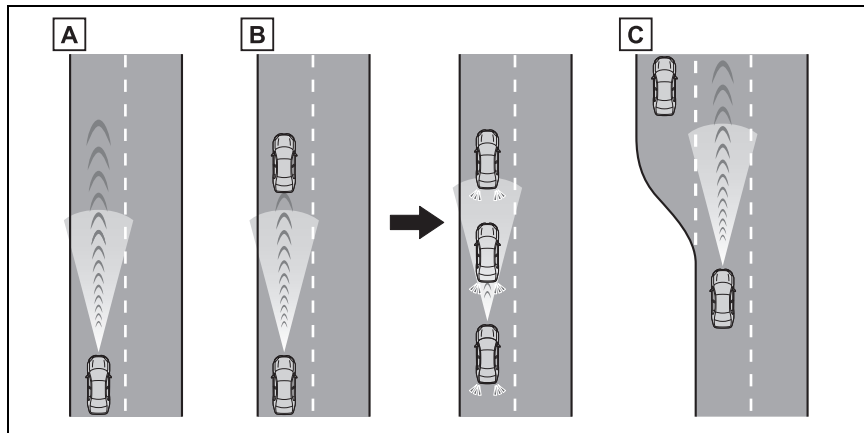
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口

- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES”スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

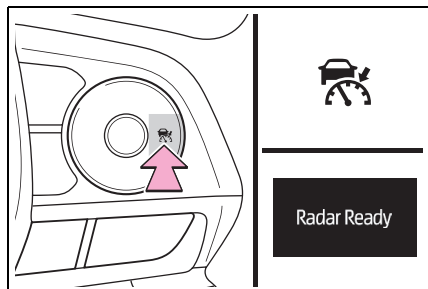
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

- 1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF するには再度スイッチを押します。

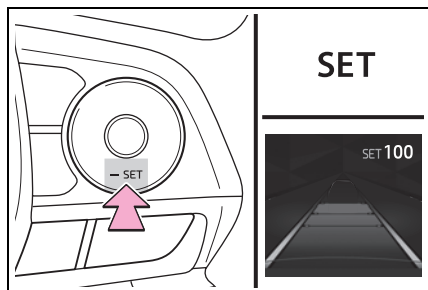
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。(→P.320)



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

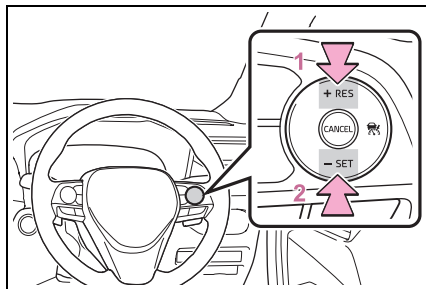
スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。



- 1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

- 2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.320）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

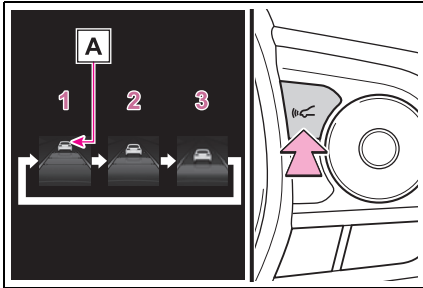
- アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

- 2 “-SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク **A** も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

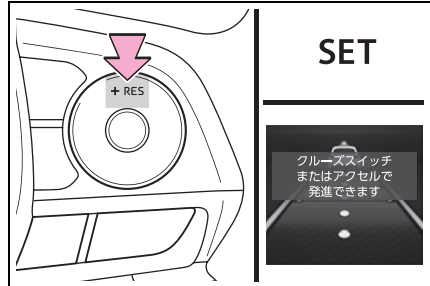
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

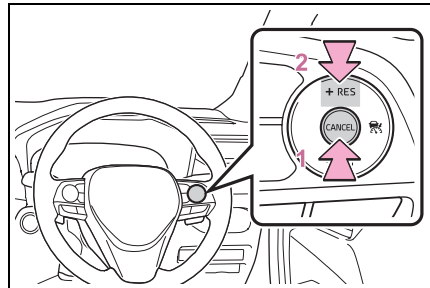
制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

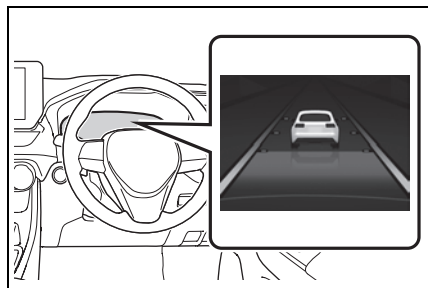
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

- 2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行

車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

■ システム作動について

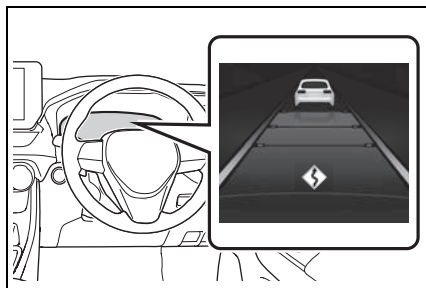
ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。

状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従

走行が優先された場合も車速抑制は終了します。


■ システム作動時の表示




車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。

■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの画面（→P.165）から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON / OFF を切りかえることができます。

を押すごとに設定が切りかわります。

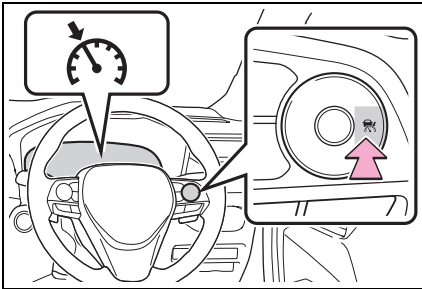
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



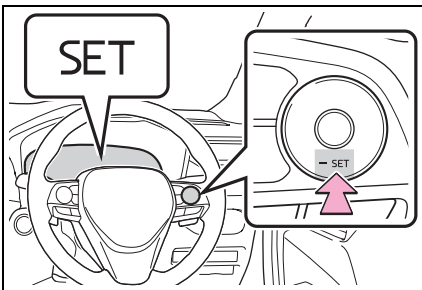
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.318）

制御を解除する・復帰させる（→P.319）



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に“+RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：ブリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
- 運転席シートベルトを着用していない

- ・ 運転席ドアが開いた
- ・ 車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

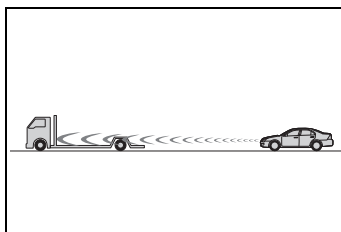
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.291, 455）

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

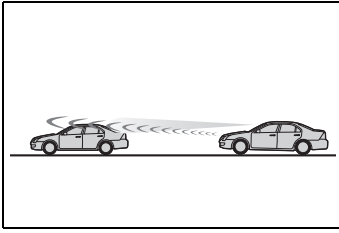
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.319）も作動しないおそれがあります。

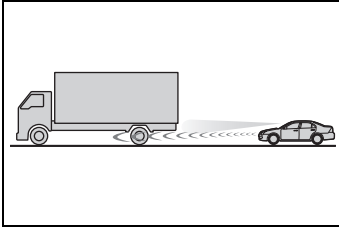
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

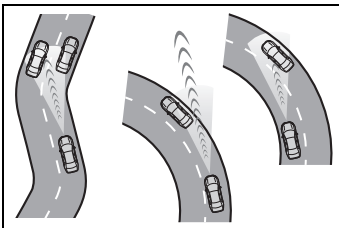


- 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

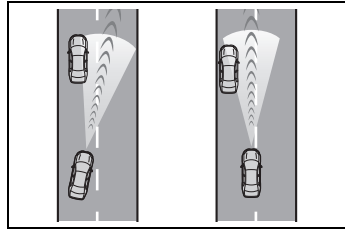
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき
- カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

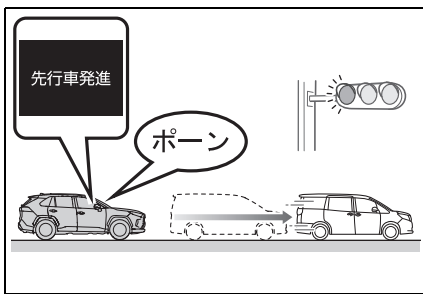
- 上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき
- カーブへの進入速度が過度に高いとき
- 急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラ

とレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
 - 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車がオートバイ・自転車などのとき
 - 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
 - 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
 - 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
 - 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
 - ブリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
 - 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- 先行車が発進していても告知する場合があるとき
- 例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）によ

り、先行車の発進を誤認識したとき

- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■**先行車発進告知機能の設定を変更するには**

- 先行車発進告知機能の ON / OFF

システムの ON / OFF を切りかえることができます。(→P.171)

- 先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。(→P.171)

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道路（一部除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に自車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

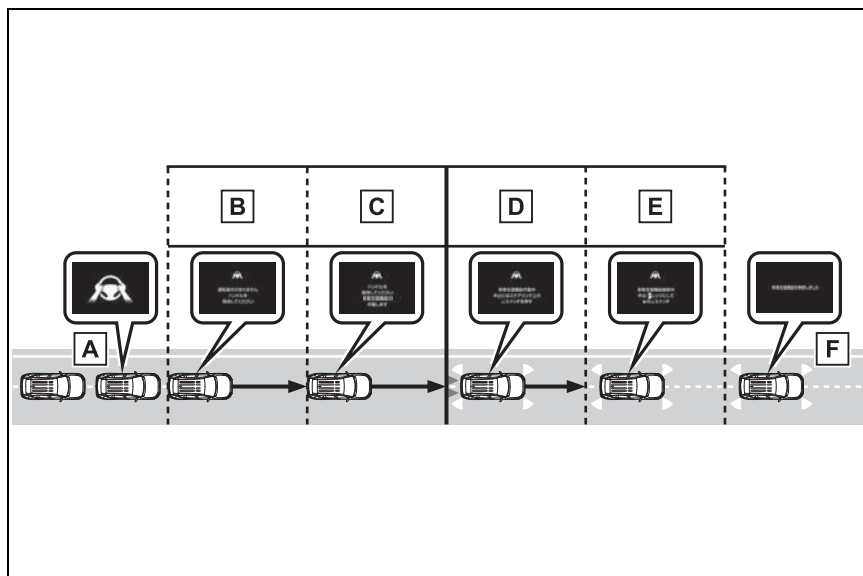
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら自車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

ドア解錠やヘルプネット[※] 自動接続による運転者の救命要請も行います。

[※] 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

システム概要

本システムは4つの状態に分けられます。**B**「警告1状態」、**C**「警告2状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には**D**「減速停止制御」、**E**「停止保持」で自車を減速、停車させ、**E**「停止保持」を継続します。



- A 手放し運転警告 (→P.310)
- B 「警告 1 状態」
- C 「警告 2 状態」
- D 「減速停止制御」
- E 「停止保持」
- F 制御解除

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合のみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、停止表示板・停止表示灯および発煙筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。(→P.440)
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

知識

■ システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

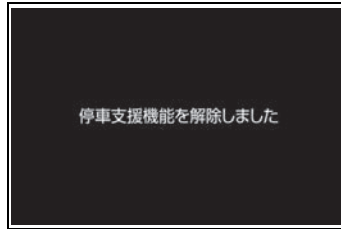
- 車速と前方カメラによって自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

- LTA スイッチを ON し、LTA 制御中
- レーダークルーズコントロールメインスイッチを ON し、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中
- 自車速が約 50km/h 以上

■ システムの作動解除条件

- **B**「警告 1 状態」、**C**「警告 2 状態」、**D**「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。
 - ・ LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
 - ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
 - ・ 手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
 - ・ 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
 - ・ 運転者がブレーキ操作をしたとき
 - ・ 運転者がアクセル操作をしたとき
 - ・ ブレーキ異常検出時
 - ・ 方向指示レバーを操作したとき
- **E**「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。



- ・ シフトレバーを P に入れた状態で LTA スイッチを押したとき
- ・ パワースイッチを ON から OFF にしたとき
- ・ ブレーキ異常検出時

■ システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされます。

LTA を再度使用する場合は、LTA スイッチを押し LTA 制御を ON にしてください。

- **B**「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押しシステム作動を解除したとき
 - **C**「警告 2 状態」、**D**「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき
 - レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
 - 手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）（**C**「警告 2 状態」および **D**「減速停止制御」のみ）
 - 運転者がブレーキ操作をしたとき
 - 運転者がアクセル操作をしたとき
 - 方向指示レバーを操作したとき
- ### ■ 警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、

一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。(→P.311)

■ ドライバー異常時対応システムの留意事項

- ヘルプネット通話中は、音声聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。
- LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

B 「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴（「ピッ、ピッ、・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、**C**「警告 2 状態」に移行します。



C 「警告 2 状態」

ブザー吹鳴（「ピッピッピッピッ・・・」）とマルチインフォ

メーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、引き続き運転者の正常／異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート（消音）※ されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内（約 40km/h ~ 50km/h の間）まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、**D**「減速停止制御」に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。



□ 知識

■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について

C「警告 2 状態」移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

D 「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピーー」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。車両が停車すると[E]「停止保持」に移行します。



知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

[D]「減速停止制御」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを2回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

E 「停止保持」

車両停車後、停止保持制御により車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードラ

ンプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。



知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

[E]「停止保持」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

ヘルプネット通話中は音声聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）

システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。ハザードスイッチを2回押すと、非常点滅灯が消灯します。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターには2つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能

運転者による車線変更時の判断を支援します。

- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能

後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

警告

- BSM 機能を安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

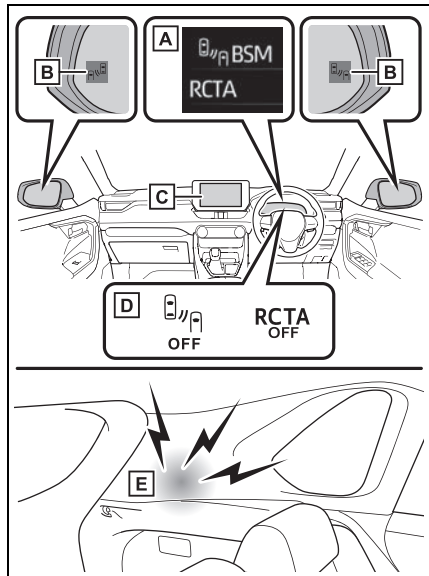
BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思われ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認を行う必要があります。

- RCTA 機能を安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

システムの構成部品



- A マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

- B ドアミラーインジケーター

BSM 機能：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディアディスプレイ (RCTA 機能のみ)

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.336) が点灯します。

D BSM OFF 表示灯 / RCTA OFF 表示灯


BSM 機能を OFF にすると、BSM OFF 表示灯が点灯します。

RCTA 機能を OFF にすると、RCTA OFF 表示灯が点灯します。

E RCTA ブザー (RCTA 機能のみ)

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの  画面から、BSM 機能 / RCTA 機能の ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。(→P.171)

BSM 機能 / RCTA 機能が OFF の状態でパワースイッチを OFF にしたときは、再度パワースイッチを ON にすると、BSM 機能 / RCTA 機能が自動で ON の状態にもどります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の間聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」または「RCTA 現在使用できません」が表示されたとき

電圧異常やセンサー周辺のリヤバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。(→P.333) センサー周辺のリヤバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障 販売店で点検してください」または「RCTA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や位置、向きずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

ドアミラーインジケーターの明るさなどの設定を変更することができます。(→P.171)

■ レーダーセンサーの取り扱いについて

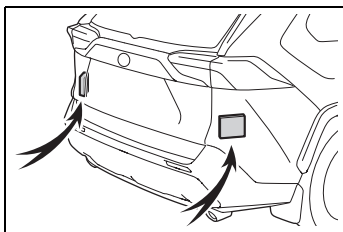
レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.332）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM機能の作動条件（→P.334）でしばらく走行してください（目安：約60分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

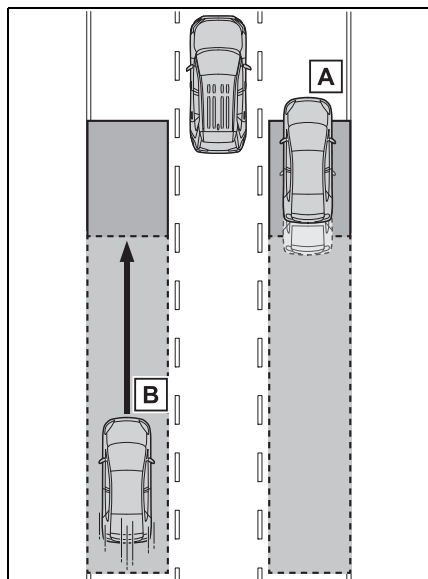
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部がはずれている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼ったり、アクセサリー用品を取り付けたりしない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

BSM 機能

■ BSM 機能で検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

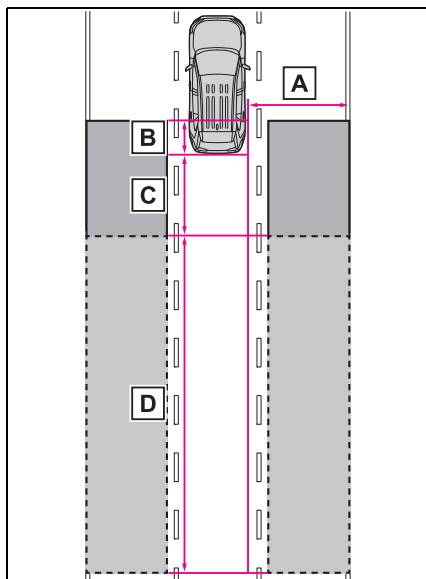


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5 m 離れた面から約 3.5 m の領域

車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

B リヤバンパーから約 1 m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3 m ~ 60 m の領域

自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケータは他車がより遠くにいる状態で点灯・点滅します。

□ 知識

■ BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM 機能が ON のとき

- シフトレバーが R 以外の位置のとき
- 車速が約 16 km/h 以上のとき

■ BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いつかれるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いつくとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*
- 同じ車線を走行する後続車*
- 2 つ隣の車線を走行する他車*
- 自車が大きな速度差で追いついた車両

* 状況によっては検知することがあります。

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- BSM 機能は、次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接

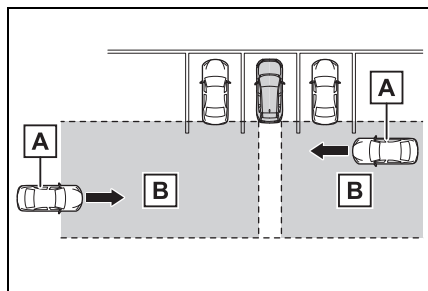
近するとき

- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ BSM 機能または RCTA 機能を ON にした直後
- BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - ・ 雨や雪を後方に巻き上げているとき

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケータとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



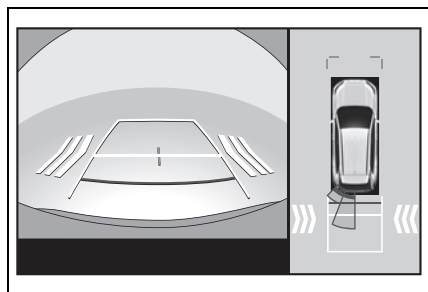
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

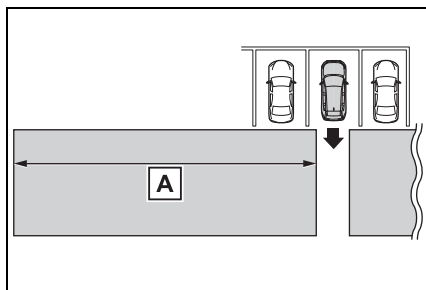
例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知しま

す。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- RCTA 機能が ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の車速が約 15 km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8 ~ 56 km/h のあいだのとき

■ ブザー音量調整について

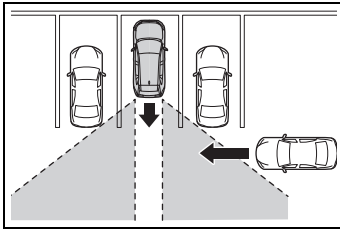
マルチインフォメーションディスプレイから、ブザー音量を変更することができます。（→P.171）

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真うしろから接近する車両

- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



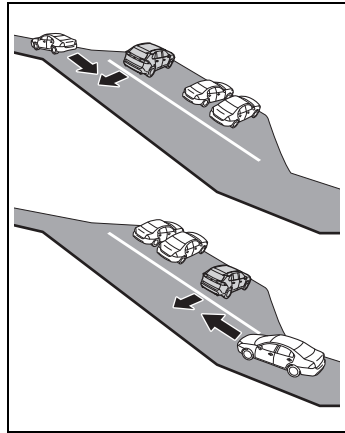
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*
 - 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*
 - 自車から遠ざかる車両
 - 自車の隣の駐車スペースから接近する車両*
 - センサーと接近車両との距離が近すぎる場合
- * 状況によっては検知することがあります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

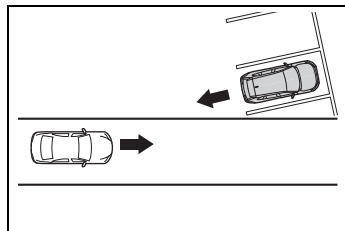
RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき

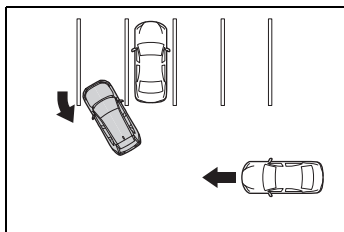
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



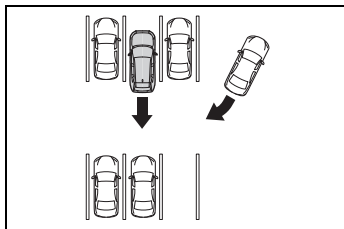
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



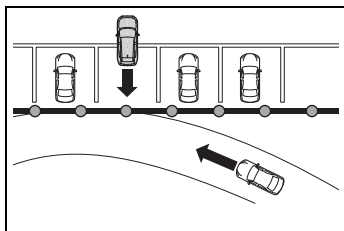
- 旋回しながら車両が近づいてきたとき



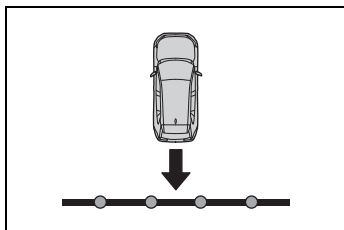
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



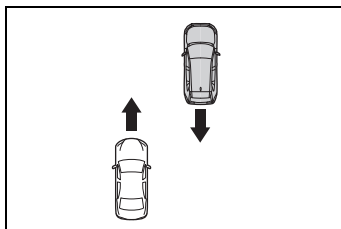
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



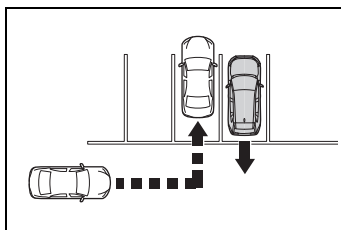
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき

- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

- グレーチングや側溝

- 炎天下や寒冷時

- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

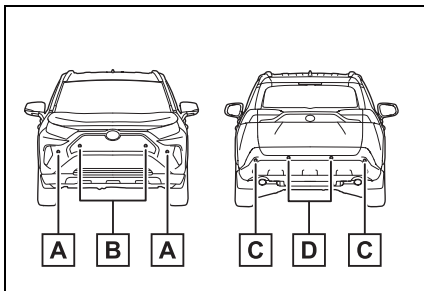
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディアディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの位置・種類



- A** フロントコーナーセンサー
- B** フロントセンサー
- C** リヤコーナーセンサー
- D** バックセンサー

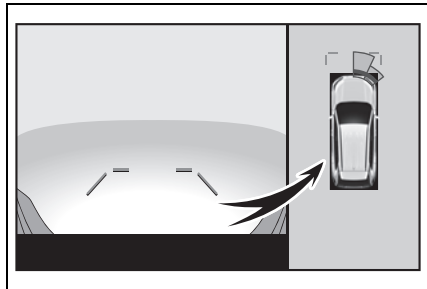
■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディアディスプレイに表示されます。

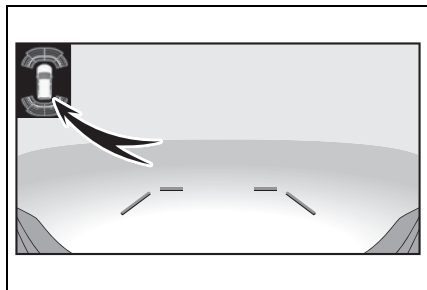
● マルチメディアディスプレイの表示

作動対象を検知するとマルチメディアディスプレイ上に自動表示されます。

▶ パノラミックビューモニター



▶ パノラミックビューモニター（割り込み表示）



システムを作動させるには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙️画面から、クリアランスソナーのON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。（→P.171）

クリアランスソナー機能がOFFのときは、クリアランスソナーOFF表示灯（→P.156）が表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙️画面からP[▲]をON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチをOFFにしたあとで再度ONにしても、復帰しません）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■動作条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が溶ければ、正常に復帰します。

氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。



■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません」が表示されたときは

大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
 - 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
 - センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
 - 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。
 - オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
 - 他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

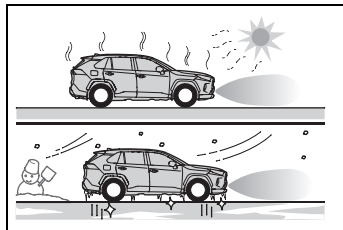
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー一部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時

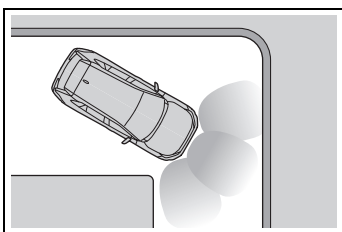


- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
 - 風が強いとき
 - 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
 - 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
 - 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
 - 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
 - センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

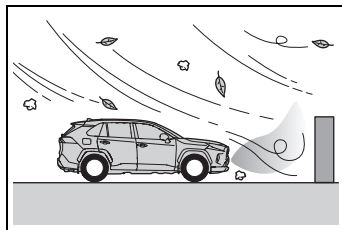
- 狭い道路を走行するとき



- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、

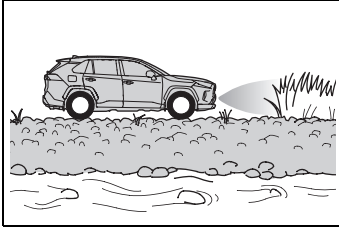
遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時

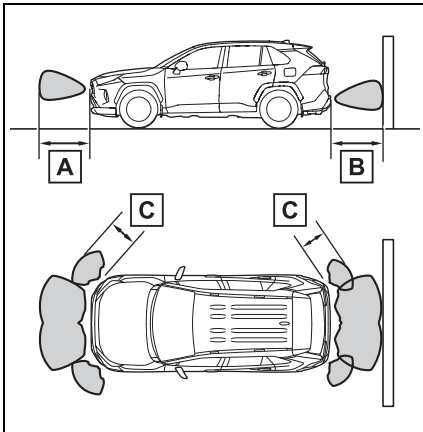
など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

● 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチメディアディスプレイが点灯（一部、枠が点滅）します。

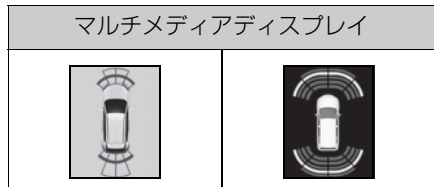
イラストは説明のための例であり、検知している対象により、画面表示の状態はかわります。

● 静止物までのおおよその距離

- ・ フロントセンサー：100cm～60cm
- ・ リヤセンサー：150cm～60cm



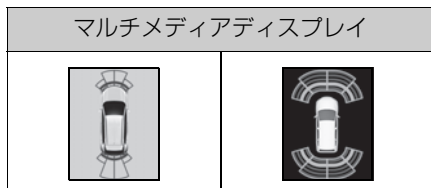
- 静止物までのおおよその距離：60cm～45cm



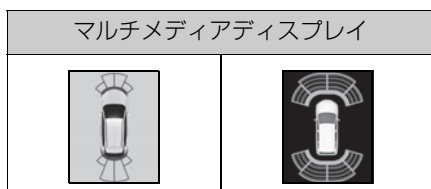
- 静止物までのおおよその距離：45cm～30cm



- 静止物までのおおよその距離：
30cm ~ 15cm



- 静止物までのおおよその距離：
15cm 以下



■ 音声案内とブザー音について

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。


- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音“ピピピ”から連続音“ピー”になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、最も近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、自動でブザーがミュート（消音）されることがあります。（自動ミュート機能）

とき、次の状態になると、ブザーが自動的に停止します。

- ・ 検知対象との距離が変化しないとき（検知対象との距離が約 30cm 以下の場合を除く）
- ・ 検知対象から自車が遠ざかるとき
- ・ 自車の進路内に静止物がないとき

ただし、ブザーの停止中に新たな静止物を検知したり、周囲の状況が変化したりすると、再度ブザーが吹鳴します。

- 手動操作でミュート（消音）させるとき：

マルチインフォメーションディスプレイにミュート可能を示す表示が出ているときに、メーター操作スイッチの  を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

- ミュート（消音）が解除されるとき：

次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。

- ・ シフトポジションを切りかえたとき
- ・ 車速が一定以上になったとき
- ・ クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
- ・ パワースイッチを OFF にし、再度 ON にしたとき

■ カスタマイズ機能

ブザーの音量を変更することができます。（→P.171）

□ 知識

■ ブザー音のミュート（消音）について

- 自動ミュート（消音）機能：

静止物を検知してブザーが吹鳴している

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→P.349

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

→P.351

警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合があります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。
- **パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**
次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。
 - 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
 - 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
 - ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
 - 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告


- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両けん引時

注意

- マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは


パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。


設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの  画面から、パーキングサポートブレーキ（静止物）、パー

キングサポートブレーキ（後方接近車両）の ON（作動）／OFF（非作動）を一括で変更することができます。（→P.171）

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.156）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  画面から

 を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ、またはマルチメディアディスプレイにメッセージが表示されます。

ハイブリッドシステム出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ表示：「加速抑制中です」（ヘッドアップディスプレイの表示はありません）

マルチメディアディスプレイ表示：表示なし

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ表示：「ブレーキ！」

マルチメディアディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：“ポーン”（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ表示：「ブレーキ！」

マルチメディアディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：“ポーン”（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ表示：「アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください」

アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏んでください」が表示されます。

マルチメディアディスプレイ表示：「ブレーキを踏んでください」

PKSB OFF 表示灯：点灯

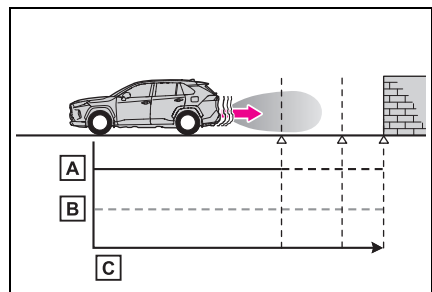
アクセルが踏まれていない場合は消灯のままです。

ブザー：“ポーン”（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）。また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます（ブレーキ制御：図 3）。

● 図 1（PKSB[パーキングサポートブレーキ]非作動時）

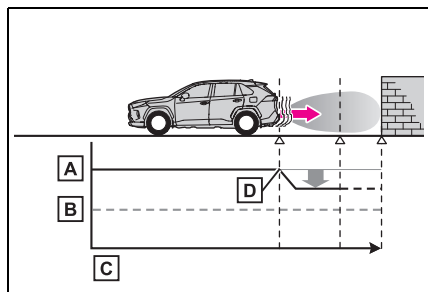


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

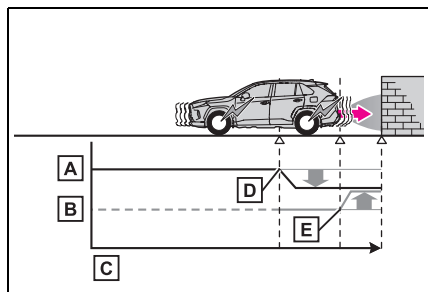
C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



- A** ハイブリッドシステム出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



- A** ハイブリッドシステム出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）
- E** ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシ

ステムが判断したとき）

知識

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止した場合に、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にする（→P.346）か、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

- 同時に「ソナーの汚れを除去してください」が表示されている場合は、センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。その場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れてなくても表示が出るときはトヨタ販売店で点検を受けてくださ

い。

- 同時に「クリアランスセンサー使用できません」が表示されている場合は、大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

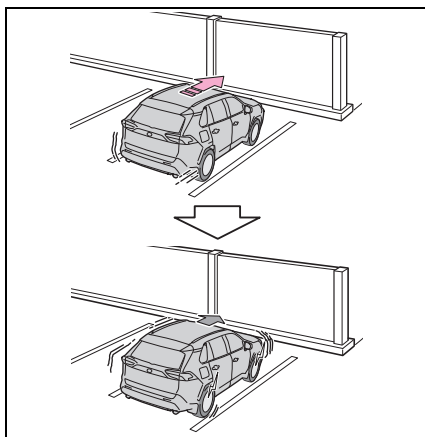
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

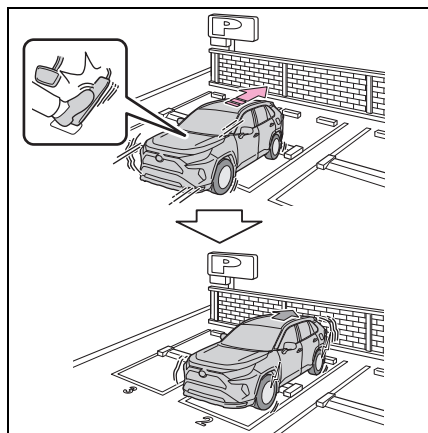
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

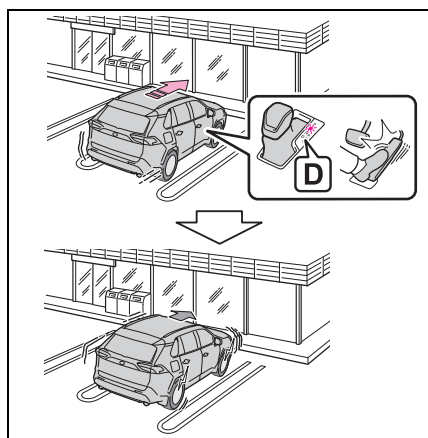
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーをDに入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.339

▲ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.340

■ 万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.348

■ 洗車時の注意

→P.340

□ 知識

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.155, 156）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）をON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
 - ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）をOFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.343）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.341

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.342

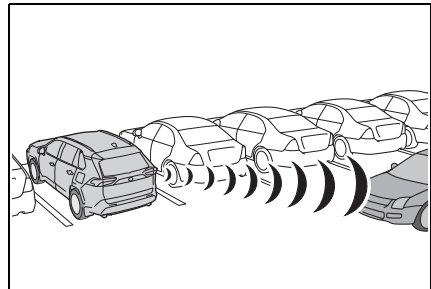
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.333

⚠ 警告

- システムを正しく作動させるために

→P.333

 知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.155, 156）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
 - ・ シフトレバーが R にあるとき
 - ・ 接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

- ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.333）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.337

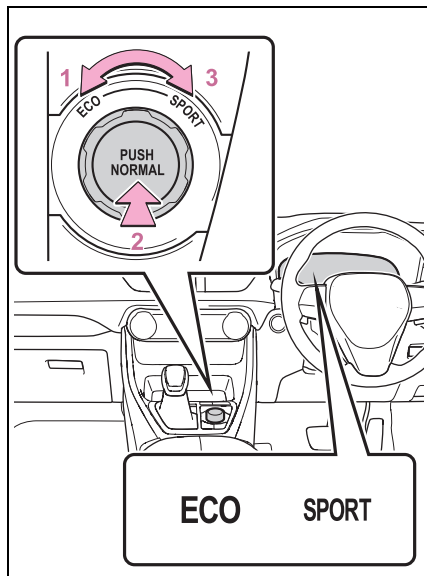
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.338

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

走行モードを選択するには



1 エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにエコドライブモード表示灯が点灯します。

2 ノーマルモード

通常の走行に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマル

モードにもどります。

3 スポーツモード

ステアリングのフィーリング・およびハイブリッドシステムの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにスポーツモード表示灯が点灯します。

知識

■ 走行モードを切りかえたとき

- 選択した走行モードに従って、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変わります。
- 選択した走行モードに従って、スイッチの照明色が変わります。

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- エコ空調モードを OFF にする（→P.367）
- 風量を調整する（→P.366）
- エコドライブモードを解除する

■ 走行モードの解除について

- スポーツモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、およびエコドライブモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されま

せん)

トレイルモード

トレイルモードは、4WD・ブレーキ・駆動力などを統合制御し、タイヤの空転を抑えます。凹凸のある路面等を走行するときに、使用してください。

警告

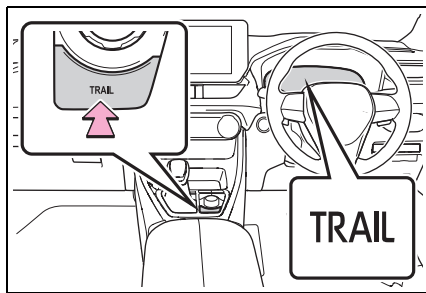
- **トレイルモードをお使いになる前に必ず次のことをお守りください。**
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- **トレイルモードは悪路を走行する場合のみに使用してください。**
- **トレイルモード表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。**
- **トレイルモードは、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。**

システムを作動させるには

トレイルモードスイッチを押す

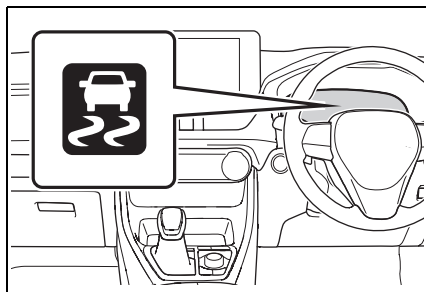
トレイルモードスイッチを押すとトレイルモードが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイにトレイルモード表示灯が点灯します。

もう一度、トレイルモードスイッチを押すとシステムが OFF になります。



トレイルモードが作動しているとき

タイヤが空転しているときにスリップ表示灯が点滅している場合、タイヤの空転を抑制しています。



知識

■ トレイルモードについて

- トレイルモードは悪路の走行で駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、トレイルモードが OFF の状態に比べて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。
- トレイルモードを長時間使用すると、走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されますが、通常走行は可能です。しばらくして、マルチインフォメーションディスプレイの「TRC OFF しました」

が消灯したらシステムが正しく作動します。

■ トレイルモードが解除されるとき

次の場合は、トレイルモードを選択していても自動で解除されます。

- 走行モードを切りかえたとき (→P.353)
- ハイブリッドシステムを再始動したとき

■ トレイルモードの作動音と振動

トレイルモードが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- エンジンルームからの音が聞こえる

■ トレイルモード表示灯が点灯しないときは

トレイルモードスイッチを押してもトレイルモード表示灯が点灯しないときは、システムの故障のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

■ トレイルモードを正常に作動させるために

トレイルモードを長時間連続で使用しないでください。走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシストッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車

両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側にふくらむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four（電気式4WDシステム）

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じてFF（前輪駆動）走行状態から4WD（4輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

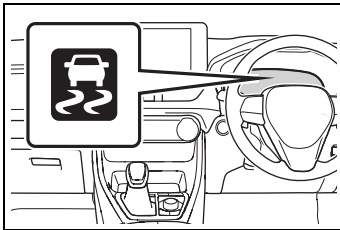
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

□ 知識


■ TRC・VSC・ABS・トレイルモードが作動しているとき


TRC・VSC・ABS・トレイルモードが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

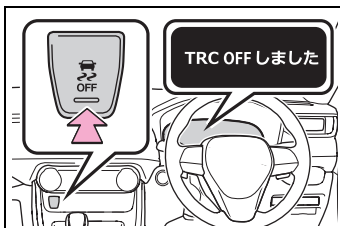


■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。


このようなときに、 を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す




マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されま

す。


もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に

 を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。*

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

* ブリクラッシュブレーキアシスト・ブリクラッシュブレーキの作動も停止します（衝突警報のみ作動可能状態になります）。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.302）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- パワースイッチが ON

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除され

ます。

- シフトレバーを P または N のシフト位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- パワースイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECBの作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側にふくらんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■EPSの効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上

- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中にSRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約10km/h未満のとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■マルチインフォメーションディスプレイに4WDシステムに関するメッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

- 「4WDシステム高温 高負荷走行を控えてください」

4WDシステムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。*

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 「4WDシステム高温 2WD走行に切りかわりました」

過熱のため4WDシステムが一時解除さ

れ、前輪駆動走行に切りかわりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。*

しばらくして表示が消えれば、4WDシステムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 「4WDシステム故障 2WD走行になります 販売店で点検」

4WDシステムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

* 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

▲ 警告

■ABSの効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABSが作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABSは制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■ TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

● アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

● アクティブコーナリングアシストがひんぱんに作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

● ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

● ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要などき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

(→P.497)

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

 **警告****■ セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - 補機バッテリーの点検を受けてください。
 - 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前2輪）※を使用してください。

タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.414）
- ※ 235/55R19 タイヤ装着車は、周辺部品と十分なすき間が確保できないため、タイヤチェーンを取り付けられないでください。

知識

■ タイヤチェーンについて（235/55R19 タイヤ装着車を除く）

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷時の燃費・電費について

一般に自動車は、寒冷時は車両各部（トランスミッション・タイヤなど）の抵抗が増え、走行時に消費されるエネルギーが増加するため、燃費が下がりやすくなります。

この車も同様に、寒冷時は燃費・電費の数値が低下しやすくなります。

警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき（235/55R19 タイヤ装着車を除く）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける

警告

- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■ **タイヤチェーンの使用について**
(235/55R19 タイヤ装着車を除く)

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識■ **寒冷地用ワイパーブレードについて**

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

注意■ **ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードをOFFにしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてくだ

さい。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ ブレーキホールドシステム

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め[※]をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。
(→P.270)

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないことを確認してください。

- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

[※] 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

6-1. エアコンの使い方

オートエアコン 366

リモートエアコンシステム 374

ステアリングヒーター／フロント
シートヒーター & シートベンチ
レーション／リヤシートヒーター
..... 376

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 378

6-3. 収納装備

収納装備一覧 380

ラゲージルーム内装備 384

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 386

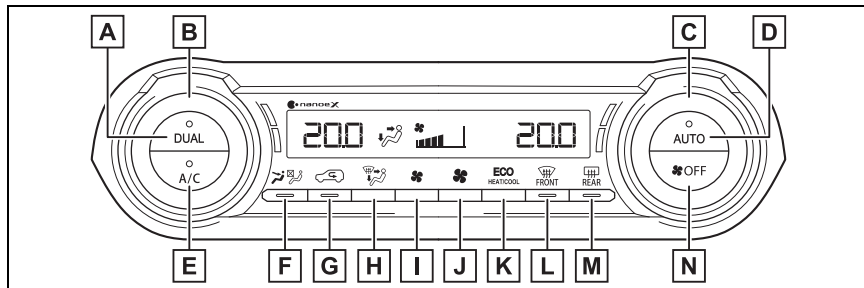
アクセサリーコンセント
(AC100V 1500W) 395

正常にアクセサリーコンセント
(AC100V 1500W) が使用でき
ないときは 402

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** DUAL スイッチ
- B** 助手席側温度調整スイッチ
- C** 運転席側温度調整スイッチ
- D** AUTO スイッチ
- E** 冷房・除湿スイッチ
- F** フロント席集中送風モード (S-FLOW) スイッチ
- G** 内外気切りかえスイッチ
- H** 吹き出し口切りかえスイッチ
- I** 風量減スイッチ
- J** 風量増スイッチ
- K** エコ空調スイッチ
- L** フロントデフロスタースイッチ
- M** リヤウインドウデフォグガー& ミラーヒータースイッチ
- N** OFF スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量増スイッ

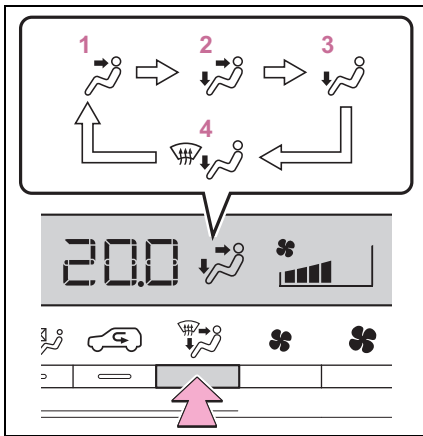
チを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能を使用する

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になる場合があります。

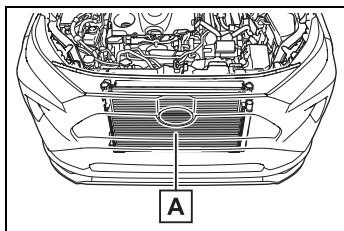
□ 知識

■ 暖房について

- HV モード時は、エンジン冷却水の排熱による暖房を行うため、ガソリンエ

ンジンが作動することがあります。

- EVモード・AUTO EV / HVモード時は、ヒートポンプによる暖房を行います。
 - ・ヒートポンプの特性上、外気温が低いときや雪が降っているときなどには、従来の車両にくらべて暖房が効きにくい場合や、十分な暖房感が得られない場合があります。その場合は、シートヒーター（→P.376）を併用してください。
 - ・ヒートポンプの暖房運転中に室外熱交換器に着霜すると、風量が低下して暖房が効きにくくなる場合がありますが、異常ではありません。この場合、設定温度を上げて吹き出し口から出る風の温度が上がらないことがあります。
 - ・室外熱交換器に着霜している場合は、運転の前にリモートエアコンシステムを起動させると、室外熱交換器の着霜を取り除くことができます。（→P.374）
- 着霜している場合、リモートエアコンシステムは除霜してから暖房運転を開始します。
- ・AUTOスイッチがONのときに最適な暖房を行うように設定されているため、風量設定を上げても所定の暖房能力が出ない場合があります。



A 室外熱交換器

- 次のときは、EVモードであってもエンジン冷却水の排熱による暖房を行うため、ガソリンエンジンが作動することがあります。
- ・外気温が約 -10°C 以下のとき

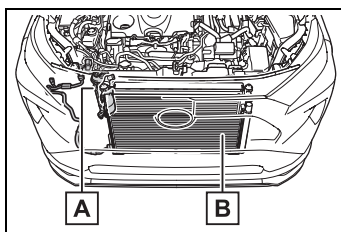


・ がONのとき

■エアコン作動時の水滴について

エアコンの作動中に室外熱交換器・アキュムレーター・エアコン配管が結露・着霜する場合があります。

エアコンの作動中や作動後に、車の下に水滴が落ちることがありますが、異常ではありません。





A アキュムレーター

B 室外熱交換器

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
 - 冷房・除湿機能をONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。
 - 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。
- ### ■マイルームモード・AC外部給電システムの使用中は

-  を押しても、所定の曇り取り性能を発揮できない場合があります。走行前にガラスの曇りを取りたい場合は、充電・外部給電を中止してから  を押してください。
- 低外気温時には、エアコン機器の作動

制限により十分な暖房感が得られないことがあります。また、ガソリンエンジンが作動可能な状態でないため、 -10°C 以下では暖房することができません。暖房したい場合は、充電・外部給電を中止し、車両から普通充電ケーブルを取りはずしてください。

■外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0°C 近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードがONになります。エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードがOFFになる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・エコドライブモードを解除する
 - ・エコ空調モードを解除する
- エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、そ

の場合でもエコ空調スイッチを押すとエコ空調モードを解除することができます。

■ナノイーX^{*1,2}について

エアコンにはナノイーX発生装置が搭載されています。

この装置は助手席側の吹き出し口からナノイーXを放出し、車室内を快適な空気環境に導きます^{*3}。

- ファンが作動すると、自動的にナノイーX発生装置が作動します。
- ナノイーX発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。

次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

- ・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき
- ・助手席側の吹き出し口が開いているとき

- ナノイーX発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

- ナノイーX発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
 - ・ナノイーX発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
 - ・作動直後は作動音が大きい場合があります。

^{*1} nanoe、ナノイーおよびnanoeマークは、パナソニックホールディングス株式会社の商標です。

^{*2} ナノイーXは、ナノイーにくらべて、効果の元であるOHラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

^{*3} 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■音声対話サービスでの操作★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用してエアコンを操作することができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.417

■イニシャライズ作動について

パワースイッチをOFFにしてから約90秒後に、エアコンシステムのイニシャライズ作動音がある場合がありますが、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

AUTOスイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.509)

⚠ 警告

■マイルームモード・AC 外部給電システムの使用上の警告

お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止等により車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ナノイーX発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

⚠ 注意

■ ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

助手席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は続きます。

📖 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能

オート設定時、湿度センサーでフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

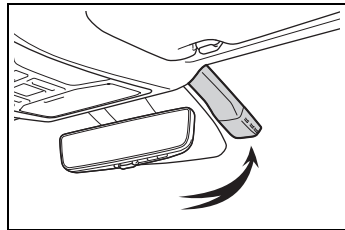
⚠ 注意

■ 湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- ・ 湿度センサーを分解しない
- ・ ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- ・ 湿度センサーにシールなどを貼らない



運転席と助手席の設定温度を別々に設定するには（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- DUAL スイッチを押す
- 助手席側の温度調整スイッチで設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

作動表示灯が点灯しているときに DUAL スイッチを押すと、左右独立モードが OFF になり、助手席の設定温度が運転席と同じ設定温度になります。

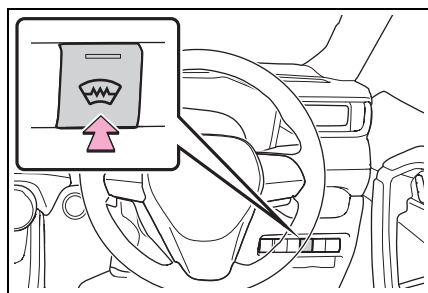
フロントワイパーデアイサー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

フロントワイパーデアイサーがONのとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、約15分後に自動的にOFFになります。



警告

■ フロントワイパーデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。


フロント席集中送風モード (S-FLOW) を使用する

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次


のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、の作動表示灯が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作パネルのを押し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

知識

■ 送風の自動制御について

- 室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■ 送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

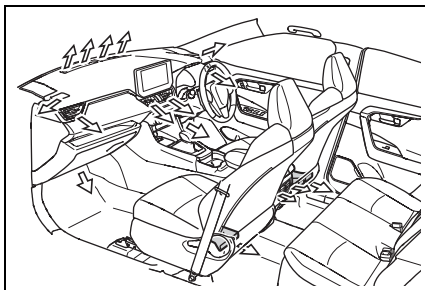
■ 送風を自動制御にもどすには

- 1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
- 2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

吹き出し口の配置・操作

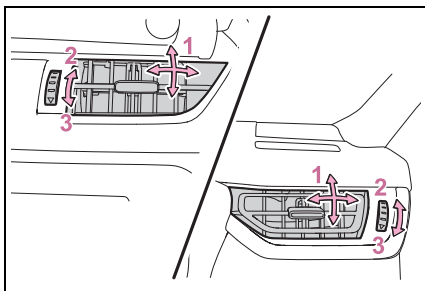
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



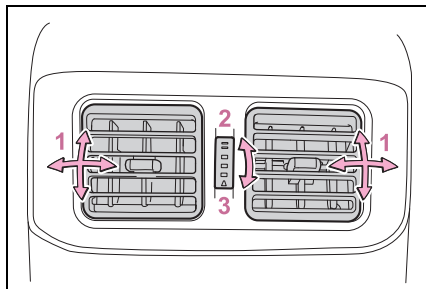
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口を開く
- 3 吹き出し口を閉じる

▶ リヤ

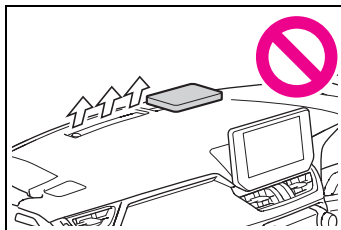


- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口を開く
- 3 吹き出し口を閉じる

▲ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

吹き出し口をささえぎるようなものを置かないでください。送風がささえられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



リモートエアコンシステム

駆動用電池に蓄えられた電力を使用して、乗車前に車外から冷房／暖房を作動させ、車内を空調することができます。

車両に充電ケーブルを接続した状態でリモートエアコンシステムを使用すると、外部電源からの電力を使用することができるため、駆動用電池の充電量の低下を抑えられます。

リモートエアコンシステム停止後は自動的に充電を行います。

車を降りる前に

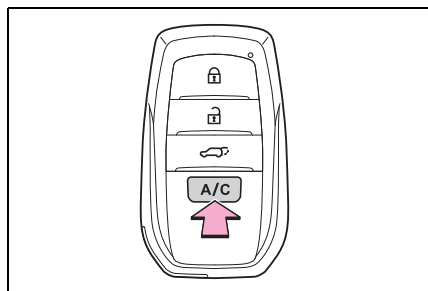
エアコンの設定温度を確認してください。(→P.366)

リモートエアコンシステムは、エアコンの設定温度に従って作動します。

作動させるには

電子キーの“A/C”を押したまま保持する

“A/C”を2回押して停止させることもできます。



知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしていないと、リモートエアコンシステムは作動しません。

- シフトレバーの位置がPになっている
- パワースイッチがOFFになっている
- すべてのドアが閉じている（バックドアを含む）
- ボンネットが閉じている

■ リモートエアコンシステムの自動停止について

次のとき、自動的に停止します。

- リモートエアコンシステムの作動開始から約20分後
- 作動条件がひとつでも満たされなくなったとき

駆動用電池の充電量が少ないときも、停止する場合があります。

■ リモートエアコンシステムの作動について

次のような場合は、作動しないことがあります。

- 駆動用電池の充電量が少ないとき
- 外気温が極めて低いとき
- ハイブリッドシステムが低温のとき（低外気温下に長時間放置したあとなど）

■ フロントガラスの霜取りについて

リモートエアコンシステムでフロントガラスの霜を取る場合、通常のエアコン使用時よりも電力が制限されているため、十分にフロントガラスの霜が取れないことがあります。また、外気温や湿度、エアコンの設定温度などにより、フロントガラスが曇る場合があります。

■ リモートエアコンシステムで暖房を使用するとき

- 低外気温時には、エアコン機器の作動制限により十分な暖房感が得られないことがあります。
- 室外熱交換器に着霜すると、霜を取る除霜運転に自動で切りかわり、暖房効果が低くなる場合があります。(→P.367)

■ セキュリティ機能

リモートエアコンシステムを作動するとき、盗難防止のため施錠されていないドアは自動的に施錠され、ブザーと非常点滅灯の点滅でお知らせします。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→P.205

■ リモートエアコンシステムの作動中に

- リモートエアコンシステムの作動状態によっては、エアコンコンプレッサーや冷却ファンが回転して作動音が発生しますが、異常ではありません。
- リモートエアコンシステムの作動中は、エアコン操作スイッチなどは作動しません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P.184

■ 電子キーの電池が切れたとき

→P.426

■ カスタマイズ機能

リモートエアコンシステムの作動開始・停止時の、ワイヤレスリモコンの操作方法を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.509)

警告

■ 使用上の警告

- 車室内に人がいるときは使用しないでください。
リモートエアコンシステムを使用しても、システムの自動停止等により車室内が高温、または低温になる場合があります。お子さまやペットを車室内に残したままにしておくと、熱中症や脱水症状や低体温症になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。
- ボンネットが開いているときは、電子キーの“A/C”を操作しないでください。
意図せずリモートエアコンシステムが作動して、冷却ファンに手や衣服などが巻き込まれるおそれがあります。

注意

■ 駆動用電池の消費を防ぐために

必要なとき以外、電子キーの“A/C”を操作しないでください。

ステアリングヒーター／フロントシートヒーター & シートベンチレーション／リヤシートヒーター

● ステアリングヒーター

ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。

● フロントシートヒーター

フロントシートの表面を暖めることができます。

● フロントシートベンチレーション

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくすることができます。

● リヤシートヒーター

リヤシートの表面を暖めることができます。

⚠ 警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

■ 異常過熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しない

- 毛布・クッションなどを使用しない

⚠ 注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

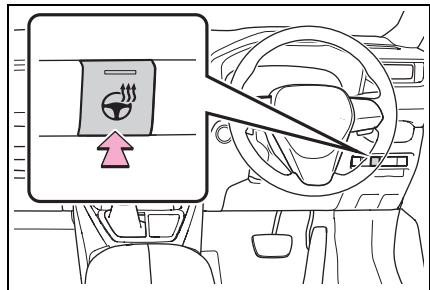
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

スイッチを押してシステムの ON / OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。



📖 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

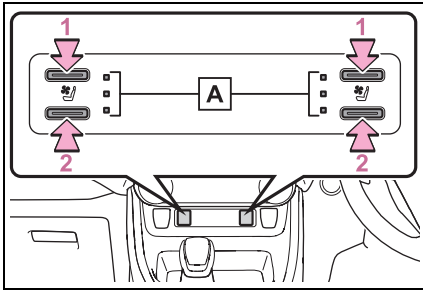
フロントシートヒーター & シートベンチレーションを使うには

スイッチを押してフロントシートヒーター & シートベンチレーションの作動を切りかえる

作動中は、レベルインジケーター **A** が点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF



1 シートヒーター ON / OFF の切りかえ

シートヒーター作動中はレベルインジケータ **A** が黄色に点灯します。

2 シートベンチレーション ON / OFF の切りかえ

シートベンチレーション作動中はレベルインジケータ **A** が緑色に点灯します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ エアコン連動モードについて

シートベンチレーションを強く使用しているとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーションの作動が強くなります。

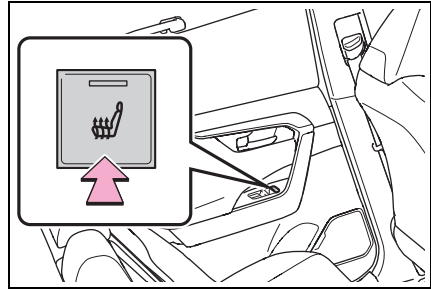
■ カスタマイズ機能

シートベンチレーションの風量を設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.509)

リヤシートヒーターを使うには

スイッチを押してシステムの ON / OFF を切りかえる

作動中はインジケータが点灯します。



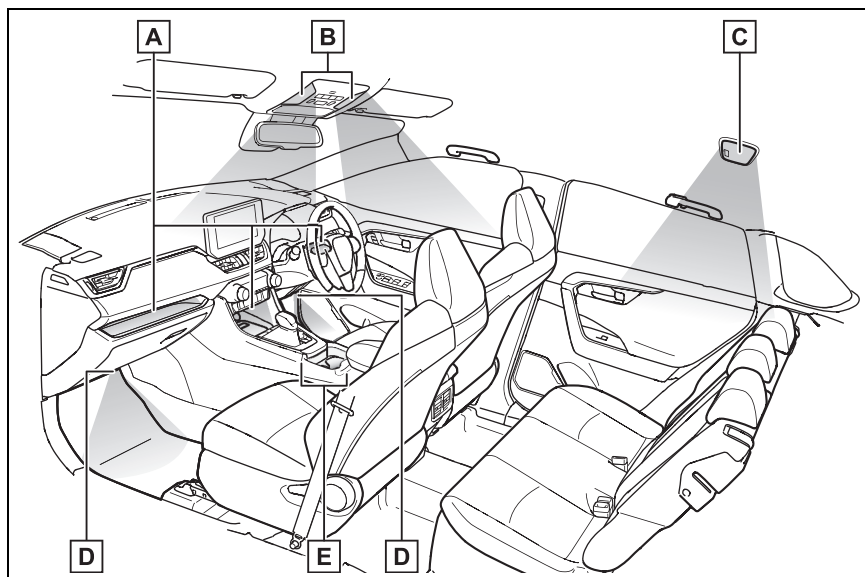
知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

室内灯一覧

室内灯の位置



A オープントレイ照明*

B フロントインテリアランプ・パーソナルランプ (→P.379)

C リヤインテリアランプ (→P.379)

D 足元照明*

E フロントカップホルダー照明*

*いずれかのドアを解錠したとき点灯し、シフトレバーがP以外のときに明るさが暗くなります。

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠/解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチをOFFにしたときに、室

内灯が点灯したままの場合は、約20分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRSエアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約20分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります)

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.510)



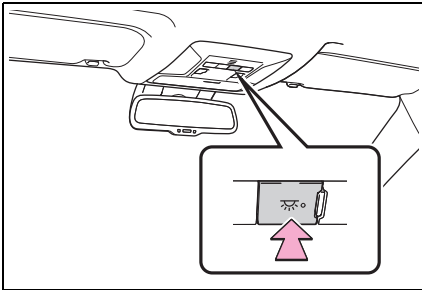
注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

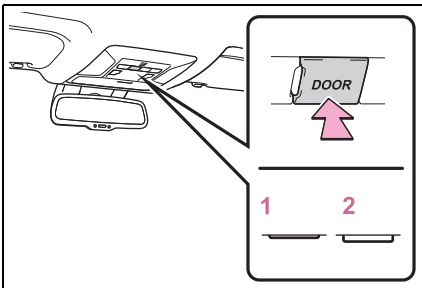
インテリアランプを操作するには

■ フロントインテリアランプ

ランプを点灯・消灯する



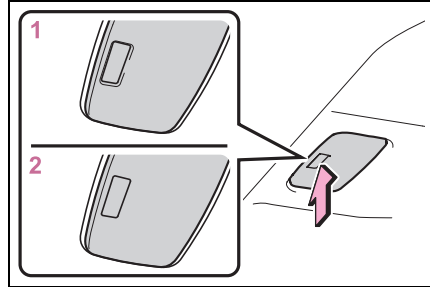
ドア連動の ON/OFF を切りかえる
ドア連動が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



1 ON

2 OFF

■ リヤインテリアランプ



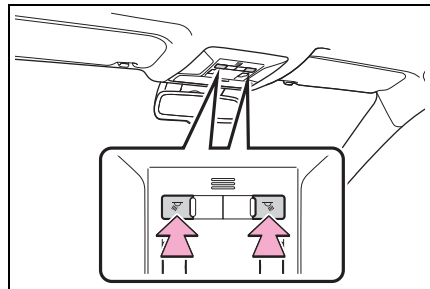
1 ランプを点灯する

2 ドア連動を ON にする (ドアポジション)

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

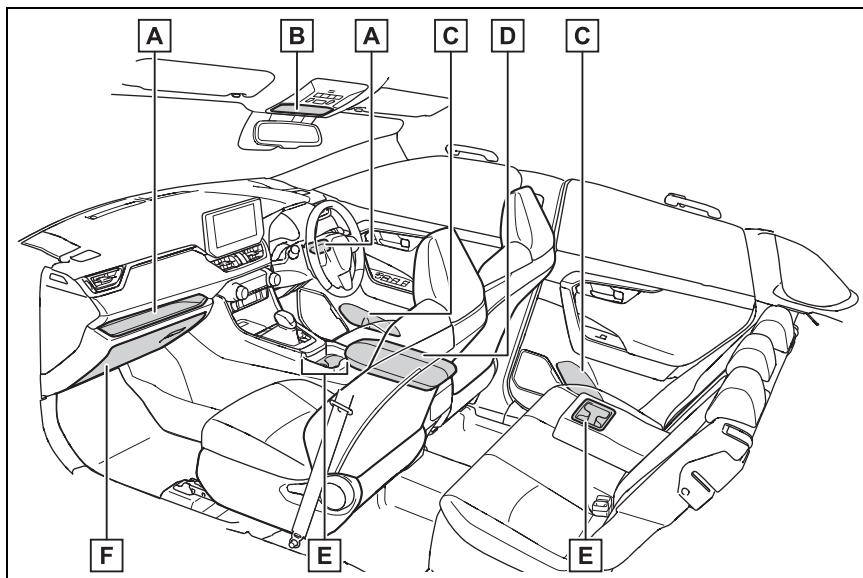
パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する



収納装備一覧

収納装備の位置



- A** オープントレイ (→P.383)
- B** 小物入れ (→P.382)
- C** ボトルホルダー (→P.382)
- D** コンソールボックス (→P.381)
- E** カップホルダー (→P.382)
- F** グローブボックス (→P.381)

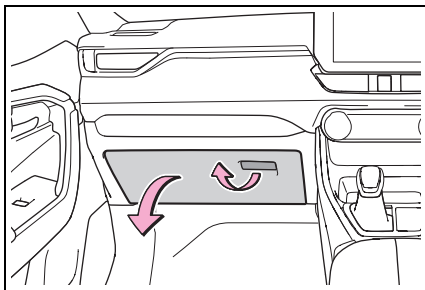
警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの
メガネ、ライターやスプレー缶を収納
装備内に放置したままにしないでくだ
さい。放置したまましていると、次のよ
うなことが起こるおそれがあり危険で
す。

- 室温が高くなったときの熱や、他の
収納物との接触などにより、メガネ
が変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターや
スプレー缶が爆発したり、他の収納
物との接触でライターが着火したり
スプレー缶のガスがもれるなどして
火災につながる

グローブボックスを使うには

レバーを引いて開ける

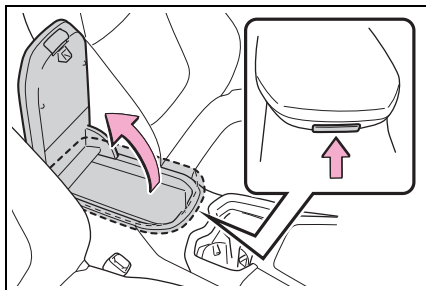
**警告**

■ グローブボックスを使用しないとき
は

グローブボックスを必ず閉じてくだ
さい。
急ブレーキや急旋回時などに、開いた
フタに体があたったり、収納していた
ものが飛び出したりして、思わぬ事故
につながるおそれがあり危険です。

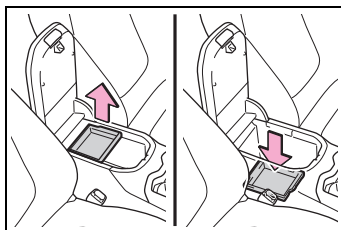
コンソールボックスを使うには

ボタンを押しながらフタを持ち上
げて開く

**知識**

■ コンソールボックス内のトレイについ
て

コンソールボックス内のトレイを引き上
げて取りはずしたり、ボックスの底面に
収納したりすることができます。

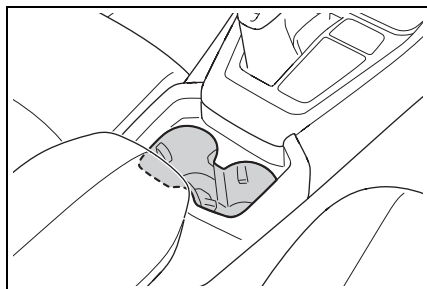
**警告**

■ コンソールボックスを使用しないとき
は

コンソールボックスを必ず閉じてくだ
さい。
急ブレーキや急旋回時などに、開いた
フタに体があたったり、収納していた
ものが飛び出したりして、思わぬ事故
につながるおそれがあり危険です。

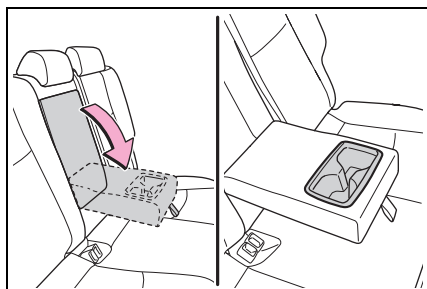
カップホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ

アームレストを手前に倒す



⚠ 警告

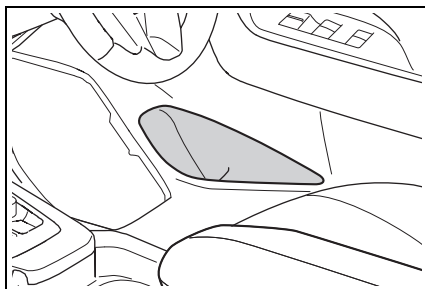
■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

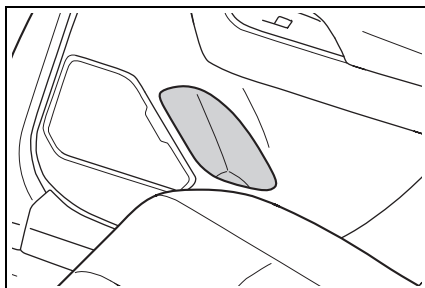
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ



📖 知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

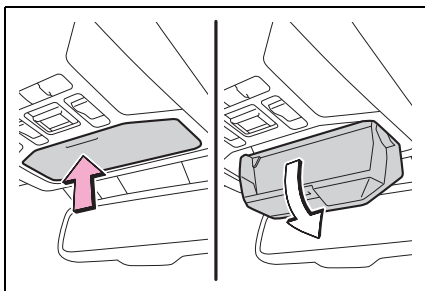
⚠ 注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れを使うには

フタを押して開ける



⚠ 警告

■ 小物入れを使用しないときは

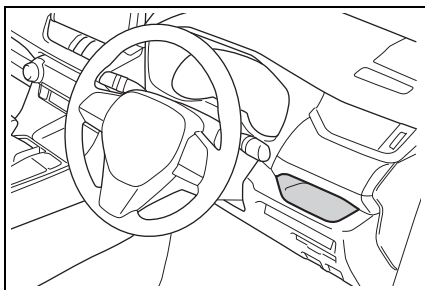
小物入れを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 収納してはいけないもの

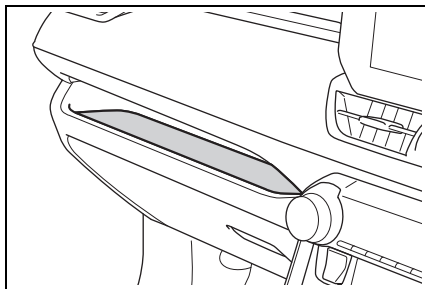
小物入れには 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出して思わぬ事故につながるおそれがあります。

オープントレイを使うには

■ 運転席右側



■ 助手席



⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛びだし、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

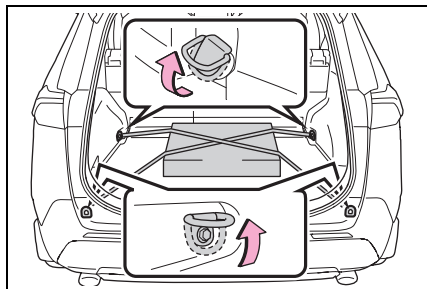
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出たものを置かないでください。

ラゲージルーム内装備

デッキフックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



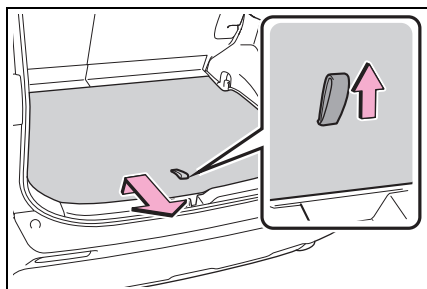
警告

■ デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

デッキボードを開けるには

ストラップを引き、デッキボードを持ち上げる



警告

■ デッキボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。指をはさむなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

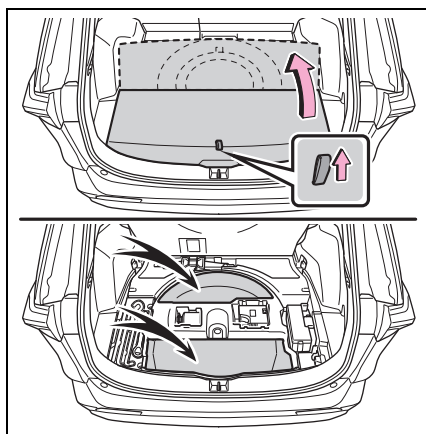
デッキボードを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

デッキアンダートレイを使うには

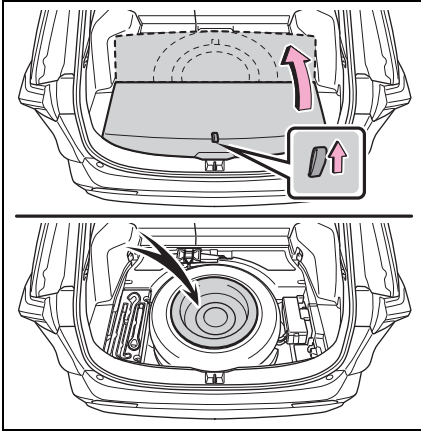
ストラップを引き上げ、デッキボードを開ける

充電ケーブルなどを収納することができます。

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



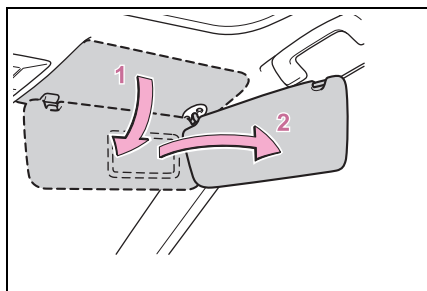
▶ 応急用タイヤ装着車

**⚠ 警告****■ 走行中の警告**

デッキボードを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、デッキ
アンダートレイに収納していたものが
飛び出し、思わぬ事故につながるおそ
れがあり危険です。

その他の室内装備

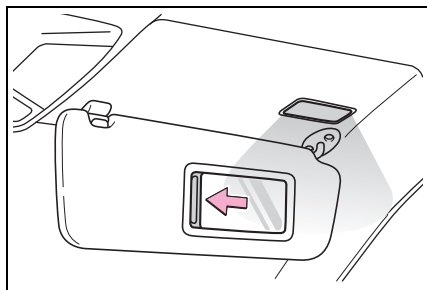
サンバイザーを使うには



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける
カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■ 自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

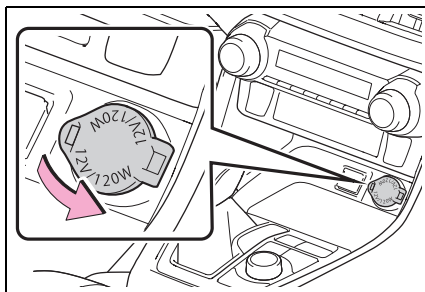
アクセサリースocketを使うには

DC12 V/10 A (消費電力 120W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリースocketに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

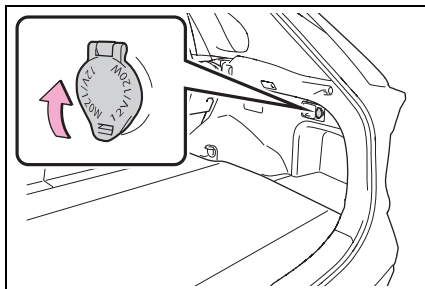
■ フロント

フタを開ける



■ ラゲージルーム内

フタを開ける



知識

■ **アクセサリソケットを使用するとき**
 パワースイッチが ACC または ON のとき

■ **ハイブリッドシステムを停止するとき**
 モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■ **アクセサリソケットを使用しないときは**

ショートや故障を防ぐために、アクセサリソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ **ヒューズが切れるのを防ぐために**

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリソケットを長時間使用しないでください。

充電用 USB Type-C 端子を使うには

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。

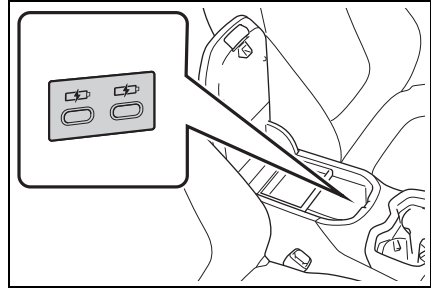
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取

り扱い説明書もお読みください。

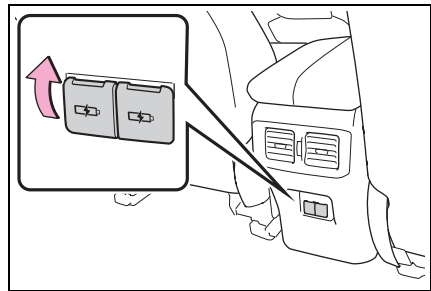
■ **充電用 USB Type-C 端子を使用するには**

▶ **コンソールボックス内**



▶ **リヤ**

フタを開ける



知識

■ **充電用 USB Type-C 端子の作動条件**

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ **充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況**

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。



注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機

器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の商標です。

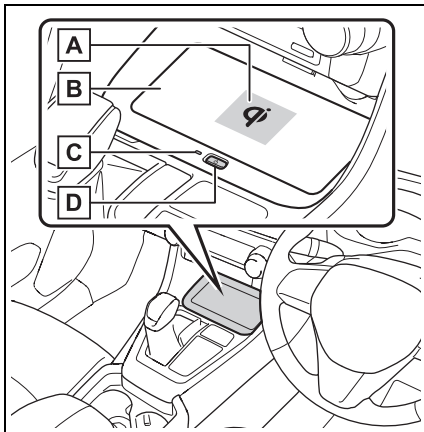


■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称



A 充電エリア※

B 充電トレイ

C 作動表示灯

D 電源スイッチ

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアから外れた場合、充電は自動的に停止します。

また、2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

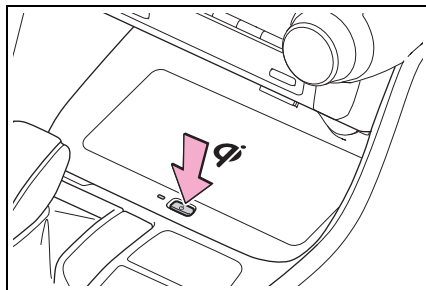
■ 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態 (ON / OFF) はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

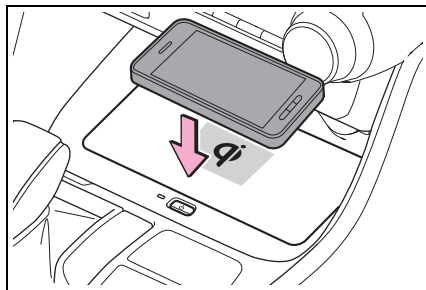


2 充電トレイに携帯機器を置く

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央にくるように置いてください。携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央にくるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。充電が行われないときは、作動表示灯が緑色と橙色の点灯をゆるやかにくり返し、充電コイルの作動音がくり返し聞こえることがあります。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開

します。

- 充電エリア内で携帯機器が大きくと動くと、充電用コイルがずれて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。

■ 急速充電機能

- 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。
 - ・ WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
 - ・ 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone (iPhone 8 以降の機種)
- 急速充電機能への切りかえは、充電中に電源スイッチを 3 回押します。急速充電が可能になると、作動表示灯が橙色の点灯から、緑色と橙色の交互の点灯にかわります。
- 充電が完了すると、急速充電機能は終了します。次に急速充電を行うときは、再度急速充電機能へ切りかえてください。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑 (点灯)	待機中 (充電可能状態) ※ ¹
	充電完了時 ※ ²
橙 (点灯)	充電エリアに携帯機器を置いたとき (携帯機器を検出中)
	充電中

作動表示灯	状況
緑と橙が交互に点灯	以下の携帯機器が急速充電中 <ul style="list-style-type: none"> ・ WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器 ・ 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone (iPhone8 以降の機種)

※¹ 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いて、加熱されることはありません。

※² 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

- 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す (橙色)

想定される原因	対処方法
車両とワイヤレス充電器の通信不良	ハイブリッドシステムが作動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。 パワースwitchのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。(→P.261)

● 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた	充電エリア内にある異物を取り除いてください。
携帯機器のずれ： 携帯機器の充電用コイルが充電エリアからはずれたことで、異常過熱防止機能が働いた	携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。

● 4 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止	いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■ 使用条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ 使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

- ただし、以下の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。
 - ・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
 - ・ WPC 規格の Ver1.2.4 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。

■ スマートエントリー&スタートシステムの使用について

電子キーが車外に持ち出されたときなど、充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行うために、一時的に充電を停止します。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。「Qi」対応の製品でもカバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

■ 充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

- ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。

また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

- iPhone の急速充電は、特定の周波数で行っています。周波数の切りかえ中は、

iOS のバージョンによっては、急速充電動作を行わない場合があります。

■充電中についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、ワイヤレス充電器の電源 ON 中にパワースイッチを押して ACC や ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は“カチッ”や“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ 情報等でご確認ください。

■商標について

iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

▲警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき（特に折りたたみ式などの小さい携帯機器は、走行時に充電エリアからずれることがあります）
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3mm 以上あるとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のような 2mm 以上の厚みがあるものが挟まれているとき
 - ・ 厚みがあるケースやカバー
 - ・ 厚みがあるデコレーション
 - ・ 指リングやストラップなどのアクセサリ
 - ・ レンズ部に凸形状があるケースやカバー
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - ・ 金属製のデコレーション
 - ・ 金属製のケースやカバー
 - ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーが車室内にないとき
- 2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

⚠ 注意

■故障やデータ破損を防止するために

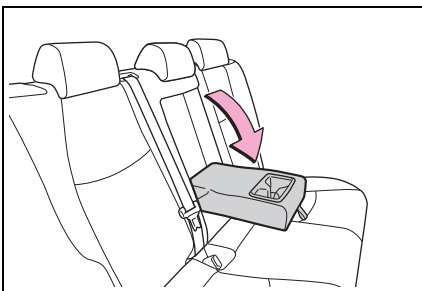
- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETCカードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近づけると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近づけると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用する

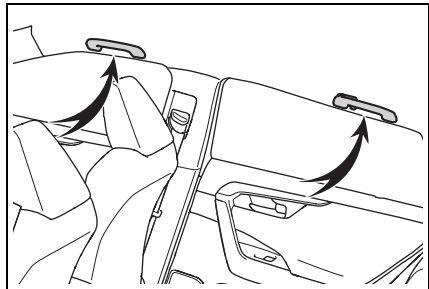


⚠ 注意

- アームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

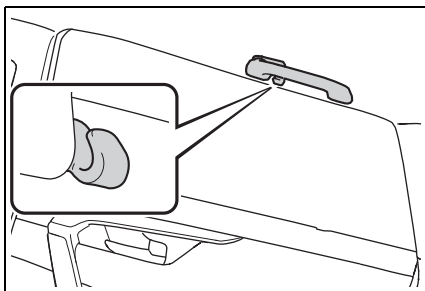
⚠ 注意

■アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。



⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アクセサリコンセント (AC100V 1500W)

車内において、AC100Vで消費電力の合計が1500Wの電気製品を使用することができるシステムです。

アクセサリコンセントは、車室内で電気製品を使用するための装備です。車室外に給電するときは、AC 外部給電システムをご使用ください。(→P.136)

📖 知識

■ 使用条件

- READYインジケーターが点灯しているとき
- AC 外部給電システムを使用しているとき (→P.136)
- マイルームモードを使用しているとき (→P.124)

■ アクセサリコンセントについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が動き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用時、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬

間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

- コンセントの使用時、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用時、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■ AC 外部給電システム (→P.136) を使用しているとき

AC100V スイッチを押さなくても、コンセントを常時使用することができます。また、作動表示灯は点灯したままとなり、スイッチを押しても OFF できません。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。駐車中または停車中のコンセントの使用については、関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

- スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- 電子キーでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキー (→P.480) のみでドアを施錠・解錠することができます。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません キーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、→P.275 を参照してください。

▲ 警告

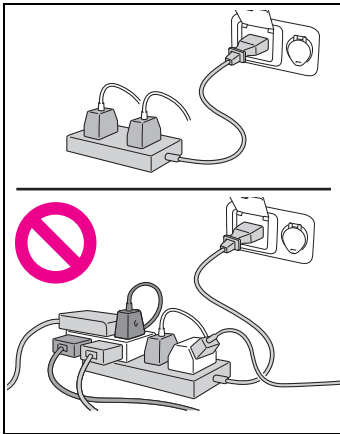
■ 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまなど、不慎れな方だけで給電作業を行わないでください。
- めれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
 - ・ コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- ・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでゆめるときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

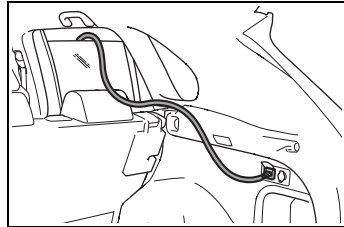
■ 電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。
- **駐車中または停車中に使用するとき**
- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーの位置をPから動かさないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ・ 雨水の侵入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
 - ・ コードを窓やドアで挟まない
 - ・ たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



- ・ 誤って車両を発進させない
- 給油や洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

警告

- 駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

■ 走行中に使用するとき

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
 - ・ 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
 - ・ やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・ACアダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

- 長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出る場合がありますが、異常ではありません。
- 特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からいびが発生したりする場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■ 駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- システム作動中はエンジンが作

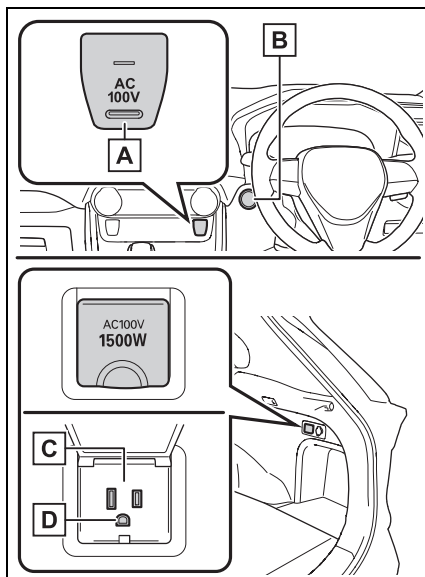
動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること

- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトレバーがPの位置にあること
- パワースイッチがOFFになっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

各部の名称



A AC100V スイッチ

B パワースイッチ (→P.261)

C コンセント

D アース端子

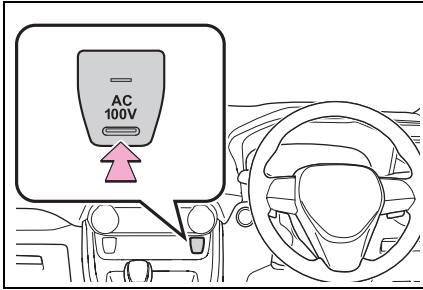
アクセサリコンセントを使用するには

■ コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押す (→P.261)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON / OFF が切りかわります。



- 3** フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む (→P.401)

■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取り扱い説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

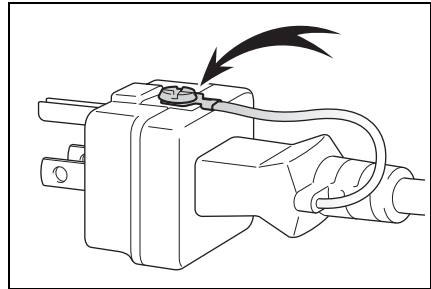
- 1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長コードなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。



正常にアクセサリーコンセント (AC100V 1500W) が使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を給油後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。

考えられる原因	対処法
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。電気製品の取り扱い説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W をこえている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ピンなどの異物が挿さっていないか ・ 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

7-1. お手入れのしかた外装の手入れ..... **404**内装の手入れ..... **407****7-2. 簡単な点検・部品交換**ボンネット..... **410**ガレージジャッキ..... **412**ウォッシュャー液の補充..... **413**タイヤについて..... **414**タイヤ空気圧について..... **416**エアコンフィルターの交換..... **417**DC / DC コンバータ冷却用吸入口
／フィルターの清掃..... **420**ワイパーゴムの交換..... **423**電子キーの電池交換..... **426**ヒューズの点検・交換..... **428**電球（バルブ）の交換..... **431**

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスをかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 洗車をする前に

車両の充電リッド、および給油扉が確実に閉まっていることを確認してください。

■ 自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワーバックドアを停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.205）
- ホイール・ホイールキャップについて
 - 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
 - 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
 - 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておく、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラススクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

▲ 警告

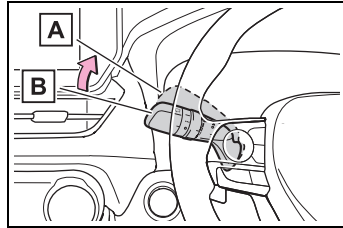
■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- BSM

警告

- RCTA
- PKSB
- クリアランスソナー

注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

- ランプにワックスがけを行わないでください。

レンズを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を30cm以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

- フロントウィンドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

- 充電リッド付近に使用しないでください。普通充電インレットに水が入り、車両故障につながるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・DC / DC コンバータ冷却用吸入口・ジャンクションボックス周辺などに、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.72) DC / DC コンバータや電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.30) 電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）(→P.388) をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまざまに妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

● 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

● 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.288)

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

● 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいでください。

● 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5 % とうすめて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

📖 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

⚠ 注意

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

● 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

● 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

● ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1% とうすめてやわらかい布に含ませふき取

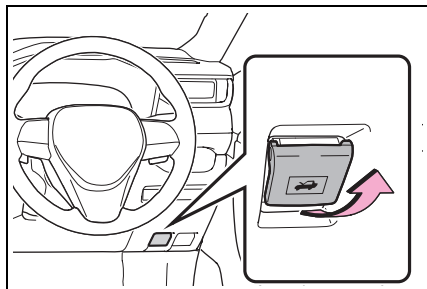
る

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

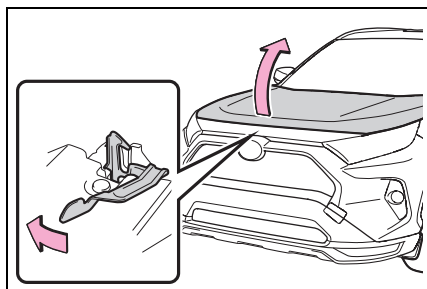
ボンネット

ボンネットを開けるには

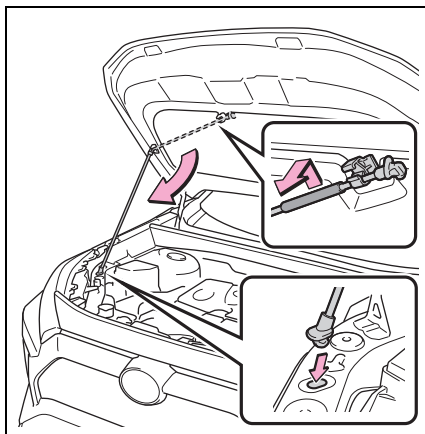
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引いてボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



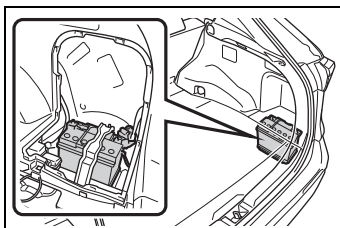
知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（運転席側）のラゲージサイドトレイ内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。

(→P.482)



警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

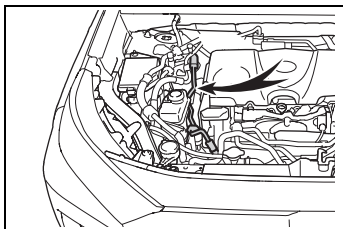
■ けがを防ぐために

● 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

● 走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ やけどを防ぐために

コンプレッサーの作動中、または作動後は、配管が高温になるため、手をふれないでください。配管が冷える前にふれると、やけどをするおそれがあります。

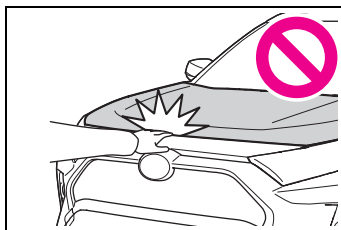


■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ ボンネットステーをステア穴に押し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく押し込まれているか確認してください。

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

→P.410

注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

 注意

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

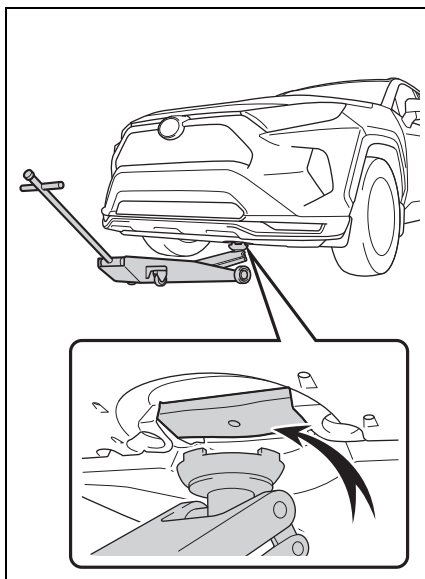
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

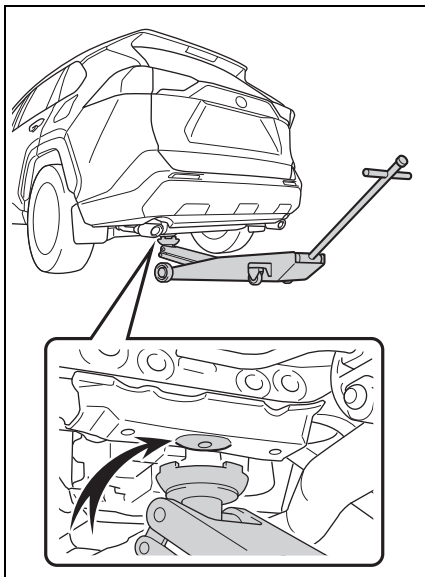
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



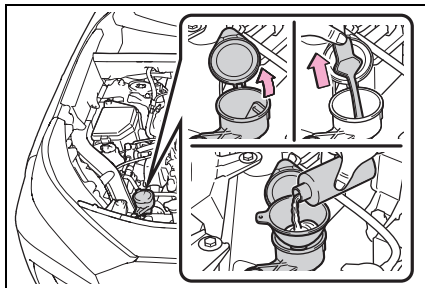
■ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充するには

液面が LOW の位置まで低下したら、ウォッシャー液を補充してください。

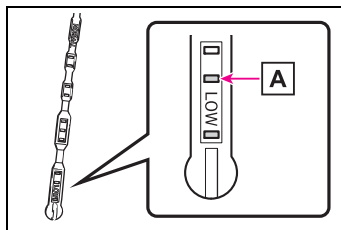


知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補充してください。



A 現在の液量

警告**■ ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステムが作動しているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意**■ ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無**● タイヤの溝の深さ****● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無****知識****■ タイヤ空気圧について**

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

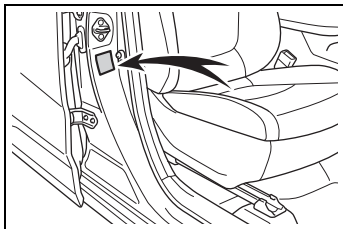
前輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

後輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

応急用★：420kPa (4.2kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

▲ 警告

■ 点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ タイヤ交換時の注意

ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

▲ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

⚠ 注意

■ 悪路走行に対する注意

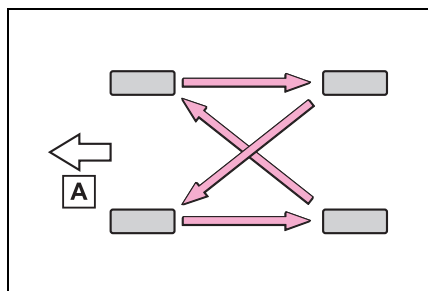
段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。

□ 知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

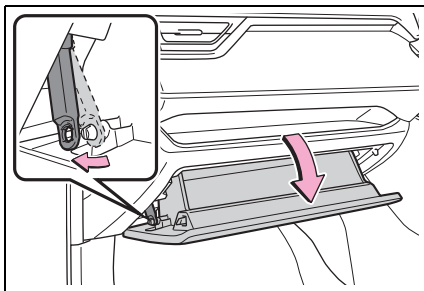
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気もれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

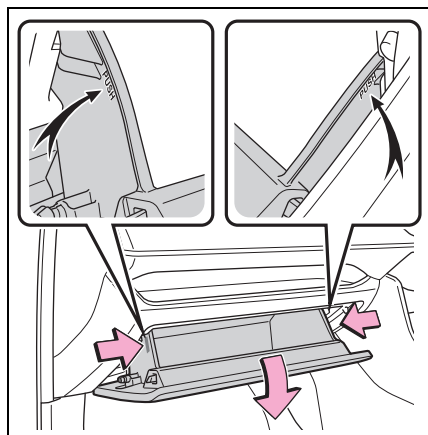
交換するには

- 1 パワースイッチを OFF にする
普通充電コネクタが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。
- 2 助手席ドアを開く
ドアを開けておくことで、リモートエアコンシステムの意図せぬ作動を防止できます。（→P.374）
- 3 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



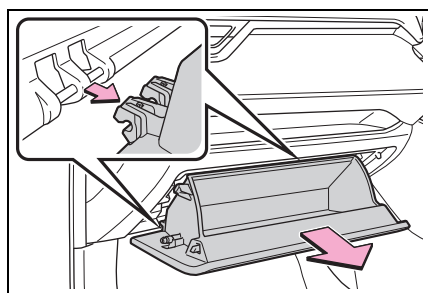
- 4 グローブボックス側面を内側に押し上部のツメを片側ずつは

ずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



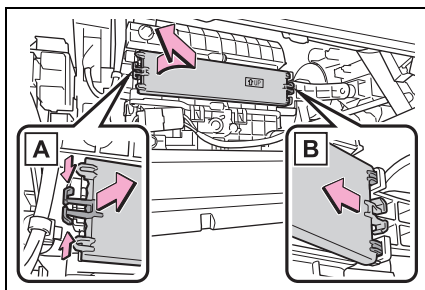
- 5 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。

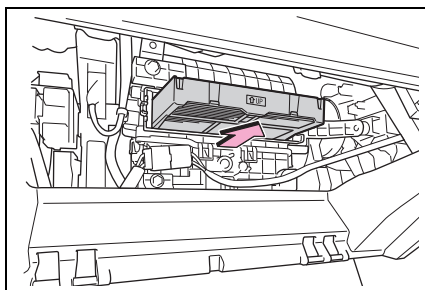


- 6 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィル

ターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

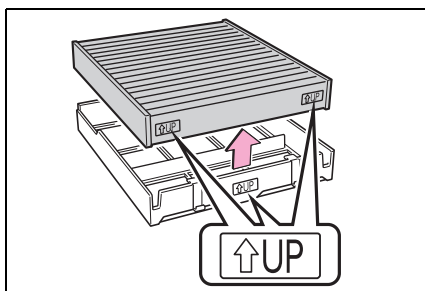


- 7 フィルターケースを取りはずす



- 8 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 9 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15000km[7500km^{※1}]ごと、ただし12ヶ月をこえないこと^{※2}

※¹大都市や寒冷地など、交通量が粉じんの多い地区

※²芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

警告

■ エアコンフィルターを交換するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、作業中にエアコンが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 普通充電コネクタが接続されていないことを確認する
エアコン連動機能（→P.111）により、エアコンが作動する場合があります。
- リモートエアコンシステムを使用しない

注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

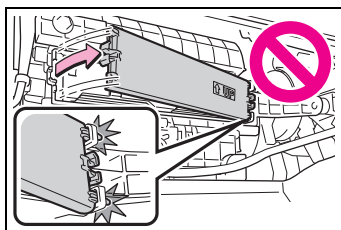
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→P.417）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■ フィルターカバーの損傷を防ぐために

フィルターカバーを取りはずす際にフィルターカバーのツメに無理な力が加わらないように注意してください。ツメが損傷するおそれがあります。

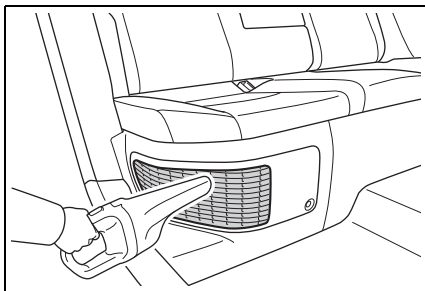


DC / DC コンバータ冷却用吸入口／フィルターの清掃

補機バッテリーあがりを防ぐために、DC / DC コンバータ冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「DCDC コンバータの冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

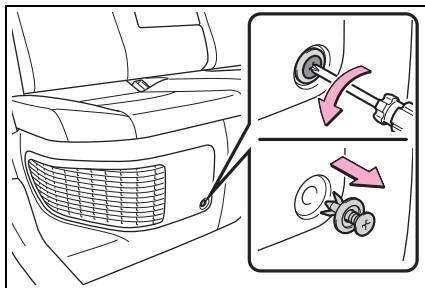
掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。(→P.422)



ほこりを取り除ききれないときは

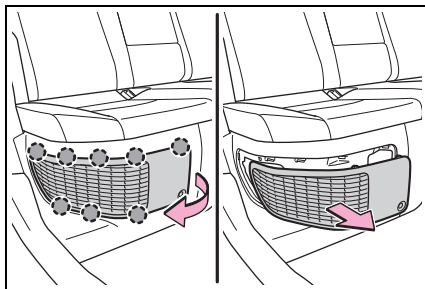
次の要領で吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 プラスドライバーを使用してクリップを取りはずす



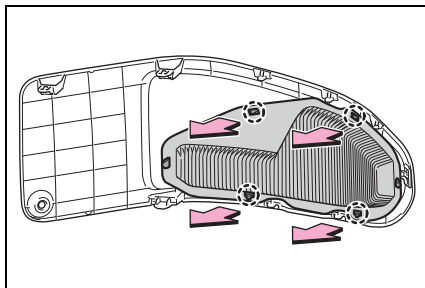
- 3 吸入口カバーを取りはずす

吸入口カバーを手前に引いて、図で示す8ヶ所のツメを右端からはずし、吸入口カバーを手前に引いて取りはずします。



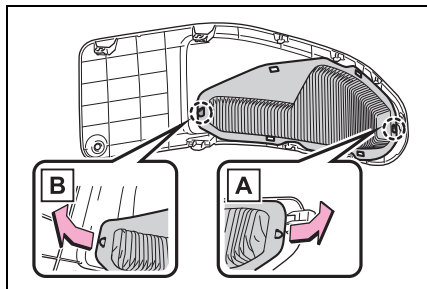
- 4 フィルターを取りはずす

吸入口カバーのツメからフィルター中央部（4ヶ所）をはずします。



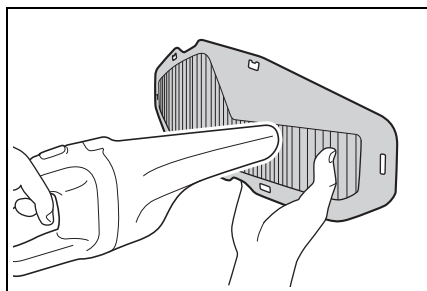
吸入口カバーのツメ **A** 部をはずしてから **B** 部をはずし、フィルターを取りはずす

ずします。



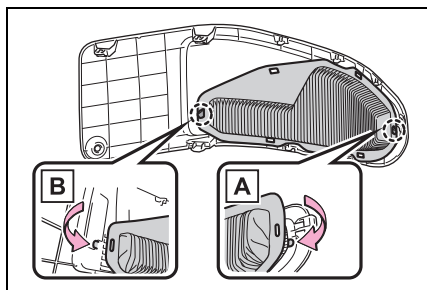
5 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。



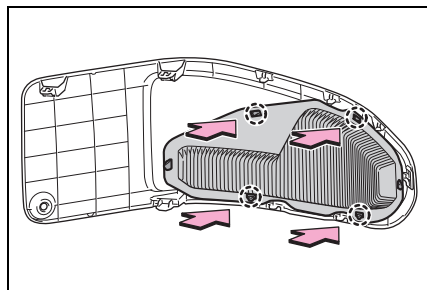
6 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

フィルターを吸入口カバーのツメ**B**部に取り付けてから**A**部を取り付けます。



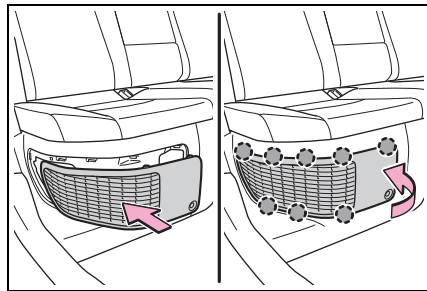
フィルター中央部（4ヶ所）を吸入口カバーのツメに取り付けます。

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

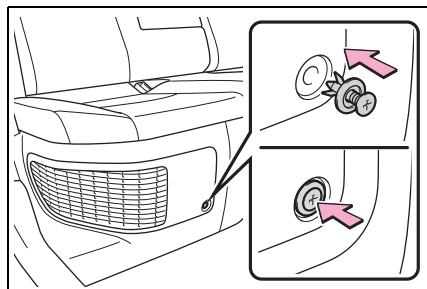


7 吸入口カバーを取り付ける

吸入口カバーの左端のツメを挿し込み、図で示す 8ヶ所のツメを取り付けてください。



8 クリップを取り付ける



知識

■ 吸入口の清掃について

- 吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、DC / DC コンバータの冷却

に悪影響をおよぼします。DC / DC コンバータの冷却性能・出力に制限がかかるなどすると、補機バッテリーあがりにつながる場合があります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。

- 誤った取り扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身の清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「DCDC コンバータの冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは
 - 吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。(→P.420)
 - 清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ 吸入口の清掃をするときは

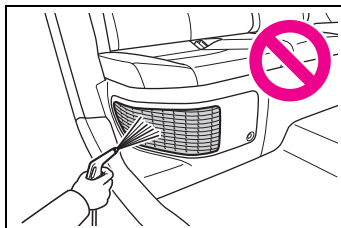
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 水や液体などで清掃しないでください。DC / DC コンバータなどに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。

エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、DC / DC コンバータの性能が低下したり、故障の原因になったりするおそれがあります。



■ 車両の故障を防ぐために

- 吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

⚠ 注意

- マルチインフォメーションディスプレイに「DCDC コンバータの冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（DC / DC コンバータの冷却性能・出力に制限がかかった状態）で走行を続けると、DC / DC コンバータの故障の原因になる場合があります。警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。

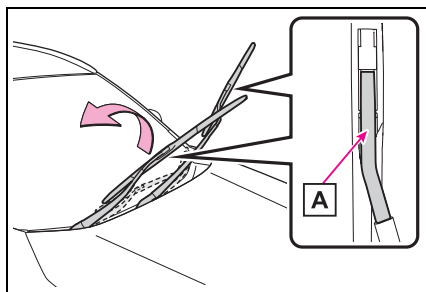
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領で作業を行ってください。

フロントワイパー

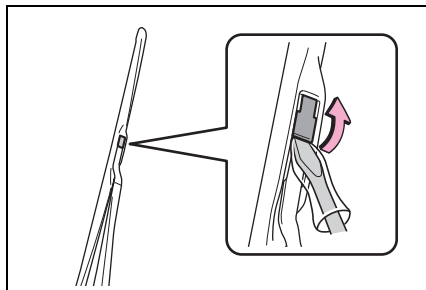
■ フロントワイパーブレードの脱着

- 1 フック部 (A) を持ってワイパーアームを起こす



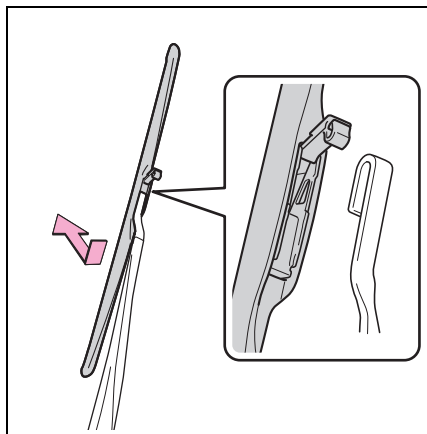
- 2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



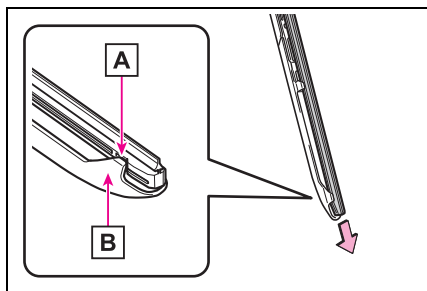
- 3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



■ ワイパーゴムの交換

- 1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



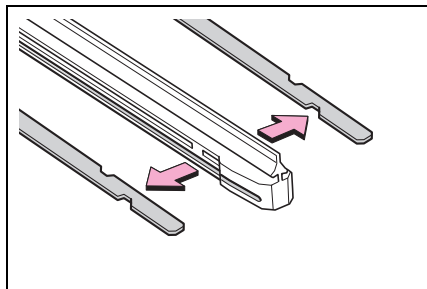
A ストッパー

B ツメ

- 2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認して

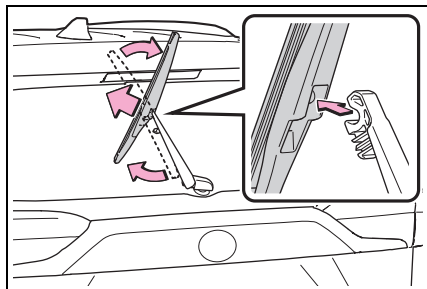
ください。



- 3 ストッパーがない側を先にし、ワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する
- 4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

リヤワイパー

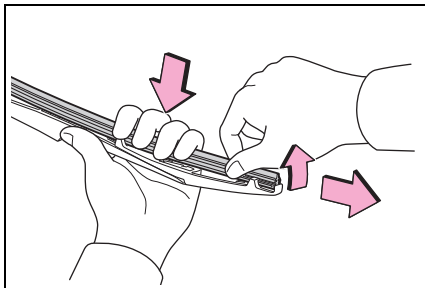
- 1 “カチッ” と音がしてツメのかみ合いがはずれる位置までワイパーブレードを起し、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす



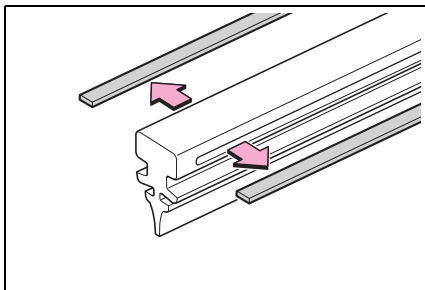
- 2 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押しとワイパーゴムが浮

き上がり、引き抜きやすくなります。

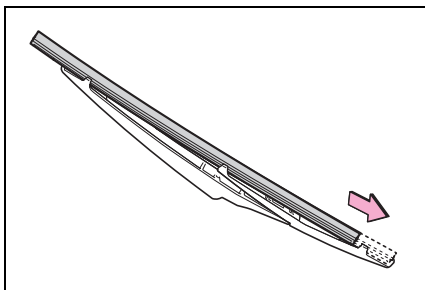


- 3** 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



- 4** ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った1つのツメに通す

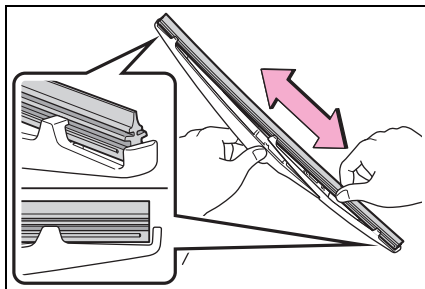
ワイパーゴムにウォッシュ液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



- 5** ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。

ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



- 6** ワイパーブレードを取り付けるときは、1と逆の手順で取り付ける

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

知識

■ ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身のワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ ワイパーアームを起こすときは

- ワイパーアームのフック部を持って引き上げてください。ワイパーブレードのみを持って引き上げるとブレードが変形するおそれがあります。
- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉したり、ワイパーが倒れたりして傷が付くおそれがあります。

■ 損傷を防ぐために

- ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。
- ワイパーブレードからワイパーアームを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出して、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

📖 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2450

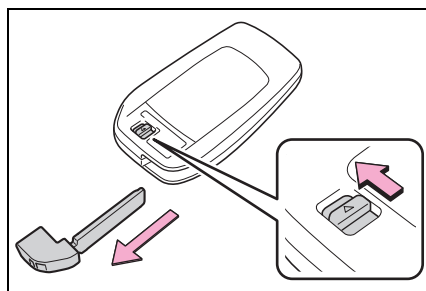
📖 知識

■ リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

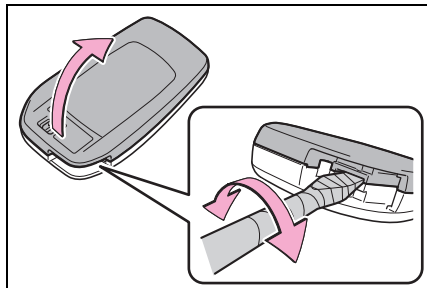
- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

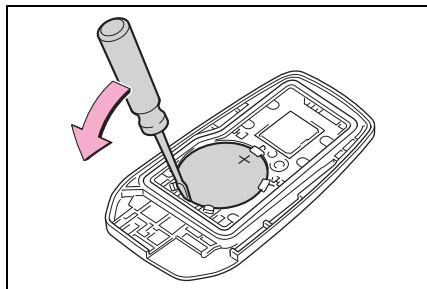
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
 - 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
 - カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- #### ■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
 - 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
 - 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

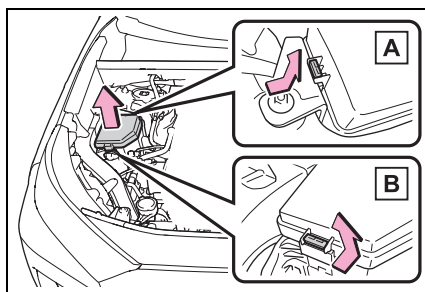
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする
普通充電コネクタが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

2 ヒューズボックスを開ける

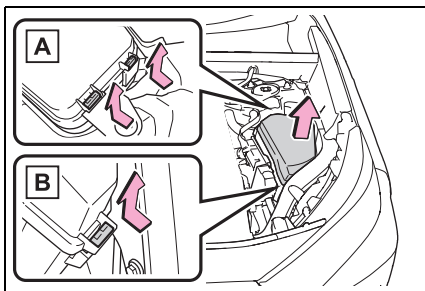
▶ エンジンルーム（運転席側）

ツメ **A** と **B** を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



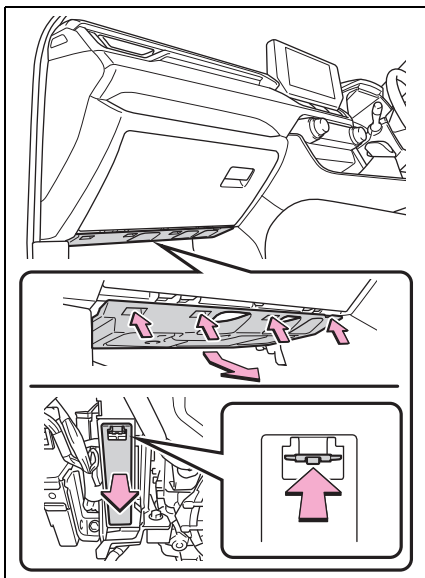
▶ エンジンルーム（助手席側）

ツメ **A** と **B** を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



▶ 助手席足元

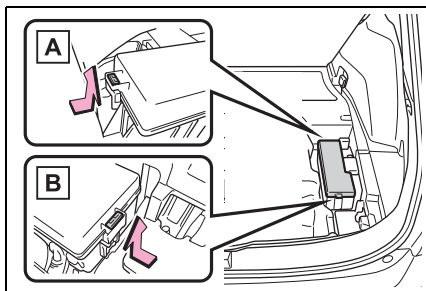
足元のカバーを取りはずします。



▶ ラゲージルーム

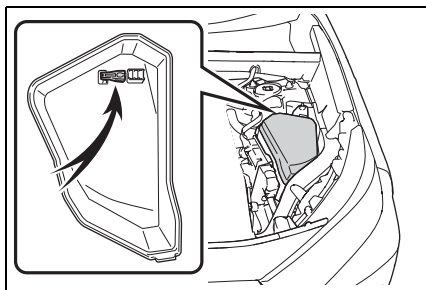
デッキボードを開けます。(→P.384)

ツメ[A]と[B]を押し、ロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



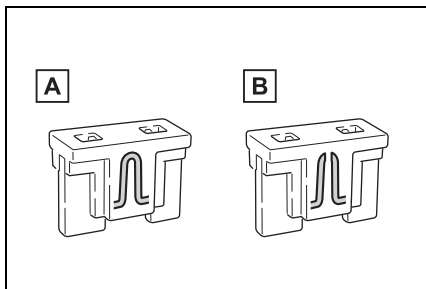
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.431)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電装部品は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンルームのヒューズボックスの損傷を防ぐために

ヒューズボックスを開けるときは、ツメのロックを完全にはずしてからカバーを持ち上げてください。ツメが損傷するおそれがあります。

電球（バルブ）の交換

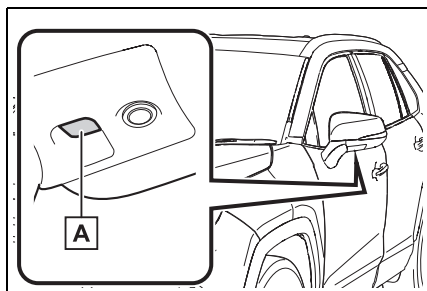
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.497）

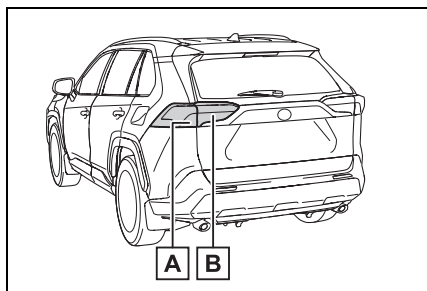
電球の位置

▶ ドアミラー



A ドアミラー足元照明

▶ リヤ



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

■ トヨタ販売店で交換が必要なランプ

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
 - フロント方向指示灯／非常点滅灯
 - デイタイムランニングランプ／車幅灯
 - LED デイライト／薄暮灯
 - サイド方向指示灯／非常点滅灯
 - 尾灯
 - 制動灯
 - リヤフォグランプ★
 - ハイマウントストップランプ
 - 番号灯
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ LED ランプについて

次のランプ以外のランプは LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ドアミラー足元照明
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

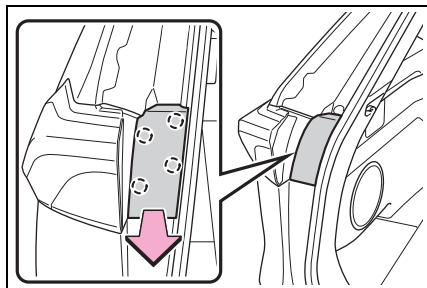
■ ランプなどの電装部品を交換するとき

→P.430

電球交換をするには

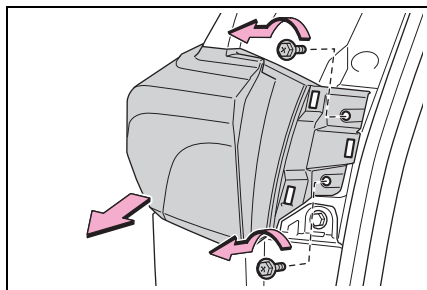
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

- 1 バックドアを開け、ランプ本体のカバーを取りはずす

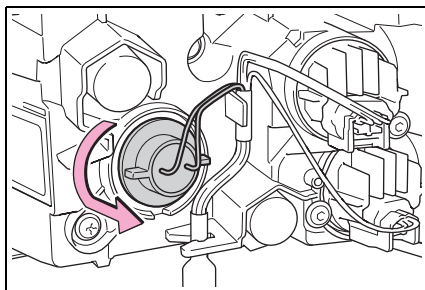


- 2 ネジを取りはずし、ランプ本体を取りはずす

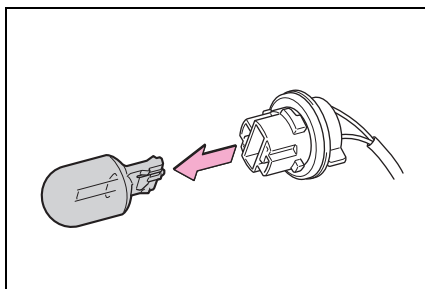
ランプ本体に手をかけて車両後方に引いて取りはずします。



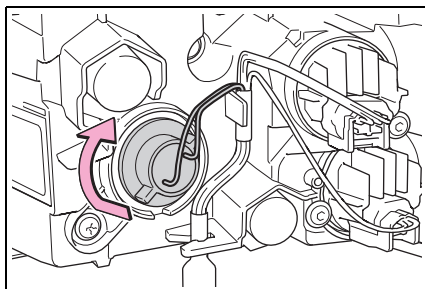
- 3 ソケットを左にまわして取りはずす



- 4 電球を取りはずす

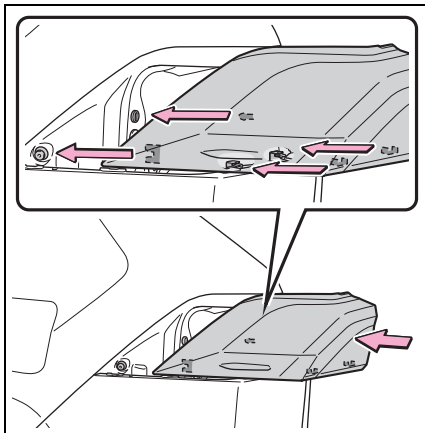


- 5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

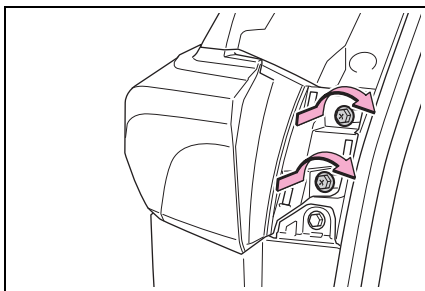


- 6 車体側のクリップをランプ本体の溝の位置に合わせてから、裏側にあるピンがはまるように、ランプ本体をまっすぐ押し込む
押し込んだあと、ランプ本体がしっかり

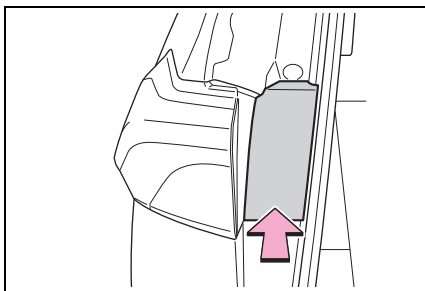
固定されたことを確認してください。



7 ネジを取り付ける



8 ランプ本体のカバーを取り付ける

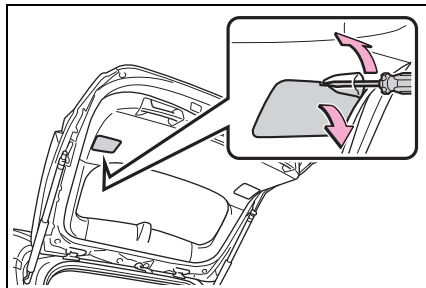


■ 後退灯

1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

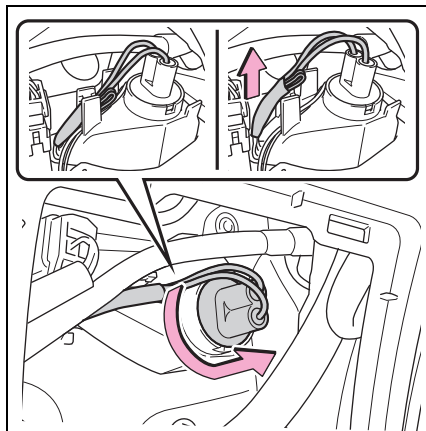
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護

してください。

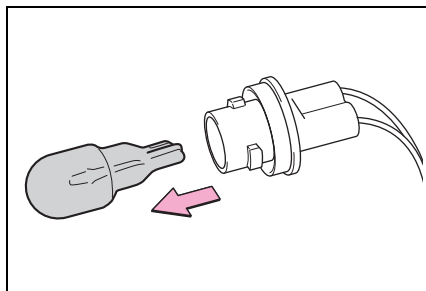


2 ソケットを左にまわして取りはずす

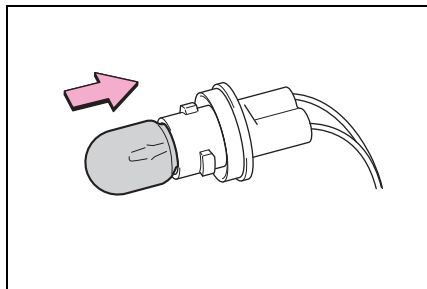
ソケットをまわす前に、配線をクリップからはずします。



3 電球を取りはずす

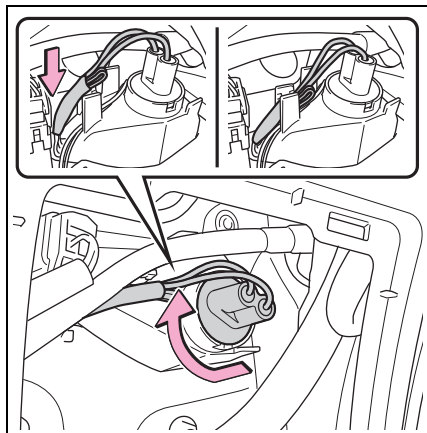


4 新しい電球を取り付ける

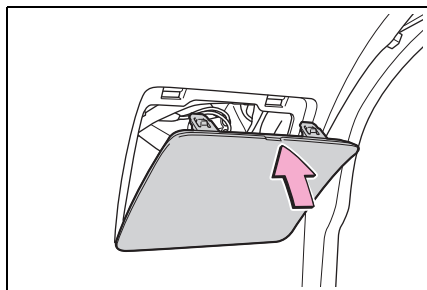


5 ソケットを挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、配線をもとどおりクリップで固定します。



6 カバーを取り付ける

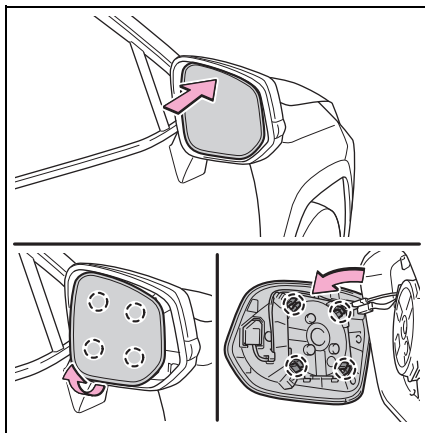


■ ドアミラー足元照明

1 ミラーの上端を押して鏡面を上向きにし、ミラー裏側のツメ（4ヶ所）をははずす

ミラーを手前に引き出すようにして、2ヶ所ずつツメをははずします。

ミラーが急に落下しないよう、慎重に作業してください。

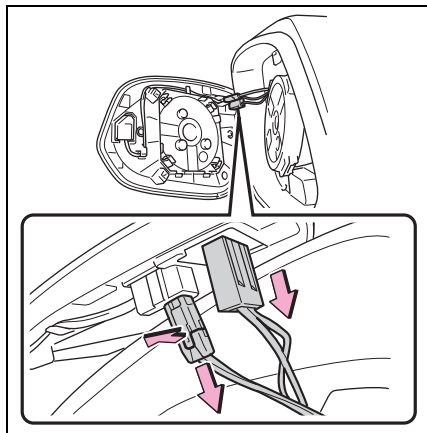


2 裏面にあるコネクターの接続をはずし、ミラーを取りはずす

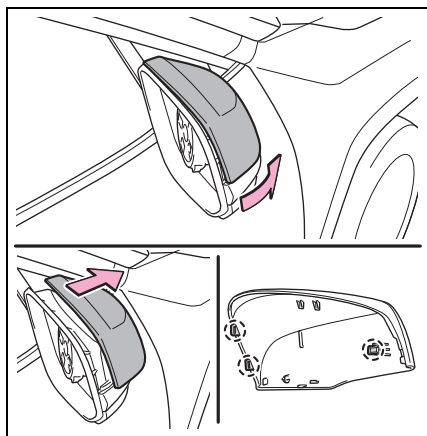
組み付け時にコネクターの接続方向を間違えないように位置を確認しておきます。

ミラーを落とさないように、慎重に作業

してください。

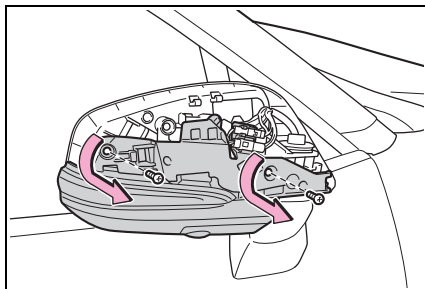


- 3** ミラーカバーの裏側のツメをはずして、ミラーカバーを取りはずす

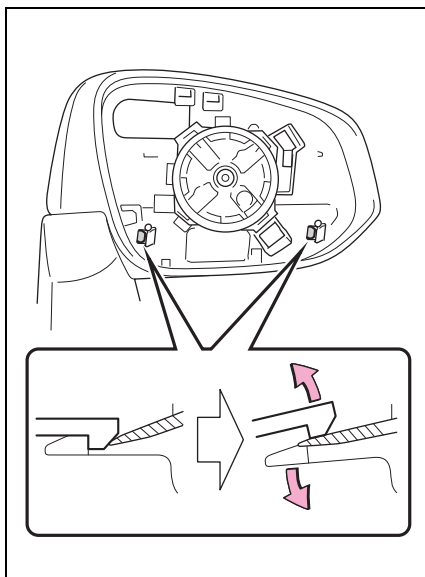


- 4** ランプユニットの表側のネジを取りはずし、裏側のツメをはずす

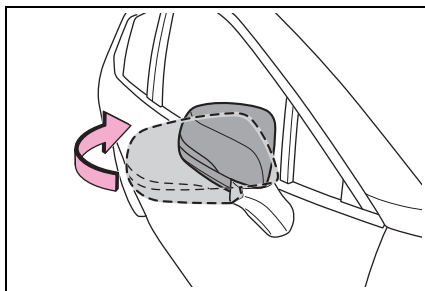
ネジ (2 本) を取りはずします。



マイナスドライバーでツメ (2ヶ所) をはずします。



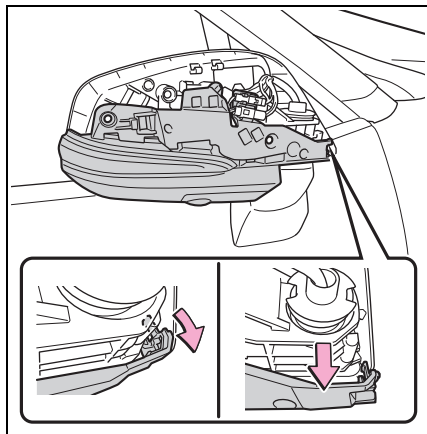
- 5** ランプユニットを取りはずす前に、ミラー本体を格納する



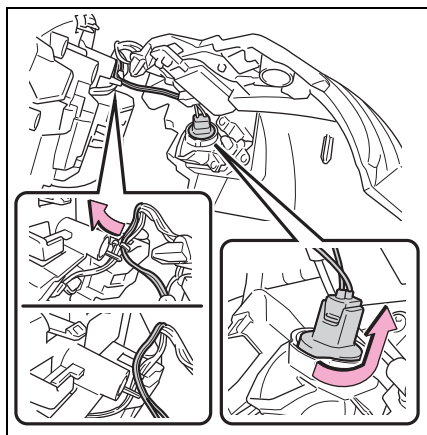
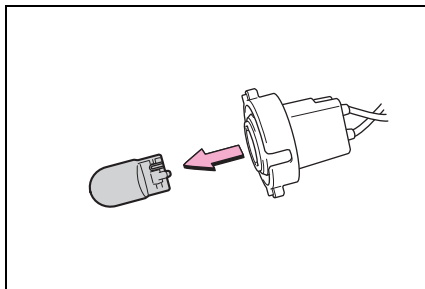
6 ランプユニットを取りはずす

マイナスドライバーでツメ（1ヶ所）をはずして、ランプユニットを取りはずします。

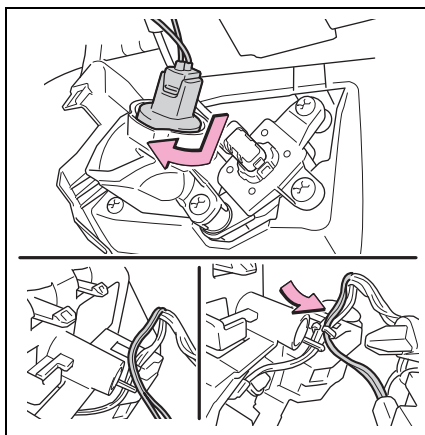
ツメを損傷しないよう、慎重に作業してください。

**7 ソケットを取りはずす**

ソケットをまわす前に、配線をクリップからはずします。

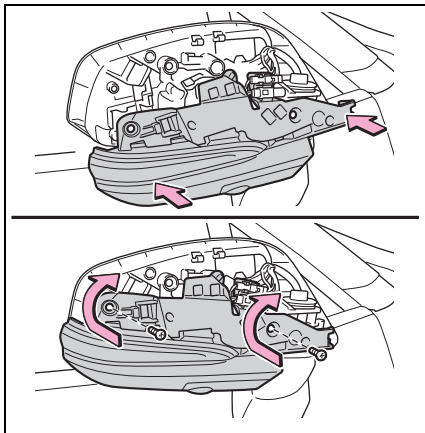
**8 電球を取りはずす****9 新しい電球を取り付け、ソケットをランプユニットに挿し込み右にまわして取り付ける**

ソケットを取り付けたあとは、配線をもとどおりにクリップで固定します。

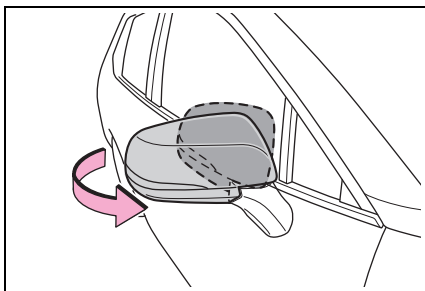
**10 ランプユニットを取り付ける**

ランプユニットの裏側のツメ（2ヶ所）がしっかりとかみ合っていることを確認

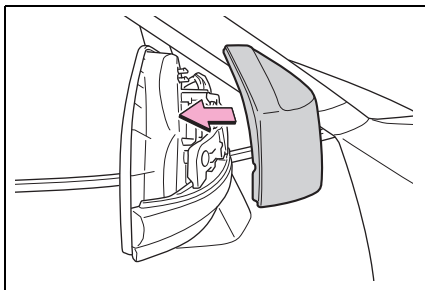
し、ネジ（2本）を取り付けます。



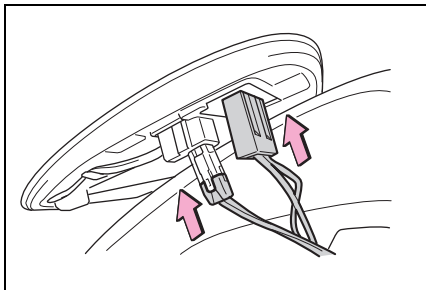
11 ミラー本体を復帰状態にもどす



12 ミラーカバーを取り付ける



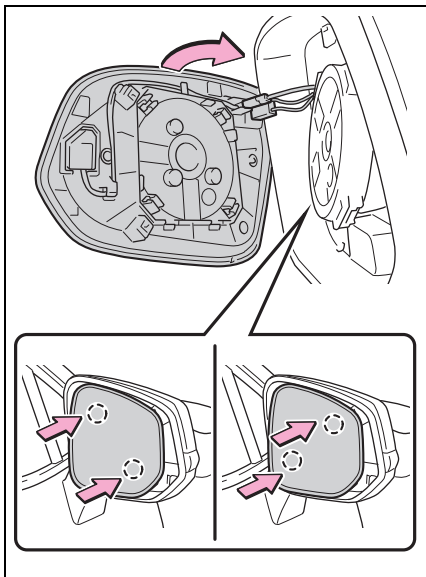
13 ミラーのコネクターを接続する



14 ツメの位置を合わせ、対角の2ヶ所ずつ順番に鏡面を押し込んで、ミラーを固定する

必ず図の順序で2ヶ所を同時に押し込み、パチッと音がしてツメが固定されたことを確認してください。

音が確認できないときは、無理に押し込まずいったんミラーをはずして、ツメの位置が合っているか確認してください。



 **警告****■電球を交換するとき**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

8-1. まず初めに

故障したときは	440
非常点滅灯（ハザードランプ）	441
発炎筒	441
車両を緊急停止するには	442
水没・冠水したときは	443
車中泊が必要なときは	444

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	445
警告灯がついたときは	449
警告メッセージが表示されたときは	455
パンクしたときは（タイヤパンク応 急修理キット装着車）	459
パンクしたときは（応急用タイヤ装 着車）	471
ハイブリッドシステムが始動できな いときは	477
キーをなくしたときは	479
給油扉が開かないときは	479
電子キーが正常に働かないときは	480
補機バッテリーがあがったときは	482
オーバーヒートしたときは	487
スタックしたときは	490

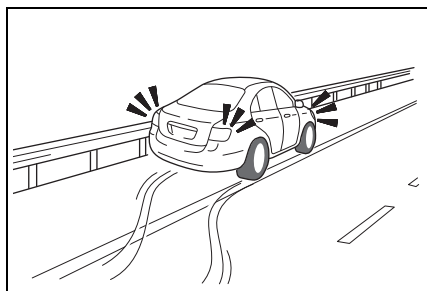
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

- 非常点滅灯（→P.441）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

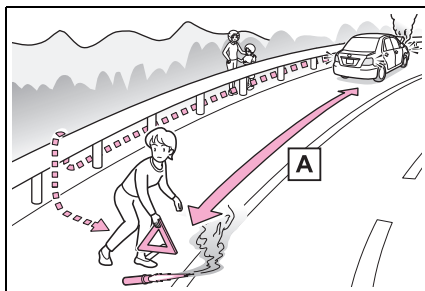
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 1 同乗者を避難させる
- 2 車両の50m以上後方（A）に発炎筒（→P.441）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

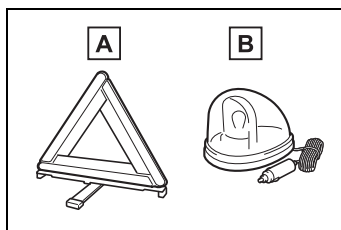
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

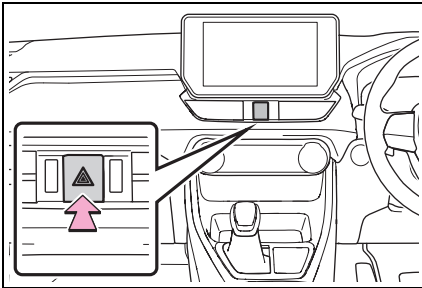
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

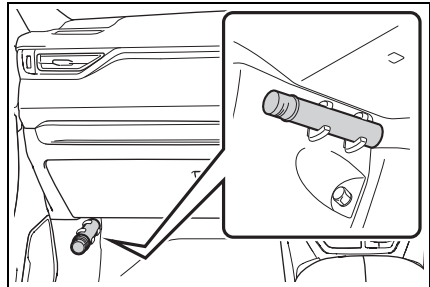
- ハイブリッドシステム停止中（READYインジケータが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります
- SRSエアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

発炎筒

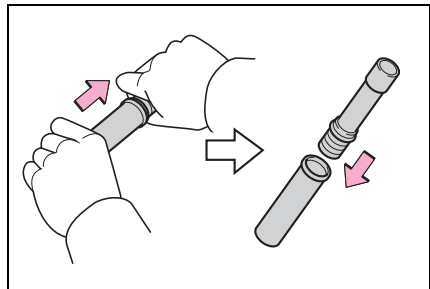
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



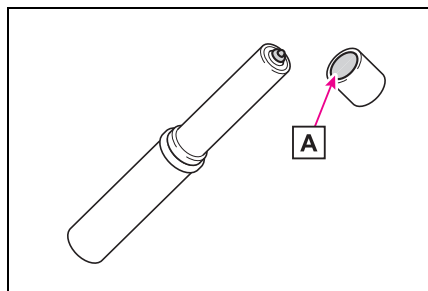
- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬 **A** で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

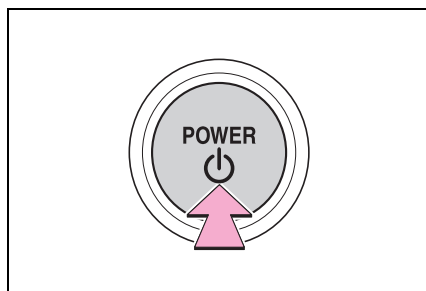
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押し続けてハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 知識

■ 緊急停止したときは

補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

 **警告**
■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

 知識

■ 水位がフロアをこえると

水位がフロアをこえて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

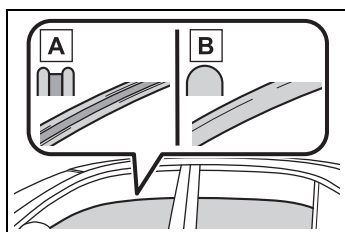
この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス[★]が使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー[※]で割ることができません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。



A 合わせガラス

B 強化ガラス

⚠警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

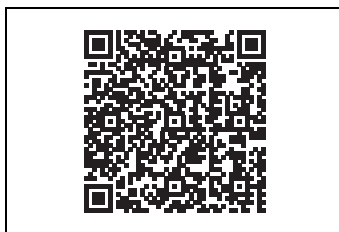
車中泊が必要なときは

⚠警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらおうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

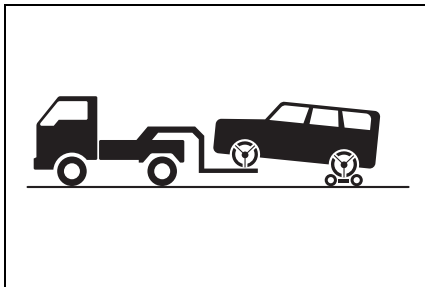
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

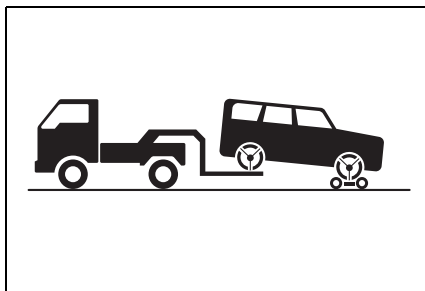
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

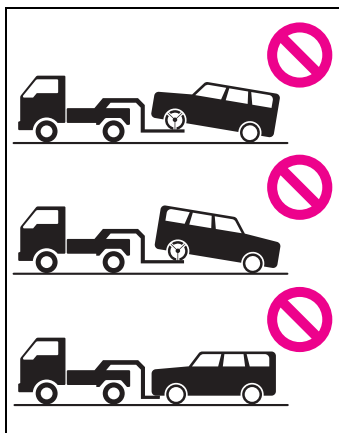


警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

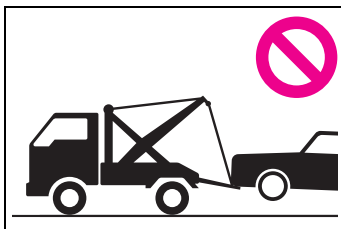
4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。




 注意

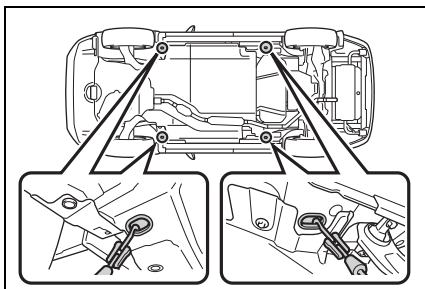
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

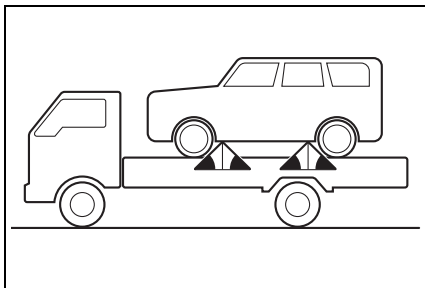


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、 の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



 注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

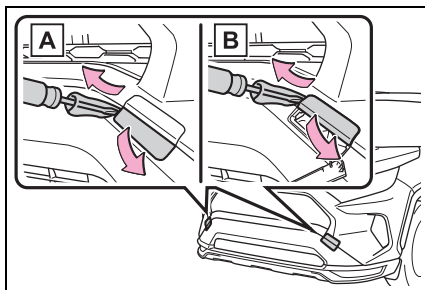
ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

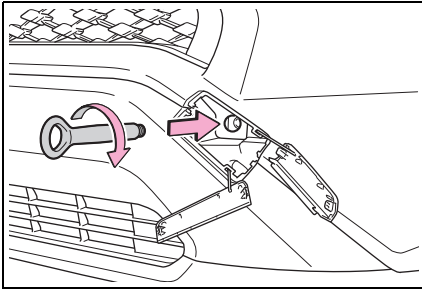
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す (→P.461, 471)
- マイナスドライバーを使って **A** のフタをはずしてから **B** のフタをはずす

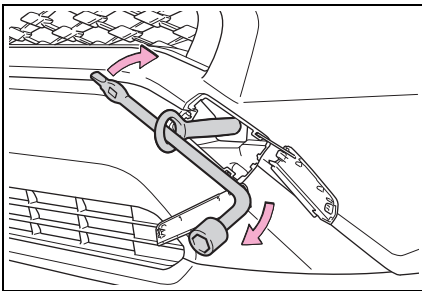
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



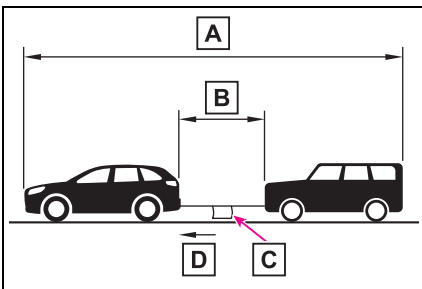
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

- 8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
(→P.270)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.266

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

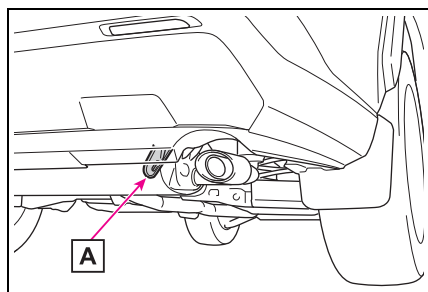
ラゲージルームに搭載されています。
(→P.461, 471)

トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行

できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 緊急用フック

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 他車にけん引してもらうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけたけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。


- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは


警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応


■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）


警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<ul style="list-style-type: none"> ●パーキングブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●回生ブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 充電警告灯※

警告灯	警告内容・対処方法
	マルチインフォメーションディスプレイに「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されている場合： 補機バッテリーあがりのおそれ → P.456 マルチインフォメーションディスプレイに「補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認」が表示されている場合： 充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。（→P.456）


※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 高水温警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.487）に従ってください。


※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの過熱 → 安全な場所に停車し、対処方法（→P.488）に従ってください。


※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。


※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯※


警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。


■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。


■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	


■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	警告ブザーが鳴った場合： ブリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	警告ブザーが鳴らない場合： ブリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.291, 455)
	ブリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.302


■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.291)


■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.340, 455）</p>


■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示されている： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示されている： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.348, 455）</p>


■ RCTA OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.333）に汚れや付着物がある → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.332, 455）</p>

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●VSC システムの異常 ●TRC システムの異常 ●トレイルモードの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合：</p> <p>ブレーキオーバーライドシステム作動時</p> <p>→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p>

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。


■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> HOLD <small>(点滅)</small> </div>	<p>ブレーキホールドシステムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>


■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; text-align: center; line-height: 20px; margin: 0 auto;">P</div> <small>(点滅)</small> </div>	<p>パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある</p> <p>→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。</p> <p>パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p>

■ 燃料残量警告灯



警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 8.3L 以下になった → 燃料を補給する

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1, 2（警告ブザー ※3）

警告灯	警告内容・対処方法
 	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 リヤ席の乗員の有無に関わらず、リヤ席ドアが開閉された場合にも一定時間点灯します。

※3 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

● 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を

検知して警告灯が点滅することがあります。

● 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることが

あります。

このとき、補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンのなど一部機能の作動を制限することがあります。

⚠ 警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき※

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

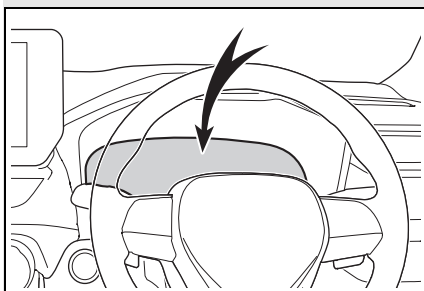
※ 警告灯は赤色と黄色が、警告ブザーは単発音と断続音があります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

充電に関するメッセージが表示されたときは、P.131 を参照してください。

□ 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

- アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車

速追従機能付き)などの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

- ・ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。(→P.253)
- ・ドライブスタートコントロール・PKSB(パーキングサポートブレーキ)が作動したときに、警告メッセージが表示されます(→P.253, 345)。画面の指示に従って対処してください。

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。画面の指示に従って操作し直してください。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。

その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシス

テム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

- ・「BSM 現在使用できません」(→P.332)
- ・「RCTA 現在使用できません」(→P.332)
- ・「エンジン冷却水高温」(→P.487)

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・「プラグイン充電システム故障」
- ・「ハイブリッドシステム故障」
- ・「充電システム故障」
- ・「エンジン系故障」
- ・「バッテリー系故障」
- ・「アクセル系故障」
- ・「スマートエントリー&スタートシステム故障」

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- ・「エンジン油圧不足」
- ・「故障のためブレーキ力が低下」

●次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、ガス欠している可能性があります。安全な場所に停車し、燃料残量が少ないことを確認した場合は、給油してください。

- ・「ハイブリッドシステム停止」
- ・「エンジン停止」

●「DCDC コンバータの冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、冷却用の吸入口／フィル

ターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。

- ・ DC / DC コンバータ冷却用吸入口 / フィルターが汚れている場合は、P.420 を参考に清掃を行ってください。
 - ・ DC / DC コンバータ冷却用吸入口 / フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
 - ・ 数秒後^{*} に表示が消えたときは：約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
 - ・ 表示が消えないときは：「補機バッテリーがあがったときは」（→P.482）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。
- ^{*} 約 6 秒間表示されます。

- 「補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認」が表示されたときは

充電システムが故障している可能性があります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。メッセージが表示されているときは、補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

- 「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたときは

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないた

め、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

- 「ハイブリッドシステム高温 出力制限中 です」が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂の走行中や、後退方向での登坂中など）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.487

- 「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたときは

一定時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

- 「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたときは

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時は P にしてください。

- 「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください」が表示されたときは

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D または R にしてください。

- 「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキ

ペダルを踏んでください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を off しました」が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次のハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→P.291, 449)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LTA (レーントレーシングアシスト)
- AHB (オートマチックハイビーム)
- RSA (ロードサインアシスト)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)
- 先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→P.291, 449)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LTA (レーントレーシングアシスト)

- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)

- 先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール一時使用不可 取扱書を確認ください」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法: →P.291)

■「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) を再度設定してください。

■警告ブザーについて

→P.454

 警告

- 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは

→P.455

 注意

- 「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中」がひんばんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足取扱書を確認してください」がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■「駆動用電池の点検を販売店で受けてください」が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。
- 万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.460）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

 警告

■ タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

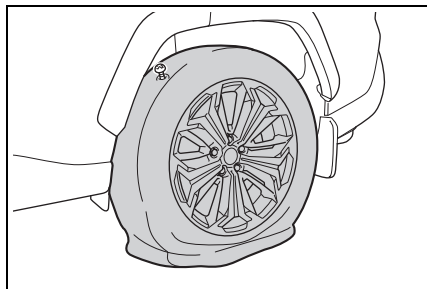
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する

- 非常点滅灯を点滅させる
(→P.441)
- パワーバックドアの設定を OFF
にする (→P.202)
- タイヤの損傷程度を確認する
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、
タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは
抜かないでください。抜いてしまうと
穴が大きくなりすぎ、応急修理ができ
なくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするた
め、パンク箇所がわかっている場合は、
パンク箇所が上になるように車両を移
動してください。



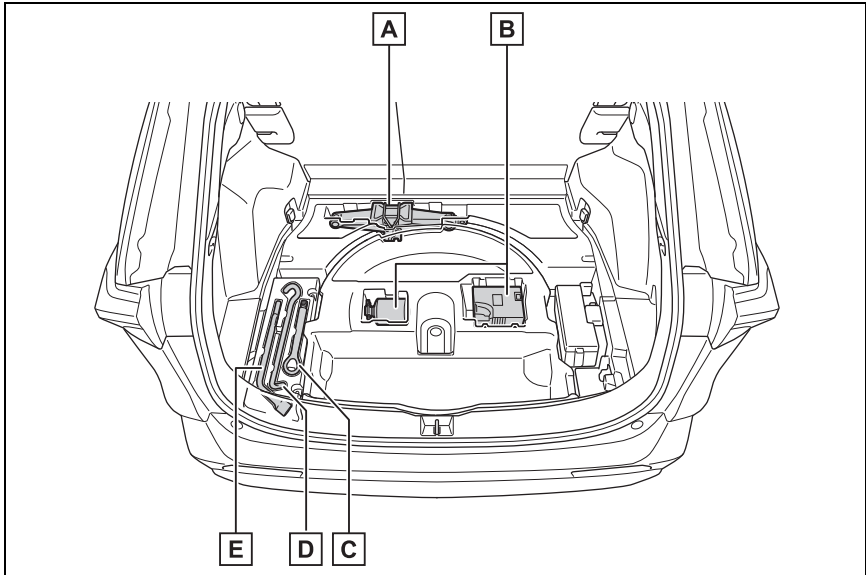
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理
できません。トヨタ販売店にご連絡く
ださい。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行し
てタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損
傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれ
ているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷が
あるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



A ジャッキ※

※ジャッキの使い方 (→P.473)

B タイヤパンク応急修理キット

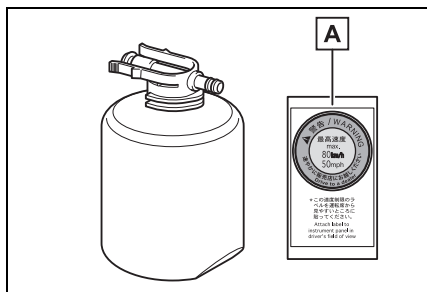
C けん引フック

D ジャッキハンドル

E ホイールナットレンチ

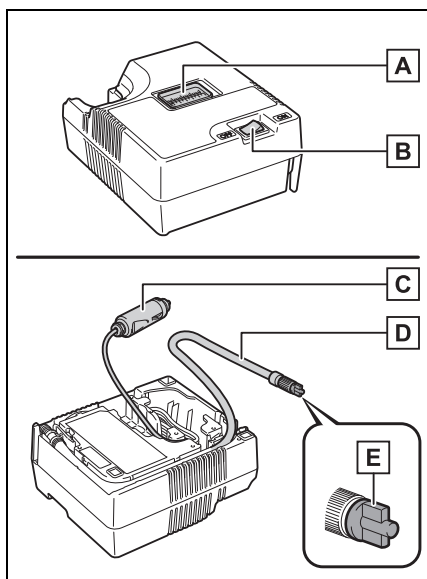
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

□ 知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が -30°C ～ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、ま

たは都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ 応急修理キットについて

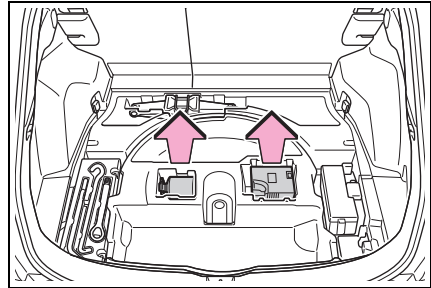
- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出して破損し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットを取り出すには

- 1 デッキボードを取りはずす
(→P.384)
- 2 デッキアンダートレイから応急修理キットを取り出す

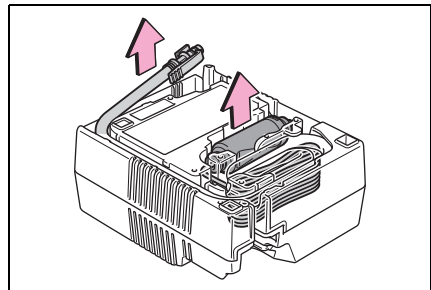


応急修理するときは

- 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

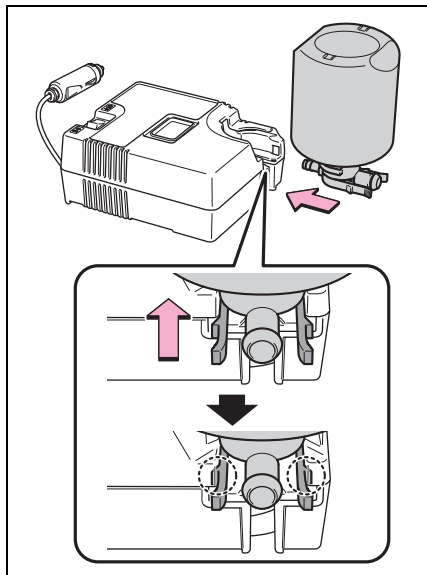
- 2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



- 3 ボトルをコンプレッサーに接続する

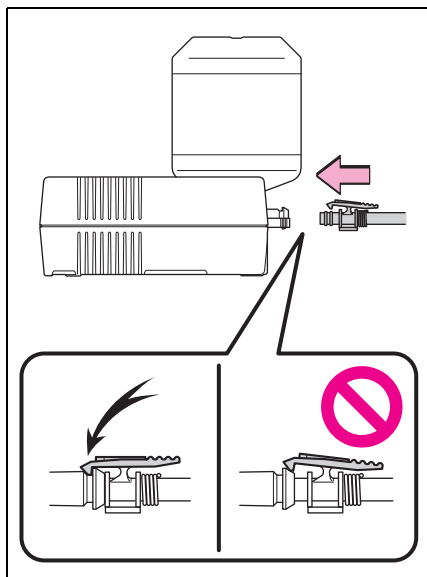
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください

い。

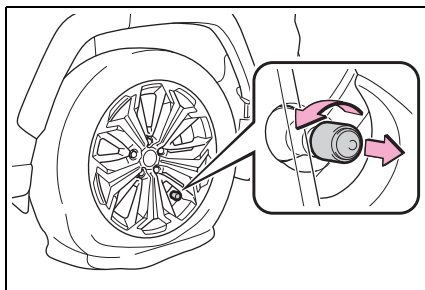


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

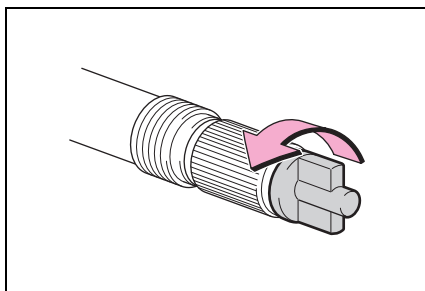


5パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



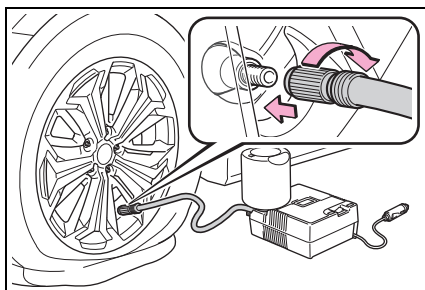
6ホースをのぼし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

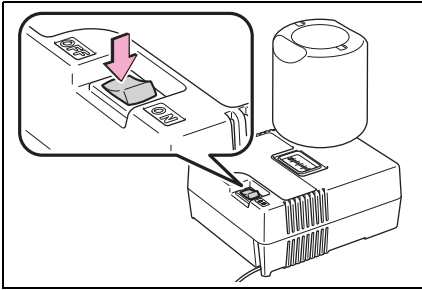


7ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

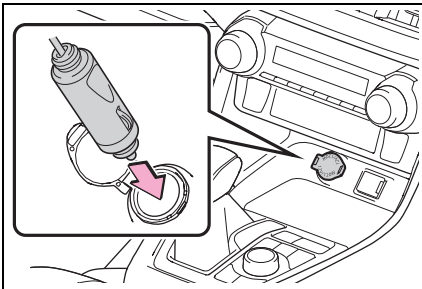
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



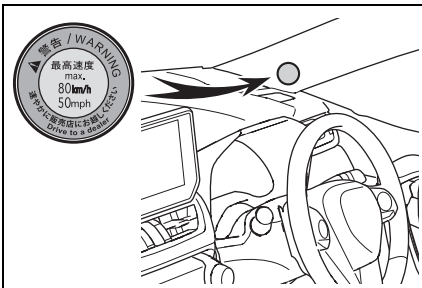
- 8** コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



- 9** コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む (→P.386)

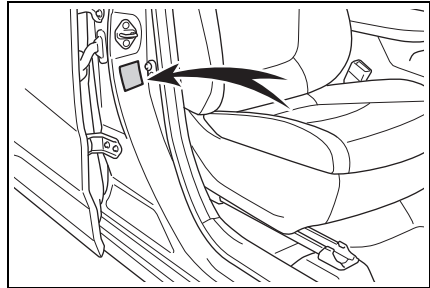


- 10** 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



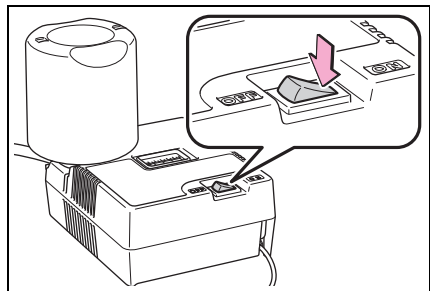
- 11** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認すること

ができます。(→P.414)

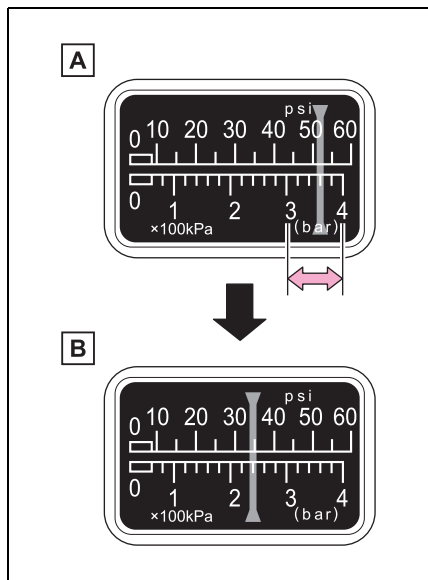


- 12** ハイブリッドシステムを始動する (→P.261)

- 13** コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気が指定空気圧になるまで 空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ~ 20 分です (外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

(→P.414, 467)

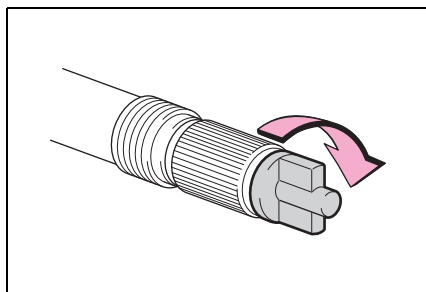
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースocketから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



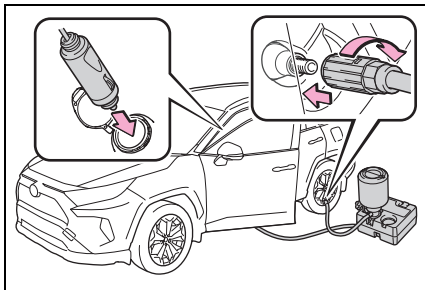
18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

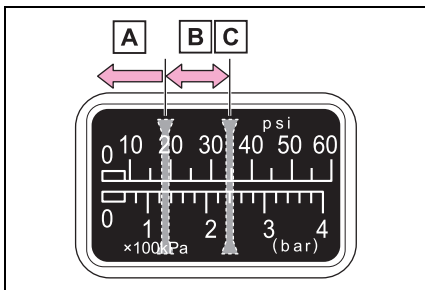
20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください。



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

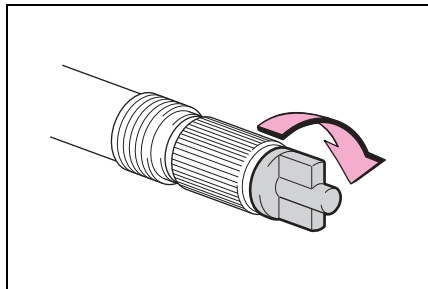
B 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧 (→P.414) の場合：手順 **23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

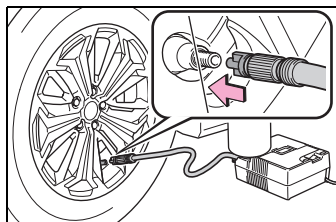
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチをONにし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

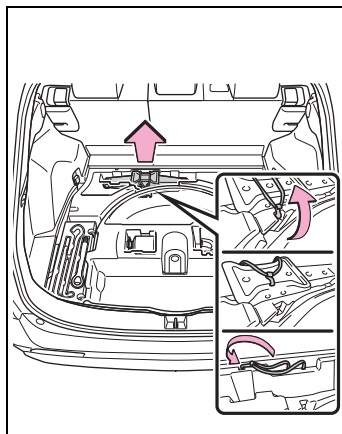
■ ジャッキを取り出すには

ゴムバンドをはずし、ジャッキを取り出します。

ジャッキを取り出したあとは、ゴムバンドのフックを、一時的に図で示す穴に引っ掛けておいてください。

ジャッキの使い方：(→P.473)

ジャッキを収納するときは、ジャッキを回して動かなくなるまで縮めたあと、デッキアンダートレイに押し込んでからゴムバンドで固定してください。



⚠ 警告

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

警告

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。
- 応急修理キットについて
 - 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
 - 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
 - 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

 注意

- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P.414 を参照してください）

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたとき

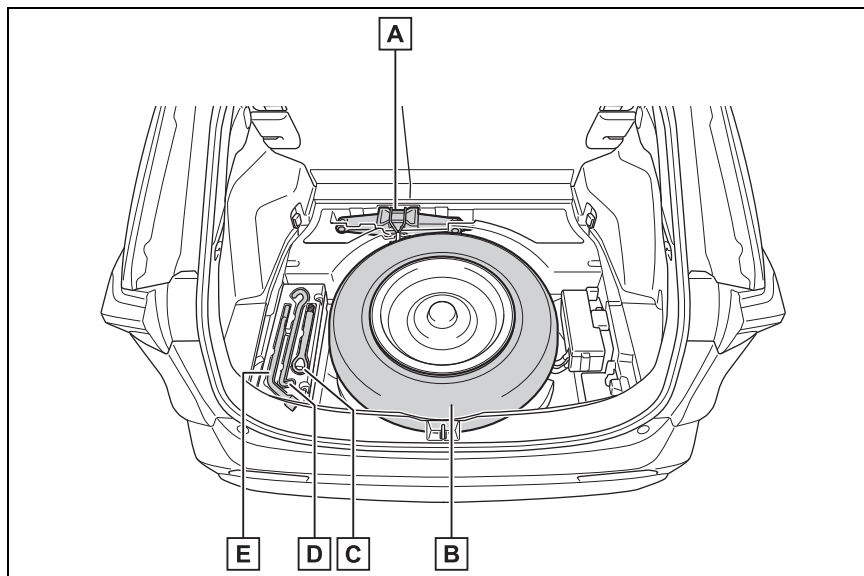
パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.441）
- パワーバックドアの設定を OFF にする（→P.202）

工具とジャッキの位置



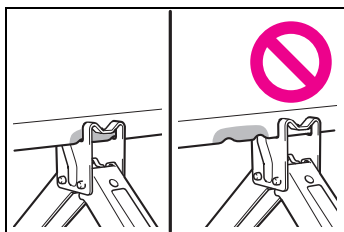
- A ジャッキ
- B 応急用タイヤ
- C けん引フック
- D ジャッキハンドル
- E ホイールナットレンチ

警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキはお客様の車専用のため他の車に使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける



- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない

- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

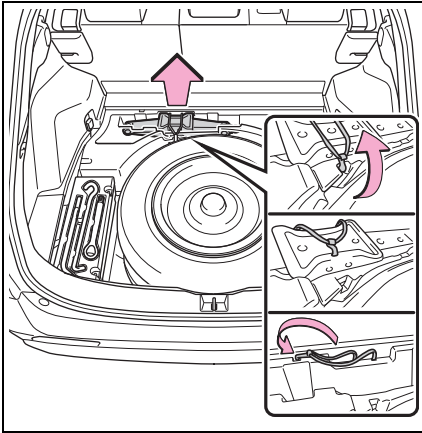
ジャッキを取り出すには

- 1 デッキボードを取りはずす
(→P.384)
- 2 ゴムバンドを取りはずし、
ジャッキを取りはずす

ジャッキを取り出したあとは、ゴムバンドのフックを、一時的に図で示す穴に引っ掛けておいてください。

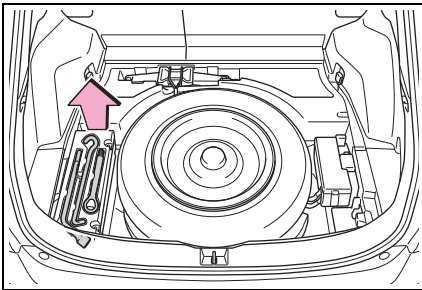
ジャッキを収納するときは、ジャッキを回して動かなくなるまで縮めたあと、デッキアンダートレイに押し込んでから

ゴムバンドで固定してください。



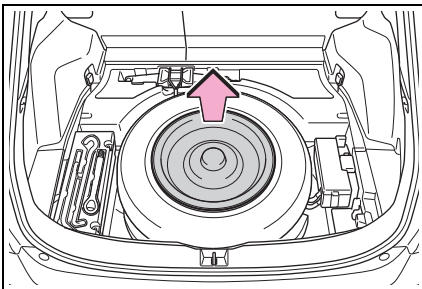
工具を取り出すには

工具を引き上げる

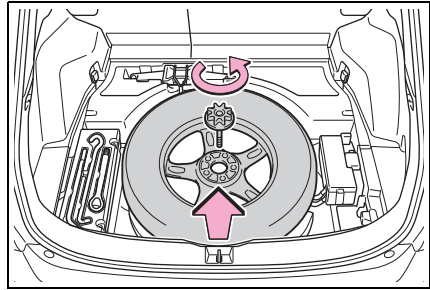


応急用タイヤを取り出すには

- 1 デッキアンダートレイを取り出す



- 2 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



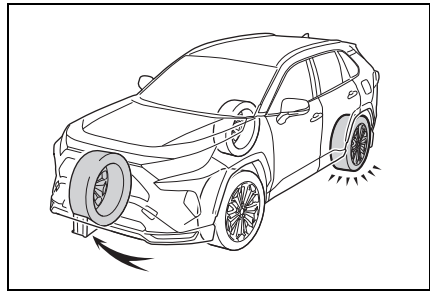
警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤを交換するには

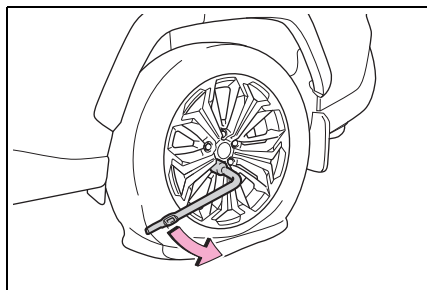
- 1 輪止め^{*}をする



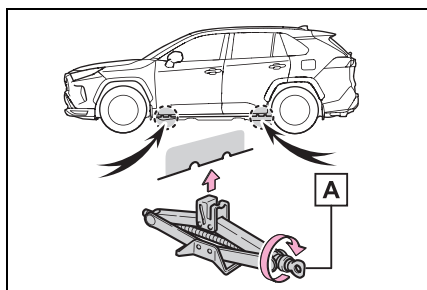
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

^{*} 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

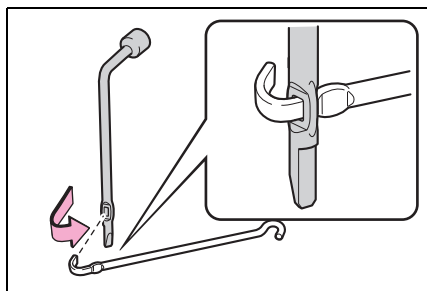
- 2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



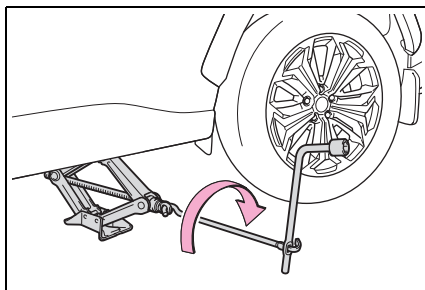
- 3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける
ジャッキセット位置は車両下部の図の位置にあります。



- 4 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

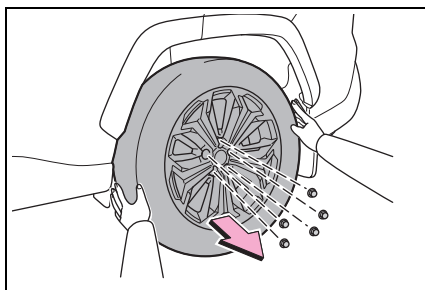


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



⚠ 警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

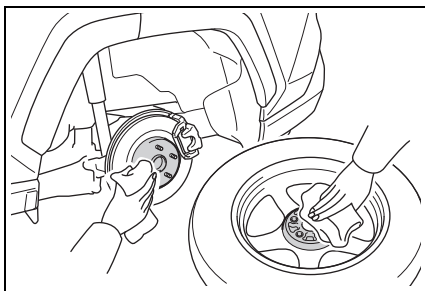
■ タイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動(→P.202)を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤを取り付けるには

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

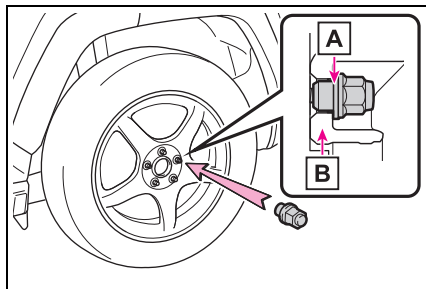
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



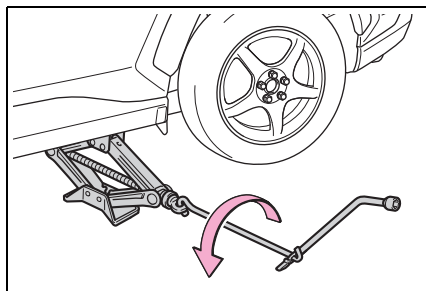
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金 (A) がホイール (B)

に軽くあたるまでまわします。

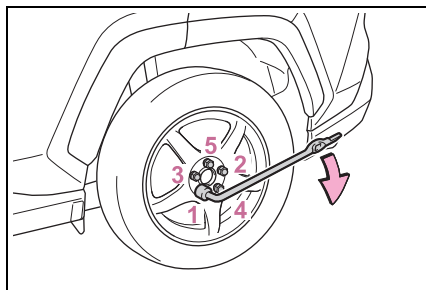


3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m (1050kgf・cm)



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する



知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE

ONLY と書かれています。応急用のみ使用してください。

- 空気圧を必ず点検してください。
(→P.497)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき (235/55R19 タイヤ装着車を除く)

- 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

⚠ 警告

■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度(トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン)をこえて使用しないでください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があります。次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC
- ・ TRC
- ・ EPS
- ・ AHB (オートマチックハイビーム)
- ・ PCS (プリクラッシュセーフティ)
- ・ LTA (レーントレーシングアシスト)
- ・ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)
- ・ BSM
- ・ RCTA
- ・ PKSB
- ・ クリアランスソナー
- ・ パノラミックビューモニター

また、4WD システムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ 応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着 (235/55R19 タイヤ装着車を除く)

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法 (→P.261) に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないか確認してください。(→P.104, 136)
- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。(→P.480)
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.53)
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性もあります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。(→P.478)
- 駆動用電池の温度が著しく低い(およそ-30℃以下)可能性があります。(→P.69, 262)

室内灯・ヘッドランプが暗い/ ホーンの音が小さい、または鳴 らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.482)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯し ない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.482)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く(→P.269)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 パワースイッチをACCにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

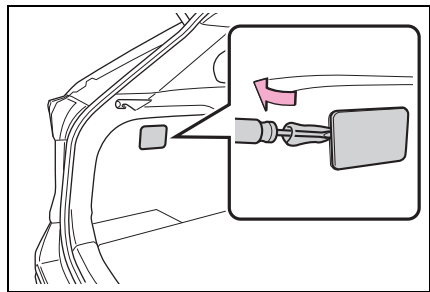
給油扉が開かないときは

給油扉オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

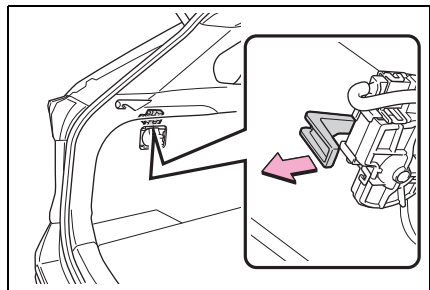
給油扉を開くには

- 1 ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 2 レバーを引く



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.205)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P.503)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.205)
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。(→P.205)

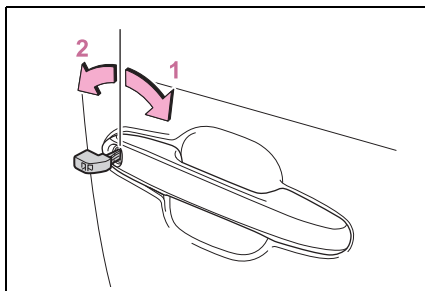
⚠注意

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

メカニカルキー (→P.186) を使って次の操作ができます。(運転席ドアのみ)



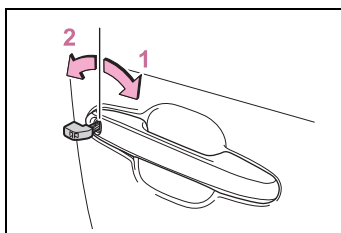
1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

ドアを施錠・解錠すると、充電リッド・普通充電コネクタもロック・アンロックされます。

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉まる (まわし続ける) ※

2 ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が開く (まわし続ける) ※

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやパノラマムーンルーフ*を操作するとき

*: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

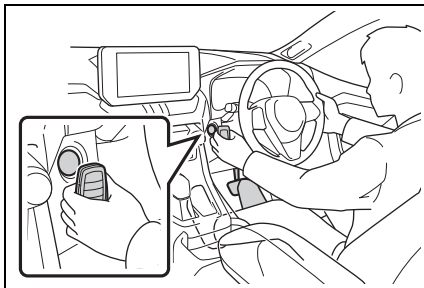
ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムを始動するには


- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 スイッチが付いている側を表にして、電子キーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメー

ションディスプレイに  が表示されていることを確認する

- 4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけてパワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.426)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.54)

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.263)

補機バッテリーがあがったときは

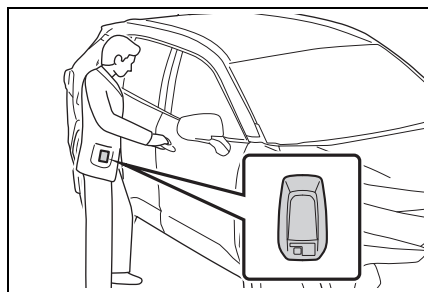
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

- 1 電子キーを携帯していることを確認する

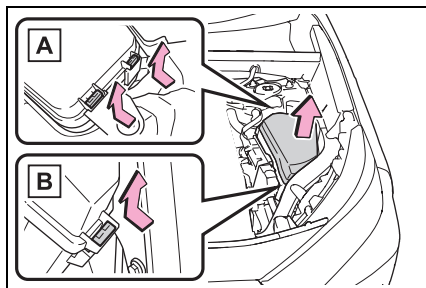
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.55)



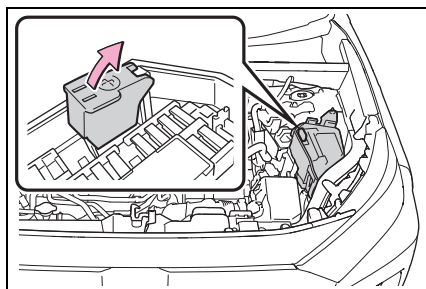
- 4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子**A**につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子**B**につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子**C**につなぎ、もう一方の端を金属部**D**につなぐ

- 2 ボンネットを開けて(→P.410)、ヒューズボックスのカバーをはずす

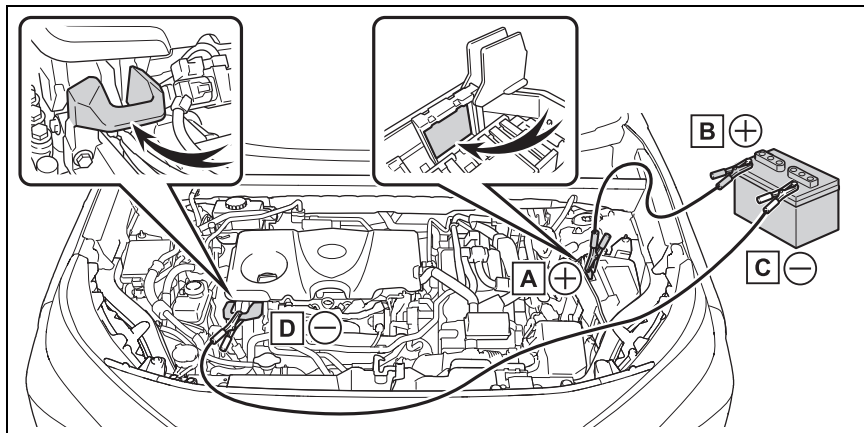
ツメ**A**と**B**を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



- 3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの+端子（救援車）

C バッテリーの-端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車の補機バッテリーを充電する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONにしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を

受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、 unnecessary 電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったとき

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受

けてください。

- 初期設定が必要な機能があります。
(→P.511)

■ 補機バッテリー端子をはずすとき

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補機バッテリーについて

→P.410

■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■ 補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

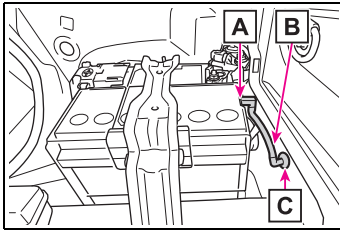
- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作でハイブリッドシステムを始動できなかった場合は、電子キーが正常に働かないときの手順(→P.481)で、始動操作を行ってください。2回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着す

る際は、パワースイッチをOFFにしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■ 補機バッテリーを交換するとき

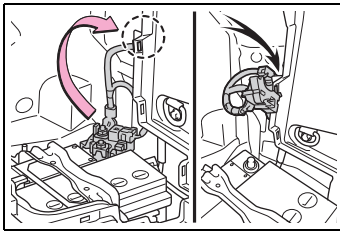
- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ(LN2)、20時間率容量(20HR)が同等(55Ah)以上、かつ性能基準値(CCA)が同等(345A)以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・ ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
- 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。
- 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります)

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。



- A** 排気穴
B 排気ホース
C 車両穴部

- 補機バッテリーのマイナス端子をはずしたときに、端子部を図のようにボデー部にかけることができます。



警告

■ 補機バッテリー端子をはずすとき

必ず-端子を先にはずしてください。
 +端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったたりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
 また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

警告

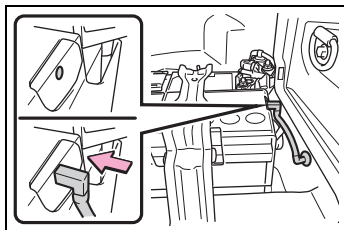
■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーを交換するときは

- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

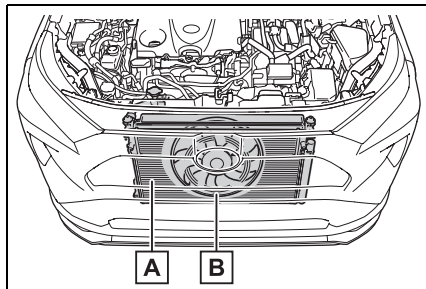
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯 (→P.155) が点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下したりする (スピードが出ないなど)
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処するには

- 高水温警告灯 (→P.155) が点滅または点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されたとき
 - 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、ハイブリッドシステムを停止する
 - 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
 - 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア

部 (放熱部) やホースなどからの冷却水もれを点検する

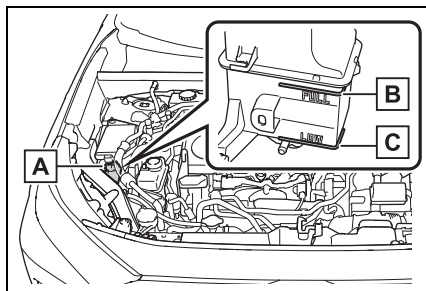


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL” (上限) と “LOW” (下限) のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

B “FULL” (上限)

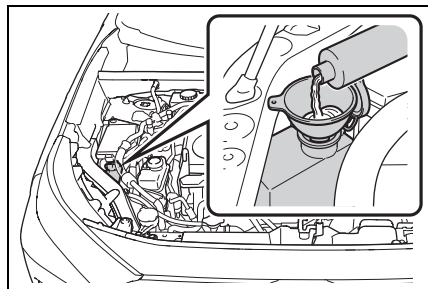
C “LOW” (下限)

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け

てください。



- 6** ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンをONにすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの温度調整スイッチをLOにして、冷房・除湿スイッチをON・OFFにしてエアコンのON・OFFをくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7** ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける
- 8** マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温」表示を確認する

表示が消えていない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。

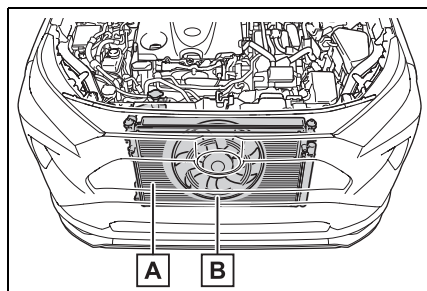
表示が消えてる場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

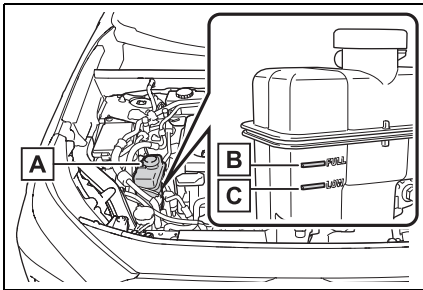


A ラジエーター

B ファン

- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と

“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

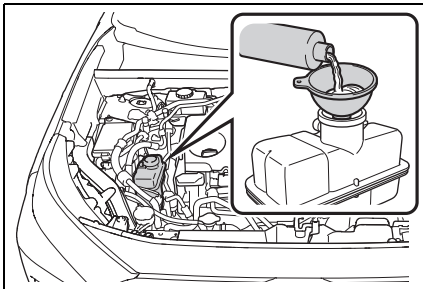
B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから5分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡してください。

表示が消えている場合：

ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあとにもひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

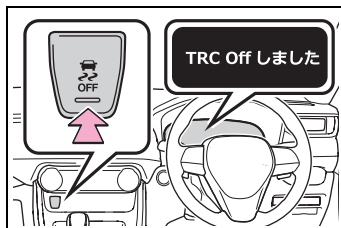
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

📖 知識

■ 脱出しにくいとき

 を押して TRC を OFF にしてください。



 **警告****■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **494**

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... **499**

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... **511**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ 	55

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。



注意

■ 燃料について

→P.71

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	4.0	4.3

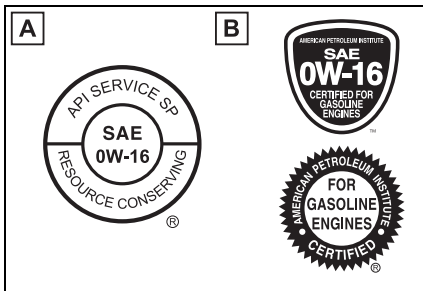
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってく

ださい。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサクサーティフィケーション) マークが付いています。



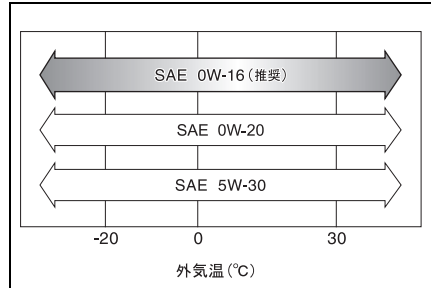
A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

ク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について (例として 0W-16 で説明します) :

- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い (数値が大きい) オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	エンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント		
凍結保証温度		
濃度 30%	- 12℃	
濃度 50%	- 35℃	
	7.3	2.0

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 [※])
トヨタ純正オートフルード WS	4.4

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル (リヤ電動モーター)

指定銘柄	容量 [L] (参考値 [※])
トヨタ純正オートフルード WS	1.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 [※]	95

※ エンジン回転時に、300N (30.5kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)

4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/60R18 100H	18 × 7 J	230 (2.3)	230 (2.3)
	235/55R19 101V	19 × 7 1/2 J	230 (2.3)	230 (2.3)
応急用タイヤ★	T165/80D17 104M	17 × 4 T	420 (4.2)	
	T165/90D18 107M	18 × 4 T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	103N・m (1050kgf・cm)
応急用タイヤ★	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球 (バルブ) ※1

電球	W (ワット) 数
リヤ方向指示灯/非常点滅灯 (アンバーバルブ ※2)	21
後退灯	16
ドアミラー足元照明	5

※1表に記載のないランプは LED を採用しています。

※2アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式		駆動方式
			フロント	リヤ	
RAV4	AXAP54	A25A-FXS (2.5L ガソリン)	5NM	4NM	4WD (4 輪駆動)


ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

■ マルチメディアディスプレイで設定するには


- 1  を選択する
- 2 「車両カスタマイズ」を選択する
- 3 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、









(作動)・ (非作動) を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、画面上のアイコンをドラッグしてレベルを調整します。


■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの  を押し続けて、マルチインフォ

メーションディスプレイのコンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる

- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し、 を押す
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して変更する項目を選択する
- 4 ON / OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの  を押してご希望の設定に切りかえる
- 5 詳細設定が可能な機能では、 を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイスを参考に設定を行ってください。

前の画面にもどる、または設定を終了する場合、 スイッチを押します。

知識

■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告**■ カスタマイズ設定を行うとき**

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意**■ カスタマイズ設定を行うとき**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- A** マルチメディアディスプレイで設定変更可能
- B** マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- C** トヨタ販売店で設定変更可能

■ 先読みエコドライブ[※] (→P.66)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
先読みエコドライブ	する	しない	○	—	—

[※] 車載ナビゲーションシステムまたはコネクティッドナビご利用時

■ オートアラーム (→P.54)



機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	—	—	○

■ 充電システム (→P.89, 95, 97)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
充電電流 [※]	MAX	8A	—	○	—
電池昇温	あり	なし	—	○	—
電池冷却	あり	なし	—	○	—

[※] 100V での充電時には、この設定は反映されません。(→P.94)

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ (→P.165)

機能の内容※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L, km/kWh	L/100km, kWh/100km	—	○	—
メータータイプ		 ※2	—	○	—
		 ※2			
メーターデザインタイプ	スマート	カジュアル	—	○	—
		タフ			
		スポーティー			
アナログメーター切りかえ※3	ハイブリッドシステムインジケーター	スピードメーター	—	○	—
EV インジケーター	あり	なし	—	○	—
燃費グラフ	始動後平均燃費	リセット間平均燃費	—	○	—
アクセルガイド (エコアクセルガイド)	あり	なし	—	○	—
電費グラフ	リセット間平均燃費	始動後平均燃費	—	○	—
ドライブインフォ項目選択 (上段)※4	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間			
ドライブインフォ項目選択 (下段)※4	走行時間	平均車速	—	○	—
		走行距離			
TRIP A 項目選択 (上段)※4	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間			
TRIP A 項目選択 (下段)※4	平均車速	走行時間	—	○	—
		走行距離			

機能の内容※ ¹	初期設定	変更後	A	B	C
TRIP B 項目選択 (上段)※ ⁴	走行距離	走行時間	—	○	—
		平均車速	—	○	—
TRIP B 項目選択 (下段)※ ⁴	平均車速	走行時間	—	○	—
		走行距離	—	○	—
割込表示	あり	なし	—	○	—
カレンダー※ ⁵	—	—	—	○	—
メーター輝度調整	標準	任意の輝度	—	○	—
提案サービス	あり	あり (停車中のみ)	○	—	○
		なし	—	—	—

※¹機能についての詳しい説明は P.171 を参照してください。

※²ウィジェット表示の表示/非表示も選択できます。

※³現在のメーター表示タイプによっては、設定できないことがあります。

※⁴上段と下段ともに同じ項目を表示させることはできません。

※⁵マルチメディアシステムの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にのみ、設定が可能になります。

■ ヘッドアップディスプレイ (→P.175)

機能の内容※	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示	あり	なし	—	○	—
タコメーター切りかえ	ハイブリッドシステムインジケーター	タコメーター	—	○	—
		表示なし	—	○	—
ナビゲーション表示	あり	なし	—	○	—
運転支援表示	あり	なし	—	○	—
オーディオ表示	あり	なし	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの明るさ	標準	任意の照度	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの表示位置	標準	任意の位置	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの傾き調整	標準	任意の傾き	—	○	—

※ 機能についての詳しい説明は P.176 を参照してください。

■ ドアロック (→P.188, 480)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	—	○
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	—	○
運転席を開けたときの全ドア自動解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	なし	あり	○	—	○

■ リヤシートリマインダー (→P.190)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
リヤシートリマインダー	する	しない	—	○	—

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.186, 204)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	○	—	○
作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル5	OFF	○	—	○
		レベル1~7			
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30秒	60秒	—	—	○
		120秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○


■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.204)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○


機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
連続ロック操作の有効回数	2回	無制限	—	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間 [*]	非作動	1.5秒	—	—	○
		2秒			
		2.5秒			
降車オートロック機能	なし	あり	—	—	○
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	なし	あり	—	—	○
パワースイッチ照明	あり	なし	—	—	○

^{*} 解錠されるドアの選択を「運転席のみ解錠」にしたときに設定できます。

■ ワイヤレスドアロック (→P.186)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	—	○
ドアが施錠されている状態で  を操作したときのドアロック解錠作動 (→P.194)	なし	あり (全ドア解錠)	—	—	○
		あり (バックドアのみ解錠)			

■ パワーバックドア (→P.193)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア機能	あり	なし	—	○	—
車内のスイッチを押してパワーバックドアを開くときの操作	1回押し続ける	1回押し	—	—	○
ワイヤレスリモコンの  を押してパワーバックドアを開くときの操作	1回押し続ける	1回押し	—	—	○
		2回押し			
		非作動			
ブザー音量	レベル3	レベル1	—	○	—
		レベル2			
パワーバックドア作動中のブザー吹鳴 ^{*1}	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア全開時の開度	5	1～4			
		お好みの位置 (高さ)※ ²	—	○	—
全閉時にバックドアオープンスイッチを押ししたときのバックドア開作動	あり	なし	—	—	○
バックドアクローズアシスト機能	あり	なし	—	—	○
ハンズフリーパワーバックドアの作動	あり	なし	—	○	—
ハンズフリーパワーバックドア作動確認のブザー吹鳴	あり	なし	—	—	○

※¹作動開始時のブザーを非吹鳴にすることはできません。

※²バックドア下部のスイッチ操作で設定します。(→P.202)

■ ポジションメモリー (→P.212)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○
ヘッドレストと車両天井との干渉防止機能(メモリー位置呼び出し時)	あり	なし	—	—	○

■ ドアミラー (→P.241)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし			
		パワースイッチと連動	—	—	○

■ パワーウィンドウ・パノラマムーンルーフ★共通 (→P.243, 246)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開機能	なし	あり	—	—	○
メカニカルキー連動閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動閉機能	なし	あり	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○
窓開警告制御	あり	なし	—	—	○
ムーンルーフ開警告制御	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール（→P.258）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし*	—	○	—

*「なし」に変更しても、パワースイッチをONにするたびに「あり」にもどります。

■ ランプ（→P.275）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
デイトタイムランニングランプ	あり	なし	—	—	○
ランプ消し忘れ防止ブザー	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.275）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整 （コンライト感度調整）	より暗い	より明るい	○	—	○
		明るい			
		標準			
		暗い			
ランプ消し忘れ防止機能の作動タイミング	パワースイッチと連動	運転席ドアと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ リヤワイパー（→P.284）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能（→P.285）	しない	する	—	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	する	しない	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
リバース連動機能 (→P.285)	1 回のみ作動	OFF	—	—	○
		連続作動	—	—	○

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.293)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PCS (プリクラッシュセーフティ) 機能*	あり/なし	—	○	—
警報感度	早い/中間/遅い	—	○	—

* パワースイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.303)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能 (センタートレース)	あり/なし	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動/警報ブザー	—	○	—
警報感度	高/普通	—	○	—
ふらつき検知	あり/なし	—	○	—
ふらつき検知感度	高/普通/低	—	○	—

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.312)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA (ロードサインアシスト) 機能	あり/なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ/告知表示とブザー/なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2 km/h / 5 km/h / 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ/告知表示とハンドルの振動/なし	—	○	—
その他の告知 (進入禁止告知)	告知表示のみ/告知表示とブザー/なし	—	○	—

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.314）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制機能	強／弱／なし	—	○	—

■ 先行車発進告知機能（→P.324）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—
告知距離	近い／中間／遠い	—	○	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.331）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.331）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量*	レベル2	レベル1	—	○	—
		レベル3			

* クリアランスソナーのブザー音量と連動しています。

■ クリアランスソナー（→P.339）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	○
ブザー音量*	レベル2	レベル1	—	○	○
		レベル3			

* RCTA（リヤクロストラフィックアラート）作動時のブザー音量と連動しています。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.345）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	—

■ エアコン（→P.366）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTOスイッチがONのとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTOスイッチをONにしたとき、冷房・除湿スイッチが連動してONになる	する	しない	○	—	○
駐車時、自動で外気導入に切りかわる	する	しない	—	—	○

■ シートベンチレーション（→P.376）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
風量の調整	標準	減らす	—	—	○

■ リモートエアコンシステム（→P.374）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動開始時のリモコンスイッチの操作	1回押し続ける（短）	1回押し	—	—	○
		2回押し			
		1回押し続ける（長）			
		非作動			
作動終了時のリモコンスイッチの操作	2回押し	1回押し	—	—	○
		1回押し続ける（短）			
		1回押し続ける（長）			
		非作動			

■ イルミネーション (→P.378)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間 (室内照明消灯時間調節)	15 秒	Off	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○

知識

■ 車両カスタマイズについて

- 「車速感应式自動ドアロック」と「シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。
 - ・ シフトレバーをP以外にすると全ドア施錠されます。
 - ・ 全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感应式自動ドアロックは作動しません。
 - ・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应式ドアロックが作動します。
- スマートエントリー&スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。
- 解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時 	P.199
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P.243
パノラマムーンルーフ★		P.247

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

- こんなときは（症状別さくいん）
..... **514**
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん） **516**
- アルファベット順さくいん **518**
- 五十音順さくいん **519**

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.479）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.479）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.426）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.263）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に

働いていない可能性があります。（→P.205）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.192）

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.261）
- シフトレバーは P になっていすか？（→P.265）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.204）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.481）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.482）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.245）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.264）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.516）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.449、455 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.459）
- 応急用タイヤ装着車
車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.471）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.490）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.54
ドアを開閉したとき	シフトレバーがP以外になっている	P.455
	窓・パノラマムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.244、248
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.54
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.426
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.204
	電子キーを車内に置き忘れている	P.455

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.192
	パーキングブレーキが解除されていない	P.272
	シートベルトを着用していない※	P.454
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.268
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.255
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P.319
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.293
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーンレーシングアシスト）を使用している	P.306

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.313
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.339
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.336
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.326

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

- A / C**
(エアコン) 366
- ABS**
(アンチロックブレーキシステム)
..... 356
- ACA**
(アクティブコーナリングアシスト)
..... 356
- AHB**
(オートマチックハイビーム) .. 278
- BSM**
(ブラインドスポットモニター)
..... 331
- ECB**
(電子制御ブレーキシステム) .. 356
- EDR**
(イベントデータレコーダー) 8
- E-Four**
(電気式 4WD システム) 356
- EPS**
(エレクトリックパワーステアリング)
..... 356, 451
- EV**
(エレクトリックビークル) 58
- HUD**
(ヘッドアップディスプレイ) .. 175
- ILSAC CERTIFICATION**
(イルサックサーティフィケーション)
..... 495
- ISOFIX**
(アイソフィックス/イソフィックス)
..... 39
- LED**
(ライトエミッティングダイオード)
..... 431
- LTA**
(レーントレーシングアシスト)
..... 303
- PCS**
(プリクラッシュセーフティ) .. 293
- PHEV**
(プラグインハイブリッドビークル)
..... 58
- PKSB**
(パーキングサポートブレーキ)
..... 345
- RCTA**
(リヤクロストラフィックアラート)
..... 331
- RSA**
(ロードサインアシスト) 312
- SRS**
(サブリメンタルレストレイントシステム) 30
- S-VSC**
(ステアリングアシステッドビークル
ルスタビリティコントロール) 356
- Toyota Safety Sense**
ドライバー異常時対応システム
..... 326
- TRC**
(トラクションコントロール) 356,
490
- VSC**
(ビークルスタビリティコントロール)
..... 356

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリーあがりの処 置).....	482
アームレスト.....	394
アウトミラー (ドアミラー)	
BSM.....	331
RCTA.....	331
格納のしかた.....	242
操作.....	241
ミラーヒーター.....	367
アクセサリコンセント.....	395
アクセサリソケット.....	386
アクセサリモード.....	263
アクティブコーナリングアシスト (ACA).....	356
アシストグリップ.....	394
足元照明.....	378
アラーム	
オートアラーム.....	54
音さくいん.....	516
警告ブザー.....	449, 455
アンチロックブレーキシステム (ABS)	356
アンテナ	
スマートエントリー&スタートシステム	204

い

イージークローザー (バックドア).....	197
EV 走行可能距離.....	76, 167
EV モード.....	58
イグニッションスイッチ (パワースイ チ).....	261
自動電源 OFF 機能.....	264
車両を緊急停止するには.....	442
ハイブリッドシステム始動のしかた... ..	261
モード切りかえ.....	263

位置交換 (タイヤローテーション).....	416
イベントデータレコーダー (EDR).....	8
イモビライザーシステム.....	53
イルミネーテッドエントリーシステム	378
インジケーター (表示灯).....	156
READY.....	261
エラーインジケーター.....	84
充電インジケーター (充電ポート).....	80
充電インジケーター (普通充電ケーブル)	84
電源インジケーター.....	84
ドアミラーインジケーター.....	331
インテリアランプ.....	379

う

ヴィークルパワーコネクタ.....	137
ウインカー (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	431
方向指示レバー.....	268
ワット数.....	497
ウインドウ	
ウォッシュャー.....	282, 284
パワーウインドウ.....	243
フロントデフロスター.....	367
リヤウインドウデフォグガー.....	367
ウインドウロックスイッチ.....	245
ウォーニングランプ (警告灯).....	155, 449
ウォッシュャー	
液の補充.....	413
スイッチ.....	282, 284
タンク容量.....	497
冬の前の準備・点検.....	362
動けなくなったときは (スタック).....	490
雨滴感知式ワイパー.....	282
運転	
雨の日の運転.....	253

EV 走行可能距離.....	76, 167
運転を補助する装置.....	356
エコアクセルガイド/エコジャッジ... 168	
寒冷時の運転.....	362
正しい運転姿勢.....	25
手順.....	252
プラグインハイブリッド車運転のアドバイ ス.....	73
運転支援機能情報表示画面.....	170
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	454
運転席シートポジションメモリー ...	212

え

エアコン

「ナノイー」.....	369
エコ空調モード.....	367
オートエアコン.....	366
曇り取り (フロントガラス).....	367
曇り取り (リヤウインドウ).....	367
フィルターの清掃.....	417
フロント席集中送風モード (S-FLOW)	372
マイルームモード.....	124
リモートエアコンシステム.....	374

エアコン・デフォグガー.....367

エアバッグ

SRS エアバッグ警告灯.....	450
お子さまのための注意.....	33
改造・廃棄.....	35
作動条件.....	31
正しい姿勢.....	25
配置.....	30

HV モード.....58

AC 外部給電システム.....136

エネルギーモニター.....179

LED デイライト.....276

電球 (バルブ) の交換.....	431
-------------------	-----

エレクトリックパワーステアリング
(EPS)

機能.....	356
パワーステアリング警告灯.....	451

エンジン

イモビライザーシステム.....	53
エンジン警告灯.....	450
オーバーヒート.....	487
緊急時の停止方法.....	442
タコメーター.....	179
ハイブリッドシステムが始動できない477	
ハイブリッドシステムの始動方法.....	261
パワースイッチ (イグニッションスイッチ /エンジンスイッチ).....	261
ボンネット.....	410

エンジンオイル

冬の前の準備・点検.....	362
メンテナンスデータ.....	494
油圧警告灯.....	450
容量.....	494

エンジン回転計 (タコメーター).....179

エンジンスイッチ (パワースイッチ)

.....	261
自動電源 OFF 機能.....	264
車両を緊急停止するには.....	442
ハイブリッドシステムの始動のしかた261	
モード切りかえ.....	263

エンジンフード (ボンネット)

開け方.....	410
警告音.....	192

エンジンルーム.....410

エンジンルームから蒸気が出ている...487	
------------------------	--

お

オイル (エンジンオイル).....494

応急用タイヤ

空気圧.....	497
交換方法.....	471

オーディオ連携画面	170
オートアラーム	54
オートエアコン	366
オートドアロック・アンロック機能	192
オートマチックハイビーム (AHB)	278
オートレベリングシステム (ヘッドランプ)	277
オーバーヒート	487
オープナー	
給油扉	287
バックドア	194
ボンネット	410
オープントレイ	383
オープントレイ照明	378
おくだけ充電 (ワイヤレス充電器)	388
お子さまを乗せるとき	
ウインドウロックスイッチ	245
エアバッグ	33
お子さまの安全のために	38
キーの電池	427
シートベルトの着用	28
充電に関する警告	101
ステアリングヒーター/シートヒーターに 関する警告	376
チャイルドシート	39
チャイルドシートの取り付け	39
チャイルドプロテクター	192
電動サンシェードに関する警告	248
発炎筒の取り扱いに関する警告	442
パノラマムーンルーフに関する警告	248
パワーウィンドウに関する警告	244
補機バッテリーに関する警告	485
“ODO TRIP” スイッチ	164
オドメーター/トリップメーターディスプレイ	164
“ODO TRIP” スイッチ	164
表示項目	164

か

カーテンシールドエアバッグ	30
カーペット	
洗浄	407
フロアマットの取り付け方	24
外気温度表示	159, 178
外気温表示	178
回生ブレーキ	63
外装の電球 (バルブ)	
交換要領	431
ワット数	497
外部給電システム	
AC 外部給電システム	136
ガス欠になったとき	69
カスタマイズ機能	499
型式	498
カップホルダー	382
カメラ	
前方カメラ	288
デジタルインナーミラー (前後方録画機能 付)	231
ガラスの曇り取り (リヤウインドウデ フォグガー)	367
ガレージジャッキ	412
冠水路走行	257
寒冷時の運転	362

き

キー	
キーナンバープレート	184
キーの構成	184
キーレスエントリー	186, 204
キーをなくした	479
正常に動かない	480
施錠・解錠ができない	480
電子キー	184
電池が切れた	426, 480

ハイブリッドシステムが始動できない	477
メカニカルキー	186
ワイヤレスリモコン	186
キーレスエントリー	
スマートエントリー&スタートシステム	204
ワイヤレスドアロック	186
きしみやひっかき音が聞こえる (ブレーキパッドウェアインジケータ)	255
キックセンサー	196
給油	
給油扉が開けられない	479
給油のしかた	286
メンテナンスデータ	494
緊急時シートベルト固定機構	28
緊急始動機能 (ハイブリッドシステム)	478
緊急時の対処	
オーバーヒートした	487
キーの電池が切れた	426, 480
キーをなくした	479
警告灯がついた	449
警告メッセージが表示された	455
けん引	445
故障したときは	440
車中泊が必要なときは	444
車両を緊急停止する	442
水没・冠水したときは	443
スタックした	490
電子キーが正常に働かない	480
ハイブリッドシステムが始動できない	477
発炎筒	441
パンクした	459, 471
補機バッテリーがあがった	482
緊急停止システム	72
緊急ブレーキシグナル	356



空気圧 (タイヤ)	497
クーラー	366
区間距離計 (トリップメーター)	164
駆動用電池	
充電について	79
搭載位置	68
曇り取り	
フロントガラス	367
ミラーヒーター	367
リヤウインドウデフォグ	367
クラクション (ホーン)	216
クリアランスソナー	339
警告メッセージ	340
操作	339
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	275
電球 (バルブ) の交換	431
クリップ	
フロアマット	24
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)	314
グローブボックス	381

け

警告器 (ホーン)	216
計器類 (メーター)	159
マルチインフォメーションディスプレイ	165
警告灯	155
ABS & ブレーキアシスト	451
LTA 表示灯	451
PCS	451
PKSB OFF 表示灯	452
RCTA OFF 表示灯	452
SRS エアバッグ	450

エンジン	450
クリアランスソナー OFF 表示灯	452
高水温	156, 450
シートベルト非着用	454
充電	449
スリップ表示灯	453
ドライブスタートコントロール	453
燃料残量	454
パーキングブレーキ表示灯	453
パワーステアリング	451
プリテンショナー	450
ブレーキ	449
ブレーキオーバーライドシステム	453
ブレーキホールド作動表示灯	453
油圧	450
警告ブザー	
LTA	306
PCS	451
PKSB	346
RCTA	331
クリアランスソナー	344
高水温	450
シートベルト非着用	454
シフトダウン制限	268
衝突警報	293
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	319
手放し運転警告 (LTA)	311
ドライブスタートコントロール	453
パーキングブレーキ未解除走行時	272
パノラマムーンルーフ開	248
パワーステアリング	451
半ドア	190, 204
半ドア走行時	192
ブレーキ	449
ブレーキオーバーライドシステム	453
ブレーキホールド	453
ボンネット開	192

窓開	244
油圧	450
リバース	265
警告メッセージ	455
警告メッセージ表示画面	175
警告ラベル (ハイブリッドシステム)	68
化粧ミラー (バニティミラー)	386
けん引	
けん引のしかた	445
フックの搭載場所	461, 471
フックの取り付け	446

こ

交換

キーの電池	426
タイヤ	471
電球 (バルブ)	431
ヒューズ	428
ワイパーゴム	423
工具 (ツール)	461, 471
航続可能距離	163, 181
後退速度の抑制制御 (ドライブスタートコントロール)	258
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	431
ワット数	497
高電圧部位	68
コートフック	394
子供専用シート	
取り付け方	40
小物入れ	382
コンセント	
アクセサリコンセント	395
ヴィークルパワーコネクタ	137
コンソールボックス	381
コンライト (自動点灯・消灯装置)	275

さ

サービスプラグ	68
サイドエアバッグ	30
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	431
方向指示レバー	268
サイドミラー（ドアミラー）	
BSM	331
RCTA	331
格納のしかた	242
操作	241
ミラーヒーター	367
三角表示板（停止表示板）	440
サンシェード	
ルーフ	246
サンバイザー	386

し

シート	
シートヒーター	376
シートベンチレーション	376
正しい運転姿勢	25
チャイルドシート	39
調整	209
手入れ	407
ドライビングポジションメモリー	212
ヘッドレスト	214
メモリーコール機能	213
シートヒーター	376
シートベルト	
お子さまの着用	27, 28
緊急時シートベルト固定機構	28
高さ調節	29
正しく着用するには	28
着け方・はずし方	28
手入れ	407
妊娠中の方の着用	27

非着用警告灯	454
シートベルト非着用警告灯	454
シートベルトプリテンショナー	
機能	29
プリテンショナー警告灯	450
シートポジションメモリー	212
事故が発生したとき（ハイブリッドシステム の注意）	70
室内灯	378
始動のしかた	261
シフトポジション	265
シフトレバー	
シフトポジションの切りかえ	265
シフトレンジの切りかえ	267
リバース警告ブザー	265
シフトロックシステム	266
締め付けトルク（ホイール）..	475, 497
車中泊が必要なときは	444
ジャッキ	
ガレージジャッキ	412
車載ジャッキ	461, 471
ジャッキハンドル	461, 471
車幅灯	
電球（バルブ）の交換	431
ランプスイッチ	275
車両型式	498
車両仕様（スペック）	494
車両情報表示画面	170
車両接近通報装置	66
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	442
充電	79
充電装備	79
充電に関するアドバイス	99
充電に関する警告	101
正常に充電できない	127
タイマー充電機能	111
電源に関する警告	95

電源について.....	92
普通充電ケーブル.....	82
普通充電のしかた.....	104
マイルームモード.....	124
メッセージ.....	99
充電ポート.....	79
外部電源供給システム.....	136
充電リッドが開かないとき.....	89
充電リッドの開閉.....	80
充電リッドのロック・アンロック.....	88
充電用 USB Type-C 端子.....	387
充電リッドが開かないときは.....	479
収納装備.....	380
瞬間燃費.....	181
仕様（車両仕様）.....	498
衝撃感知ドアロック解除システム... ..	189
初期化	
パノラマムーンルーフ.....	247
パワーウインドウ.....	243
パワーバックドア.....	199
初期設定.....	511
助手席シートベルト非着用警告灯... ..	454

す

水温計.....	156
スイッチ	
AUTO EV / HV.....	60
EV / HV モード切りかえ.....	60
LTA.....	307
TRC OFF.....	357
VSC OFF.....	357
イグニッション.....	261
ウインドウロック.....	245
ウォッシャー.....	282, 284
オートマチックハイビーム (AHB)....	278
“ODO TRIP”.....	164
シート調整.....	209
シートヒーター.....	376

シートベンチレーション.....	376
シートポジションメモリー.....	212
車間距離切りかえ（レーダークルーズコン トロール）.....	314
ステアリングヒーター.....	376
デジタルインナーミラー.....	217
電動サンシェード.....	246
ドアミラー.....	241
ドアロック.....	191
ドライブモードセレクト.....	353
トレイルモード.....	354
パーキングブレーキ.....	269
ハザードランプ.....	441
バックドアオープン.....	195
パワー.....	261
パワーウインドウ.....	243
パワーバックドア.....	195
非常点滅灯（ハザードランプ）.....	441
フォグランプ.....	281
ブレーキホールド.....	273
フロントワイパーデアイサー.....	372
方向指示レバー.....	268
ホーン（警音器）.....	216
メーター操作.....	166
ランプ.....	275
リモートエアコンシステム.....	374
リヤウインドウデフォグガー.....	366
レーダークルーズコントロール.....	314
ワイパー.....	282, 284
ワイヤレス充電器.....	388
スタック.....	490
ステアリングアシステッドビークルスタ ビリティコントロール (S-VSC).....	356
ステアリングホイール（ハンドル）	
位置調整.....	216
ステアリングヒーター.....	376
ホーン（警音器）.....	216
メーター操作.....	166

ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	431
スノータイヤ (冬用タイヤ)	362
スピードメーター	159
スペアタイヤ (応急用タイヤ)	
空気圧	414, 497
交換方法	471
スペック (車両仕様)	494
スマートエントリー&スタートシステム	
アンテナの位置	204
カスタマイズ設定	499
緊急始動機能	478
警告ブザー	204
警告メッセージ	455
作動範囲	204
充電リッドのロック・アンロック	88
正常に動かないとき	480
節電機能	205
電波がおよぼす影響について	208
ドアの解錠・施錠	188
ハイブリッドシステムの始動	261
バックドアの施錠・解錠	194
普通充電コネクタのロック・アンロック	89
スマールランプ (車幅灯)	
電球 (バルブ) の交換	431
ランプスイッチ	275

せ

清掃

DC / DC コンバータ冷却用吸入口 ..	420
アルミホイール	404
ヴィークルパワーコネクタ	138
外装	404
カメラ	231
シートベルト	407
前方カメラ	289
内装	407

レーダーセンサー	288, 333
制動灯	
電球 (バルブ) の交換	431
セカンダリーコリジョンブレーキ ...	357
積算距離計 (オドメーター)	164
セキュリティインジケーター	53, 54
接近警報 (レーダークルーズコントロー ル)	319
設定画面	171
先行車発進告知機能	324
センサー	
LTA	303
雨滴感知センサー	283
湿度センサー	371
デジタルインナーミラー	230
ライトセンサー	276
レーダーセンサー	288, 333
洗車	404
前照灯 (ヘッドランプ)	
オートレベリングシステム	277
電球 (バルブ) の交換	431
ライトセンサー	276
ランプ消し忘れ防止機能	277
ランプスイッチ	275

そ

走行モード (ドライブモード)	353
速度計 (スピードメーター)	159

た

ターンシグナルランプ (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換	431
方向指示レバー	268
ワット数	497
タイマー充電機能	111
タイヤ	
応急用タイヤ	471

空気圧	416
交換	415, 477
チェーン	362
点検	414
パンクしたときは	459, 471
パンク応急修理キット	459
冬用タイヤ	362
ホイールサイズ	497
ローテーション (位置交換)	416
タイヤが空まわりする (スタックした)	490
タイヤチェーン	362
タコメーター	179

ち

チェーン (タイヤチェーン)	362
チャイルドシート ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け50 お子さまを乗せるときは	38
規格	43
シートベルトでの固定	48
選択方法	39
トップテザーアンカレッジに固定	51
チャイルドプロテクター	192
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ) 操作	269
冬季の注意	363
パーキングブレーキ表示灯	453
ブレーキ警告灯	449
未解除走行時警告ブザー	272

つ

ツール (工具)	461, 471
-----------------------	-----------------

て

提案サービス機能	175
-----------------------	------------

DC / DC コンバータ冷却用吸入口 ..	72
清掃	420
停止表示板 (三角表示板)	440
ディスプレイ ヘッドアップディスプレイ.....	175
マルチインフォメーションディスプレイ	165
デイトタイムランニングランプ	276
電球 (バルブ) の交換	431
手入れ DC / DC コンバータ冷却用吸入口..	420
アルミホイール	404
ヴィークルパワーコネクタ	138
外装	404
カメラ	231
シートベルト	407
前方カメラ	289
デジタルインナーミラー (前後方録画機能 付)	231
デジタルインナーミラー	407
内装	407
普通充電ケーブル	87
レーダーセンサー	288, 333
テールランプ (尾灯) 電球 (バルブ) の交換	431
ランプスイッチ	275
デジタルインナーミラー (前後方録画機 能付)	217
デッキアンダートレイ	384
デッキフック (荷物固定用フック) ..	384
デッキボード	384
デフォッガー (リヤウインドウデフォ ッガー)	367
電気式 4WD システム (E-Four) ...	356
電気モーター	58
電球 (バルブ) 交換要領 (外装バルブ)	431
ワット数	497

点検基準値 (メンテナンスデータ) .494

電子キー

作動範囲	204
正常に働かないとき	480
節電機能	205
電池が切れた	426

電池交換 (キー)426

電動サンシェード

操作	246
挟み込み防止機能	247

電動パーキングブレーキ

操作	269
冬季の注意	363
パーキングブレーキ表示灯	453
ブレーキ警告灯	449
未解除走行時警告ブザー	272

電費

電費グラフ	167
-------------	-----

と

ドア

オートドアロック・アンロック機能 ..	192
衝撃感知ドアロック解除システム	189
スマートエントリー&スタートシステム	204
チャイルドプロテクター	192
ドアガラス	243
ドアロックスイッチ	191
バックドア	193
ロックレバー	191
ワイヤレスリモコン	188

ドアミラー

BSM	331
RCTA	331
格納のしかた	242
操作	241
ミラーヒーター	367

ドアミラー足元照明

電球 (バルブ) の交換	431
ワット数	497

盗難防止装置

イモビライザーシステム	53
オートアラーム	54

時計

トップテザーアンカレッジ

Toyota Safety Sense

AHB (オートマチックハイビーム) ..	278
先行車発進告知機能	324
プリクラッシュセーフティ (PCS) ..	293
レーダークルーズコントロール (全車速追 従機能付き)	314
レーントレーシングアシスト (LTA) ..	303
ロードサインアシスト (RSA)	312

ドライバー異常時対応システム

ドライビングポジションメモリー

ポジションメモリー	212
メモリーコール機能	213

ドライブインフォメーション

ドライブスタートコントロール

急発進の抑制制御	258
後退速度の抑制制御	258

ドライブモードセレクトスイッチ ...

トラクションコントロール (TRC)

トランスミッション

シフトダウン制限警告ブザー	268
操作	265
メンテナンスデータ	496

トリップメーター

トレイルモード

な

内装

収納装備	380
手入れ	407

「ナノイー X」.....369

に

ニーエアバッグ30

荷物

積むときの注意.....259

荷室内装備384

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)490

ね

燃費

エネルギーモニター179

瞬間燃費181

燃費グラフ167

平均燃費181

燃料

給油286

種類494

燃料計159

燃料残量警告灯.....454

容量494

燃料計159

は

パーキングサポートブレーキ (PKSB)

警告メッセージ.....348

操作346

パーキングサポートブレーキ (後方接近
車両)351

パーキングサポートブレーキ (静止物)
.....349

パーキングブレーキ

操作269

冬季の注意363

パーキングブレーキ表示灯.....453

ブレーキ警告灯449

未解除走行時警告ブザー272

パーソナルランプ379

Harmonious Driving Navi. 画面 ..179

排気ガス.....36

ハイビーム (ヘッドランプ)

オートマチックハイビーム.....278

電球 (バルブ) の交換431

ランプスイッチ275

ハイブリッドシステム

AUTO EV / HV モード.....59

EV モード58

HV モード58

運転のアドバイス73

エネルギーモニター179

オーバーヒート487

回生ブレーキ63

ガス欠になったとき69

緊急始動機能478

緊急時の停止方法442

緊急停止システム72

高電圧部位68

サービスプラグ68

事故が発生したとき70

始動できないときは477

始動方法261

車両接近通報装置66

充電79

注意68

DC / DC コンバータ冷却用吸入口.....72

特徴58

特有の音と振動64

バッテリーチャージモード.....60

パワー (イグニッション) スイッチ ..261

補機バッテリーがあがった482

メンテナンス・修理・廃車するとき65

ハイブリッドシステムインジケーター

.....	162, 179	操作.....	246
ハイマウントストップランプ		挟み込み防止機能.....	247
電球（バルブ）の交換.....	431	バルブ（電球）	
薄暮灯	276	交換要領（外装のバルブ）.....	431
電球（バルブ）の交換.....	431	ワット数.....	497
ハザードランプ（非常点滅灯）		パワーウィンドウ	
緊急ブレーキシグナル.....	356	ウィンドウロックスイッチ.....	245
スイッチ.....	441	閉めることができないときは.....	243
電球（バルブ）の交換.....	431	初期化.....	243
挟み込み防止機能		操作.....	243
電動サンシェード.....	247	ドアロック連動ドアガラス開閉機能.....	244
パノラマムーンルーフ.....	247	挟み込み防止機能.....	243
パワーウィンドウ.....	243	巻き込み防止機能.....	243
パワーバックドア.....	197	パワーコントロールユニット	68
発炎筒	441	パワースイッチ	
バックアップランプ（後退灯）		自動電源 OFF 機能.....	264
電球（バルブ）の交換.....	431	車両を緊急停止するには.....	442
ワット数.....	497	モード切りかえ.....	263
バックドア		パワーステアリング	
イージークローザー.....	197	EPS.....	356
バックドアハンドル.....	195	パワーステアリング警告灯.....	451
パワーバックドア.....	194	パンクした	
ハンズフリーパワーバックドア.....	196	応急用タイヤ装着車.....	471
ラゲージルームランプ.....	197	タイヤパンク応急修理キット装着車.....	459
バッテリー（駆動用電池）		番号灯（ライセンスプレートランプ）	
充電について.....	79	電球（バルブ）の交換.....	431
搭載位置.....	68	ランプスイッチ.....	275
バッテリー（補機バッテリー）		ハンズフリーパワーバックドア	196
充電警告灯.....	449	ハンドル（ステアリングホイール）	
搭載位置.....	410	位置調整.....	216
冬の前の準備.....	362	ステアリングヒーター.....	376
補機バッテリーがあがった.....	482	ホーン（警音器）.....	216
補機バッテリーを交換する.....	484	メーター操作.....	166
バニティ（化粧用）ミラー	386		
バニティミラーランプ			
装備について.....	386		
パノラマムーンルーフ			
初期化.....	247		

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）	356
------------------------------------	------------

ヒーター

オートエアコン.....	366
駆動用電池.....	97
シートヒーター.....	376
ステアリングヒーター.....	376
ミラーヒーター.....	367

非常点滅灯 (ハザードランプ)

緊急ブレーキシグナル.....	356
スイッチ.....	441
電球 (バルブ) の交換.....	431
ワット数.....	497

尾灯 (テールランプ)

電球 (バルブ) の交換.....	431
ランプスイッチ.....	275

ヒューズ.....428**表示灯.....156****日よけ (サンバイザー).....386****ヒルスタートアシストコントロール356**

ドライブスタートコントロール.....	453
パーキングブレーキ未解除走行時警告.....	272
パノラマムーンルーフ開警告.....	248
パワーステアリング.....	451
半ドア警告.....	190
半ドア走行時警告.....	192
ブレーキ.....	449
ブレーキオーバーライドシステム.....	453
ブレーキホールド.....	453
窓開警告.....	244
油圧.....	450
リバース警告.....	265

普通充電ケーブル.....82

安全機能.....	84
インジケーター.....	84
お手入れ.....	87
コントロールユニット.....	83
電源プラグコードの交換.....	85
普通充電ケーブルに関する警告.....	82
普通充電コネクタのロック・アンロック.....	89
普通充電コネクタをアンロックできないとき.....	90

フック

コートフック.....	394
デッキフック.....	384
フロアマット固定フック.....	24

フューエルメーター.....159**フューエルリッド (給油口)**

給油扉が開かない.....	479
給油のしかた.....	286

冬の前の準備 (寒冷時の運転).....362**冬用タイヤ.....362****ブラインドスポットモニター (BSM).....331****プラグインハイブリッドシステム.....58**

AUTO EV / HV モード.....	58
EV モード.....	58

ふ**ブースターケーブルのつなぎ方.....482****フォグランプ**

スイッチ.....	281
電球 (バルブ) の交換.....	431

ブザー

LTA.....	451
PCS.....	451
PKSB.....	346
RCTA.....	331
音さくいん.....	516
クリアランスソナー.....	344
高水温.....	450
シートベルト非着用警告.....	454
シフトダウン制限警告.....	268
衝突警報.....	293
接近警報 (レーダークルーズコントロール).....	319
手放し運転警告 (LTA).....	311

HV モード.....	58
運転のアドバイス.....	73
注意.....	68
特徴.....	58
バッテリーチャージモード.....	58
普通充電のしかた.....	104
ブリクラッシュセーフティ (PCS)	
PCS 警告灯.....	451
PCS スイッチ.....	296
機能.....	293
ブレーキ	
回生ブレーキ.....	63
緊急ブレーキ信号.....	356
パーキングブレーキ.....	269
ブレーキ警告灯.....	449
ブレーキホールド.....	273
メンテナンスデータ.....	496
ブレーキアシスト	
ABS & ブレーキアシスト警告灯.....	451
機能.....	356
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる	255
ブレーキフルード	496
ブレーキホールド	273
フロアマット	24
フロントカップホルダー照明	378
フロントシート	
シートヒーター.....	376
シートポジションメモリー.....	212
正しい運転姿勢.....	25
調整.....	209
手入れ.....	407
ドライビングポジションメモリー.....	212
ヘッドレスト.....	214
フロントフォグランプ	
スイッチ.....	281
フロント方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換.....	431

方向指示レバー.....	268
--------------	-----



平均車速	181
平均燃費	181
ヘッドアップディスプレイ	175
運転支援システム表示.....	177
外気温表示.....	178
設定.....	176
ハイブリッドシステムインジケータ.....	179
割り込み表示.....	178
ヘッドランプ	
電球 (バルブ) の交換.....	431
ライトセンサー.....	276
ランプ消し忘れ防止機能.....	277
ランプスイッチ.....	275
ヘッドランプオートレベリングシステム	277
ヘッドレスト	214
ベンチレーター (シートベンチレーショ ン)	376

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ).....	471
メンテナンスデータ.....	497
ホイールナットレンチ	461, 471
方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換.....	431
方向指示レバー.....	268
ワット数.....	497
ホーン (警音器)	216
補機バッテリー	
充電警告灯.....	449
搭載位置.....	410
冬の前の準備.....	362
補機バッテリーがあがった.....	482

補機バッテリーを交換する	484
ポジションメモリー	212
保証	9
ボトルホルダー	382
ボンネット (エンジンフード)	
開け方	410
警告音	192

ま

microSD カード	227
マイルームモード	124
マルチインフォメーションディスプレイ	
.....	165
運転支援機能情報表示	170
エネルギーモニター	179
オーディオ連携	170
警告メッセージ	455
車両情報表示	170
設定	171
提案サービス機能	175
メーター操作スイッチ	166
メニューアイコン	166

み

ミラー	
デジタルインナーミラー	217
ドアミラー	241
パニティミラー	386
ミラーヒーター	367

む

ムーンルーフ	
初期化	247
操作	246
挟み込み防止機能	247

め

メーター (計器類)	
警告灯	155, 449
警告メッセージ	455
表示灯	156
ヘッドアップディスプレイ	175
マルチインフォメーションディスプレイ	
.....	165
メーター操作スイッチ	166
メーター	
計器類	159
時計	159
ハイブリッドシステムインジケータ	
.....	162
メカニカルキー	186
メニューアイコン	166
メモリーコール機能	213
メンテナンスデータ	494

も

モーター (電気モーター)	58
モーターでの走行 (EV モード)	58

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	499
雪道ですべて動けない (スタックした)	
.....	490
油脂類	494

よ

4WD 作動状態表示	171
------------------	-----

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	
電球 (バルブ) の交換	431
ランプスイッチ	275

ラゲージフック	384
ラゲージルーム	384
ラゲージルームランプ	197
ラジエーター	
オーバーヒート	487
メンテナンスデータ	495
ランプ	
LED デイライト	276
インテリアランプ	378
オートマチックハイビーム	278
室内灯	378
デイトタイムランニングランプ	276
電球（バルブ）の交換	431
パーソナルランプ	379
薄暮灯	276
非常点滅灯（ハザードランプ）	441
フロントフォグランプ	281
ヘッドランプ（前照灯）	275
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウイ ンカー）	268
ライトセンサー	276
ラゲージルームランプ	197
ランプ消し忘れ防止機能	277
リヤフォグランプ	281
ワット数	497
ランプ消し忘れ防止機能	277

り

リモートエアコンシステム	374
リヤアームレスト	394
リヤウインドウデフォグガースイッチ	367
リヤクロストラフィックアラート （RCTA）	331
リヤシート	210
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ...	454
リヤフォグランプ	
スイッチ	281

電球（バルブ）の交換	431
リヤ方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	431
方向指示レバー	268
ワット数	497

れ

冷却水	
冬の前の準備	362
メンテナンスデータ	495
冷却装置（ラジエーター）	
オーバーヒート	487
メンテナンスデータ	495
レーダークルーズコントロール（全車速 追従機能付き）	314
接近警報	319
レーダー	288
レーントレーシングアシスト（LTA）	303
警告メッセージ	311
操作	307
レバー	
シフト	265
ハンドル位置調整	216
方向指示	268
ボンネット解除	410
ロック（ドア）	191

ろ

ロードサインアシスト（RSA）	312
録画データ	222
ロック	
ウインドウロック	245
スマートエントリー&スタートシステム	204
チャイルドプロテクター	192
ドア	188

バックドア	193
ワイヤレスリモコン	186

わ

ワイパー & ウォッシャー

ウォッシャー液の補充	413
フロント	282
フロントワイパーデアイサー	372
リヤ	284
ワイパーゴムの交換	423

ワイパーブレード (寒冷地用)

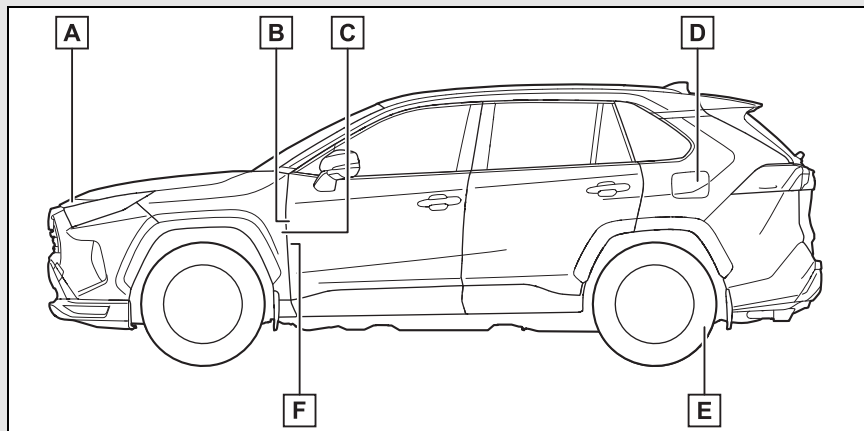
ワイヤレス充電器 (おくだけ充電) .388

ワイヤレスリモコン

作動の合図	190
操作	186
電池の交換	426
半ドア警告ブザー	190
リモートエアコンシステム	374

ガソリンスタンドでの情報

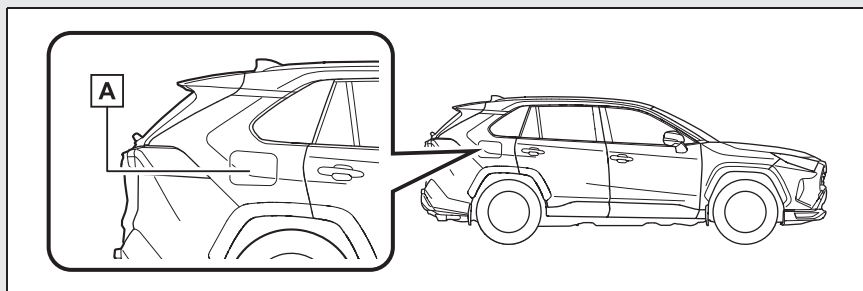
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.410)
- B** パワーバックドアスイッチ (→P.195)
- C** 給油扉オープナースイッチ (→P.287)
- D** 給油口 (→P.287)
- E** タイヤ空気圧 (→P.497)
- F** ボンネット解除レバー (→P.410)

燃料の容量 (参考値)	55L
燃料の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン (レギュラー) * * エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン (酸素含有率 3.7% 以下) を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P.497
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 : 4.0 L オイルとオイルフィルター交換時 : 4.3 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル 推奨 : ・ SP 0W-16 (API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16) 適合 : ・ SP 0W-20 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20) ・ SP 5W-30 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30)

充電設備での情報



A 充電リッド (→P.80, 88)

充電方法	普通充電
定格電圧／電流	AC200V / 16A
電池種類	リチウムイオン電池

- 充電設備の仕様により、満充電の前に電源供給が停止されることがあります。
- 充電方法については、「普通充電のしかた」(→P.104)を参照してください。
- 普通充電器(スタンド)に備え付けの普通充電コネクタにより、取り扱いが異なる場合があります。普通充電器(スタンド)に掲示されている取り扱い方法をご確認ください。

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。また、リコール情報については、右記のQRコードからご確認ください。

販売店検索

リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記のQRコードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/にて掲載しております。



- ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証(車検証)をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。
- QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>



M 42F72
01999-42F72
01-2024年7月23日
2023年10月2日 初版
2024年7月30日 2版
ラブ4 (プラグインハイブリッド車)